

令和3年度



WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)
コンソーシアム構築支援事業
研究報告書・第2年次

令和4年3月



巻頭言

ワールド・ワイド・ラーニング(WWL)構築支援事業2年目を終えて

中村学園女子中学校・高等学校
校長 奥井裕紀子

WWL カリキュラム開発拠点校に認定されてからの2年間は、新型コロナウイルス感染症とともにありました。認定と同時にグローバル・イノベーターの育成を目指すGIクラスを立ち上げ、SGHで培った経験をさらに発展させた活動を計画いたしました。思うようにいかない部分が多々ありました。それでも、オンラインを駆使しながら、精一杯、常によりよい活動を生徒たちに提供できるよう、悪戦苦闘の毎日を送っています。

1年生で行っているグローバル・キャンパスは、2年連続でオンラインでの開催になりました。各種講座も、対面とオンラインを組み合わせながら実施しています。

GIクラスは1年次の3学期にカナダへの留学を計画しています。残念ながら1期生は実現が叶いませんでしたが、2期生は今、カナダの空の下で勉学に励んでいます。学園もこの留学に関して、積極的に支援してくださいました。今年度から、学内審査を通過した生徒たちが留学へ向けての熱い思いを、理事長他2名の審査員の前でプレゼンテーションするという、学園独自のユニークな試みを始めています。その結果、最優秀賞2名、優秀賞1名が選ばれ、それぞれ留学支援金を頂戴いたしました。中止になるのではないかと気をもんだ末の船出でしたが、未知の世界を体験し、きっと大きく成長してくれるものと思っています。

今年度から始めたGIスキルアップセミナーは、幸運にもすべて対面で行うことができました。また、全校生徒から希望者を募って開催しているアントレプレナーシップも好評で、調理実習も交えながら、順調なスタートを切っています。6月には提携校であるウズベキスタン国ライシーム高校の生徒たちと、オンラインで理科実験を行いました。コロナ禍の下、積極的に海外とオンラインでつながり、その中の成果の一つとして、韓国観光公社主催の「深発見・韓国オンライン修学旅行」では、「個人の部」でGI2期生が最優秀賞を頂いています。

こういった活動が可能になったのは、ALネットワークでの連携のお陰です。学校現場だけでは実現できなかった、今の社会が抱えている諸問題についての深い学びや現地視察など、自分で体験することで得られた知識は、本当に自分自身の血肉になり、頭だけでなく、体にも刻まれます。今後も多くのことを体験し学びながら、成長してほしいと願っています。

本校WWL事業の土台となったSGH事業で、最後となるSGコース5期生が、この春卒業いたします。SGコースで学んだことを生かし、カナダのトロント大学、大阪大学などに合格を果たすなど、立派に最後を飾ってくれました。今後は大きなグローバルの舞台上、活躍してくれることを期待しております。

WWL運営指導員の皆さまを始め、生徒の取材を快く引き受けてくださった皆さま、また、ご自身のことを生徒たちにわかりやすく伝えてくださった皆さま、多くの方々に支えられ、この2年間、WWL事業を順調に進めて行くことができました。末筆になりますが、ご協力いただきました皆さまに深く感謝を申し上げます。

報告書 目次

| | |
|--|-------|
| I 令和3年度 WWL 事業完了報告書 | p. 4 |
| II 実施の詳細 | p. 22 |
| 1. 各委員会・連絡会〔管理機関主催〕 | |
| (1) 第1回運営指導委員会 | p. 22 |
| (2) 第2回運営指導委員会兼ALネットワーク連絡会 | p. 23 |
| (3) 検証委員会 | p. 25 |
| 2. 情報共有体制の整備 | p. 26 |
| 3. 教員チームによるコーチング | p. 27 |
| 4. 学校説明会（事業協働機関） | |
| (1) 中村学園大学・短期大学部の学部・学科説明会 | p. 28 |
| (2) 立命館アジア太平洋大学（APU）学校説明会 | p. 28 |
| (3) ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジ（KCC）学校説明会 | p. 28 |
| (4) 中村学園大学・短期大学部の推薦入試に向けた対策講座の開設 | p. 29 |
| (5) マーセット大学オンラインフェア | p. 29 |
| 5. 夏期海外研修業者説明会 | p. 30 |
| 6. 海外交流アドバイザーの配置 | p. 31 |
| 7. 「食のサミット」の開催 | p. 32 |
| 8. 連携校との協働・外部イベントへの参加 | |
| (1) 京都先端科学大学附属高等学校主催講演会への参加 | p. 47 |
| (2) ウズベキスタン・ライシーアム高校との合同実験授業 | p. 47 |
| (3) 京都先端科学大学附属高等学校職員研修会での探究活動実践報告 | p. 49 |
| (4) 京都先端科学大学附属高等学校主催公開研究授業大会への参加および情報交換 | p. 49 |
| (5) 高知県立高知西高等学校教員の拠点校への視察 | p. 50 |
| (6) 全国高校生フォーラムへの参加 | p. 51 |
| (7) 九州大学 世界にはばたく高校生の成果発表会への参加 | p. 52 |
| (8) 京都先端科学大学附属高等学校でのグローバル・シュミレーション・ゲーミング (GSG) の視察と WWL 成果発表会への参加 | p. 53 |
| 9. WWL 報告会 | p. 53 |
| 10. 事業成果の広報 | |
| (1) 広報紙の発行・配布 | p. 61 |
| (2) 拠点校ホームページの更新 | p. 61 |
| 11. GIクラスの活動 | |
| (1) GI 探究 1年次の実施計画 | p. 63 |
| (2) GI 探究の開発と実践①（1年次「食と社会文化」～アジアについて） | p. 66 |
| (3) GI 探究の開発と実践②（1年次「食と環境」） | p. 68 |
| (4) GI 探究の開発と実践③（1年次「食と経済」） | p. 70 |

| | |
|---|-------|
| (5) G I 探究の開発と実践④ (1 年次「食と栄養」) | p. 72 |
| (6) G I 探究 2 年次の開発と実践 | p. 75 |
| (7) G I 探究における論文作成と指導方法 | p. 76 |
| (8) G I フィールドワーク Basic (グローバル・キャンパス) の開発と実施 | p. 79 |
| (9) G I フィールドワーク Advance (海外フィールドワーク) の開発と実施 | p. 82 |
| (10) シンガポール・オンラインセミナーへの参加 | p. 85 |
| (11) G I 留学プログラムの開発・実施 | p. 86 |
| (12) G I 留学プログラム参加支援 | p. 91 |
| (13) G I スキルアップセミナー開発・実践①～④ | p. 91 |
| (14) アントレプレナーシップセミナー・ワークショップ [GI スキルアップセミナー後編①～④] | p. 95 |
| 12. 新教科とカリキュラムの検討 | |
| (1) 新学校設定教科「グローバル探究」の開発 | p.103 |
| (2) カリキュラム検討委員会の開催 | p.106 |
| (3) 教育開発部会の開催 | p.107 |
| 13. ICT の活用 | p.108 |
| 14. 英語探究の活動 (1 年・2 年) | p.109 |
| 15. AL ルームの活用 | p.111 |
| 16. 中村学園大学・短期大学部の科目等履修生制度 (AP) の活用 | p.112 |
| 17. G I 講演 (グローバル講演) | p.113 |
| 18. 高度な教育内容の取り組み (いりこの解剖実験) | p.114 |
| 19. 留学生の受け入れ | p.115 |
| 20. G I クラスにおけるその他の実践 | |
| (1) G I スタートアップセミナーの開催 | p.121 |
| (2) 文化祭 企業コラボの実施 | p.122 |
| (3) NPO 法人 Blue Earth Project 主催 Blue Earth 塾 | p.124 |
| 21. 教職員の指導力向上に向けた取り組み | |
| (1) 指導指標の測定 | p.126 |
| (2) 夏期職員研修「探究授業実践ワークショップ」 | p.128 |
| (3) 中村学会の開催 | p.129 |

Ⅲ 関係資料 p.131

- 関係資料 1 令和 3 年度 高等学校全教育課程
- 関係資料 2 WWL コンソーシアム構築支援事業の構想概要
- 関係資料 3 令和 3 年度 WWL 事業関連 年間行事一覧
- 関係資料 4 運営指導委員会議事録
- 関係資料 5 令和 3 年度 WWL 事業 効果検証生徒アンケート結果
- 関係資料 6 広報紙

I 令和3年度 WWL 事業完了報告書

令和4年3月31日

事業完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 福岡県福岡市城南区 5-7-1
管理機関名 学校法人中村学園
代表者名 中村 量一

令和3年度WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業に係る事業完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年5月11日（契約締結日）～令和4年3月31日

2 事業拠点校名

学校名 中村学園女子高等学校
学校長名 奥井 裕紀子

3 構想名 「食」の課題解決により持続可能な社会を創出するイノベーターの育成

4 構想の概要

これまでのSGH事業の成果をさらに発展・充実させながら、地球規模の課題「食」に関わる探究活動による課題解決を通じてSociety 5.0をたくましく創造的に生きる人材を育成する。ここで扱う「食」の課題は、食に関わる4領域（社会文化・環境・経済・栄養）及びSDGsのターゲットである。この教育的基盤となるALコンソーシアムを組織し、拡大と発展を図りながら、広く生徒たちに高度な学びの機会を提供し、より多くのイノベティブなグローバル人材を育成する。育成過程において、文理融合型のカリキュラムやイノベーションスキルの育成法・評価法、生徒の多様な目的や課題に対応した国内外の研修先の開拓、留学生との協働を最適化する実践プログラム、大学教育の先取り履修による高度な学びの提供方法等の開発へ特に注力することで、「食」を切り口として新しい価値を創造し、グローバル・イノベーターを育成するための教育プログラムのスタンダードモデルを創りあげる。

5 教育課程の特例の活用の有無

無し

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

| 業務項目 | 実施期間（令和3年5月11日～令和4年3月31日） | | | | | | | | | | | |
|-----------|---------------------------|----|----|-----------|----|----|-----------|-----|-----|-----------|----|-----------|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 運営指導委員会開催 | 委員 依頼 | | | ← 連絡・調整 → | | | 14日 開催 | | | ← 連絡・調整 → | | 12日 開催 |

| | | | | | | | | | | | |
|----------------|--|--|--------------|----------|--|-------------------------------|---------|--|-----------------------------|-------|-------|
| AL ネットワーク連絡会開催 | | | | | | | | | | 連絡・調整 | 12日開催 |
| 検証委員会開催 | | | | | | 連絡調整 | 7・21日開催 | | | 連絡調整 | 17日開催 |
| 留学プログラム参加支援 | | | 説明会 エントリー | 一次 選考 | | 二次選考 結果通知 | | | | | |
| 事業評価の実施 | | | | | | 生徒ア ンケ ー ト 実 施 | | | 生徒・教 員・学校 外 実 施 | | |
| 財政支援 | | | | | | | | | GI 留学 支 援 金 支 給 | | |

(2) 実績の説明

【実施体制の整備】

a. 管理機関の下、拠点校を中心に組織的に研究開発・実践に取り組む体制の整備状況

本事業では、次の表に示すALネットワーク組織を整備し、研究開発と実践を進めた。

| 区分 | 機関名・学校名 | コンソーシアムにおける主な役割 |
|--------|--|--|
| 管理機関 | 学校法人中村学園 | <ul style="list-style-type: none"> ▶事業全体の統括 ▶業務執行体制の管理と整備 ▶AL ネットワーク内の連絡・調整 ▶必要経費の管理と執行 ▶運営指導委員会・AL ネットワーク連絡会の開催 ▶事務局からの情報の発信・収集 |
| 事業拠点校 | 中村学園女子高等学校 | <ul style="list-style-type: none"> ▶「GI 探究」「グローバル探究」の開発と実践 ▶文理融合型選択制を導入したカリキュラム開発 ▶カリキュラム検討委員会の開催・調整 ▶国際会議「食のサミット」の開催・調整 ▶成果報告としての「WWL 報告会」の開催・調整 ▶事業連携校と相互に参加する機会の調整・実施 |
| 事業連携校 | 中村学園三陽高等学校 京都先端科学大学附属高等学校 高知県立高知西高等学校 SMK Sultan Ibrahim Girls School (マレーシア) 84 th School (モンゴル) Academic of Lyceum Westminster International University in Tashkent (ウズベキスタン) 信男教育学園高等学校 (中国) | <ul style="list-style-type: none"> ▶探究授業・成果報告会・国際会議への相互参加 ▶研究開発に関する情報交換 ▶AL ネットワーク連絡会への相互参加 |
| 事業協働機関 | 立命館アジア太平洋大学 九州大学共創学部 中村学園大学・中村学園大学短期大学部 中村調理製菓専門学校 中村国際ホテル専門学校 ハワイ大学 KCC ウェストミンスター大学 マーセッド大学 マレーシア工科大学 SG インキュベート株式会社 株式会社リンガーハット | <ul style="list-style-type: none"> ▶研修スタッフとしての学生の斡旋・協力 ▶研究発表イベントの参加奨励と指導・助言 ▶アドバンスト・プレイスメントの実施と整備 ▶高度な教科指導への協力・指導・助言 ▶探究活動・アントレプレナーシップ研修への講師派遣 ▶論文作成の指導・助言 ▶AL ネットワーク連絡会への参加 ▶学校説明会の開催と進学準備の相談対応 |

| | | |
|------------------|---|--|
| | 株式会社久原本家グループ 国連 WFP 協会 NPO 法人 Table For Two | |
| カリキュラム アドバイザー | 筑波大学人間系 准教授 國分麻里 氏 | ▶「GI 探究」「グローバル探究」等カリキュラム 全般に関する指導・助言 ▶カリキュラム検討委員会への参加 |
| 海外交流ア ドバイザー | 学校法人中村学園経営企画 室 伊東正子 氏 | ▶留学希望者への支援、管理機関との調整 ▶海外研修プログラムの企画・調整 ▶国際会議での海外連携校との連絡・調整 |

b. 管理機関の下、関係機関の間で十分な情報共有体制を整備した状況

本事業が円滑および適切になされるよう、必要に応じて事業拠点校の担当者と連絡を取り、情報の収集と伝達を行った。特に事業拠点校と連携校の担当者間では、密にメールや電話での連絡を取り合い、情報を共有し相互の事業を円滑に進めることができた。それ以外にも年度末（3月12日開催）のALネットワーク連絡会における事業実績の年度報告や課題、今後の展望等を共有し意思疎通を図った。また、連携校でもあり、WWL事業カリキュラム拠点校でもある京都先端科学大学附属高等学校のALネットワーク連絡会にも出席するなど、他校の情報共有体制の知見を積極的に取り入れるよう努めた。さらに、事業拠点校ではホームページにWWL事業の関係行事をタイムリーに掲載する等、情報公開を継続して行った。

c. 管理機関の長、拠点校等の校長が果たした役割

構想内容の水準を維持し必要な改善を図るために、管理機関は積極的な情報収集と適切な指示を事業拠点校へ向けて発出した。また、事業拠点校は、管理機関からの指示を受け、カリキュラム開発を計画的・組織的に実施した。

管理機関の長である学校法人中村学園理事長は、事業責任者としてALネットワーク組織を適切に管理し、総括長である副理事長へ指導・助言を行いながら事業構想の深化へ向けて必要な改善を図った。総括長は、管理機関長の指示を受けて、運営指導委員会や検証委員会を招集し、ALネットワーク組織のより強固な協力体制の構築を図った。また、事業拠点校への適切な指示により、事業の進行全体を調整した。

事業拠点校の校長は、リーダーシップを発揮して校内および連携校との諸活動が円滑に進むよう、連携校の校長とも連絡を取りながら、事業の管理を行った。また、校内の執行部に当たる教育開発部への指導・助言および業務の遂行について監督を行った。

d. 運営指導委員会の開催実績や事業の検証資料等の収集状況

[運営指導委員会の構成]

| 区分 | 構成員氏名 | 所属 | 役職 |
|--------|-------|---------------------------|------------------|
| 委員長 | 岩本 仁 | 学校法人福岡成蹊学園 | 理事長 |
| 委員 | 小野 博 | グローバル人材育成教育学会 | 理事長 |
| | 新澤 和幸 | 福岡県人づくり・県民生活部 私学振興・青少年育成局 | 参事補佐 |
| | 末松 大和 | NPO 法人アジア太平洋子ども会議・イン福岡 | 専務理事 |
| オブザーバー | 相川 洋 | SG インキュベート株式会社 | 代表取締役社長 |
| | 河邊 哲司 | 株式会社久原本家グループ本社 | 代表取締役社長 |
| | 副島 雄児 | 国立大学法人九州大学共創学部 | 教授 |
| | 米濱 和英 | 株式会社リンガーハット | 代表取締役会長 兼 CEO |

〔開催実績〕

| 回 | 日時 | 内容 |
|---|-------------------------------|--|
| 1 | 令和3年10月14日 (木) 13:30～15:00 | 事業の概要、ALネットワーク組織、育成する人材像、今年度の重点項目、進捗状況、事業拠点校への指導・助言 |
| 2 | 令和4年3月12日 (土) 14:00～15:30 | 今年度の事業総括、事業達成状況、事業の検証結果、次年度への課題と計画、次年度の目標達成に向けての事業拠点校への指導・助言 |

〔検証資料〕

| 検証項目 | 評価対象 | 資料名 |
|---------------------------|---------------|---------------------|
| WWL 事業進捗状況 | 事業拠点校 | 令和3年度年間行事一覧 |
| 事業全般を通じて育成する資質・能力 | 事業拠点校生徒（全学年） | WWL 事業効果検証生徒アンケート結果 |
| 探究授業、主に「GI 探究」で育成する資質・能力 | GI クラス生徒（1年次） | ループリック評価表・結果 |
| 「GI スキルアップセミナー」で育成する資質・能力 | GI クラス生徒（2年次） | 生徒事後評価アンケート結果 |
| 英語力の向上 | 事業拠点校生徒（全学年） | 英語検定試験資格取得調査結果 |
| 教師の授業改善への取り組み | 事業拠点校教員（専任教員） | 指導指標測定結果 |

e. 拠点校等の卒業生の卒業後の進路とイノベティブなグローバル人材としての成長の過程を追跡調査する仕組み等

事業拠点校の WWL 事業（旧 SGH 事業を含む）の対象となる SG クラスおよび GI クラス生徒の進路については、スーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）の指定時（平成 27 年度）に入学した生徒より、追跡を実施している。基本的には、卒業時の担任によるデータの入力と更新を随時行うものである。現在、同窓会組織と連携してデータの取り扱いを行っていくことを検討中である。

f. アジア高校生架け橋プロジェクトや海外連携校等からリーダー、架け橋となる留学生等の日本での学習や生活を支援する体制

平成 30 年度より開始された「アジア高校生架け橋プロジェクト」については、事業拠点校が開始当初よりわが国で最も多くの留学生を受け入れている学校の一つであり、今年度も 10 か国から 10 名を受け入れた。留学生に対する日常の生活面はもちろんのこと、日本語学習や健康面の相談等においても、事業拠点校の教育開発部員や管理機関の海外交流アドバイザーが主に担当する体制をとり、計画的に親身な指導を行っている。また、公益財団法人 AFS 日本協会の博多支部とも綿密に連絡を取り、生活面の援助や事業拠点校で開催する諸行事を共同で実施している。

その他の留学生についてはコロナ禍中ということもあり、令和 2 年度から受け入れはできていない。

g. 事業拠点校で取り組みについて、本事業による取り組みが学校全体の授業改善や関係機関の教職員や生徒の意識改革を促した状況

〔授業改善〕

事業拠点校では、毎学期末にすべての常勤教員を対象とした指導指標の自己評価の測定を行っている。この指導指標は、これから生きる生徒たちにとって必要とされる 21 世紀型スキル等の能力を習得するにあたり、教師が指導上改善すべき項目を事業拠点校で独自の基準を設け指標化したものである。この結果によると、令和 3 年度はコロナ禍の影響により対面授業とオンライン授業とを交互に実施した時期があったのにもかかわらず、指標 11 項目中の 10 項目で令和 2 年度を大きく上回る結果となった。しかもコロナ禍の影響が比較的少なかった令和元年度と比べても同様の結果である。このことから、事業拠点校の教員の授業改善に対する意識の向上や 21 世紀型スキルをはじめとする「生徒に身につけさせたい力」の共通理解が進んだ結果が良い結果を生み

出したものと予測できる。令和元年度から令和3年度までの測定結果（いずれも年度ごとの平均達成率〔%〕）は次の表の通りである。

| 大項目 ※（ ）内は指標項目数 | 令和3年度 | 令和2年度 | 令和元年度 |
|---------------------------|-------|-------|-------|
| A 授業の基本姿勢（5） | 78.4 | 66.3 | 69.2 |
| B 生徒の「深い学び」を促す授業への取り組み（4） | 52.4 | 38.6 | 45.9 |
| C 「生徒が学びの主人公」となる授業づくり（2） | 84.5 | 70.1 | 38.4 |
| 全項目平均（%） | 67.7 | 56.0 | 53.7 |

〔生徒の意識〕

本事業により事業拠点校の生徒の意識の変化がどのように見られたかについては、年2回（令和3年度は6月・2月実施）の効果検証アンケートによって調査している。6月と2月の結果を比較すると、1年次に育成すべき「アイデンティティ」「グローバル関心度」「コミュニケーション力」「課題解決力」のいずれも学年全体としては肯定的評価が増加している。このことから、「GIフィールドワーク Basic（グローバル・キャンパス）」や「WWL 報告会」等の行事や、それらにつながる計画的な探究学習を通して身についた力に対して、成長を自覚し自信を深めているのではないかと考えられる。2年生についても学年全体としては同様の傾向が見られた。

h. アジア高校生架け橋プロジェクトの受け入れ国および人数

- ▶ 受け入れ国（アルファベット順）：バングラデシュ、カンボジア、フィリピン、インド、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、パキスタン、タイ、ベトナム 計10か国
- ▶ 受け入れ人数：各国1名ずつ 計10名

【財政等支援】

- a. 管理機関が、本事業の運営に関わる経費を国からの委託経費のみではなく、自己負担額として、計画段階よりさらに計上したもの
- ▶ 留学プログラム実施に伴い、参加希望者13名の内、3名に総額150万円の渡航費用をGI留学支援金として支給した。（詳細はbに記載）

b. 事業の実施に必要な取り組みに対し、人的または財政的な支援や教職員を育成するための研修やセミナー等を実施した状況

- ▶ GI留学プログラム参加者への支援

令和3年度に初めて留学プログラムが実施となり、それに合わせて参加希望者の内、3名に渡航費用の半額相当額（総額150万円）を支給した。この目的は、留学へ確固たる意志を持ち意欲ある参加希望者の経済的負担を軽減し、より良い成果をあげることを支援するものである。支援対象者の選考は、1次の書類選考を事業拠点校、2次の面接を管理機関の担当者で実施し、結果として3名に支給を決定した。

- ▶ 夏期教職員研修

令和4年度入学生から学年進行で導入・実施する事業拠点校の新しい学校設定教科「グローバル探究」の指導力向上を目的として、7月21日の夏期教職員研修にて一般社団法人 Glocal Academy 代表理事の岡本尚也氏を招き「探究授業実践ワークショップ」を開催した。

c. 国の委託が終了した後も事業を継続的に実施するために計画したこと

委託期間終了後、連携校・事業協働機関との継続的なパートナーシップを築いていくために、例年協働実施している主要行事「食のサミット」「グローバル・キャンパス」等を引き続き行う。また、今年度より協働機関（SGインキュベート株式会社）と実施を開始した「アントレプレナーシップ講座」では、取り組みが一過性のものにならないよう内容を工夫検討し継続する。

なお、コロナ禍を通じてオンラインの実用化が進んだため、今後もオンラインとオフラインを適宜使い分けながら事業を進めつつ効率化を図る。

【AL ネットワークの形成】

a. AL ネットワーク運営組織の実績

本事業の構想目的・計画・達成状況及び今後の課題や方向性を確認するために、管理機関や事業拠点校の代表者、連携校の校長、事業協働機関の代表者を招集して AL ネットワーク連絡会を令和 2 年度より年度末にオンライン（一部は対面を含むハイブリッド形式）で開催している。令和 3 年度の開催実績は次の通りである。

▶ AL ネットワーク連絡会：令和 4 年 3 月 12 日（土）14:00~15:30

参加者：13 名（運営指導委員：8 名、国内連携校：2 校、海外連携校：1 校、事業協働機関：4 機関）

内容：今年度の事業総括、事業達成状況、事業の検証結果、次年度の課題と計画、質疑応答等

b. 関係機関の間で十分な情報共有体制を整備し、新たな協働事業の開発、有効な事業実施を実現したこと

AL ネットワーク内の連絡は、主として管理機関の事務局及び事業拠点校の教育開発部が、年度初めに作成したメーリングリストを用いてメールや電話、郵送等の手段で情報の共有を行っている。連絡体制としては、AL ネットワーク内に多数ある連絡先をグループ化し、かつイベントごとに担当者を決めて連絡業務に臨んでいる。また、先にも触れた年度末の AL ネットワーク連絡会では、海外の連携校や事業協働機関からも参加するため、作成資料は日英の 2 か国語表記及びアナウンスとし、事業の内容や実績についての周知を図った。

令和 3 年度は、事業協働機関の SG インキュベート株式会社が推薦した講師の方々の指導によってアントレプレナーシップ研修（前期 4 回）を実施できた。また、同社の紹介による別会社（株式会社梓書院 田村志朗氏）が選定した講師の指導によって、ワークショップを含むより発展的な研修（後期 4 回）も実施できた。これらの運営における指導計画の提示、講師の選定と決定、参加者や会場の確認、実施、結果のフィードバック等の一連の流れの中での情報共有は、管理機関の事務局と事業拠点校の教育開発部の担当者によって行われた。

c. AL ネットワークの運営組織が、当該プログラム修了生の、国際的な分野を学ぶ国内外の大学への進学や国内外のトップ大学等への進学、海外留学等の促進に寄与したこと

今年度も事業拠点校では、一部を除きほぼ予定通りに国内外の事業協働機関による学校説明会を開催し、国際的な分野を学ぶことへの進学意欲を喚起する試みを継続して行った。実施したもののとしては次の表の通りである。なお、実施はすべてオンラインである。

| 説明対象校 | 開催日時 | 対象 | 参加者数 | 内容 |
|-------------|--|------------------|-------------------|--|
| 立命館アジア太平洋大学 | 令和 3 年 8 月 3 日（火） 15:30~16:30 | 事業拠点校の希望する生徒・保護者 | 60 名 | 学部・学科紹介、学費、学生生活、個別相談 |
| ハワイ大学 KCC | 令和 3 年 10 月 23 日（土） 15:30~16:30 | 事業拠点校の希望する生徒 | 42 名 | 学校紹介、入試のシステム、学費、渡航までのスケジュール、インターンシップ制度 |
| マーセッド大学 | 令和 4 年 3 月 30 日（水）・31 日（木） 9:00~13:00 | 事業拠点校の希望する生徒 | — （大学HPにて直接申込） | 学校紹介、体験授業、海外進学セミナー、英語レッスン、留学生や卒業生との座談会 |

d. AL ネットワーク運営組織に専任者からなる事務局を設置した状況及び本事業のカリキュラムを開発する人材の配置状況

事務局の設置及びカリキュラム開発に関わる人材配置は次の表の通りである。

| 区分 | 機関・担当者等 | カリキュラム開発に関わる主な業務項目 |
|-----|-----------------------------|-------------------------------------|
| 事務局 | 学校法人中村学園理事長 学校法人中村学園副理事長 | ▶ 事業計画の作成・進捗管理 ▶ AL ネットワーク内の連絡指示 |

| | | |
|--------------|-------------------------------|--|
| | 学校法人中村学園経営企画室長 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ AL ネットワーク全般の情報の収集・発信 ▶ 事業評価の実施 ▶ 事業経費の管理・運用指導 |
| カリキュラムアドバイザー | 筑波大学人間学系 准教授 國分麻里 氏 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 事業拠点校のカリキュラム開発全般に関する指導・助言 ▶ カリキュラム検討委員会への参加 |
| 海外交流アドバイザー | 学校法人中村学園 経営企画室 伊東正子 氏 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 事業拠点校の留学プログラムや海外研修の企画・実施に関する指導・助言 ▶ 教育開発部会への参加 |
| 事業拠点校 | 教育開発部員 10 名 (外国人講師 2 名を含む) | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 本事業に関わる教育実践を円滑に進めるための計画の策定と実行 ▶ 事務局への報告 ▶ 教育開発部会への参加 |
| | 探究授業担当者チーム | <ul style="list-style-type: none"> ▶ GI クラスの探究授業の計画・実践・評価 ▶ 教育開発部への報告 |

e. テーマと関連した高校生国際会議等の開催準備状況

高校生国際会議については、事業拠点校が主催する「食のサミット」を平成 29 年度より開始し、今回が 5 回目の開催（令和 4 年 3 月 12 日開催）となった。今回は前年度に続き、新型コロナウイルスの感染防止対策により、海外校はオンライン参加とした。また、例年は参加チームを国内外から広く公募しているが、今回は同様に感染防止の観点から連携校のみの参加とした。

今回のテーマは『SDGs 目標 12「つくる責任・つかう責任」につながる「食」に関する諸問題とその解決策』とし、事業拠点校及び国内連携校から 4 チーム 14 名、海外連携校から 3 チーム 15 名の生徒が参加して模擬国連形式で議論を戦わせた。また、これとは別に事業拠点校内にサテライト会場を設け、事業拠点校の GI クラスだけではなく 44 名の参加希望者やクラス代表生徒も加わり、本会場と同様のテーマで活発な議論を行った。このサミットでまとめた提言書を後日、国連 WFP 協会へ提出する予定である。次回（令和 4 年度）の開催テーマを早急に決定し、早期に準備に着手することにしている。

f. 社会に開かれたフォーラムや成果報告会等の実施（あるいは計画）

事業拠点校では、探究成果の報告として年 1 回の WWL 報告会を開催している。そこでは WWL 事業対象の GI クラスだけではなく、非対象生徒も含めた全校あげての一大イベントとして盛大に開催している。令和 3 年度は 12 月 11 日に開催した。新型コロナウイルスの感染防止のため、一般来賓や保護者はオンラインでの参観とした。会の前半は講堂ステージにおいて、GI クラス生徒及びアジア高校生架け橋プロジェクト留学生による発表、国内連携校 2 校の代表者がオンラインで成果発表を行った。後半は各教室において、クラス代表生徒 92 名による「食のサミット」と同じテーマでのポスターセッションを実施した。拠点校生徒約 800 名、来賓 11 名が来校し、オンラインにより学校関係者 15 名、運営指導委員 3 名、保護者 79 名が参観した。

令和 4 年度からは、事業拠点校の GI クラスが 3 年次へ進級するにあたり「GI プレゼンテーション」と称する論文発表会の開催も計画している。

g. 構想目的の達成に資する取り組みを計画し、その効果的かつ円滑な運営のために行った情報収集の実績

下表に今年度の実績についてまとめた。いずれも事務局の指示のもとで事業拠点校の業務担当者が実施したものである。

| 項目 | 関連機関 | 内容 |
|----------------|----------------|--------------------------------|
| 広報紙の発行・配布 | AL ネットワーク内外の機関 | 本事業での実践（主に特別授業や行事）に関するタイムリーな情報 |
| 連携校教員研修会への発表参加 | 京都先端科学大学附属高等学校 | 探究授業実践の報告及び指導法の情報交換 |

| | | |
|---------------------|-------------------------|-------------------------------------|
| 連携校授業研究会参加（個別懇談会参加） | | 本事業の効果的な運営のための情報収集（特に留学プログラムについて） |
| 学校視察のための事業拠点校来校 | 高知県立高知西高等学校 | 事業の説明、運営に際しての情報交換、学校設定教科の運用に関する質疑応答 |
| AL ネットワーク内の諸連絡・調整 | AL ネットワーク内の全機関（特に国内連携校） | 主に行事の相互参加に関する連絡・調整等 |

h. AL ネットワーク運営組織の基盤となる関係機関との協定文書等
該当無し

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

| 業務項目 | 実施期間（令和3年5月11日～令和4年3月31日） | | | | | | | | | | | | |
|---|---------------------------|---------------|----------------------|----------------------------|------------------|-----------|---------------------|-----------------------|-----------------------------------|--|-----------------|---|--|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | |
| 教員チームのコーチング | 1・2年「GI探究」指導 | | | | | | | | | | | | |
| | 3年論文作成指導 | | | | | | | | | | | | |
| | 論文集完成・配布 | | | | | | | | | | | | |
| 学校説明会・入試講座の開催 | | 31日 中村大・短大 | 7・11日 中村大・短大 | | 3日 立命館アジア太平洋大 | | 23日 ハワイ大学 KCC | | 11日 中村大・短大 | | 25日 中村大短大部 | 8日 中村調理製菓専門学校・国際ホテル専門学校 30・31日 マーセッド大学 | |
| 留学・海外研修の奨励 | | | 18日 説明会 | 申し込み・研修参加 | | | | | | | | | |
| 食のサミット開催 | | | | 実施内容告知 | 連絡・調整 | | | | | | 9・10日 事前会議 | 11・12日 実施 | |
| 連携校への行事参加 *KUAS=京都先端科学大学附属高等学校 | | | 6日 KUAS 探究講演 | | 23日 KUAS 職員研修 | | 16日 KUAS 授業研究発表会 | 19日 九州大学成果発表会 | 25・26日 KUAS 研究成果発表会等 | | | 12日 高知西高校探究成果発表会 | |
| 連携校からの行事参加・来校 | | | 22日 生物実験(カズベキスタン) | | | | 30日 視察(高知西高) | 11日 WWL 報告会(国内連携校) | | | | 11・12日 食のサミット(全連携校) | |
| WWL 報告会開催 | | | | | 参加連絡・調整 | | | | 11日 | | | | |
| 広報紙の発行・配布 | | 27日 | | | | | 27日 | | | | | | |
| ホームページ更新 | ←→ | | | | | | | | | | | | |
| GI クラス の 開 発 ・ 実 践 | GI 探究 | | 3日 産学連携 | | 2日 糸島フィールドワーク | | 21日 論文作成ガイダンス | 11日 産学連携 | 2日 産学連携 | 11日 学外指導者論文指導打合せ | | 25日 学外指導者による論文指導 | |
| | GI フィールドワーク Basic | | 事前準備・調整 | | | 15日 実施 | 事後の取り組み | | | | | | |
| | GI フィールドワーク Advance | | | | | | 国内研修に変更・延期決定 | 行程練り直し | | 行程詳細の決定 | 事前準備 | 21 ～25日 実施 | |
| | GI 留学プログラム | | | 17日 説明会 28日 アンケート | | 4日 説明会 | | 6日 説明会 | | 12日 説明会 17・26日 ガレージセッション 28日 出発 | 4月3日 渡航 帰着予定 | | |
| | GI スキルアップセミナー | 前期 実施準備 | 5・10日 セミナー | 1・29日 セミナー | | | | 後期 実施準備 | 13日 セミナー 18日 ワーク ショップ | 24日 セミナー | 7日 セミナー | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|---------------|-----|-----------------|--------------|--------------|----|---------------|----------|-----|--------------|-------------|---------------------|-------------|
| グローバル探究の開発 | | 25日 カリキュラム承認 | 教科内容・指導計画の検討 | | | | | | | | 14日 教科内容 計画承認 | |
| カリキュラム検討委員会開催 | 27日 | 27日 | | 7日 | | 29日 | 27日 | 24日 | 22日 | | 22日 | |
| 教育開発部会開催 | 3回 | 3回 | 4回 | 2回 | 1回 | 3回 | 3回 | 2回 | 3回 | 3回 | 3回 | 1回 |
| 指導指標の測定 | | | | 15-27日 測定 | | フィード バック | | | 17-21日 測定 | フィード バック | 24-28日 測定 | フィード バック |
| APの受講 | | | 受講 受付 | | | 受講 | | | | | 単位取 得認定 | |
| GI講座の開催 | | | | | | | 2日 講演 | | | 31日 講演延期 | | |
| 高度内容の取り組み | | | 22日 生物実験 | | | | | | | ハイレベル英語講座 | | |
| 留学生の受け入れ | | | | | | アジア架け橋留学生受け入れ | | | | | | |
| 教育研修実施 | | | | 21日 職員研修 | | | | | | | 探究授業実践学習会 | |
| 事業効果検証アンケート | | | 実施 | データ 分析 | | | | | | | 実施 | データ 分析 |

(2) 実績の説明

a. 設定したテーマについて

本事業では『「食」の課題解決により持続可能な社会を創出するイノベーターの育成』をテーマとして掲げている。SDGsにおいては「社会」「環境」「経済」という3つの側面で開発目標をバランスよく統合した形で設定しているが、私たちはこれらに食生活の改善や飽食・貧困の問題に関わる「栄養」の側面を加えるとともに、食の文化的側面を「社会文化」として含む形で解決すべき社会課題を捉えている。すなわち、本事業では、テーマとして設定する「食」について、「食と社会文化」「食と環境」「食と経済」「食と栄養」の4領域からなるものとしている。生徒たちがこれらの4領域を探究的かつ問題解決的に取り組むことで、世界の食問題について必要な知識をバランスよく習得でき、諸活動における探究の過程においてイノベティブなグローバル人材として必要な基礎力が養われると考えている。

b. カリキュラム研究開発を国内外の大学、企業、国際機関等との協働で行ったことについて

① 1・2年次「GI探究」における産学連携（企業コラボ）

GIクラスの1年次には食の4領域をPBL形式で実施しているが、「食と経済」の領域においては地元企業と協働してSDGsの課題解決を図る商品開発を行っている。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大のため、2年GIクラスが進めてきた株式会社博多大丸との商品開発は途中で断念したが、1年GIクラスが例年より早くこの取り組みを開始しており、新商品の早期完成が期待される。以下、令和3年度の取り組みの主なものをあげる。

| 実施日 | 対象 | 協働機関 | 内容 |
|---------------|-------------|--------------------|--|
| 令和3年6月3日（水） | 2年GI クラス | 株式会社博多大丸 | 地域社会との共生、起業としてのSDGsへの取り組み等の説明（オンライン実施） |
| 令和3年8月2日（月） | | 二丈ふれあい交流センター、糸島市役所 | 商品開発に向けた情報収集（現地でのフィールドワーク） |
| 令和3年11月11日（木） | 1年GI クラス | 株式会社石村萬盛堂 | 製菓業界について、商品のコンセプト、商品開発の進め方等の説明 |
| 令和3年12月2日（木） | | | 商品アイデアについてのグループ発表・質疑応答・審査 |

② 2年次「GIスキルアップセミナー」における起業家養成プログラムの開発

イノベティブなグローバル人材を育成するため、令和3年度は6～7月（前期）と12～2月

(後期)に分けて「GIスキルアップセミナー」としてのアントレプレナーシップのセミナーを企画し、前後期で各4回ずつ計8回を実施した。前期は事業協働機関であるSGインキュベート株式会社との協働、後期は株式会社梓書院との協働で実施した。前期は、2年GIクラス生徒全員を対象として「起業とは何か」「起業家の特長」などへの気づきを得るための基礎講座とした。また、後期は、中学3年から高校2年までの希望者を対象とし、「起業するための準備(マインドセット、目標、経営的側面等)」の習得を主題とし、ワークショップ1回を含む発展講座とした。以下、実施した各回のリストを表に記す。

| 期 | 回 | 実施日 | 講師 | テーマ・内容等 |
|----|----|---------------|---|--|
| 前期 | 1 | 令和3年6月5日(土) | SGインキュベート株式会社 代表取締役社長 相川洋氏 | 起業とは何か、会社の概要、今後の予定等 |
| | 2 | 令和3年6月10日(木) | 五感応用工学研究所 代表 松岡真輝氏 | ニオイに関してよりよい社会を創る |
| | 3 | 令和3年7月1日(木) | 株式会社 neuet 代表取締役 家本賢太郎氏 | レンタル自転車サービス「Chari chari」の起業と運営 |
| | 4 | 令和3年7月29日(木) | 株式会社メロディ・インターナショナル 代表取締役 尾形優子氏 | 遠隔医療サービスの起業と運営 |
| 後期 | 1 | 令和3年12月13日(月) | うきはの宝株式会社 代表取締役 大熊充氏 | ばあちゃん食堂が世界を変える |
| | 2※ | 令和3年12月18日(土) | ディサント株式会社 キーアカウントマネージャー 吉村友見氏 ピンサリア・ピンサ・ロマーナ マリノアシティ店 店長 松井淳史氏 | 食文化の広がりについて考えてみましょう～イタリアの新しいピッツァ「ピンサ・ロマーナ」の事例～ |
| | 3 | 令和4年1月24日(月) | NPO法人いるか 理事長 田口吾郎氏 | 「経済格差」により「学力格差」が生まれない世界を創る |
| | 4 | 令和4年2月7日(月) | 株式会社 明治 業務部コミュニケーション課 藤原理佐氏 | チョコレートセミナー |

※ 後期第2回はワークショップ形式で実施、他はすべてセミナー形式

c. 設定したテーマと関連し、外国語や文理両方の複数の教科を融合した内容を、外国語を用いながら探究活動を行うグローバル探究等の教科・科目を設定した状況について

事業拠点校のGIクラスでは、英語の中で「英語探究」の科目を設け、英語を用いて文理融合的な内容(主として「食」に関わるテーマ)について探究活動を実践している。1年次は課外授業扱いで1単位相当、2・3年次は正規の授業として各2単位を設定している。この「英語探究」では、「GI探究」で習得した探究活動のノウハウを活用し、探究活動を英語で学習するものであり、英語によるレポートや論文の作成法・ディベート・発表方法等を扱う。また、オンラインで海外との交流活動も実施しており、今年度は1年GIクラスが台湾(6月3日・23日、12月17日)や韓国(7月13日)等の高校生と社会課題とその解決法等について意見交換を行った。GIクラスでは外国人講師が副担任を務めているため、これらの授業に関わらず日常から英語を用いた指導を行っている。

令和4年度入学生からは、これまで「総合的な探究の時間」の一部として実施してきた「GI探究」に換わり、新たな学校設定教科として「グローバル探究」を全クラスに導入することを5月の職員会議で正式に決定し、教育開発部を中心に教科内容や実施計画等の検討を進めている。

d. 海外の連携校等への短期・長期留学や海外研修等を、カリキュラムの中に体系的に位置づけて実施したこと

① GI 留学プログラムの実施

事業拠点校では、グローバルでイノベーティブな人材育成のために欠かせない英語運用能力の育成を目的として、1年 GI クラスの希望者が3学期に約2か月間の留学プログラムに参加できるシステムを令和2年度入学生より開始した。このプログラムに参加する場合の1年次成績は、2学期末までの評価で算出し、留学中の成績（現地での学期の全日を登校できないため成績・評価は出ないことが多い）は含めないことにしている。令和2年度は、渡航先のカナダ・オンタリオ州トロントが新型コロナウイルス感染症拡大のためロックダウンとなってしまう、実施ができなかった。しかし、令和3年度は大阪でのビザ取得や渡航直前及び現地カナダでのPCR検査、入国時のホテル一時待機等いくつかの障害はあったものの、参加者13名の全員が無事に渡航し、令和4年1月28日（金）から4月3日（日）までの予定で留学生活を送っている。

② GI フィールドワーク Advance の実施

事業拠点校の2年 GI クラスでは、探究活動で培ってきたスキルを国内または海外の実習地で活用し課題解決を図る「GI フィールドワーク Advance」を9～10月に計画している。令和3年度は海外（東南アジア）での研修を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため実習地を国内に変更し、時期を令和4年3月に延期したうえで実施することを決定した。令和4年1月に新たな行程を正式に決定し、同年3月21日（月）～25日（金）に九州内で実施した。内容は、可能な限り海外フィールドワークと同様の探究活動や課題解決、留学生との交流による英語の使用等を取り入れ工夫したものとした。また、異文化交流や英語運用力を試行する機会を補充する目的で、令和3年12月27日（月）にはシンガポール国立大学（NUS）の学生とのオンライン交流を実施した。

e. 体系的なカリキュラムの編成にあたって、文系・理系を問わず、各教科をバランスよく学ぶ教育課程の編成をしたことについて

事業拠点校の教育開発部において、令和4年度入学生の2・3年次への進級時に一部選択制を導入するカリキュラム案を作成した。文系・理系の区分にとらわれず、生徒の興味・関心に応じた科目を選択できるシステムであり、具体的には金曜日の午後の1～2単位分を充当する形を提案した。選択できる開講講座の例は次の表の通りであるが、結果としては時間割作成に関する教務部との調整がつかず、令和3年度内の決定は見送られ、次年度へ審議が持ち越しとなった。

| 目的 | 講座例（仮称） |
|---------------------|------------------------------|
| 生徒の興味関心を深める | 古典探究、日本史探究、数学探究 |
| 正課の授業では学ぶことができない内容 | 哲学入門 |
| 実験 | 物理実験、化学実験 |
| 実技実習 | 芸術（音楽・美術・書道）実習、被服実習、情報処理、英会話 |
| 進路実現・検定取得 | 総合型選抜対策講座、英語検定講座 |
| 大学レベルの授業（AP）等の高度な学び | 経済学入門、心理学入門 |

f. 学習活動が構想目的の達成に資するよう工夫したこと

より多くのイノベーティブなグローバル人材を輩出するためには、できるだけ事業拠点校内だけの閉鎖的な枠組みにとらわれることなく、外部に「開かれた」教育手法を用いて、生徒たちに本物に触れさせ刺激を与え、体験的に視野の広がりや発想力を促すことが必要と考えている。昨今のコロナ禍でオンラインによる教育実践が増加している現状を考えると、なお一層その必要性を痛感している。そこで、GIクラスのみ実施予定であったアントレプレナーシップのセミナーをWWL事業の非対象生徒の希望者にも受講が可能となるようにした。そうすることで、事業拠点校のより多くの生徒が起業家から直接話を聴く機会が増え、より多くの生徒の変容を期待したのである。（上記b.②にも関連事項参照）

また、令和3年度は2年 GI クラスの論文作成の指導に関して、事業拠点校内の教師による指導だけではなく、運営指導委員の一部や外部の有識者（以下、学外指導者と称する）も定期的に

指導にあたることで、生徒の活動意欲を高めるとともに論文の質的向上を図ることをねらいとした取り組みを行った。始めに12月11日（土）に学外指導者へ指導の目的や方法の概要説明を行った後、2月25日（金）に第1回目となる論文指導を実施した。当日は5名の学外指導者が来校され、2年GIクラス生徒33名がグループに分かれ論文テーマに関する個人発表の後、指導者から個別に指導・助言を受ける機会を持った。令和4年度より本格的に開始する「GIプレゼンテーション」と称する論文発表会へ向けて、このような機会を継続して設ける予定である。

g. 高大連携による大学教育の先取り履修を可能とする取り組みを実施したこと

管理機関である学校法人中村学園では、事業協働機関である中村学園大学・中村学園短期大学の学生以外で講座を履修する者を「科目等履修生」と称し、在学生と同じ授業科目を受講して定期試験等で学期末に成績評価することになっている。また、そこで単位を取得した生徒が中村学園大学または同短期大学部に進学した場合は、習得単位として認定される仕組みとなっている。この制度は令和3年度で開始から3年目となるものであり、事業拠点校及び事業連携校の中村学園三陽高等学校の高校2年生の希望者を対象として実施している。

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、試験及び評価はすべて授業内での試験、レポート、小テスト、課題等によって行われた。また、講座の受講登録、諸連絡、課題提出等のほとんどはオンラインによって実施された。事業拠点校からの受講者は19名で、各自1科目（2単位）を受講し、全員が単位を修得した。

h. より高度な内容を学びたい高校生が学習できる環境を整備したこと

① 海外連携校との合同生物実験

高校での教育内容を越えて深く専門的な知識・技能を身に着けるための取り組みであるこの生物実験は、今回で3回目の実施となった。毎回、理系「生物」の選択者や希望者を対象として、身近な食材を用いて専門的な解剖実習を行っている。今回は教材として「いりこ」を使用した。参加生徒は9名、教員4名であり、講師は事業拠点校の教員が務めた。また、国内外の連携校にも参加を呼びかけたところ、ウズベキスタンのライシーアム高校の生徒20名と教員6名がオンラインで参加し、リアルタイムで講師による解説を聴きながら同様の実験を行った。

② CEFR B1・B2 レベル突破講座

令和2年度までは「実用英語技能検定準1級講座」を実施してきたが、これに代わるものとして令和3年度よりこの講座を開始した。講師は事業拠点校の教員が務め、令和4年1月17日（月）～2月25日（金）までの全6回（各回90分）で実施し、生徒56名が参加した。新型コロナウイルス感染症拡大のため、オンラインでの実施となった。

③ アントレプレナーシップセミナー（後期） ※上記b②の項を参照

この研修は拠点校のGIクラス生徒にイノベティブな能力の涵養を目的とした「GIスキルアップセミナー」の一環として計画していたが、GIクラスの生徒に限定せず「起業」に興味・関心のある生徒に参加を呼びかけ、意欲のある参加者がより専門的な講話を聴くことで、一人でも多くのイノベーターを生み出そうとした試みである。令和3年度は12月13日（月）から2月7日（月）までの間に全4回を実施し、中学3年生から高校2年生までの生徒のべ46名が受講した。

i. アジア高校生架け橋プロジェクトや海外の連携校等からリーダー、架け橋となる人材を受け入れ、留学生と一緒に英語等で授業・探究活動を履修するための学校体制を整備したこと

事業拠点校では、平成30年度のアジア高校生架け橋プロジェクトの開始から令和3年度までの4年間でべ15ヵ国33名の留学生を受け入れている。令和3年度は10ヵ国10名を受け入れ、9月21日（火）から翌年3月13日（日）までの滞在期間中、1年生の各クラスに1名ずつ配属した。留学生たちは各クラスでの授業参加はもちろんのこと、全校集会や学年集会、食のサミット等の行事、GIクラスの探究授業にも積極的に参加し、在校生との異文化交流を深めるとともに、英語を用いて出身各国の現状や課題についての発表やディスカッションを行った。また、教育開発部の担当教員や海外交流アドバイザーによる日本語や生活指導も組織的・計画的に行った。事業拠点校では寮を備えているため、留学生は寮での集団生活における規律やマナー等も学んでいる。寮内の留学生を対象とした新型コロナウイルス感染症の予防や拡大防止へ向けた対策、

受け入れ規定の改正等にも取り組み、受け入れの体制を整備した。冬休み（例年は夏休みも含まれる）には、日本文化により親しんでもらうことを目的として、在校生からホストファミリーを募り、それらの家庭で年末年始を過ごす機会を設けている。

j. その他について

▶ 夏期海外研修業者説明会の開催

事業拠点校では、海外研修や留学プログラムがカリキュラムに組み込まれているのは現在のところ GI クラスだけである。そこで他のクラスの生徒にも、できるだけ多くの海外研修の機会を提供し、多くの生徒の視野を広げることを目的として、初めての夏期海外研修業者説明会を 6 月 18 日（金）に開催した。当日は 4 社の旅行業者が企画した研修プランを参加者へプレゼンし、興味・関心を持ったプランについて、別室に設けた各社のブースでの相談を経て、最終的には後日に参加申し込みを行うという流れで実施した。各企画については、あらかじめ事業拠点校の教育開発部や海外交流アドバイザーの意見を取り入れ、選定した企画をプレゼンしていただいた。コロナ禍であったために、海外渡航のプランは 1 つだけにとどまり、他は県内または自宅でのオンライン研修となったが、生徒・保護者の関心は高く、説明会には生徒 103 名と保護者 53 名が参加し、そのうちのべ 25 名が実際の研修に参加した。

▶ Blue Earth 塾の開催

NPO 法人 Blue Earth Project が主催する年 2 回の環境イベントに、事業拠点校の GI クラスが参加した。このイベントを通して生徒たちの身近な環境問題解決への意識の向上を図るとともに、課題解決力、表現力、創造力、コミュニケーション力、多様性受容力等の様々な力が養われた。各回の実施内容は次の通りである。

○11 月 6 日（土）…事業拠点校にて対面実施（1・2 年 GI クラス 74 名が参加：指導学生 15 名）

エコレクチャー、衣食住に関する課題解決・ディスカッション等

○1 月 29 日（土）…オンラインで開催（2 年 GI クラス 33 名が参加、松蔭高等学校・藤女子高等学校からも参加） 実践報告、環境問題解決への情報交換、エコバッグづくり

8 目標の進捗状況、成果、評価

a. イノベーティブなグローバル人材の育成状況

〔WWL 事業効果検証アンケートの結果から〕

事業拠点校では毎年 2 回の事業効果検証アンケート（各回 32 問）を全生徒に実施している。令和 2 年度後期の調査から本事業で育成するイノベーターに必要なとされる力に関する設問（前後期で計 20 問）を新たに作成し、調査を実施している。各設問について力が身につけていると肯定的な回答をしている生徒の割合（%）を下の表に示す。

| 単位 (%) | | イノベーターに必要なとされる力に関する設問 | | | | | 育成するすべての力に関する全設問平均 |
|-------------|------|-----------------------|------|---------|----------|------|--------------------|
| 学年・クラス | 調査時期 | 突破力・忍耐力・レジリエンス | 調和力 | マインドセット | 高次の課題解決力 | 平均 | |
| 1 年 GI | 前期 | 75.7 | 89.5 | 63.2 | 85.2 | 77.8 | 75.9 |
| | 後期 | 67.7 | 91.7 | 83.3 | 75.0 | 72.2 | 83.1 |
| 1 年 GI (R2) | 後期 | 69.7 | 92.4 | 77.3 | 72.8 | 76.4 | 80.0 |
| 1 年他クラス | 前期 | 79.7 | 87.8 | 65.6 | 84.5 | 79.4 | 70.1 |
| | 後期 | 68.7 | 89.4 | 79.7 | 74.1 | 76.1 | 78.2 |
| 2 年 GI | 前期 | 87.5 | 93.8 | 84.4 | 87.5 | 88.1 | 82.0 |
| | 後期 | 63.3 | 90.9 | 71.2 | 63.6 | 66.8 | 77.0 |
| 2 年他クラス | 前期 | 81.9 | 86.5 | 70.1 | 83.9 | 80.8 | 70.9 |
| | 後期 | 70.7 | 91.4 | 76.9 | 75.5 | 77.1 | 77.3 |

※ 調査時期：前期 6 月、後期 2 月 1 年 GI のみ令和 2 年度後期の調査結果を比較参考として付記した。事業拠点校では、グローバルリーダーとして必要な力に加え、イノベーターに必要なとされる力を次のように定義している。

- ▶ 「突破力」…大きな壁（課題）にぶつかっても、諦めることなく論理的な思考で乗り越える力。
- ▶ 「忍耐力・レジリエンス」…得られた知識を活用しながら様々な手法を試行し、失敗の経験を生かして次の

改善につなげ、答えのない問題にも諦めずに取り組む意欲や態度。

▶「調和力」…国内外の人とのつながり・協働にとどまらず、新しい知識と既存の知識・自己の経験と他者の経験等を結びつけて協働する力。

▶「マインドセット」…自分の可能性を信じ粘り強く努力することで、自己の能力が発達し、持続可能な社会が実現するという考え方。

▶「高次の課題解決力」…答えのない課題や予測不能な事態に対して、いち早く的確に状況を察知・観察し、核心をつき問いかけを何度も行い、それに合う最適な方法でプロジェクトを企画・実行し、状況に応じた最適解を導くために必要な力。

この結果より、次のことが考察できる。

▶ 1年 GI クラスに関しては、イノベーターに必要とされる力が身につけていると肯定的に捉えている生徒は、他のクラスに比べて大きな差はない。（前期で 1.6、後期で 3.9 ポイントの差である。）また、本事業で育成するすべての力については、両クラスの差は 5 ポイント程度であるが前後期の伸びが 7～8 ポイントと大きくなっている。以上のことから、1 年次にはイノベータティブな力を身につける主だった行事や活動が少なく、「GI フィールドワーク Basic（グローバル・キャンパス）」等のグローバルリーダーとしての力を養成する行事が主であったためであると考えられる。

▶ 2年 GI クラスに関しては、イノベーターに必要とされる力が身につけていると肯定的に捉えている生徒が、前期では他クラスよりもかなり多い割合であった。しかし、後期では前期の値からの減少幅が他クラスに比べて大きくなっている。また、1 年（令和 2 年度）の時の結果と比較しても、やや減少傾向にある。これらの要因としては、コロナ禍により対面実施がオンライン実施に変わるなど、予定通りに授業や行事が行われなかったことが大きな影響を与えていると考えられる。特にこの学年は、昨年度に渡航先がロックダウンになったため留学プログラムが実施できず、加えて今年度の海外フィールドワークも国内へ変更・延期を余儀なくされた。しかも、アンケートを実施した 2 月下旬の時点では、未だフィールドワークを実施していない状態であった。これらのことから、本事業において身についたであろうと期待するイノベーションスキルを発揮する機会が与えられず、力が身についたと肯定的に捉えることができなかったということが推測される。3 月下旬の国内フィールドワークを体験した後に、生徒たちの意識がポジティブに変容することを期待したい。

〔GI スキルアップセミナー（後期）の実施とその結果から〕

令和 3 年度は、6・7 月（前期）と 12～2 月（後期）にイノベータティブな能力の涵養を目的とした「GI スキルアップセミナー」を実施した。特に後期においては、アントレプレナーシップを養成する講座として開催した。各回の生徒たちによる受講後の振り返りの記述内容を分析すると、受講を通じた生徒の変容として読み取れる主な事柄は次の通りである。

▶ 起業家の事業は、思いつかないような特別な取り組みではなく、日常の素朴な疑問や生活の中に存在する様々な課題の解決へ向けての取り組みであること。また、起業家の取り組みの手法は、生徒自身がこれまで行ってきた探究活動の方法と似ているということ等に、参加した多くの生徒たちは気づくことができた。特に身近な事柄に対して問いを立てて批判的に思考する力が身につけてきていることを実感しているようである。

▶ 様々な分野の起業家に共通する特徴（突破力や忍耐力、調和力、課題解決力等を持つこと）や起業することの難しさを知ると同時に、「自分たちでもできるかもしれない」という自信を深め、自己実現の可能性を実感しているようである。

〔英語力測定の結果から〕

高い英語力もイノベータティブなグローバル人材には必要な能力の一つと考えている。下の表は、令和 3 年度の英語能力検定試験の受検による CEFR の各レベル達成者数と達成率を示したものである。これによると、WWL 対象生徒である GI クラス生徒は、3 年生までを含む WWL 非対象生徒に比べて遜色のない結果と言えるが、決して高い値とはなっていない。これにはいくつかの要因が考えられるが、その一つは令和 2 年度の GI 留学プログラム、令和 3 年度の海外研修が実施できなかった点である。英語を学ぶ意欲の面で強い動機づけが期待できる留学や海外研修の効果が見られなかったことは非常に残念である。また、令和 3 年度 GI クラスの 1 年生は留学プログ

ラムに参加しているため、検定試験を受検できていないことも要因と考えられる。生徒個々の英語力強化へ向けて、英語を用いた探究学習やオンライン英会話等の実施という様々な工夫を試みているが、この結果を受けて学習法・指導法の更なる改善を図らねばならない。

| | 対象人数 | CEFR A2 | CEFR B1 | CEFR B2 |
|---------------------------|------|----------------|----------------|--------------|
| WWL 対象生徒 (1・2年 GI クラス) | 74 | 55 (74.3%) | 6 (8.1%) | 0 (0%) |
| WWL 非対象生徒 (1～3年他クラス) | 1084 | 486 (44.8%) | 123 (11.3%) | 14 (1.3%) |

b. ALネットワークが果たした役割

| 区分 | 主な役割 |
|----------------------|---|
| 管理機関 | <ul style="list-style-type: none"> ▶事業全体の進捗状況を管理し、事業拠点校への指導を行った。 ▶AL ネットワーク内の連絡・調整及び事業に関わる各種委員会を開催した。 ▶必要経費を管理し、適切に執行した。 |
| 事業拠点校 | <ul style="list-style-type: none"> ▶「GI 探究」を実践し、「グローバル探究」の教科内容の開発・指導計画の策定を行った。 ▶「WWL 報告会」「食のサミット」を企画し、開催した。 ▶事業連携校の行事に相互に参加し、成果報告及び情報交換を行った。 |
| 事業連携校 | <ul style="list-style-type: none"> ▶事業拠点校の探究活動・成果報告会・国際会議へ相互に参加した。 ▶研究開発に関する情報交換を積極的に行った。 ▶AL ネットワーク連絡会で事業拠点校の事業の進捗に関して助言した。 |
| 事業協働機関 | <ul style="list-style-type: none"> ▶〔全ての機関〕 AL ネットワーク連絡会へ参加した。 ▶〔立命館アジア太平洋大学〕 「GI フィールドワーク Basic」で研修スタッフとなる学生を派遣した。 ▶〔中村学園大学・中村学園大学短期大学部〕 事業拠点校及び中村学園三陽高校の2年生を対象として科目等履修生制度(アドバンスト・プレイスメント)を実施した。 ▶〔SG インキュベート株式会社〕 探究活動・アントレプレナーシップセミナーへの講師を派遣した。 ▶〔九州大学共創学部等〕 学外指導者として GI 生徒の論文作成の指導に携わった。 ▶〔ハワイ大学 KCC 等〕 学校説明会等を開催し、生徒・保護者に対する進学準備の相談等に当たった。 |
| カリキュラムアドバイザー | <ul style="list-style-type: none"> ▶カリキュラム検討委員会へ参加し、事業拠点校の主要行事の企画と実施、「GI 探究」の実践、「グローバル探究」の教科内容や指導計画等、カリキュラム全般に関する指導・助言を行った。 |
| 海外交流アドバイザー | <ul style="list-style-type: none"> ▶「GI 留学プログラム」の円滑な実施へ向けて参加希望者を支援した。 ▶留学支援金の授与対象者の決定等について管理機関と連絡・調整を行った。 ▶夏期海外研修プログラムについて旅行業者と共同で企画・調整を行った。 ▶海外連携校の「食のサミット」の参加へ向けて連絡・調整を行った。 |
| その他(事業協働機関以外の大学、企業等) | <ul style="list-style-type: none"> ▶〔株式会社博多大丸、株式会社石村萬盛堂〕 産学連携事業の一環として事業拠点校と協働し、商品開発等を行った。 ▶〔株式会社梓書院等〕 SG インキュベート株式会社と連携し、「GI スキルアップセミナー」の企画と実施を支援した。 |

c. 短期的・中期的及び長期的に設定した目標の進捗状況

次の表に本事業の構想計画書に記載した8項目(①～⑧)について短期・中期・長期の目標をあげ、それぞれの項目の下段に進捗状況を記した。

| 短期目標（1～3年以内） | 中期目標（3～5年以内） | 長期目標（5～7年以内） |
|---|---------------------------------------|---|
| ① 教科横断型教科及び文理融合カリキュラムの設定 | | |
| 学校設定教科「グローバル探究」の施行・改善、文理融合カリキュラムの実施 | 学校設定教科「グローバル探究」の英語運用による活動の定常化 | 共通の学習内容・指導法のもとで「グローバル探究」の全クラス・全学年での実施 |
| 〔進捗状況〕 令和4年度からの「グローバル探究」の施行に向け、教科内容・指導計画の概要を決定し、教員研修や学習会を通じて実践力の育成を行った。文理の区分に関係なく、生徒の興味・関心に応じた科目選択が可能なカリキュラムに関しては、原案は作成済みであるが次年度へと決定は見送りとなった。 | | |
| ② 留学・海外フィールドワークのカリキュラム化（オンラインでの実施を含む） | | |
| 研修先の開拓・開発（3カ国、3ヶ所以上）、留学プログラム（期間選択制）の施行・改善 | 研修先の開拓・開発（5カ国、5ヶ所以上）、校内他クラスの留学プログラム実施 | 研修先の開拓・開発（5カ国、10ヶ所以上）、長期留学プログラム（1年間）の実施 |
| 〔進捗状況〕 留学プログラムについては、令和3年度にカナダへの約2か月間の日程で初めて実施できた。プログラム終了後に今回の課題と反省をふまえ、次年度に生かしたい。 海外フィールドワークに関する研修先の開拓・開発は、新型コロナウイルス感染症の拡大により進んでいない。ただし、オンラインでの研修実施はシンガポール国立大学（NUS）の学生と令和3年12月に実施した。海外渡航が困難な場合に備え、今後もオンラインで研修を実施する場合の研修先の選定等の検討を進める。また、令和3年度の海外研修は国内に振り替えて実施した成果を生かし、国内での研修先の開拓・開発も進めていく。 | | |
| ③ 留学生との探究活動（オンラインでの実施を含む） | | |
| 留学生と協働した活動プログラムの完成及び施行・改善 | 留学生の母国との交流を含めた探究活動の実施 | 交換留学を通じた双方向の探究プログラムの構築 |
| 〔進捗状況〕 アジア高校生架け橋プロジェクトの留学生を迎えて4年目となる令和3年度は、コロナ禍による予定変更等の影響は多少あったものの、留学生へ向けた新型コロナウイルス感染症の対応マニュアルの作成等を行い、受け入れと諸活動に関するプログラムの完成度を上げることができた。今後は、令和2年度に実施したような、留学生の母国との交流（中期目標）も活発化させたい。 | | |
| ④ 国際会議の開催（オンラインでの実施を含む） | | |
| 拠点校で開催する連携校の参加する定例国際会議「食のサミット」の実施 | 連携校での「食のサミット」または食に関連する国際会議の開催・連携校の参加 | 海外連携校での「食のサミット」または食に関連する国際会議の開催・連携校の参加 |
| 〔進捗状況〕 令和2年度に続き、コロナ禍にあって対面とオンラインを併用するハイブリッドの実施となったが、これまで培ってきた技術的なノウハウを生かして無事に「食のサミット」を実施することができた。本会議だけではなく、一般生徒も数多く参加できるサテライト会議も参加者が増えて充実した内容となってきたため、次なるステップ（中期目標）としての事業連携校での開催の可否検討も視野に入れ、次年度に向けて取り組んでいきたい。 | | |
| ⑤ ALネットワーク連携の質的向上と拡大 | | |
| 福岡県内のベンチャー企業と連携 | 国内外で活躍するベンチャー企業と連携 | ALネットワーク内で計30団体以上と連携 |
| 〔進捗状況〕 令和3年度は福岡県内のベンチャー企業との連携は行っていないが、「GIスキルアップセミナー」の開催により、県外のベンチャー企業数社の協力でアントレプレナーシップの養成が実施できた。次年度はこのセミナーを継続しつつ、県内のベンチャー企業とも連携し、ALネットワークへの新規参加の要請を検討する。 | | |

| | | |
|---|--|-----------------------------------|
| ⑥ 高大連携及び大学課程の早期履修（APプログラム）、大学講座の配信 | | |
| 併設大学・短期大学部への入試における多面的評価システムの完成、現地参加型 AP プログラムの完成及び施行・改善 | AP プログラムの受講可能講座数を事業開始時の3倍以上に増加、ICTを用いたライブ講義や講義動画の提供を開始 | 連携校への AP プログラム導入に向けた試行・改善 |
| 〔進捗状況〕 多面的評価に関しては、従来の評価項目に AP プログラムの参加や単位取得状況を加えた形で実施した。AP プログラムに関しては、コロナ禍にありオンラインでの実施になったが、実施3年目になりプログラム自体はほぼ完成したものが整備できている。中期目標にある講座数の増加は、事業拠点校の生徒は限られた時間の中での受講となるため、検討・調整には時間を要すると思われる。 | | |
| ⑦ 国内外トップ大学への進学・起業家の輩出 ※開発するカリキュラムによる卒業生の輩出後からの期間として | | |
| 国内 10 名・海外 5 名以上進学 起業家 1 名以上 | 国内 15 名・海外 7 名以上進学 起業家 3 名以上 | 国内 20 名・海外 10 名以上進学、 起業家 5 名以上 |
| 〔進捗状況〕 令和3年度は GI クラス 1 期生が 2 年生であるため、次年度末の結果が待たれる。できるだけ早期に短期目標を達成できるよう、生徒を励ましながらか教員も共に学び日々成長していきたい。 | | |
| ⑧ 教員向けの教育研修・セミナーの実施（オンラインでの実施を含む） | | |
| 国内外の連携校との合同研修会や情報交換会の実施 | 地域（県内または九州内）を包括したグローバル・イノベーション教育セミナーの開催 | AL ネットワーク全体を包括した国際的な教育セミナーの開催 |
| 〔進捗状況〕 教員を対象とした事業連携校との合同研修については、実施計画案はあったものの、令和3年度は開催を断念した。8月23日（月）には事業拠点校の教員1名が事業連携校である京都先端科学大学附属高等学校の教員研修会に参加し、探究活動の実践報告を行った。 | | |

9 次年度以降の課題及び改善点

▶ 本事業に関する管理機関の課題や改善点

コロナ禍を通じてオンライン実用化を図れたものの、AL ネットワーク内での連携校・事業協働機関との連携をさらに充実させていくために、オンラインとオフラインを併用しながら取り組み内容を検討する必要がある。また、取り組みが一過性のものにならないよう、継続的・長期的な連携を行うことを目的とし AL ネットワーク内での整備を行い、新たな連携先の開拓も検討する。また、拠点校との連携を綿密に図り情報共有を行い、実施状況を確認し適宜助言を行う。

▶ AL ネットワークの課題や改善点

令和3年度は、連携校相互の行事参加や授業の実施等でより活発な取り組みができた。次年度は、それと同等以上の取り組みを行っていく。事業協働機関については、コロナ禍ということもあり、協働する取り組みを実施できていない機関がいくつかあるが、これまでより相互の連絡をより密に取りながら、協働して事業を進めていきたい。また、どうしても年度末に事業拠点校の行事（卒業式、文化祭、食のサミット等）や本事業関係の会議（運営指導委員会、AL ネットワーク連絡会等）、報告書の作成等が重なり多忙を極めるため、抜本的な年間計画の見直しも行う必要があると考えている。

▶ 研究開発にかかる課題や改善点

令和3年度も海外研修が新型コロナウイルス感染症拡大のために中止となり、国内研修へ変更を余儀なくされたために、研修地の開拓ができなかった。今後も、海外渡航は困難であることが予測されるため、国内の研修でも生徒たちがイノベーションスキルを試行できる研修地の開拓と研修成果の評価基準（ルーブリック等）を開発していかねばならない。

令和4年度はGIクラス3年目の集大成の年となる。研究成果を披露する論文発表会にあたる「GIプレゼンテーション」の初めての開催とその成功へ向けて、まずは生徒たちの論文作成の質的向上を図る取り組みを継続していかねばならない。これまで実施してきた学外指導者による論文指導を今後も計画的に取り入れていく予定である。また、探究活動の成果を最大限に使い、国内外のトップ大学への進路実現やイノベーターの誕生にまで到達できるよう、指導法及び実践の研究を続けていく。

さらに、新しい学校設定教科「グローバル探究」の学年進行での開始にあたり、学年団の教員の共通理解を図り、計画的で着実な実践を目指すことで、生徒たちの成長を促していく。

【担当者】

| | | | |
|-----|----------|--------|------------------|
| 担当課 | 教育開発部 | T E L | 092-831-0981 |
| 氏 名 | 平田 晃己 | F A X | 092-831-0985 |
| 職 名 | 教育開発部 部長 | E-mail | hirata@njh.ed.jp |

II 実施の詳細

| | | | |
|-------|----------------------------|------------|-------|
| 01-01 | 2021.10.14 (木) 13:30~15:00 | 第1回運営指導委員会 | オンライン |
|-------|----------------------------|------------|-------|

1. 日時：2021年10月14日(木) 13:30~15:00

2. 場所：オンライン開催

3. 参加者：

<運営指導委員>

岩本 仁 氏 (学校法人福岡成蹊学園 理事長)

小野 博 氏 (グローバル人材育成教育学会 理事長)

新澤 和幸 氏 (福岡県人づくり・県民生活部 私学振興・青少年育成局私学振興課 参事補佐)

末松 大和 氏 (NPO法人アジア太平洋こども会議・イン福岡 専務理事)

<オブザーバー>

相川 洋 氏 (SG インキュベート株式会社 代表取締役社長)

副島 雄児 氏 (国立大学法人九州大学 教授)

米濱 和英 氏 (株式会社リンガーハット 名誉会長)

岩本 新治 氏 (株式会社久原本家グループ本社 広報渉外部 課長)

※代表取締役社長 河邊 哲司 氏代理ご参加

<管理機関(中村学園)>

中村 量一 (理事長)

中村 紘右 (副理事長)

松本 公典 (経営企画室 室長)

山村 祐衣 (経営企画室)

伊東 正子 (経営企画室)

<拠点校(中村学園女子高等学校)>

奥井 裕紀子 (校長)

木林 裕盛 (教頭)

高良 清文 (教頭)

吉川 正治 (事務長)

西尾 正 (事務長補佐)

平田 晃己 (教育開発部長)

永松 妙子 (教育開発副部長・GIクラス2年担任)

三浦 隆博 (GIクラス1年担任)

4. 会次第：

(1) 開会挨拶

(2) 運営指導委員紹介

(3) 挨拶 (中村理事長)

(4) WWL 事業について (奥井校長)

・事業の概要

・「グローバル・イノベーター」(目指す人材像)について

(5) GI クラス

- ・GI 1 年生：グローバル・キャンパスの報告
- ・GI 2 年生：アントレプレナーシップ講座の報告、産学連携の進捗
- ・質疑応答

(6) 拠点校の取り組みについて (平田部長)

(7) 質疑応答

(8) 閉会挨拶 (中村副理事長)

| | | | |
|-------|------------------------------|----------------------------|----------|
| 01-02 | 2022.3.12 (土) 14:00~15:30 | 第 2 回運営指導委員会兼 AL ネットワーク連絡会 | ハイブリッド開催 |
|-------|------------------------------|----------------------------|----------|

1. 日時：2022 年 3 月 12 日 (土) 14:00~15:30

2. 場所：ハイブリッド開催 (対面実施場所：中村学園女子高等学校視聴覚室)

3. 参加者：

<運営指導委員>

岩本 仁 氏 (学校法人福岡成蹊学園 理事長)

小野 博 氏 (グローバル人材育成教育学会 理事長)

新澤 和幸 氏 (福岡県人づくり・県民生活部 私学振興・青少年育成局私学振興課 参事補佐)

末松 大和 氏 (NPO 法人アジア太平洋こども会議・イン福岡 専務理事)

<オブザーバー>

相川 洋 氏 (SG インキュベート株式会社 代表取締役社長)

副島 雄児 氏 (国立大学法人九州大学 教授)

米濱 和英 氏 (株式会社リンガーハット 名誉会長)

岩本 新治 氏 (株式会社久原本家グループ本社 広報渉外部 課長)

※代表取締役社長 河邊 哲司 氏代理ご参加

<連携校>

梶原 美隆 氏 (中村学園三陽中学校・高等学校 校長)

石丸 篤志 氏 (中村学園三陽中学校・高等学校 企画広報部長)

茨木 美帆 氏 (京都先端科学大学附属中学校・高等学校 WWL 推進委員長)

Mrs. Sultanova Shohida, (Director of the Academic Lyceum)

Mrs. Rasulova Nigora, (Deputy Director on Academic Affairs of the Academic Lyceum)

Mrs. Ziyaviddinova Zukhra, (Deputy Director on Social Affairs of the Academic Lyceum)
Aziz Makhmudov Aziz (University staff of the Academic Lyceum)

<事業協働機関>

中村 哲 氏 (学校法人中村学園専修学園 校長)
西田 宗弘 氏 (学校法人中村学園専修学園 事務局長)
母里 隆之 氏 (学校法人中村学園専修学園 課長)
鶴田 史子 氏 (学校法人中村学園大学 職員)
瀬上 倫弘 氏 (国連 WFP 協会 事業部アシスタントマネージャー)

<管理機関 (中村学園) >

中村 量一 (理事長)
中村 紘右 (副理事長)
松本 公典 (経営企画室 室長)
伊東 正子 (経営企画室)

<拠点校 (中村学園女子高等学校) >

奥井 裕紀子 (校長)
高良 清文 (教頭)
吉川 正治 (事務長)
西尾 正 (事務長補佐)
平田 晃己 (教育開発部 部長)
永松 妙子 (教育開発部 副部長・GI クラス 2 年担任)
三浦 隆博 (GI クラス 1 年担任)

4. 会次第:

- (1) 開会挨拶 (WWL 管理機関長 中村 量一)
- (2) 運営指導委員紹介
- (3) 拠点校実行委員長挨拶 (WWL 拠点校実行委員長 奥井 裕紀子)
- (4) 運営指導委員長挨拶 (福岡成蹊学園 理事長 岩本 仁 氏)
- (5) 今年度の総括および次年度の課題について
 - ▶ GI クラス 1・2 年生
 - ▶ 教育開発部 部長 平田 晃己
- (6) 閉会挨拶 (WWL 管理機関統括長 中村 紘右 副理事長)

5. 備考: 今回の運営指導委員会は AL ネットワーク連絡会との同時開催とした。

| | | | |
|-------|---|-------|-------|
| 01-03 | 2021.10.7 (木)・10.21 (木) 2022.3.17(水) 17:00～18:00 | 検証委員会 | オンライン |
|-------|---|-------|-------|

検証委員会は、WWL 事業で得られた様々なデータに基づき事業効果の検証を行うもので、今年度は検証委員として山下浩之氏（岡山理科大学）と蒲池高志氏（福岡工業大学）に参加いただき、前期 2 回、後期 1 回の計 3 回を開催した。

各回では、以下にあげる①～⑳の項目順にデータの説明、および質疑応答を行った。検証する各項目は、いずれも事業構想計画書の「4 実施体制の整備」の「(4) 運営指導委員会や検証組織の設置及び運営に向けた計画」の中で記したデータ・資料に準ずるものである。

⑫、⑬、㉑、㉒、㉓の項目については、データの収集ができておらず、会での報告・検証ができなかった。今後データの収集方法についての改善を検討しなければならない。

データを全体的に見て、新型コロナウイルスの蔓延により生徒・教員の行動制限が生じるため、データへの影響が非常に大きいと感じた。

〔拠点校に関する項目〕

- ① 生徒数・留学生数・帰国子女数
- ② 国内外の連携校からの生徒の訪問期間・訪問回数
- ③ 国内外の連携校への生徒の訪問期間・訪問回数
- ④ 留学生の探究活動の実施学級数・実施回数
- ⑤ 国内外の連携校とのオンラインでの合同授業や会議などの交流回数
- ⑥ フィールドワークへの参加人数（実施先による人数内訳を含む）
- ⑦ 外部での生徒の成果発表の回数と受賞（国内・海外の区分による内訳を含む）
- ⑧ 協働機関への訪問人数・訪問回数（訪問先による内訳を含む）
- ⑨ 「食のサミット」への参加者数と参加者内訳
- ⑩ AP 受講者数・単位取得者数
- ⑪ 教職員研修の実施内容と実施回数
- ⑫ 卒業生の進学先・留学先・就職先（学校・地域・専攻分野による内訳を含む）
- ⑬ 生徒や卒業生の起業者数
- ⑭ 英語検定試験の結果
- ⑮ その他の受賞歴
- ⑯ 生徒・保護者による学校評価の結果
- ⑰ 教育課程表や学校パンフレット等

〔連携校に関する項目〕

- ⑱ 他の連携校や協働機関からの生徒・学生・関係者の訪問期間・訪問回数（オンラインを含む）
- ⑲ 他の連携校や協働機関への生徒・学生・関係者の訪問期間・訪問回数（オンラインを含む）
- ⑳ 年度内に新たに連携した学校・企業・法人等
- ㉑ 卒業生の進学先・留学先（学校・地域・専攻分野による内訳を含む）
- ㉒ 生徒や卒業生の起業者数
- ㉓ 教育課程表並びに学校パンフレット等

〔協働機関に関する項目〕

- ㉔ 他の連携校や協働機関への出向（オンラインを含む）
- ㉕ 拠点校から提出された成果物（論文や発表資料等）
- ㉖ 拠点校の生徒訪問時の評価
- ㉗ その他、拠点校の生徒の変容に関する資料等

| | | | |
|-------|----|-----------|---------|
| 02-01 | 通年 | 情報共有体制の整備 | 事務局・拠点校 |
|-------|----|-----------|---------|

国内外の連携校とは相互の学校行事への参加に関する連絡を中心にして、メールや電話などで頻繁に行っている。後にあげるような事業の主となる行事や授業関係の連絡および情報交換については、事務局および拠点校の教育開発部が行った。なお、実施した行事については、拠点校および連携校のホームページに掲載し、拠点校の広報紙にも取り上げるなど、情報公開を積極的に行った。なお、管理機関と拠点校の間や拠点校内についてはサイボウズ Garoon および Slack にて、拠点校と生徒・保護者の間については Classi を使用して常時情報を共有している。

【拠点校主催の行事・情報交換】

- すべての連携校に対して
 - ▶ オンライン生物解剖実習（6月22日実施）への参加と要領の連絡
 - ▶ WWL 報告会（12月11日実施）での課題研究の発表参加のための連絡・打ち合わせ、リハーサル
 - ▶ 食のサミット（3月12日実施）への代表チームの参加募集、事前打ち合わせ、事前会議・プレ会議・リハーサルの連絡など
- 立命館アジア太平洋大学に対して
 - ▶ 立命館アジア太平洋大学学校説明会（8月3日オンライン実施）の拠点校生徒への参加案内
 - ▶ グローバル・キャンパス（9月14・15日実施）における指導学生の募集・決定・実施要領説明など
- SG インキュベート株式会社に対して
 - ▶ GI スキルアップセミナーの要領説明および講師紹介依頼など
 - ▶ アントレプレナーシップセミナー／ワークショップの講師紹介依頼など

【連携校主催の行事案内・情報交換など】

- 京都先端科学大学附属高等学校
 - ▶ 探究講演会（6月5日実施）への拠点校生徒聴講の調整
 - ▶ AL ネットワーク連絡会（6月7日実施）への拠点校教員参加のための打ち合わせ
 - ▶ 職員研修会（8月23日実施）での拠点校職員の実践発表に伴う連絡・調整
 - ▶ グローバル・シミュレーション・ゲーミング（1月25日実施）への参加案内
 - ▶ WWL 成果発表会（1月26日実施）への参加案内、拠点校生徒参加の調整
- 高知県立高知西高等学校
 - ▶ 拠点校視察（11月30日～12月1日）の依頼など
 - ▶ 探究成果発表会（3月12日実施）への参加案内、拠点校生徒参加の調整

【事業協働機関の行事案内・情報交換など】

- 中村学園大学・中村学園短期大学部
 - ▶ 中村学園大学・短期大学部学校説明会への拠点校生徒への参加案内など
 - ▶ 科目等履修制度（大学講座の先取り履修）の拠点校生徒への説明および募集・実施など

- 中村調理製菓専門学校、九州大学共創学部
 - ▶ 論文指導講師の派遣
- 立命館アジア太平洋大学、ハワイ大学 KCC、マーセッド大学
 - ▶ 学校説明会への参加案内など
- NPO 法人 Table For Two
 - ▶ 「おにぎりアクション 2021」への応募など

課題としては、連携校や事業協働機関それぞれのホームページでの行事報告は掲載されているものの、リンクが貼られていないために連携校同士の関連が薄いものとなっている。今後は、リンクやバナーを付けるなどして、より密接な連絡共有体制を取っていきたい。また、働き方改革や業務多端の折、より効率の良い情報共有体制の方法を開発する必要があると考えている。

| | | | |
|-------|----|---------------|------------|
| 03-01 | 通年 | 教員チームによるコーチング | 拠点校：GI クラス |
|-------|----|---------------|------------|

今年度も1・2年 GI クラスや3年 SG クラス（SGH 事業の際に発足したスーパー・グローバルクラスで、GI クラスの前身にあたる）での探究授業担当者によって組織した教員チームが、クラスの生徒個々の指導を分担して行った。いずれの教員チームも、下表のように英語科の担任や学年主任を中心として国語・数学・地歴公民・理科・家庭科・情報の教科担当者を含む7～8名体制である。探究授業でのレポート作成や発表指導は通年で行っているが、特に3年 SG クラスでの論文作成を4～11月、2年 GI クラスでの論文作成を2月より開始して、効果的な生徒の個人指導を行っている。

今後の課題としては、GI クラスどうしの教員間の連絡体制ができていないことと、今年度より開始した2年 GI クラス生徒を対象とした論文指導における外部の指導者との情報共有・指導体制を具体的にどのように進めていくかを定める必要があることがあげられる。

表 GI クラス・SG クラスの教員チーム（探究授業担当者）

| 学年・クラス 教科 | 1年 GI クラス | 2年 GI クラス | 3年 SG クラス |
|--------------|-----------|-----------|-----------|
| 英語（担任） | 三浦・ハイダー | 永松・アイカ | 佐多 |
| 国語 | 平岡 | 神谷 | 太田 |
| 数学 | 横山（学年主任） | 野田 | 中島（学年主任） |
| 地歴・公民 | 西川 | 西岡 | 藤岡 |
| 理科 | 江口 | 平田 | 平田 |
| 家庭科 | 常住 | 上野（学年主任） | 山本晴 |
| 情報 | 手島 | 手島 | 手島 |

| | | | |
|-------|-------------------------------|-----------------------|------------------|
| 04-01 | 2021.5.31（月） ～2022.2.25（金） | 中村学園大学・短期大学部の学部・学科説明会 | 拠点校、中村学園大学、オンライン |
|-------|-------------------------------|-----------------------|------------------|

拠点校の併設校でもあり、WWL 事業の事業協働機関でもある中村学園大学・短期大学部の学部・学科説明会を拠点校の生徒・保護者を対象として実施した。今回は、5月と12月の開催分を除き、新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインで開催し、のべ215名が参加した。開催日程および学部・学科は次の通りである。

- 令和3年5月31日（月）16:20～18:00 高校3年生・保護者対象、全学部・学科
6月7日（月）16:40～18:05 高校1・2年生対象、栄養科学部（栄養科学科、フード・マネジメント学科）、食物栄養学科
6月11日（金）16:40～17:35 高校1・2年生対象、流通科学部、キャリア開発学科
6月15日（火）16:40～17:35 高校1・2年生対象、教育学部、幼児保育学科
12月11日（土）14:10～16:00 高校1・2年生対象、全学部・学科
令和4年2月25日（金）16:25～17:45 高校1・2年生対象、全学科

| | | | |
|-------|----------------------------|-----------------------|---------|
| 04-02 | 2021.8.3（火） 15:30～16:30 | 立命館アジア太平洋大学（APU）学校説明会 | オンライン開催 |
|-------|----------------------------|-----------------------|---------|

本校と連携協定を締結している立命館アジア太平洋大学の説明会を令和3年8月3日にオンラインで開催した。中学・高校生徒及び保護者を対象として生徒38名、保護者22名が参加した。会では個別相談及び本校卒業生との交流も行った。

| | | | |
|-------|------------------------------|----------------------------------|---------|
| 04-03 | 2021.10.23（土） 14:00～15:00 | ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジ（KCC）学校説明会 | オンライン開催 |
|-------|------------------------------|----------------------------------|---------|

事業協働機関であるハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジ（以下KCCと記す）の学校説明会を10月23日（土）にオンラインで実施した。生徒12名と保護者30名の計42名が参加した。担当の宮城氏とダミアンさんに現地ハワイから説明をしていただいた。内容としては次の通り。

- ① 学校紹介（ハワイ大学と KCC との関係も含む） ② 入試システム
 ③ 学費 ④ 渡航までのスケジュール ⑤ インターンシップ制度

生徒・保護者からも熱心に活発な質問が出された。特に生活費や入試での学力水準などに関するものが多いようであった。ハワイという土地柄、治安が良く過ごしやすいイメージがあるため、生徒・保護者の関心も高まってきていることを会を通して実感している。

当初の予定としては、同じ事業協働機関であるアメリカのマーセッド大学の学校説明会も同時開催する予定であったが、マーセッド大学の方は単独で年度末に開催となった。

| | | | |
|-------|-------------------------|----------------------------------|--------|
| 04-04 | 2021.6.7（月） ～6.15（火） | 中村学園大学・短期大学部の推薦入試に向けた対策 講座の開設 | 拠点校 教室 |
|-------|-------------------------|----------------------------------|--------|

拠点校の生徒が併設校である中村学園大学・短期大学部を推薦入試で受験を希望する場合は、入試前に受験資格を判断する基礎学力テストを課している。このテストを受験するにあたり、受験希望者の学力強化を図るために国語・英語の対策講座を開講し、受講を義務づけている。また、中村学園大学の栄養科学部を推薦入試で受験する生徒には、化学および小論文対策の講座の受講を義務づけている。今年度は、9月1日（水）～12月17日（金）の7:40～8:25の日程で開講し、基礎学力対策講座51名、化学9名、小論文対策講座19名が各講座週1回ずつ受講した。

| | | | |
|-------|------------------------------------|-----------------|---------|
| 04-05 | 2022.3.30（水）・ 3.31（木）9:00～13:00 | マーセッド大学オンラインフェア | オンライン開催 |
|-------|------------------------------------|-----------------|---------|

事業協働機関であるアメリカ・カリフォルニア州のマーセッド大学の学校説明会が、3月30日（水）と31日（木）の2日間でオンラインによって開催された。スケジュールは以下の通りで、単なる学校説明に終わらない、体験学習を含んだ充実した内容であった。

〔3月30日〕

- ① 概要説明・学長挨拶 ② 学校紹介
 ③ 体験授業（化学） ④ 学生の体験談
 ⑤ 現地高校生との英会話体験 ⑥ 留学生との座談会

[3月31日]

- | | |
|--------------|-------------------|
| ① 概要説明・学長挨拶 | ② 海外進学セミナー |
| ③ 体験授業（ビジネス） | ④ 語学学校講師による英語レッスン |
| ⑤ 卒業生との座談会 | ⑥ 短期・ターム留学紹介 |

| | | | |
|-------|-----------------------------|-------------|----------------------------|
| 05-01 | 2021.6.18（金） 16:30～18:00 | 夏期海外研修業者説明会 | 拠点校：視聴覚室・教室・ 大会議室、オンライン |
|-------|-----------------------------|-------------|----------------------------|

昨年度に新型コロナウイルスの感染状況が悪化したため実施できなかった海外研修の説明会を、今回初めて開催することができた。この説明会は、WWL 事業の核となる GI クラス以外の生徒にも、海外へ視野を広げ異文化や英語などを学ぶ海外研修の機会を提供することを目的としたものである。拠点校の主催とすることにより、プランを選択し参加する側の生徒・保護者にも安心感が生まれ、海外への興味・関心と参加へ向けてより強い動機づけになると考えた。ただし、今回は「海外研修」と謳っているものの、新型コロナウイルス感染予防のために多くの国は入国できず、渡航できたとしても帰国の際に 2 週間の拘束が生じてしまうため、海外プランはハワイの 1 プランの紹介のみにとどまり、他はすべて国内プランの紹介となった。なお、参加者は生徒 103 名（中学生 6 名、高校生 97 名）、保護者 53 名の計 156 名であった。新型コロナウイルス感染予防のため、会場とした視聴覚室は一般生徒のみの使用にとどめ、GI クラスの生徒は教室でオンライン参加、保護者は校外からオンライン参加とした。4 社の教育旅行会社からのプランは概略次の通りである。（いずれのプランも拠点校の担当者と事前の話し合いの上、調整したものである。）

| 旅行社 | プラン名 | 主要目的 | 日数 |
|-----|---|-----------------------------|---------|
| A 社 | オンライン・リモート留学 | 英会話力向上 | 1～4 週間 |
| B 社 | オンライン留学 英語×SDGs×国際交流 | 英会話力向上、フィリピン・バーチャル訪問、地域課題解決 | 2～3 日 |
| C 社 | カナダ&ニュージーランド 2 か国バーチャル海外体験 ※別途ハワイ渡航プランもあり | 2 か国バーチャル訪問、英会話力向上、異文化交流 | 3 日 |
| D 社 | 国内 English Camp in 福岡（宿泊研修） | 英会話力・コミュニケーション力の向上、異文化理解 | 2 泊 3 日 |

各旅行社より 10 分ずつプランの紹介をしていただき、質疑応答の後、いったん閉会とした。閉会後は、場所を大会議室へ移して旅行社に相談ブースを設置していただき、生徒たちが興味・関心のあるプランについて詳しく話を聴くことができる時間をもった。

その後の申し込み受付や参加者への諸連絡は各旅行社にさせていただき、拠点校は旅行社から参加者名簿や実施状況について随時報告を受けた。結果として、A社・B社の参加者はなく、C社が2名、D社が23名の参加となった。英会話力の強化に特化したものよりも、それに異文化体験や他の力を育成するプログラムの方が人気であった。特にD社の宿泊研修はコロナ禍中でもありインドア生活が続いていた生徒たちにはかなり魅力的だったようである。来年度はぜひ海外研修のプランが複数紹介でき、たくさんの生徒が参加できることを願っている。



| | | | |
|-------|----|---------------|------|
| 06-01 | 通年 | 海外交流アドバイザーの配置 | 管理機関 |
|-------|----|---------------|------|

令和3年度の海外交流アドバイザーは管理機関の職員である伊東正子氏が担当した。事業拠点校で実施する教育開発部会に参加し、管理機関との連携・調整、WWL事業の各種行事における企画・実施に携わるとともに、国内海外担当者との連絡調整等の任務を遂行した。具体的には次の通りである。

[事業拠点校のGI留学プログラム]

- ▶ 1年GIクラス対象の留学プログラムの説明会の企画・運営、業者との連絡・調整。
- ▶ 留学プログラムに関する生徒・保護者からの相談対応。
- ▶ 留学参加支援金の合格者選考に関する管理機関と事業拠点校間の連絡・調整。

[事業拠点校の海外研修に関する企画・実施]

- ▶ 夏期海外研修業者説明会の運営、業者との連絡・調整、業者より提出された研修プランの選考。
- ▶ 海外研修（海外研修としての学習要素を含むオンライン国内研修）の生徒への案内、生徒への指導・助言。

[教育開発部会]

- ▶ 教育開発部会の日程調整及び参加。
- ▶ 決定事項や議案に関する管理機関への連絡・調整。管理機関からのフィードバックの伝達。

[事業拠点校の学校行事]

- ▶ 「グローバル・キャンパス」での指導者となる立命館アジア太平洋大学（APU）の留学生の募集・連絡・調整。
- ▶ 「食のサミット」の実施に関わる国内外の連携校との連絡・調整。

[その他]

- ▶ アジア高校生架け橋プロジェクトの留学生の対応及び担当教員の補助。
- ▶ 留学生・外国からの転入生の問い合わせ等の対応。
- ▶ 留学や進学に伴う海外渡航に関する教師・生徒との相談対応。

| | | | |
|-------|--------------------------|-------------|--------------------------------|
| 07-01 | 2022.3.11（金） ～3.12（土） | 「食のサミット」の開催 | 拠点校：視聴覚室・大会議室・ マルチホール、オンライン |
|-------|--------------------------|-------------|--------------------------------|

今年度も拠点校で恒例の「食のサミット」を3月に開催した。今回も昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、拠点校系列の学校以外（海外連携校3校及び国内連携校2校の計5チーム）からは来校できずオンラインでの参加となった。しかし、対面とオンラインを併用しながら高校生らしく熱い議論を戦わせた。以下、その概要を記す。

1. 「食のサミット」の目的と位置づけ

各国からの代表者とともに地球規模の課題「食」に関する解決策を議論し、結果をまとめ提言書を作成する。提言書を後日、国連 WFP 協会へ提出することで取り組み成果を世界へ発信する。

本校 WWL 事業で最大の行事であり、国内外の中高校生による「食」に関する課題解決策の策定と提言の機会とする。使用言語は英語とする。（サテライト会議は日本語）

2. 日程

- ▶ プレ会議・サテライト会議：令和4年3月11日（金）9:00～12:00
- ▶ 本選：令和4年3月12日（土）10:30～13:00

※ プレ会議の前に、事業拠点校が主催したオンラインでの事前会議を各校の代表チームが参加し、次の日程で行った。（以下の「5. 実施までの経過」にも記載）

- ・令和4年2月9日（水）16:30～17:30 拠点校、中村学園三陽高校、高知西高校
- ・令和4年2月10日（木）14:30～16:00 拠点校、京都先端科学大学附属高校、海外連携校

3. テーマ

SDGs 目標 12「つくる責任、つかう責任」につながる「食」に関わる諸問題とその解決策

(参考：目標 12 のターゲット)

ターゲット 12.1…開発途上国の開発状況や能力を勘案しつつ、持続可能な消費と生産に関する 10 年計画枠組み (10YFP) を実施し、先進国主導の下、全ての国々が対策を講じる。

ターゲット 12.3…2030 年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。

ターゲット 12.5…2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。

4. 参加チーム

▶ [本選参加]

拠点校、中村学園三陽高等学校、京都先端科学大学附属中学・高等学校、高知県立高知西高等学校 (高知国際高等学校)、マレーシア・スルタンイブラヒム女子高等学校 (SIGS)、モンゴル 84th 学校、ウズベキスタン・ライシーアム高校 各学校を代表する 1 チーム、計 7 チーム。

▶ [サテライト会議参加]

拠点校 GI クラス生徒 38 名、および各クラスの代表者または希望者 44 名を含む計 82 名。

※今回は新型コロナウイルス感染状況を鑑み、拠点校以外の生徒からの公募を行わないことに決定した。

5. 実施までの経過

- ▶ 年度当初に 7 名の実行委員からなる実行委員会を組織し、定期的な会合を計 12 回開催し、実施要項の作成・提案・実施など関係する様々な業務を経て準備を進めてきた。
- ▶ 7 月中…連携校へ実施要領を連絡、HP に参加チーム募集の告知 (スケジュール、提出要領などを含む)
- ▶ 9 月中…新型コロナウイルス感染状況悪化によるスケジュールの変更の連絡
- ▶ 12 月 18 日 (土) …本選チームの提言案の提出の一次〆切
- ▶ 12 月下旬…出場チーム決定・連絡、出場チームの提言案を閲覧できるようにした。
- ▶ 2 月 9 日 (水) 16:30~17:30…事前会議① (拠点校、中村学園三陽高校、高知西高校)
- ▶ 2 月 10 日 (木) 14:30~16:00…事前会議② (拠点校、京都先端科学大学附属高校、マレーシア・モンゴル・ウズベキスタンの連携校)
- ▶ 2 月 14 日 (月) …職員会議にて今年度の水仙祭 (文化祭) の中止が決定。今回のサミットは水仙祭の一部として開催する予定であったが、実施することで承認を得た。
- ▶ 2 月 24 日 (木) …サテライト会議へ参加する生徒の募集を開始。各クラスの代表者 1 名にも参加をしてもらうことと、サミット当日のホームルームでサミットの事前学習を実施することを伝達。
- ▶ 3 月 2 日 (水) …海外連携校チームの発表動画の提出〆切

6. サミットのスケジュール

| 時刻 | 内 容〔拠点校内場所〕 |
|---|--|
| 1日目：3月11日（金） ※会場参加者：1・2年GIクラス、本選出場チーム、参加希望者、アジア架け橋留学生 | |
| 8:30 | 中村学園三陽高校を除き、連携校チームはZoomによるオンライン参加 中村学園三陽高校チーム学校到着 応接室で荷物保管の後、開催準備〔視聴覚室〕 |
| 9:00 | プレ会議 〔視聴覚室〕 開会行事～全体会→分科会→全体会 ※ 9:00～9:20に開会行事の一部をZoomにより全教室へ配信し、全校生徒が視聴。 サテライト会議参加者は開会行事の終了の10:00まで開会行事を参観。 終了後、サテライト会場〔大会議室・被服室・ALルーム〕へ移動しサテライト会議開催。 |
| 12:00 | プレ会議・サテライト会議終了 昼食〔カフェテリア〕・昼休み |
| 13:00 | 本選リハーサル〔講堂〕 |
| 17:00 | リハーサル終了 終了後、解散 |
| 2日目：3月12日（土） ※会場参加者：1・2年GIクラス、本選出場チーム、アジア架け橋留学生、運営指導委員 ※来校できなかった出場チーム、上記外の生徒、来賓はZoomによる視聴 | |
| 9:30 | 中村学園三陽高校チーム学校到着 |
| 10:30 | 「食のサミット」開会 <u>《オープニング》</u> ① 水仙会会長挨拶 ② 趣旨説明 ③ 注意事項など |
| 10:45 | <u>《第1部：アジア架け橋留学生によるパフォーマンス》</u> 修了証授与、出身国のダンス披露 |
| 11:15 | <u>《第2部：代表チームによる解決策の発表》</u> 前半グループ4チーム～（モンゴル・高知西・マレーシア・本校）： 主張プレゼン（5分）+ 質疑応答（2分）×4チーム |
| 11:45 | 休憩 |
| 12:00 | 後半グループ3チーム～（京都先端科学大附・ウズベキスタン・中村学園三陽）： 主張プレゼン（5分）+ 質疑応答（2分）×3チーム |
| 12:25 | 休憩 |
| 12:35 | <u>《共同宣言》</u> 本校チーム・中村学園三陽高校チームの代表者による宣言 |
| 12:45 | <u>《フィナーレ》</u> ① 参加記念品授与 ② 講評（運営指導委員長） ③ 閉会宣言 |
| 13:00 | 「食のサミット」閉会 閉会後に代表チーム記念撮影、後片づけ |
| 13:30 | <u>フェアウェルパーティー</u> 〔講堂〕 |
| 14:00 | フェアウェルパーティー終了 終了後、見送り・解散 |

7. 参加者数

拠点校生徒 1,228 名、教職員 80 名、中村学園三陽高校出場者：生徒 3 名・引率 2 名、来賓 18 名 計 1,331 名 ※ オンラインでの参加、プレ会議・サテライト会議を含む

8. 会議の記録

(1) プレ会議

プレ会議は、「食のサミット」のテーマに基づいた各チームで出し合った課題とその解決策を取りまとめるためのものである。ここでまとめられた提言書は、翌日のサミットにおいてステージ上で代表者により読み上げられて宣言することになっている。

① 開会行事（約 1 時間）

本選出場チームである本校と中村学園三陽高校の 2 チーム、および 1、2 年 GI クラスの生徒が視聴覚室に集合した。コロナ禍のため来校できなかった国内外 5 つの連携校の代表 5 チームは、オンラインでの参加となった。まず、司会者によってサミットの開始が宣言された。続く学校長の挨拶の後、各代表チームの紹介をそれぞれのチームが対面とオンラインで行った。全校生徒は各クラスの教室から、オープニングにあたるこの部分までを視聴した。開会行事の最後は、各チームによる提言（課題とその解決策）の説明を 1 チーム 5 分以内で行い、質疑応答の時間を設けた。



② グループ討議（約 1 時間）

各チームから 1 人ずつ集められて 5 つのグループを作り、オンライン上で互いの課題と解決策についての意見交換を行い、提言書の案を作成した。オンライン上ではあるが、身振り手振りで英語力を駆使して力説する生徒たちの姿が印象的であった。各グループのファシリテーターはアジア架け橋留学生が務めた。



③ 提言書作成（約 1 時間 + α ）

オンラインで参加している連携校チームと翌日のステージ発表での再会を約束し、ここからは来校している中村学園三陽高校チームとのリアルセッションとなった。各グループから出さ

れた提言案を骨子として、3つのサテライト会場での提言案も加味して一つの提言書をまとめていく作業を行った。1時間の予定であったが、思いのほか難航したため、午後のステージリハーサル後にも時間を取り、何とか苦勞してまとめあげることができた。提言書は、日英両言語で作成し、オンラインで参加したチームにもメールで送信することで、内容の確認・了承を得ている。



(2) サテライト会議 (約2時間)

昨年度に初めて開催したこの会議は、GIクラス以外からも参加者を募り実施することで、サミットへの関心を高めながら食の問題に多くの生徒がより真剣に向き合う場を作りたいという希望により実現している。ただし今年度はコロナ禍により他校からの募集や参加を行わず、各クラスから少なくとも1名の代表または希望する生徒が参加することで実施した。GIクラスを除く22クラスから44名が参加し、3会場に分かれてグループディスカッションを行った。各会場の司会進行とグループのファシリテーターはGIクラスの生徒が務めた。使用言語は日本語である。実施の流れは次の通り。

- ①アイスブレイク (自己紹介)
- ②提言の個人発表 (事前に準備した課題とその解決策を3分程度で発表)
- ③質疑応答・解決すべき課題のまとめ・グループ発表準備
- ④グループ発表
- ⑤プレ会議へ提出する課題と解決策のまとめ・絞り込み
- ⑥セッションのまとめ





(3) ステージ発表 (約 2 時間 30 分)

今回の発表は、時差や発表中の通信トラブルを想定し、海外連携校チームには事前に発表動画を作成・提出してもらい、それをステージ上で放映することで代替した。したがって、国内連携校と発表形式が異なるため、採点などの審査は行っていない。

① オープニング (15 分)

2年 GI クラスの司会により講堂でのステージ発表が始まった。今年度は発表グループの選考や審査がないために「本選」と呼ばず、ステージ発表と表記することにする。最初となるオープニングでは、水仙会（生徒会）の会長挨拶、司会者による趣旨説明と来賓紹介が行われた。



② アジア架け橋留学生によるパフォーマンス (第 1 部)

第 1 部では、10 か国 10 名のアジア架け橋留学生が、文化の似ている出身国によって 3 グループに分かれ、出身国の音楽に合わせたダンスを披露した。ダンスの前に、明日で本校を離れ母国へ帰ることになっている彼女たち一人ひとりに、学校長より修了証が授与された。練習の成果がよく現れたダンスの素晴らしさはさることながら、色とりどりの民族衣装がとても華やかで、サミットのオープニングとしては良いアクセントとなった。



③ 代表チームによる解決策の発表（第2部）

7グループの課題とその解決策に関する提言の発表を、1グループにつき発表5分、質疑応答2分で行った。前半がモンゴル・高知西高校・マレーシア・本校の4チーム、後半が京都先端科学大学附属高校・ウズベキスタン・中村学園三陽高校の3チームで、各グループのテーマおよび提言の概要は次の表の通りである。なお、国内連携校チームは通常通りの発表形式、海外連携校チームは動画による発表形式をとり、質疑応答は全チームともリアルタイムで実施した。

| No. | 学校名 (国名) | グループ名 (人数) | テーマ | 提言概要 |
|-----|--|----------------------------|--|---------------------|
| 1 | General Secondary School #84 (モンゴル) | MAZAALAI (5) | To improve meat transportation and delivery hygiene in open markets in Ulaanbaatar | 衛生面の規制基準の見直しとSNSの活用 |
| 2 | 高知西高校 | Shining (2) | To get many people to know about FOOD BANK and use it | フードバンクの活用 |
| 3 | SMK (P) Sultan Ibrahim (マレーシア) | Zside-Out (5) | To find a way to reduce food waste | 食品廃棄を減らす料理法 |
| 4 | 中村学園女子高校 | Food Ranger (4) | To reduce food loss at our school shop | 売店での食品廃棄をなくすアイデア |
| 5 | 京都先端科学大学附属高校 | Waires (5) | Aiming for a partial solution | 飢餓を解決する寄付の方法 |
| 6 | Academic Lyceum of Westminster Intl. Univ. in Tashkent (ウズベキスタン) | Guardians of the Globe (5) | To find the way to reduce and minimize the food waste | 食品廃棄を減らすための嫌気性消化 |
| 7 | 中村学園三陽高校 | Wild boars (3) | To reduce food waste by compost | コンポスト活動 |

[モンゴルチーム（動画発表）と質疑応答]



[高知西高校チーム（オンライン発表）]



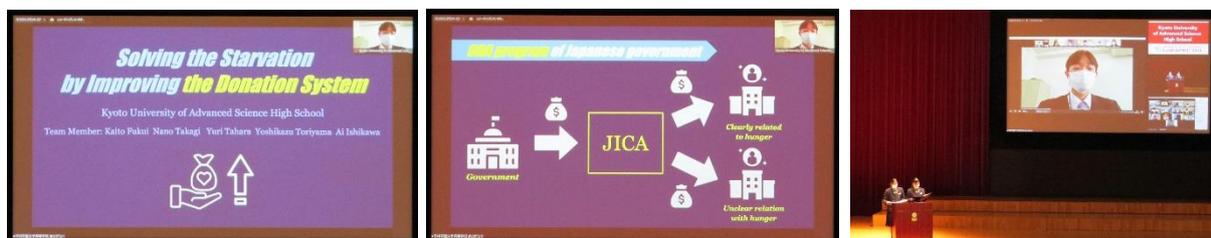
[マレーシアチーム (動画発表)]



[中村学園女子高校チーム (対面発表)]



[京都先端科学大学附属高校チーム (オンライン発表)]



[ウズベキスタンチーム (動画発表)]



[中村学園三陽高校チーム (対面発表)]



④ 共同宣言

本校と中村学園三陽高校の代表生徒が、前日のプレ会議・サテライト会議で課題とその解決策についてまとめた提言書の内容を英語、日本語の順で高らかに読み上げて宣言した。共同宣言の内容は、後のページに記載している。



⑤ 閉会行事

「食のサミット」のフィナーレは、学校長より参加グループの一人ひとりに記念のメダルと参加証の授与が行われ、続いて運営指導委員長の岩本仁氏（学校法人福岡成蹊学園）に講評をいただいた後、司会者による閉会宣言で会の幕を閉じた。閉会後には、ステージ上でオンラインでの参加者を含めた記念撮影を行った。



〔参加者記念撮影〕



9. 提言書

2021年 食のサミット 共同宣言

2022年3月11日
中村学園女子高等学校

1. はじめに

私たちが毎日生活するうえで目を背けることのできない問題がある。それは食糧廃棄である。現在世界では、生産されている食糧の三分の一が廃棄されている。私たちはこの問題を解決すべく、以下の内容を提案する。

2. 提案

(1) 現在の問題

1. 食糧廃棄
2. 衛生環境
3. 健康の促進
4. 飢餓問題

(2) 解決法の提案

1. 食品廃棄をコンポストとエネルギーに変える
 - ・嫌気性消化（機械を使う）
 - ・トラフィックコーンを使った地面の中でのコンポスト
 - ・燃えるゴミの細分化→生ごみはコンポスト
コンポストの管理：地域、行政、学校⇒NPO 法人を作る
2. 食品の寄付
 - ・学校にドネーションボックスを設置
 - ・家庭から出た不要な食品を学校で集める
→フードバンクやボランティア団体に送る
3. キャンペーン（啓発活動）
 - ・消費期限が迫った食材に割引ステッカーを貼っていち早く商品の購入を促す
 - ・廃棄される食材で作るレシピを広めるための web サイトをつくり、SNS 等を使い色んな人の目にとまるようにする
 - ・冷蔵庫管理アプリ
 - ・消費期限の掲載を大きく書く

(3) アクションプラン

1. 学生主体で地域にコンポスト場を設ける
→作ったコンポストを使って花を植える

2. Web サイトをつくる
→食材の廃棄される部分を使った料理のレシピ
3. 各学校で地域活動委員会をつくる
4. 買う物を事前にリストアップする

3. 結論

私たちは「つくる責任つかう責任」というテーマで今回話し合いを行った。その中で浮き彫りになった問題は「食糧廃棄」「衛生環境」「健康の促進」「飢餓問題」である。

それらの問題は私たち学生にはとても大きく、社会と学校が連携し、これらの問題の解決に向けて取り組むことが必要だと考えた。そのため問題意識を保つために一人一人が不断の努力を続ける必要がある。

2021 年 FOOD SUMMIT PROPOSAL STATEMENT

March 11, 2022

Nakamura Gakuen Girls' High School

1. Introduction

We have a serious problem that we can't look away on our daily life. That is Food loss and waste. Nowadays, one-third of the food produced in the world is wasted. We found a comprehensive solution to solve these issues.

2. Proposal

(1) Current Problems

5. Food loss
6. Sanitary environment
7. Health promotion
8. Starvation

(2) Solutions

1. Turn food loss into compost and energy
 - The Anaerobic Digester
 - Compost by using green cone

- Separation of combustible waste → Food waste goes to compost
Compost management area : Township, Government, School →
through volunteer, NPO
- 2. Donation using leftover food
 - Place donation box in the school
 - Collect unnecessary food from household to school
→ Sent through food bank and volunteer
- 3. Campaign
 - Put the discount sticker on the food that is about to expire as soon
as possible
 - Share the dish recipe using food that wasted through website and
SNS to attract people
 - Refrigerator Management application
 - Write down the expiration date larger

(3) Action Plan

1. Students led organization of a compost location
→ Plant flowers using compost
2. Create website that contain recipe of dishes made from food waste
3. Create committee specialized on sociality problems
4. Make a list before buying things

3. Conclusion

This time we discussed about SDGs 12, Responsible consumption and production. Food loss, Sanitary environment, Health promotion and Starvation are the main problem we focused on. At the same time, we think that these problems are too difficult to solve for students. Therefore, the society and school need to work together for solving these problems. So each person should continue to make efforts and to raise awareness of the problem.

10. アンケート結果と考察

サミットの前後に全校生徒へのアンケート調査を行った。結果は次の表の通りである。いずれも肯定的な回答の割合(%)を記した。調査数は、中学48名、高校1年311名、高校2年311名である。

〔事前アンケート〕 ※中学は未実施

| No. | 設問 | 中学 | 高校1年 | | 高校2年 | |
|-----|---|----|-------|------|-------|------|
| | | | GI | 他 | GI | 他 |
| 1 | 私は国際的な問題やニュースに関心を持っている。 | — | 91.7 | 86.3 | 96.6 | 87.8 |
| 2 | 私は国際社会における日本の役割について興味がある。 | — | 95.8 | 81.2 | 89.7 | 77.6 |
| 3 | 日本国内には「食」に関する課題がある。 | — | 100.0 | 96.6 | 100.0 | 93.6 |
| 4 | 私は途上国にある課題やその解決策に興味がある。 | — | 87.5 | 82.3 | 89.7 | 83.1 |
| 5 | 途上国にある課題の解決は、日本の私たちに深い関係がある。 | — | 95.8 | 91.8 | 96.6 | 87.8 |
| 6 | 途上国には「食」に関する課題がある。 | — | 100.0 | 98.0 | 100.0 | 95.6 |
| 7 | 日本社会が抱える課題について、私は「解決したい」という意思がある。 | — | 87.5 | 87.4 | 96.6 | 85.1 |
| 8 | 私は「食」に関する課題の解決に興味がある。 | — | 87.5 | 85.3 | 82.8 | 83.4 |
| 9 | 「食」に関する課題を解決することは、社会にある他の課題解決につながる。 | — | 100.0 | 96.2 | 100.0 | 93.9 |
| 10 | 私は中村に入学して以降、「食」に関することに興味・関心が増した。 | — | 91.7 | 82.9 | 89.7 | 79.7 |
| 11 | 外国人など、多様な文化背景を持つ人たちの考えを聞くことは、面白い。 | — | 100.0 | 91.1 | 96.6 | 90.5 |
| 12 | 外国人など、多様な文化背景を持つ人たちの考えを聞くことは、自分のためになる。 | — | 100.0 | 94.5 | 100.0 | 93.9 |
| 13 | 自分とは異なる文化背景を持つ人たちが、日本や日本人についてどのように考えているか知りたい。 | — | 100.0 | 91.1 | 100.0 | 89.5 |
| 14 | 多様な考えに触れることは、自分の将来に役立つ。 | — | 100.0 | 95.6 | 100.0 | 94.6 |
| 15 | 多様な考えに触れるために、海外に行ってみたい。 | — | 87.5 | 71.7 | 96.6 | 70.2 |

〔事後アンケート〕 ※分析しやすいよう設問No.は入れ替えている

| No. | 設問 | 中学 | 高校1年 | | 高校2年 | |
|-----|---|------|-------|------|------|------|
| | | | GI | 他 | GI | 他 |
| 7 | 「食」のサミットで取り上げられた課題以外に、「食」に関する課題について考えてみたくなった。 | 78.8 | 95.8 | 90.3 | 87.9 | 86.8 |
| 4 | 日本国内には「食」に関する課題がある。 | 98.1 | 100.0 | 99.7 | 97.0 | 97.9 |
| 2 | 私は他の国の課題やその解決策に興味がある。 | 76.9 | 91.7 | 89.9 | 97.0 | 89.7 |
| 3 | 他の国の課題の解決は、日本の私たちに深い関係がある。 | 88.5 | 100.0 | 97.6 | 83.9 | 93.2 |

| | | | | | | |
|----|--|-------|-------|------|-------|------|
| 1 | どの国にも「食」に関する課題がある。 | 100.0 | 100.0 | 99.3 | 100.0 | 98.9 |
| 5 | 日本社会が抱える課題について、私は「解決したい」という意思がある。 | 86.3 | 100.0 | 95.1 | 100.0 | 91.8 |
| 6 | 私は「食」に関する課題解決に興味がある。 | 80.8 | 87.5 | 89.6 | 87.9 | 86.8 |
| 8 | 「食」に関する課題を解決することは、社会にある他の課題解決につながる。 | 96.2 | 100.0 | 98.3 | 100.0 | 96.1 |
| 9 | 「食」のサミットを通じて、「食」に関することに興味・関心が増した。 | 86.5 | 100.0 | 91.0 | 90.9 | 89.0 |
| 10 | 外国人など、多様な文化背景を持つ人たちの考えを聞くことは面白い。 | 90.4 | 100.0 | 95.5 | 100.0 | 94.3 |
| 12 | 一つの課題について、多様な文化背景を持つ人たちと共に解決策について議論することに興味がある。 | 80.8 | 95.8 | 88.5 | 90.9 | 84.3 |
| 11 | 外国人など、多様な文化背景を持つ人たちの考えを聞くことは、自分のためになる。 | 92.3 | 100.0 | 96.9 | 100.0 | 96.4 |
| 13 | 自分とは異なる文化背景を持つ人たちが、日本や日本人にどのように考えているか知りたい。 | 86.5 | 100.0 | 93.8 | 100.0 | 92.9 |
| 14 | 多様な考えに触れることは、自分の将来に役立つ。 | 90.2 | 100.0 | 98.6 | 100.0 | 96.1 |
| 15 | 多様な考えに触れるために、海外に行ってみたい。 | 65.4 | 91.7 | 74.7 | 93.9 | 76.2 |

[考察]

- ▶ GIクラスのみで学年間を比較すると、1年<2年となっているのが事前で11項目、事後で10項目となっている。他のクラスでは事前で2項目、事後で2項目である。このことから、GIクラスでは学年が進むにつれて課題やその解決に関する興味・関心が高まる傾向にあるが、他のクラスでは興味・関心が低下するようである。今回のサミットの運営が主として2年GIクラスによることも値を高めている大きな要因といえる。
- ▶ ほとんどすべての項目で、中学<高校という結果になっていることから、高校生の方が興味・関心が高いことが分かる。今回は中学生の会議への参加がなかったことも、値が低かった要因の1つであろう。
- ▶ 事前設問No.4と事後設問No.2の結果の比較により、GIクラスと他のクラスのいずれも事後の方が値が高くなっている。このことから、サミットの実施によって生徒の課題やその解決策への興味・関心が高まった効果が見て取れる。
- ▶ 同様に、事前設問No.7と事後設問No.5の結果を比較すると、GIクラスと他のクラスのいずれも事後の方が値が高い。このことから、サミットの実施によって日本が抱える課題への解決の意欲の高まりが見て取れる。
- ▶ さらに事前設問No.11と事後設問No.10の結果を比較すると、GIクラスと他のクラスのいずれも事後の値の方が高くなっている。このことから、外国人の発表を聴くことに面白さを感じており、サミットの実施が外国人の意見を聴く良い機会となっていることが分かる。
- ▶ 事前・事後の設問No.15の結果を比較すると、どちらの学年でも他の設問に比べてGIクラスと他クラスの差が大きくなっている。これはGIクラスには海外に興味・関心がある生徒が集まっているため当たり前の結果ではある。興味深いのは、2年生のGIクラスと他クラスを比較した

ときに、事前では 26,4 ポイントの差であったものが、事後では 17.7 ポイントまで縮まっている点である。このことから、サミットの実施がより多くの生徒の海外志向を強くさせる効果があるが、普段から海外にあまり目を向けていない他クラスの生徒の方がその効果が高いということが分かる。

11. その他

(1) フェアウェルパーティー

サミットの終了後に講堂で、来校していただいた中村学園三陽高校チームと、お世話になったアジア架け橋留学生に対して、感謝の意をこめた 30 分ほどのパーティーを催した。本来ならば、来校できる連携校チームが複数あり、カフェテリアで盛大に行う予定であった。ちょっとした軽食のプレゼントも、今回は飲食を行わずに持ち帰ってもらった。和気あいあいとした雰囲気楽しく語り合った時間はあっという間に過ぎ、最後は 2 年 GI クラスの全員で中村学園三陽高校チームを見送り、長い一日が無事に終了した。



(2) 高知西高等学校の探究成果発表会への参加

サミットの開催日と同日に連携校の高知西高校で恒例の探究成果発表会が開催され、本校からも GI クラス 2 年生のグループが探究成果の発表（約 10 分間）をオンラインで行った。発表テーマは「Deformed but Beautiful～形は悪いが美しい～」で、フードロス削減に向けた国内外の政策を紹介しながら、規格外野菜の廃棄量削減に着目したオリジナルアイデアを提案するという内容であった。サミットの開催時間と発表時間がバッティングしたが、2 学年の主任に対応を依頼することで無事に発表を終えることができた。留学生を含む発表した生徒たちは、サミットにも予定通り参加し、大車輪の活躍だった。



| | | | |
|-------|-----------------------------|-------------------------|---------|
| 08-01 | 2021.6.5 (土) 10:30~12:00 | 京都先端科学大学附属高等学校主催講演会への参加 | オンライン参加 |
|-------|-----------------------------|-------------------------|---------|

連携校である京都先端科学大学附属高等学校が主催する探究学習の講演会に、拠点校の中学生 71 名、1 年 GI クラスの生徒 41 名がオンラインで参加した。この講演会は、連携校の国際コース 1 年生の探究学習 KOA Global Studies I の中で行われたものである。講演の概要は次の通りであった。

〔講師〕 山ばな平八茶屋当主 園部 晋吾氏

〔テーマ〕「和食、出汁（だし）、和食のユネスコ世界無形文化遺産認定など」

〔内容〕 和食（日本のこと）を知らない日本人、出汁と鰹節の種類、盛り付けの大切さ（実演を含む）、和食のユネスコ無形文化遺産への登録、食材の使い方の背景にある日本人の心や感謝の気持ち、「うま味」の魅力を世界に伝えようとする料理人の皆さんの苦勞、出汁の取り方の実演と試食（試食は連携校生徒のみ） など

生徒たちは、この講演を通して和食の魅力や奥深さを改めて知り、「自分でも和食を作ってみたい！和食についてさらに多くのことを知りたい！」という気持ちになったようである。今後の調理実習や生活の中でも、ここで学んだことを活かしてほしい。

なお、連携校では今回の講演に関連するテーマでの課題研究と発表が後日行われたが、拠点校生徒は時間の都合上、講演のみの参加となった。



| | | | |
|-------|------------------------------|------------------------------|---------------------|
| 08-02 | 2021.6.22 (火) 16:30~18:10 | ウズベキスタン・ライシーアム高校との合同 実験授業 | 拠点校：AL ルーム オンライン |
|-------|------------------------------|------------------------------|---------------------|

今回、海外の連携校とは初めてとなる合同授業を行った。すでに国内の連携校とは、5 月に京都先端科学大学附属高校が開催した探究学習の講演に、本校生が参加することで合同のイベントを実施している。

今回は、ウズベキスタンのライシーアム高校 Academic of Lyceum Westminster International University in Tashkent と「いりこの解剖」をテーマとする生物の実験実習を行った。この企画は、元々モンゴルの 84th 高校と合同で開催し、ウズベキスタンのライシーアム高校を招く予定で

あったが、開催日を調整する段階でモンゴルの学校が年度末の休暇に入ったため、急遽ウズベキスタンと合同で開催することになったものである。参加者数は、ウズベキスタンからは生徒 20 名（10 年生）と教員 6 名、拠点校からは生徒 9 名（2 年 GI クラス・特進クラス、3 年 SG コース）と教員 4 名であった。講師は拠点校の平田晃己教諭が務めた。また、京都先端科学大学附属高校の教師 3 名が視聴した。

授業はオンライン遠隔会議システム Zoom を使用し、(1)「いりこ」とは何か？（概念、用途など）、(2) 体（イワシ）のつくりと働き、(3) 解剖、(4) 質疑応答、(5) アンケート記入の内容で進めた。

工夫した点としては、オンラインでの実験実習ということで、映像に同調させた効果的な説明が必要となるため、通信状況の調整やカメラの切り替えなどを情報科の教員が担当したことがあげられる。また、リアルタイムで解剖中の手元の様子を撮影するために、今回は書画カメラを用いた。ビデオカメラを用いる方がより効果的かもしれないが、撮影するカメラマンが必要となる欠点があるためである。今後も、遠隔での実験実習を効果的に行う方法について研究していく予定である。

参加した生徒の事後アンケートの結果の一部を以下に示す。

設問：今回の実験で特に感動したことや「なるほど！」と感じたこと

- ▶ 視力が弱く嗅覚に特化して優れていることから、鼻の方がより進化して感覚を補っていること。
- ▶ 脳や肝臓はかなり小さいのに、人間と同じ働きがあると思うとすごいと感じた。
- ▶ 魚の口の中を真剣に見たことがなかったので、人間とは全く違う構造で驚いた。
- ▶ How simple it really is, with proper guidance, to perform a dissection since I've never done this activity or seen anyone do it.
- ▶ The dissection part of course, plus comparison between human's and fish organism.

ライシーアム高校では、一般生物学 general biology や生態学については教えられているが、解剖などを含む深い学びや体験活動は実施していない。また、ウズベキスタンが内陸国であることや食文化の違いから、多くの生徒が魚をさばいたり、いりこを料理に使う経験がないようである。これらのことにより、今回の実験実習は彼らにとってとても貴重な体験になったようである。



| | | | |
|-------|-----------------------------|-----------------------------------|---------|
| 08-03 | 2021.8.23 (月) 9:30～12:30 | 京都先端科学大学附属高等学校職員研修会での 探究活動実践報告 | オンライン参加 |
|-------|-----------------------------|-----------------------------------|---------|

連携校である京都先端科学大学附属高等学校が主催する職員研修会に、2年 GI クラス担任がオンラインで参加した。この研修会では、基調講演と SDGs の達成をテーマとした探究的な学びの取組みについての実践報告が行われた。研修会の概要は次の通りであった。

〔テーマ〕

持続可能な未来を創造する探究的学び

〔目的〕

「持続可能な未来を創造する探究的学び」の在り方を模索し、カリキュラム 開発の発展に繋げることを狙いとして、SDGs の達成をテーマとした連携 各校の探究活動を共有し、協働の機会の創出と探究的な学びの深化を目指す。

〔基調講演〕

講師：京都光華女子大学 学長・京都大学 学際融合教育研究センター 特任教授 高見 茂氏
演題：「21 世紀を生きる力を身に付けよう」

〔各校取り組み発表〕

京都先端科学大学附属高等学校の 4 コース（国際コース、特進 ADVANCED コース、特進 BASIC コース、進学コース）、姫路女学院高等学校、愛媛大学附属高等学校、中村学園女子高等学校

今回の発表は、これまでの本校での活動を振り返るよい機会となり、この発表内容を持ち帰り、本校の生徒にも共有することで、生徒に対しての振り返りの機会にも役立てることができた。また、京都先端科学大学附属高等学校は連携校でありながら本校と同じ WWL 事業カリキュラム開発拠点校でもあるため、その活動内容の紹介を通して様々な実践事例や苦勞を知ることができた。連携校の先生方からは発表に関する感想を頂き、本校の取り組みに対して関心を持ってもらうことができたと感じている。

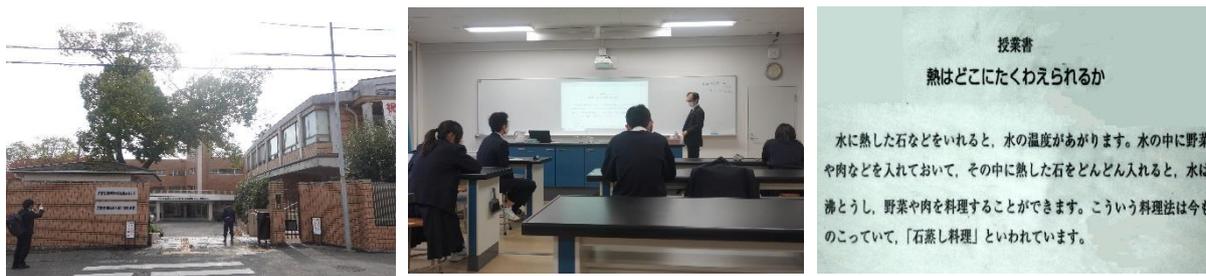
| | | | |
|-------|-------------------------------|--|--------------------|
| 08-04 | 2021.11.16 (火) 13:00～18:00 | 京都先端科学大学附属高等学校主催 公開研 究授業大会への参加および情報交換 | 京都先端科学大学附 属高等学校 |
|-------|-------------------------------|--|--------------------|

国内連携校である京都先端科学大学附属高等学校の公開研究授業大会へ拠点校教員 3 名が参加した。11 月 16 日（火）に 2 年ぶりに開催されたこの会は、「21.3 世紀の Global Navigator の育成～STEAM 教育の推進～」をテーマとして、8 教科で研究授業が実施された。それぞれの教科で

「生徒の主体的・探究的な学びのきっかけとなる授業」を目標に授業が展開された。また、授業後には、研究授業の担当教員と参観者との分科会が行われ、活発な意見が交わされた。参観した教科・対象生徒・授業タイトルは次の通りである。

- ▶ 理科（物理）・高校3年理系・仮説実験授業～予想をたてて実験結果から真理に至る～
- ▶ 英語科・中学3年・5ラウンド制英語指導法

分科会終了後には情報交換会が行われ、国際教育関係の担当教員と拠点校教員とで留学プログラムについての質疑応答を長時間にわたって行った。この学校は、長年の留学プログラムの取り組み実績があるため、様々な具体的事例をあげて詳細な説明をしていただき、1月下旬に拠点校で初めて実施する留学プログラムの指導に関する有益な情報が多数得られた。



| | | | |
|-------|---------------------------|-----------------------|-----|
| 08-05 | 2021.11.30(火) ～12.1(水) | 高知県立高知西高等学校教員の拠点校への視察 | 拠点校 |
|-------|---------------------------|-----------------------|-----|

今年度より連携校である高知県立高知西高等学校の校長に赴任された廣瀬法民校長と、同校グローバル教育部部長の岡村幸広教諭が、11月30日(火)と12月1日(水)の2日間にわたって拠点校の視察に来校された。視察内容は概略で次の通りである。

- ▶ 11月30日(火) …ご挨拶、担当者紹介、施設見学、高校2年GIクラスでの探究授業の参観
- ▶ 12月1日(水) …WWL事業に関する拠点校担当教員による説明および質疑応答

2日目のWWL事業に関する説明に関しては、拠点校の特色ある取り組みである「GI留学プログラム」「GIフィールドワーク Basic (グローバル・キャンパス)」「GIスキルアップセミナー」についての目的や進め方に焦点を当てた質問を多数いただいた。また、来年度から開設する学校設定教科「グローバル探究」の進め方については、教科の必要性や目的、生徒の目指すべきゴールなどを全校の教員が共有することの大切さについて、貴重な経験談を拝聴でき、今後の導入に向けて大変参考になった。

なお、WWL事業の拠点校からは、2022年2月7日(月)に金沢大学附属高等学校からもWWL委員の宮崎嵩啓教諭が視察に来校され、拠点校の取り組みについて同様の説明および事業の進捗などについての情報交換を行った。

| | | | |
|-------|------------------------------|----------------|---------|
| 08-06 | 2021.12.19(日) 13:00~17:30 | 全国高校生フォーラムへの参加 | オンライン参加 |
|-------|------------------------------|----------------|---------|

文部科学省、国立大学法人筑波大学共催 2021 年度全国高校生フォーラム（オンライン開催）に参加した。本フォーラム内で発表した研究テーマは糸島探究に端を発し、近隣地域が抱える社会課題やその解決策について SDGs と結びつけながら考えるよい機会になった。また、発表言語が英語であること、国内外の参加校の発表動画を事前に見たうえでグループディスカッションを行うこと、大学の先生から質疑応答ならびにフィードバックをいただく貴重な機会となり、参加生徒だけでなく担当教員にとっても学びの多い活動となった。また、同発表は学内で開催された WWL 報告会において全校生徒に向けて発表し、全校的に周知する場を持つことができた。

発表内容の概要については以下の通りである。

[研究テーマ] Reducing the Number of the Elderly that Visit the Hospital

－Taking consideration of nutrients consumed－

摂取栄養素を考えて高齢者の病院受診率を下げよう

[概要] 福岡県糸島市は、人口の 25%が高齢者であり、超高齢社会地域である。私たちは、高齢者の病院受診率を下げることで国の医療費を抑えることができると考えた。そこで、糸島市の高齢者の受診件数が最も高い高血圧を改善・予防するために、血圧降下作用を持つ GABA を含む、地元産のいちじくを豆乳を加えたムースを開発し、それを地域の小売店や介護施設に届けたいと考えている。

Reducing the Number of the Elderly that Visit the Hospital
- Taking consideration of nutrients consumed -
Nakamura Gakuen Girls' High School
中村学園



3. Research question and Hypothesis

Research question
How can we reduce the number of the elderly in Itoshima that visit the hospital?

Hypothesis
By taking into consideration the nutrients that the elderly consume, high blood pressure can be prevented, which reduces the number of the elderly that visit the hospital.

4. Our suggestion

Figs are known as a super food. It contains enzyme that produces GABA, which helps drop blood pressure.

5. Data from Previous study

Graph 1: Bar chart showing the number of elderly visits to hospitals in Itoshima from 2019 to 2020, categorized by gender (Male, Female) and age group (65-74, 75-84, 85+).

Graph 2: Bar chart showing the amount of GABA in various food items. A red circle highlights 'Figs' as the **BEST COMBINATION (that increased the amount of GABA)**.

6. Our vision

Fig mousse

Ingredients include: Figs, soy milk, powdered gelatin, heavy cream, blueberry

① Local markets, Nursing homes

② SDG 3 (Good Health and Well-being), SDG 11 (Sustainable Cities and Communities), SDG 12 (Responsible Consumption and Production)

| | | | |
|-------|------------------------------|---------------------------|--------------------|
| 08-07 | 2021.12.19(日) 13:00～16:00 | 九州大学 世界にはばたく高校生の成果発表会への参加 | オンライン参加 (ビデオ審査) |
|-------|------------------------------|---------------------------|--------------------|

12月19日(日)に開催された九州大学主催の「令和3年度 将来の夢を切り拓く“高大連携”世界に羽ばたく高校生の成果発表会」に向けて、拠点校の1年GIクラス生徒3名がこれまで取り組んできた課題研究の成果に関する発表ビデオの作成を行った。発表ビデオは、会当日の口頭発表者を選定するにあたって、11月10日(水)までに提出しエントリーするものである。残念ながら会当日の発表者には選出されなかったものの、短期間で探究成果を効率よくまとめ、発表まで行きつくことができた生徒たちの活動への意欲やバイタリティーには感服させられた。以下、会当日までの経過と発表内容の概要を記す。

〔会当日までの経過〕

2021年10月1日(金)…開催案内の受領、1・2年GIクラスにて参加者の募集開始

10月4日(月)…参加グループ決定、発表へ向けての準備開始

10月15日(金)…発表申込

11月10日(水)…発表動画提出

12月1日(木)～10日(金)…エントリーした発表者の動画視聴・参加者投票

12月10日(金)…口頭発表者の選考結果通知→落選

12月19日(日)…発表会開催、生徒は各自自宅にてオンライン視聴

〔発表タイトル・内容〕

タイトル:「コンポストをもっと普及させるには～女子高校生の環境問題への意識の変化」

私の所属する園芸部やGIクラスの探究授業では、「食と環境」の内容の取り組みの中で生ごみを減らすことを目的として、カフェテリアから出る生ごみを自分たちで製作したコンポストで堆肥化し、できた土で野菜を育て収穫して食べるという取り組みを継続して行っている。しかし、生徒の多くはコンポスト自体を知らなかったり、知っていたとしてもやろうとする意識がないように感じる。その原因を突き止め、コンポストの取り組みが環境問題への意識をどのように変えるのか、アンケート調査を行い、結果を考察した。発表項目は次の通り。

- (1) コンポストによる堆肥化の活動、その実績
- (2) コンポストの認知度、コンポストの活動による意識の変化のアンケート調査
- (3) 結果と考察
- (4) まとめと今後の課題

コンポストを普及させるには



～JKの環境問題への意識の変化～

これまでのコンポスト活動

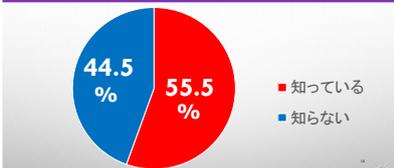


3-A. 研究目的

コンポスト調査

1. 認知度
2. 実施状況 → コンポスト普及に向けたヒント
3. 継続性

コンポストについて知っているか? (N=202)



■ 知っている (44.5%)
■ 知らない (55.5%)

まとめ

| | 全体 | 比較群 | 対照群 |
|-----------|-------------------------------|-----------------------------|---|
| 1. 認知度 | 55.5% | 87.4% | 26.4% |
| 2. やりたい理由 | ①環境保護(66.9%) ②廃棄物活用(27.0%) | ①廃棄物活用(5.7%) ②環境保護(5.0%) | ①環境保護(4.6%) ②廃棄物活用(2.2%) |
| 3. やらない理由 | ①虫が発生(28.0%) ②腐臭(28.0%) | ①腐臭(43.4%) ②虫が発生(21.9%) | ①虫が発生(38.9%) ②腐臭(41.6%) ③においが臭い(6.7%) |

5. 今後の課題

1. 知ってもら(認知) → 授業
2. やってもら(実施) → SNS
3. 続けてもら(継続) → 啓発ポスター掲示

| | | | |
|-------|----------------------------|---|----------------|
| 08-08 | 2022.1.25 (火) ～1.26 (水) | 京都先端科学大学附属高等学校でのグローバル・シミュレーション・ゲーミング (GSG) の視察と WWL 成果発表会への参加 | 京都先端科学大学附属高等学校 |
|-------|----------------------------|---|----------------|

連携校である京都先端科学大学附属高等学校が主催するグローバル・シミュレーション・ゲーミング (GSG) に本校の教員 1 名がオンラインにて視聴した。GSG 自体もオンラインで開催されたが、“How are we to achieve the SDGs in the Covid-19 Crisis?”のテーマのもと、模擬国連のように参加校がそれぞれに役割を持って活動する様子を視聴し、来年度の参加について検討していく予定である。また、GSG のハイブリッド運営の様子を見ることは、本校で開催される「食のサミット」のハイブリッド開催のヒントを得ることができたと考える。

その翌日に実施された WWL 成果発表会には、本校の 2 年 GI クラスの生徒 4 名がオンラインで参加した。この発表会は、連携校の各コースやその連携校がそれぞれ、日本語や英語で身近な社会課題とその解決策について発表し、高校生の様々な課題意識と柔軟な解決策を共有し合う有意義な機会となった。本校の生徒は全国高校生フォーラム (先の 08-06 参照) の研究テーマで発表した。同じ研究テーマでの発表は 3 回目となり、それぞれの発表会の趣旨に合う形で情報を補足していき、回を重ねるごとに発表の質が向上してきたことも印象深く、参加生徒にとって大きな自信にもつながっている。

| | | | |
|-------|------------------------------|---------|-----------|
| 09-01 | 2021.12.11 (土) 9:30～12:00 | WWL 報告会 | 拠点校：講堂・教室 |
|-------|------------------------------|---------|-----------|

今年度の探究活動の成果発表会となる WWL 報告会が拠点校で開催された。昨年度までは、3 月に開催していたが、水仙祭 (文化祭) が 3 月へ移行したこともあり、今年度から前倒しとなり 12 月の開催となった。また、コロナ禍中でもあるため、連携校の発表参加や校外からの参加者 (一部の来賓を除く) はすべてオンラインによる視聴とした。なお、この会における連携校からの発表参加は、今回が初めてとなる。

〔参加者〕

対面での参加： 中学3年生、高校1・2年生 (計約800名)、来賓11名 (運営指導委員を含む)

オンライン参加：連携校発表者7名と関係者4名、教育関係者4名、運営指導委員3名、保護者79名

〔報告会の内容〕

司会： 2年GIクラス生徒 ※ 1～4はオンラインでも配信、5は一部のみ

1. オープニング (2年GIクラス生徒) 9:30～9:35
2. 開会の言葉 (水仙会会長) 9:35～9:36
3. 学校長挨拶 9:36～9:40

4. 生徒発表

9:40~10:30

- ① WWL全国高校生フォーラムでの発表内容 (2年GIクラス生徒)
- ② GIスキルアップセミナー の報告 (2年GIクラス生徒)
- ③ 高知県立高知西高校 (連携校) の代表によるオンライン発表
- ④ 京都先端科学大学附属高校 (連携校) の代表によるオンライン発表
- ⑤ グローバル・キャンパスの報告 (1年GIクラス生徒)
- ⑥ 九州大学での成果発表会での発表内容 (1年GIクラス生徒)
- ⑦ 自国の食文化、食料需給や食料廃棄についての発表 (アジア架け橋留学生)

5. クラス代表者による課題発表

10:50~12:00

6. HRにて振り返り (アンケート記入)

12:00~12:30頃

[発表内容]

① WWL全国高校生フォーラムでの発表内容 (2年GIクラス生徒)

12月19日に開催される WWL 全国高校生フォーラムに向けた発表内容 (英語) を動画で投影し、発表者がこの探究活動を通して得られた気づきについてコメントを行った。タイトルは「摂取栄養素を考えて高齢者の病院受診率を下げよう」である。内容は、超高齢社会地域である福岡県糸島市で、高齢者の病院受診率を下げることで国の医療費を抑えることができると考え、糸島市の高齢者の受診件数が最も高い高血圧を改善・予防するために、血圧降下作用を持つ GABA を含む、地元産いちじくに豆乳を加えたムースを開発し、それを地域の小売店や介護施設に届ける構想について。



② GIスキルアップセミナー の報告 (2年GIクラス生徒)

2年GIクラスを対象として6、7月に実施した4回のスキルアップセミナーについて、学習した内容の報告と成果について報告した。このセミナーは、アントレプレナーシップ (起業家精神) を学ぶもので、各回で分野の異なる起業家に講師として来ていただき講演をしていただいた。講演後は、講師から出される課題についてのディスカッションや起業することについて質疑応答を行った。起業することが、特別なことではなく身近な問題を解決することに糸口があったり、同世代の人でもやる気さえあればできることなどを学んだ。



③ 高知県立高知西高校（連携校）の代表によるオンライン発表

連携校から2年生のグループが「Make A Smile～What We Can Do As High School Students～」というテーマで、東ティモールの乳児を救うプロジェクト開発の内容について発表した。

④ 京都先端科学大学附属高校（連携校）の代表によるオンライン発表

連携校からイギリスとカナダに留学中の2年生のグループが「Business Model in Vietnam」というテーマで、幼児を対象とした食品の開発と販売戦略について発表した。



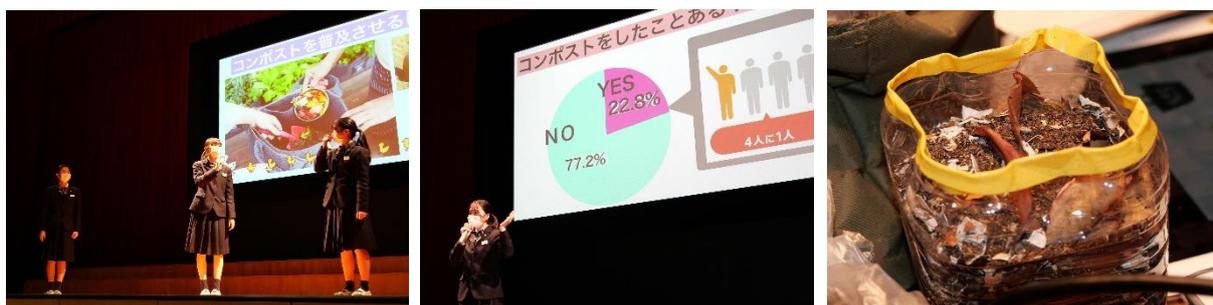
⑤ グローバル・キャンパスの報告（1年GIクラス生徒）

9月に立命館アジア太平洋大学（APU）の外国人留学生とオンラインで実施したグローバル・キャンパスの報告を行った。午前はGIクラスのみが活動し、APUの留学生へ向けてフードロスに関する発表や企業10社のSDGsの取り組みについて英語で紹介した。その後、異文化交流とフードロスへの取り組みの情報交換を中心としたディスカッションを行った。午後は1年生全員が参加し、グループごとに留学生との交流を行った。後半はAPUの学生が起業した「あまいる商店」の活動を聴くことでフードロスや起業について身近に感じたという感想を伝えた。



⑥ 九州大学での成果発表会での発表内容（1年GIクラス生徒）

12月19日に九州大学で開催される「世界に羽ばたく高校生の成果発表会」へ向けてエントリーした「コンポストをもっと普及させるには～JKの環境問題への意識の変化～」の研究についてアレンジしたものを発表した。拠点校生徒のコンポストの認知度・取り組みの実態を明



らかにし、普及には授業で取り上げること、学校をあげての全校生徒による取り組みの重要性をアピールした。

⑦ 自国の食文化、食料需給や食料廃棄についての発表（アジア架け橋留学生）

今年度来校しているアジア架け橋プロジェクトの留学生10名が、自国の食文化と食糧需給やフードロスの実態について報告した。途中、会場参加者へのクイズを日本語で出題するなど楽しく親しみやすい雰囲気での発表であった。特にアジア地域での米のムダ遣いについて触れ、データや解決策を示してフードロスの削減を呼びかけた。



⑧ クラス代表者による課題発表（ポスターセッション）

今回の課題発表のテーマは、令和4年3月に実施する『「食」のサミット』と同じ、『SDGs12「つくる責任、つかう責任」につながる「食」に関わる諸問題とその解決策』である。発表にあたって1年生は、9月の「グローバル・キャンパス」の取り組みから「食」や課題解決への興味・関心を少しずつ高め、それ以後、本格的に個人でテーマに取り組んできた。2年生は、夏休み中の個人課題とし、テーマに沿った内容でポスター作りを行った。両学年ともクラス内で代表者の選考を行い、各クラス4名（中高一貫クラスは2名）の代表者を選出した。代表者と発表タイトルは次ページの表の通りである。



WWL報告会 課題発表(ポスターセッション)代表者 一覧

| クール | 番号 | 氏名 | タイトル | クール | 番号 | 氏名 | タイトル |
|-------|----|---------------|-----------------------------|-------|----|--------------|-------------------------------|
| 第1クール | 1 | 明日山 結月 (2-8) | SDGsってなに？ | 第3クール | 47 | 中村 春穂 (2-8) | つくる責任つかう責任 |
| | 2 | 岩井 倫子 (2-9) | 食品ロス削減の必要性 | | 48 | 早川 凜 (2-9) | 東京五輪でのSDGsの取り組みについて |
| | 3 | 青木 楓 (2-10) | 食品ロス | | 49 | 柴田 真歩 (2-10) | 食品ロスを減らせ！IN世界 |
| | 4 | 岡田 美裕 (2-11) | 「もったいない」を「ありがとう」に | | 50 | 古賀 加夏 (2-11) | 食品ロス(フードロス)について |
| | 5 | 石丸 綾華 (2-12) | 食品ロスを削減するく食品ロスの現状>企業の取り組み | | 51 | 下野 和桜 (2-12) | SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS |
| | 6 | 宇野 美空 (2-7) | 賞味期限と消費期限 | | 52 | 金 攸怡 (2-7) | ロスった食品どうするの？ |
| | 7 | 神塚 雪羽 (2-1) | ロスパンを減らそう | | 53 | 今井 咲希 (2-1) | われらの水 |
| | 8 | 桑野 萌 (2-2) | 食品ロス削減への3つのプロジェクト | | 54 | 江藤 由美子 (2-2) | 世界のユニークな食品ロス対策 |
| | 9 | 井田 澤亜 (2-3) | 食生活をめぐる現状と問題 | | 55 | 畠中 優菜 (2-3) | 日本と世界の食品ロス |
| | 10 | 臼井 みゆき (2-4) | SDGs目標その12【つくる責任つかう責任】 | | 56 | 川西 美憂 (2-4) | Food Tech |
| | 11 | 植田 心暖 (2-5) | 食品ロスを減らすアプリ | | 57 | 福崎 絵利奈 (2-5) | 未来を今と照らし合わせて |
| | 12 | 佐藤 由美 (1-6) | 食糧危機で日本もピンチ！？ | | 58 | 南出 萌衣子 (1-6) | ファーストフード店が取り組んでいるSDGs |
| | 13 | 杉本 夏菜 (1-7) | フードロスの改善 | | 59 | 橋本 梓 (1-7) | 食品ロスと地球温暖化 |
| | 14 | 大田 汐莉 (1-8) | どの家庭にもできる！とっても簡単食品ロス削減方法 | | 60 | 田中 楓 (1-8) | なくそう食品ロス！すぐに食べるならぜひ！～まあどり～ |
| | 15 | 姉川 彩羽 (1-9) | よりよい世界をつくるために | | 61 | 能美 優香 (1-9) | 世界中を幸せにするHEROになるう！ |
| | 16 | 王丸 菜々美 (1-10) | 海外と日本のフードロス | | 62 | 柴田 梨桜 (1-10) | SDGsつくる責任つかう責任 |
| | 17 | 井上 千尋 (1-12) | コロナと食材 | | 63 | 田中 桃子 (1-12) | ロスパンについて |
| | 18 | 内田 望乃 (1-11) | SDGs世界中で広がりを見せる『代替肉』 | | 64 | 小橋 咲菜 (1-11) | 食品ロス・ゼロへの道へ |
| | 19 | 乾 日向子 (1-4) | もったいない鬼ごっこ？ | | 65 | 川久保 優月 (1-4) | 食品ロスと飢餓 |
| | 20 | 上村 果蓮 (1-3) | 日本で殺される家畜の数と日本で廃棄される肉類の量 | | 66 | 平石 華子 (1-3) | 人口増加に伴う資源不足について |
| | 21 | 佐藤 日加莉 (1-2) | 食品ロスとペットフード | | 67 | 原田 千鶴 (1-2) | 役立つキノコ |
| | 22 | 瀧本 柚月歌 (1-1) | Food cycle | | 68 | 中田 鈴 (1-1) | We are ONE TEAM |
| | 23 | 香山 もえぎ (1-5) | ”無駄”を資源に！コンポスト | | 69 | 石井 麗乃愛 (2-6) | 回収率97% |
| 第2クール | 24 | 大津 倫子 (2-8) | つくる責任つかう責任 | 第4クール | 70 | 山田 芽依 (2-8) | 「食品ロス」～すべてに感謝！～ |
| | 25 | 葉賀 陽音 (2-9) | つくる責任つかう責任 | | 71 | 松田 愛未 (2-9) | つくる責任つかう責任 |
| | 26 | 岸本 和果 (2-10) | 食品ロス食糧は余っているのに飢餓 | | 72 | 杉山 愛実 (2-10) | 食品ロスを減らすためには？ |
| | 27 | 奥田 来夢 (2-11) | カップラーメンは安全？！ | | 73 | 吉田 亜砂 (2-11) | 食品ロスを減らすには |
| | 28 | 門谷 知穂 (2-12) | 13億トンの食品ロス？！ | | 74 | 高橋 桃子 (2-12) | 食品ロスを減らそう |
| | 29 | 奥 和 (2-7) | 食品ロス～日本の現状～ | | 75 | 富田 こころ (2-7) | 不用な廃棄物まで再利用！？ |
| | 30 | 渡邊 碧海 (2-1) | 食品ロスと給食の完食について | | 76 | 岡崎 晴瑠 (2-1) | 家庭での食品ロスを防ぐには？！ |
| | 31 | 牛嶋 風和 (2-2) | 深海魚ぎょぎょ | | 77 | 大城 ふきの (2-2) | つくる責任つかう責任～食品ロス・廃棄が発生する理由～ |
| | 32 | 小迫 秀歌 (2-3) | 幅広い”食”への視点 | | 78 | 藤岡 史帆 (2-3) | 食品ロスを減らすために行われていることは？ |
| | 33 | 河合 真由 (2-4) | 食品ロスと廃棄 | | 79 | 難藤 みくに (2-4) | 食品ロスの現状 |
| | 34 | 中川路 真央 (2-5) | 進行するフードロス 地域の解決策は？ | | 80 | 山口 桃子 (2-5) | 家庭から始める食品ロス削減 |
| | 35 | 深町 美心 (1-6) | フードロス削減 | | 81 | 宮崎 愛弓 (1-6) | 食品の廃棄と食品ロス |
| | 36 | 長戸 心南 (1-7) | 食品ロスの現状 | | 82 | 福島 さくら (1-7) | 食品ロスについて |
| | 37 | 梶山 潤心 (1-8) | 食品ロスをなくそう | | 83 | 八尋 優真 (1-8) | 食品ロスを削減するためには...？ |
| | 38 | 田中 愛菜 (1-9) | What can we do～つくる責任・つかう責任～ | | 84 | 村上 優奈 (1-9) | 『つくる責任つかう責任』 |
| | 39 | 尾花 未優 (1-10) | コロナ禍だからこそ見えたつくる責任つかう責任 | | 85 | 前田 実咲 (1-10) | 食品ロス |
| | 40 | 黒木 心晴 (1-12) | 食品ロスを無くすためにできる事 | | 86 | 橋口 留奈 (1-12) | フードロス |
| | 41 | 加藤 芹奈 (1-11) | 持続可能な生産と消費 | | 87 | 松村 帆菜 (1-11) | SDGs～食品ロスについて～ |
| | 42 | 茅野 慧 (1-4) | インスタ映えの間～つくる責任つかう責任～ | | 88 | 中山 紗良 (1-4) | サーモン好きなんだもん～魚に潜む寄生虫～ |
| | 43 | 小久保 美侑 (1-3) | サステナブルブレッドを知っていますか？ | | 89 | 脇山 はるか (1-3) | 世界の食糧不均衡 |
| | 44 | 柴田 凜杏 (1-2) | フードロスとSTARBUCKS | | 90 | 山口 晴歌 (1-2) | glico食品ロスへの取り組み |
| | 45 | 横山 歩果 (1-1) | グリコ×SDGs | | 91 | 矢作 楽奈 (1-1) | まだ食べられるよ 捨てるのSTOP |
| | 46 | 泊岩 莉央 (1-5) | 食材を最大限に | | 92 | 糟谷 晴 (2-6) | ベジプロスって知ってる？ |

[アンケート]

参加生徒の興味関心や意識の変化を調査することを目的とし、WWL 報告会の事前と事後にアンケートを実施した。

○事前調査

| この報告会で最も「楽しみ な」企画はどれですか？ | 人数（割合％） | 選んだ理由（多かったものを抜粋） |
|-----------------------------|------------------|---|
| WWL 全国高校生フォーラムでの発表 | 59 人（10.2%） | 同じ世代の人がどんなことを調べ考えたのか気になるから。全国の高校生の考えを聞いてみたいと思ったから。 |
| GI クラスの活動報告（スキルアップセミナーなど） | 45 人（7.8%） | GI クラスの活動報告を通じて私達が知らないことをメインに学べると思い、興味が湧いたから。色々な人の意見が聞けて視野が広がるから。 |
| グローバル・キャンパスの報告 | 13 人（2.2%） | グローバル・キャンパスに興味があるから。面白そうだから。実際にグローバル・キャンパスで話を聞いたので。 |
| 九州大学での成果発表会での発表 | 24 人（4.1%） | 大学がどんな活動をしているかが気になったから。九州大学の雰囲気を知る機会になると思ったから。 |
| アジア架け橋留学生の発表 | 129 人 (22.2%) | 自分と違う文化の人の話を聞くのが楽しみだから。海外のことに興味があるから。普段はあまり知らないアジアの国について知る機会がないから。 |
| 各クラス代表による課題（ポスター）発表 | 311 人 (53.5%) | 掲示してあるポスターを見て面白そうと思ったから。今世界で起こっている様々な問題について、それぞれの発表者の視点から見た意見を聞くことができるから。 |

| あなた自身が SDGs12「つくる責任・つかう責任」についての課題を解決するために取り組めることは何ですか？ | 人数（割合％） | キーワード（多かったものを抜粋） |
|--|------------------|--------------------------------|
| フードロスをなくすために行動する | 240 人 (41.3%) | 「食品ロス」、「フードロス」、「賞味期限」、「食べ残し」など |
| エコバッグを利用する | 37 人（6.4%） | 「エコバッグ」、「マイバッグ」、「レジ袋」など |
| リサイクルをする | 24 人（4.1%） | 「リサイクル」、「3R」、「再利用」など |
| 問題について知る・意識する | 22 人（3.8%） | 「知ること」、「学ぶこと」、「意識」、「行動」など |

○事後調査

| この報告会で最も「学びの多かった」企画はどれでしたか？ | 人数 (割合%) | この報告会で最も「楽しかった」企画はどれでしたか？ | 人数 (割合%) |
|-----------------------------|-----------------|---------------------------|-----------------|
| WWL 全国高校生フォーラムでの発表 | 77人 (11.3%) | WWL 全国高校生フォーラムでの発表 | 34人 (5.0%) |
| GIクラスの活動報告(スキルアップセミナーなど) | 138人 (20.2%) | GIクラスの活動報告(スキルアップセミナーなど) | 65人 (9.5%) |
| グローバル・キャンパスの報告 | 37人 (5.4%) | グローバル・キャンパスの報告 | 28人 (4.1%) |
| 九州大学での成果発表会での発表 | 43人 (6.3%) | 九州大学での成果発表会での発表 | 40人 (5.9%) |
| アジア架け橋留学生の発表 | 75人 (11.0%) | アジア架け橋留学生の発表 | 98人 (14.4%) |
| 各クラス代表による課題(ポスター)発表 | 313人 (45.8%) | 各クラス代表による課題(ポスター)発表 | 416人 (61.1%) |

| ステージ発表について、「興味深い」と感じたことは何ですか？ | 人数(割合%) | キーワード(多かったものを抜粋) |
|-------------------------------------|-------------|------------------------------|
| コンポストについて | 337人(52.7%) | 「コンポスト」、「生ごみ」、「肥料」など |
| 留学生の発表 | 44人(6.9%) | 「アジア架け橋留学生」、「米」、「共通点」など |
| ステージ発表について、「自分で実践してみたい」と感じたことは何ですか？ | 人数(割合%) | キーワード(多かったものを抜粋) |
| コンポストの利用 | 492人(77.1%) | 「コンポスト作製」、「肥料」、「作ってみたい」など |
| 食品ロスを減らす | 24人(3.8%) | 「食べ残し」、「フードロス」、「食品ロス」、「削減」など |
| 英語を使う・自分から行動する | 21人(3.3%) | 「英語で発表」、「挑戦」、「意見を述べる」など |

| ポスターセッションについて、「興味深い」と感じたことは何ですか？ | 人数（割合％） | キーワード（多かったものを抜粋） |
|--|-------------|---|
| 食品ロスの問題 | 129人（20.3％） | 「食品ロス」、「フードロス」、「廃棄」、「減らす」、「現状」など |
| 魚の寄生虫 | 23人（3.6％） | 「サーモン」、「アニキサス」、「寄生虫」など |
| | | |
| ポスターセッションについて、「自分で実践してみたい」と感じたことは何ですか？ | 人数（割合％） | キーワード（多かったものを抜粋） |
| 食品ロスを減らす | 212人（33.3％） | 「手前取り」、「食べ残しをしない」、「賞味期限と消費期限」、「ベジブロス」など |

〔アンケート分析〕

事前調査の『この報告会で最も「楽しみな」企画はどれですか？』という問いに対しては、半数以上の生徒が「各クラス代表による課題発表」と答えている。これは、事前に掲示したポスターを見て興味を引かれたことや、自分の身近にいるクラスメイトたちの発表に期待する生徒が多かったからだと考えられる。また、事後調査の『この報告会で最も「学びの多かった」企画はどれでしたか？』『この報告会で最も「学びの多かった」企画はどれでしたか？』の問いに対しても、同じく「各クラス代表による課題発表」と回答した生徒が最も多く、満足度が高かったことがうかがえる。

事前調査で『あなた自身がSDGs12「つくる責任・つかう責任」についての課題を解決するために取り組めることは何ですか？』という問いに対し、「フードロス」関連の回答をした生徒が41.3%と多かったが、その内容について答えた生徒はほとんどいなかった。しかし発表を聞いた後には、「自分で実践してみたいこと」として「手前取り」や「ベジブロス」など、より具体的な回答をする生徒が増えている。

事後調査において、ステージ発表で「興味深いと感じたこと」「実践してみたいこと」として、半数以上の生徒が「コンポスト」と回答しており、関心の高さが現れている。コンポストという言葉を知ると同時に、学校をあげての取り組みが重要であることや、自分たちで作ることができることが分かり、実際に「コンポスト作製」や「コンポスト作ってみたい」という回答が目立った。

さらに、少数ではあるが、自分が実践したいこととして、事前調査では「問題について知ること・意識すること」、事後調査では「英語を使う・自分から行動すること」を挙げた生徒が一定数いることにも注目したい。生徒がWWL報告会をきっかけに、問題に対して行動を起こすことや、英語を使うなどして自ら発信することの重要性を感じることもできたことが分かる。

| | | | |
|-------|-----|-----------|-----|
| 10-01 | 年数回 | 広報紙の発行・配布 | 拠点校 |
|-------|-----|-----------|-----|

SGH 事業の取り組みを中心にまとめた広報紙「Naka-jo Times Global」を6月と11月に発行した。第1号では、前年度11月に行われた立命館アジア太平洋大学の出口学長の記念講演をはじめとして、グローバル・キャンパスやWWL 報告会、「食」のサミットを掲載した。第2号では、今年度初めて実施した GI スキルアップセミナーやオンラインでの国際交流などについて掲載した。

本校教職員・生徒だけでなく、連携校や近隣中学校や学習塾などにも配布した。本校の WWL 事業について広く知ってもらうための広報ツールとして活用した。

【第1号】

- ① WWL カリキュラム拠点校に指定
- ② 60 周年記念講演
- ③ 「食」のサミット 2020
- ④ WWL 報告会
- ⑤ アジア高校生架け橋プロジェクト
- ⑥ トマトアイスの開発
- ⑦ 全国高校生 SR サミット FOCUS
- ⑧ 福岡 Blue Earth 塾
- ⑨ グローバル・キャンパス
- ⑩ SDGs オンラインミーティング
- ⑪ 福津市との協働授業

【第2号】

- ① グローバル・キャンパス
- ② GI スキルアップセミナー
- ③ GI 探究 (1 年)
- ④ GI 探究 (2 年)
- ⑤ オンライン修学旅行 in 韓国 (1 年)
- ⑥ 夏期海外研修業者合同説明会
- ⑦ English Camp in 福岡
- ⑧ 海外連携校とのオンライン合同授業
- ⑨ トビタテ！留学 JAPAN
- ⑩ 留学支援金制度

| | | | |
|-------|----|--------------|-----|
| 10-02 | 通年 | 拠点校ホームページの更新 | 拠点校 |
|-------|----|--------------|-----|

生徒の活動の記録としてだけでなく、生き生きとした様子を外部にも発信できるよう、日頃の GI 探究の様子なども積極的に更新している。

今年度は4月から2月末までにホームページ46回、プレスリリース2回の記事を作成した。前年度はホームページ32回、プレスリリース3回(3月末)であったのに対して、大幅に更新することができた。GI クラスが2学年に増え、探究活動をはじめとした WWL 事業の取り組みも増加したことが記事の増加に関係していると言えるだろう。

次のページの表にホームページ記事とプレスリリースのタイトル一覧を示す。

[ホームページ記事]

| | タイトル | 掲載日 | 英文併記 |
|----|--|--------|------|
| 1 | 『「食」のサミット』を開催しました | 4月7日 | ○ |
| 2 | 令和2年度WWL事業完了報告書について | 5月10日 | |
| 3 | 6/3 博多大丸との協働活動がスタート！(GI2年) | 6月7日 | |
| 4 | 6/3 台湾とオンラインで交流！(GI1年) | 6月7日 | ○ |
| 5 | 6/5 初めてのGIスキルアップセミナー！ | 6月7日 | |
| 6 | 「Naka-jo Times Global」を発行しました！ | 6月7日 | |
| 7 | 6/10 第2回GIスキルアップセミナーを行いました | 6月11日 | |
| 8 | 6/17 「食と社会文化」のプレゼンテーション(1年GI探究) | 6月18日 | |
| 9 | 6/17 博多大丸との産学連携に向けて(2年GI探究) | 6月18日 | |
| 10 | 6/18 夏期海外研修業者合同説明会を実施しました | 6月21日 | |
| 11 | 6/19 糸島と「食」について(2年GI探究) | 6月21日 | |
| 12 | 6/22 ウズベキスタンの連携校と交流実験授業 | 6月23日 | ○ |
| 13 | 7/1 第3回GIスキルアップセミナーを行いました | 7月2日 | |
| 14 | 7/3GI探究で個人研究発表を行いました | 7月5日 | |
| 15 | 7/13 英語で日韓高校生オンライン交流(1年GIクラス) | 7月14日 | ○ |
| 16 | 7/15 アジア高校生架け橋留学生とオンライン交流会(1年GIクラス) | 7月16日 | ○ |
| 17 | 7/17GI留学プログラム第1回説明会を行いました(1年GIクラス) | 7月19日 | |
| 18 | 7/29 第4回GIスキルアップセミナーを行いました(2年GIクラス) | 7月30日 | |
| 19 | 7/16AIU(国際教養大学)学生とオンライン交流(1年GIクラス) | 7月30日 | |
| 20 | 9/15 高校1年グローバルキャンパスを開催しました | 9月21日 | ○ |
| 21 | Naka-jo Times Global 第2号を発行しました | 10月27日 | |
| 22 | 10/21GI探究で論文指導が始まりました(2年GIクラス) | 11月1日 | |
| 23 | 10/30GI探究でハロウィン！(2年GIクラス) | 11月1日 | |
| 24 | 10/30 ハワイ大学KCC学校説明会を行いました | 11月1日 | |
| 25 | 11/1 第4期アジア架け橋留学生10ヶ国10名が来校！ | 11月2日 | |
| 26 | 11/4 第4期アジア架け橋留学生がお茶会に招かれました | 11月8日 | ○ |
| 27 | 第4期アジア架け橋留学生の日本語レッスンがスタート | 11月8日 | ○ |
| 28 | 10/30 探究学習の取り組みで本校生徒が最優秀賞を受賞しました！ | 11月9日 | ○ |
| 29 | アジア架け橋留学生の歓迎会を行いました | 11月9日 | ○ |
| 30 | 株式会社石村萬盛堂様との産学連携プロジェクトキックオフ！(高校1年生GIクラス) | 11月12日 | |
| 31 | 11/20AFS主催第4期アジア架け橋留学生の歓迎会を行いました！ | 11月22日 | ○ |
| 32 | 11/24 축하해요(チュカヘヨ)！韓国観光公社様による「深発見・韓国オンライン修学旅行」最優秀賞表彰式を行いました | 11月25日 | |
| 33 | 留学生が日本の文化体験・交流を満喫！ | 11月29日 | ○ |

| | | | |
|----|--|--------|---|
| 34 | 株式会社石村萬盛堂様への商品企画プレゼンテーションを行いました！(GI1年生) | 12月6日 | |
| 35 | 12/11WWL 報告会を開催しました | 12月15日 | ○ |
| 36 | 12/13 第1回アントレプレナーシップセミナー(後編)を実施 | 12月15日 | |
| 37 | アントレプレナーシップ・ワークショップを実施 | 12月22日 | |
| 38 | 12/17 台湾の生徒とオンラインで交流！(1年GIクラス) | 12月22日 | ○ |
| 39 | 12/23 アジア架け橋留学生と協働学習(2年GIクラス) | 12月23日 | ○ |
| 40 | 12/27 シンガポール国立大学(NUS)の学生とのオンライン交流(2年GIクラス) | 1月5日 | ○ |
| 41 | 1/24 第2回アントレプレナーシップセミナーを実施 | 1月28日 | |
| 42 | 1/28GI 留学プログラム(カナダ)出発(1年GIクラス) | 1月28日 | ○ |
| 43 | 1/29 オンライン Blue Earth 塾に参加しました(2年GIクラス) | 1月31日 | |
| 44 | 2/7 アントレプレナーシップセミナーを実施 | 2月8日 | |
| 45 | 2/10 「食」のサミットオンラインプレミーティングを行いました | 2月14日 | ○ |
| 46 | 2/16 The YUKATA making! | 2月16日 | ○ |
| 47 | 3/13 第4期アジア架け橋留学生帰国の途へ | 3月14日 | ○ |
| 48 | 3/12 「食」のサミット2021を開催しました | 3月16日 | ○ |

[プレスリリース]

| | タイトル | リリース日 |
|---|-----------------------------------|--------|
| 1 | 全校生徒でSDGsについて考えよう WWL 報告会開催のお知らせ | 11月15日 |
| 2 | 世界規模で「食」の課題解決策を考える「食」のサミット開催のお知らせ | 2月25日 |

※2022年3月末現在

| | | | |
|-------|----|----------------|-------------|
| 11-01 | 通年 | GI 探究 1年次の実施計画 | 拠点校:1年GIクラス |
|-------|----|----------------|-------------|

活動の目的

① 探究力の育成

GI 探究を通して、自分の興味がある分野かつ社会・学術の課題である分野を模索しながら、自身と向き合う力、社会問題と向き合う力、自分の進路と向き合う力を身につけることで、探究力の基礎を身につける。

② グローバルマインドセットの育成

国際交流を通して、高度な英語運用能力、異文化理解力、多様性受容力などグローバル人材としての資質を身につける。

③アントレプレナーシップの育成

国際交流や産学連携などを通して、世界的な課題の解決やSDGsなどに配慮した商品づくりなど、リーダーシップ、チームビルディング、ノベーションスキルの基礎的な資質を身につける。

活動の記録

| | | |
|--------|--|-------------------|
| 4月22日 | GI探究「探究とキャリアについて」 | 1年GIクラス |
| 5月6日 | GI探究「グローバル人材とは」、「コロナとSDGs」 | 1年GIクラス |
| 5月13日 | GIスタートアップセミナー | 1年GIクラス |
| 5月27日 | GI探究 食と社会文化（世界の食文化、宗教など）リサーチ | 1年GIクラス |
| 6月3日 | 台中市立光明中(台湾)とのオンライン国際交流会 | 1年GIクラス |
| 6月5日 | 京都先端科学大学附属中学校・高等学校探究活動講演会 講師：山ばな平八茶屋 園部 晋吾 氏 | 1年GIクラス 中学校全学年 |
| 6月10日 | GI探究 食と社会文化（世界の食文化、宗教など）リサーチ | 1年GIクラス |
| 6月17日 | GI探究 食と社会文化（世界の食文化、宗教など）発表① | 1年GIクラス |
| 6月23日 | 高雄市立文山高校(台湾)とのオンライン国際交流会 | 1年GIクラス |
| 6月24日 | GI探究 食と社会文化（世界の食文化、宗教など）発表② | 1年GIクラス |
| 7月13日 | Jeohyeon High School（韓国）とのオンライン国際交流会 | 1年GIクラス |
| 7月15日 | 第3期アジア架け橋留学生とのオンライン交流会 | 1年GIクラス |
| 7月16日 | 国際教養大学生とのオンライン交流会 | 1年GIクラス |
| 7月28日 | 深発見・韓国オンライン修学旅行（SDGsと都市開発） | 1年GIクラス |
| 9月2日 | GI探究 グローバル・キャンパスに向けて① | 1年GIクラス |
| 9月9日 | GI探究 グローバル・キャンパスに向けて② | 1年GIクラス |
| 9月15日 | GIフィールドワーク Basic グローバル・キャンパス 立命館アジア太平洋大学（APU）との協働行事 | 高校1年生 |
| 9月16日 | グローバル・キャンパスの振り返り | 1年GIクラス |
| 9月30日 | GI探究 食と栄養（栄養、フードロス削減など）リサーチ① | 1年GIクラス |
| 10月14日 | GI探究 食と栄養（栄養、フードロス削減など）リサーチ② | 1年GIクラス |
| 10月21日 | GI探究 食と栄養（栄養、フードロス削減など）発表 | 1年GIクラス |
| 10月28日 | GI探究 食と経済（産学連携）企業とのコラボ商品開発① （商品開発導入） | 1年GIクラス |
| 11月2日 | GI講演 講師：環境活動家 谷口たかひさ氏 | 高校1年生 |
| 11月4日 | GI探究 食と経済（産学連携）企業とのコラボ商品開発② （企画書作成①） | 1年GIクラス |
| 11月6日 | Blue Earth 塾 エコワークショップ | 1・2年GIクラス |
| 11月11日 | GI探究 食と経済（産学連携）企業とのコラボ商品開発③ （企画書作成②） | 1年GIクラス |

| | | |
|--------|--|---------------------|
| 11月18日 | GI 探究 食と経済（産学連携）企業とのコラボ商品開発④ （企画書作成プレゼン①） | 1年 GI クラス |
| 12月2日 | GI 探究 食と経済（産学連携）企業とのコラボ商品開発⑤ （企画書作成プレゼン②） | 1年 GI クラス |
| 12月11日 | WWL 報告会（プレゼンテーション、ポスターセッション） | 高校1・2年生 中学3年生 |
| 12月17日 | 台中市立光明中(台湾)とのオンライン国際交流会 環境問題（主にSDGs No.6, 12）について | 1年 GI クラス |
| 12月19日 | 九州大学高大連携「世界に羽ばたく高校生の成果発表会」 | 1年 GI クラス 3名 |
| 1月13日 | GI 探究 食と環境（GI講演、WWL報告会の振り返り） | 1年 GI クラス |
| 1月20日 | GI 探究 食と環境（台湾との環境問題に関する国際交流会の 振り返り） | 1年 GI クラス |
| 1月27日 | GI 探究 食と環境（環境問題に関する意見交換） | 1年 GI クラス |
| 1月28日 | GI カナダ留学出発（4月3日帰国予定） | 1年 GI クラス 希望者13名 |
| 2月8日 | GI 探究 食と経済（産学連携）企業とのコラボ商品開発⑥ （商品企画・1次選考結果発表） | 1年 GI クラス |
| 2月10日 | GI 探究 食と経済（産学連携）企業とのコラボ商品開発⑦ （商品企画・2次選考に向けたリサーチ） | 1年 GI クラス |
| 2月17日 | GI 探究 食と経済（産学連携）企業とのコラボ商品開発⑧ （商品企画・2次選考結果発表） | 1年 GI クラス |
| 2月24日 | GI 探究 食と経済（産学連携）企業とのコラボ商品開発⑨ （商品の試作・広報計画） | 1年 GI クラス |
| 3月10日 | GI 探究 食のサミット準備（資料作成、グループ討論） | 1年 GI クラス |
| 3月11日 | 食のサミットプレ会議・サテライト会議 | 1・2年 GI クラ ス |
| 3月12日 | 食のサミット ステージ発表 | 全校生徒 |

活動の振り返り

①探究力の育成

フードロス削減に向けたアクションプランやSDGsに配慮した商品企画を考案することができた。次年度はそれを実行に移しながら、より深い問いを通してプランを改善していきたい。

③ グローバルマインドセットの育成

台湾や韓国の中高生と4回の国際交流を通して、学校生活や文化だけでなく、フードロスやマイクロプラスチック問題などについて英語でプレゼンや意見交換をすることができた。また、9月のグローバル・キャンパスでは、APUの多国籍の学生と文化的な交流やSDGsについてのプレゼンやディスカッションを行い、異文化理解力や多様性受容力が向上した。

③アントレプレナーシップの育成

産学連携の一環としての商品開発などを通して、オリジナリティやSDGsなどの付加価値を考慮しながら、人々に愛される商品づくりに取り組むことができた。

| | | | |
|-------|--------------------------|--------------------------------------|-----------------|
| 11-02 | 2021.5.13(木)～ 6.24(木) | GI探究の開発・実践①(1年次「食と社会文化」 ～アジアについて) | 拠点校： 1年GIクラス |
|-------|--------------------------|--------------------------------------|-----------------|

1. 概要

1年次GIクラスの「GI探究」における食の4領域のスタートとなった「食と社会文化」では、世界の食と理解を深めるために欠かせない世界の自然環境や文化についての授業を行い、その後にその知識を利用した個人発表を行った。新型コロナウイルス流行の影響により、ほとんどの授業がZoomを利用したオンラインでの実施となったが、発表は対面で行うことができた。

授業は日本を含むアジアに着目し、(1)地形・気候などの自然環境、(2)農業、言語・宗教、民族、(3)世界の食と地理的要素との関連についての内容を取り扱った。その中で、世界についての知識はもちろんのこと、日本との類似点・相違点に着目し、比較して考えることの大切さを学んだ。

発表はそれらの地理的知識をもとに、47のアジアの国のうち、クラスの41名それぞれに調べる国を割り当て、各国料理についての調べ学習およびKeynoteを利用したプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションには、①国名・首都名・国旗・国の位置・面積・人口などの基本データ、②自然環境や宗教・民族・生活文化、③料理名・由来・使用食材や作り方、④考察(気候・宗教・歴史などとの関係性)・まとめ、の4項目を入れるよう指示した。生徒たちにとっては、本校入学後に初めてKeynoteを利用したプレゼンテーションだったが、まとめ方・発表の仕方などはあえて各自に任せた。それは、友人の発表から自分に足りないところを見つけ、その後の諸々の発表に生かしてほしいという意図があったからだ。また、発表時間は1人2分の制限を設け、短い時間に端的に要点をまとめ、発信する力の養成を目指した。すべて生徒のプレゼンテーション後、教師による講評を行った。



2. 結果

発表後の自己評価等は以下のとおりである（自由記述での回答に関しては、主なものを抜粋）。

- (1) 自己評価…とてもよかった：0%、よかった：約 15%、どちらともいえない：約 56%、あまりよくなかった：約 27%、よくなかった：約 2%
- (2) 自分のプレゼンテーションのよかった点
 - ・図や写真を効果的に使う・アニメーションを付けるなど、工夫してスライドを作成・発表できた。
 - ・自分の担当の国の魅力を最大限に伝えられた。
 - ・単純に料理の説明で終わらず、宗教や歴史、自然環境とも関連付けて考え、話すことができた。
 - ・その国の言語を使って挨拶し、父（現地在住）の実体験を含めて話すことができた。
 - ・料理について多くのサイト調べたり、動画を見たりして理解を深めた状態で発表できた。英語で調べたことも大いに勉強になった。
- (3) 自分のプレゼンテーションの反省点
 - ・発表時の態度・姿勢に問題があった。
→声が小さかった、アイコンタクトができなかった・原稿ばかり見て話していた、抑揚をつけて話すことができなかった、話す速度が速かった、うまく話をまとめられなかった
 - ・疑問を持って深く調べることができなかったため、考察が不十分だった。
 - ・その料理がなぜ食べられているのか、その料理の起源などを深く詳しく説明できない状態で発表に臨んだので、準備不足だと思った。
- (4) 今回の授業により、興味を持ったこと・もっと調べたいと思ったこと
 - ・今回はアジアが対象だったので、ヨーロッパやほかの地域の料理も調べたいと思った。
 - ・食についてだけでなく、観光地や各国の風土、文化についてもっと知りたくなった。
 - ・旧宗主国や周辺国など他国の影響を受けてできた料理があったので、どこの国の影響力が大きいのかを、各国の独立までの歴史や位置・友好関係などから調べたい。
 - ・他の人のプレゼンと比較することで、宗教や気候によって食に違いがあることを知ったので、食以外の違いも調べたくなった。
 - ・各国と日本との関係について深く調べたくなった。
 - ・世界で好まれる味の共通点があるように感じた。どのような味が世界中の人に受け入れられるのか、もっと深く調べたい。
 - ・料理の話聞いて、行ってみたい・調べてみたい国が増えた。
 - ・いまだに内戦が起きている国が気になった。知ることで自分にできることはないか、それも考えていきたい。
 - ・Keynote やプレゼンテーションの作成方法、発表の仕方をもっと勉強したいと思った。



3. 考察

生徒の反応として、プレゼンテーションの内容よりも、発表の仕方に問題があると感じて自己評価が「どちらともいえない」や「あまりよくなかった、よくなかった」というマイナスの評価が多くなったようだ。ただし、これは自分のプレゼンテーションを客観的に見ることができた結果だと考える。

今回はほとんどがオンラインでの実施で、調べる内容や調べ方、まとめ方も十分な指導・指摘ができない状態だった。そのため、単なる「調べ学習の発表」で終えた生徒と、疑問点や課題を見つけて発展的なまとめができた生徒とに分かれてしまった。そのため、思考力・判断力・表現力を十分に高めることができたとはいえない。自他のプレゼンテーションから新たな課題、考えを形成する時間を取ることができなかつたことも悔やまれる。

しかし、「世界に目を向ける、日本との類似点・相違点から各国を知る・食について考える」ことはできたので、生徒の興味・関心を引き出すことは成功したといえる。今後の他の領域の探究や来年度への大きな足掛かりになったはずだ。生徒としては反省点が多かったようだが、担当者としては、今回のプレゼンテーションは生徒の今後が期待できるものであったと評価したい。

| | | | |
|-------|-----------------------------|---------------------------|--------------------|
| 11-03 | 2021.7.28 (水) ～12.17 (金) | GI 探究の開発・実践② (1 年次「食と環境」) | 拠点校： 1 年 GI クラス |
|-------|-----------------------------|---------------------------|--------------------|

今年度は、例年以上に食と環境について深める行事と、それに付随する事前・事後の学習の充実を図ることができた。導入として、地球規模の食問題と環境問題について知っていることを生徒から引き出したり、本やインターネットで調べたりする機会を設けた。続いて、生徒それぞれが関心を持つ食問題や環境問題をクラスで共有する中で、食と環境が関連する問題が多いことに生徒が気づくことができた。例えば、牛肉用の牛を育てる土地づくりのためにアマゾンの森林が焼かれていることや、我が国の年間 600 万トンを超える食品廃棄物などが挙げられる。このように、生徒の興味・関心や気づきを大切にしながら、豊富に準備された各行事でのインプットとアウトプットを繰り返す中で、多くの生徒が「食と環境」の世界的課題を知り、自分たちにできることを考えることができた。

授業の目的

日本や世界が直面する地球規模の「食と環境」に関する問題とその原因について調べ、自分の意見を持ち、個人としてできること、学校としてできること、社会として取り組むべき解決策を発表することができる。

食と環境に関連する行事

| 日付 | 行事 | 内容 |
|--------|-----------------------------|-------------------|
| 7月28日 | 深発見・韓国オンライン修学旅行（SDGs と都市開発） | 都市開発・食文化 |
| 9月15日 | グローバル・キャンパス | フードロス削減と貧困の解消 |
| 11月2日 | GI 講演 環境活動家 谷口たかひさ氏 | 地球温暖化と世界的課題（食を含む） |
| 11月6日 | Blue Earth 塾 エコワークショップ | 海洋プラスチック |
| 12月11日 | WWL 報告会 | フードロス削減 |
| 12月19日 | 九州大学高大連携「世界に羽ばたく高校生の成果発表会」 | コンポスト（堆肥） |
| 12月17日 | 台湾（台中市立公明中）との Zoom ディスカッション | 水質保全・フードバンク |
| 3月11日 | 食のサミット プレ会議・サテライト会議 | フードロス等 |
| 3月12日 | 食のサミット ステージ発表 | フードロス等 |

授業内容

1. 日本・世界の食と環境に関する諸問題とその原因の研究・発表
 - ・講義、リサーチ、グループ学習、クラスでの発表
2. 日本・世界の食と環境に関する諸問題に対する解決策の発表
 - ・講義、リサーチ、グループ学習、クラスでの発表
3. フードロス削減・食品廃棄物削減の取り組み
 - ・コンポスト活動の実施と発表
 - ・フードロスや食品廃棄物削減に向けたアクションプランの考案と選定
4. 食と環境に関するプレゼンテーションやディスカッションの実施
 - ・台湾の中学校とのオンラインセッション
 - ・クラス内でのリサーチと発表



深発見・韓国オンライン修学旅行



台湾（台中市立公明中）との交流



台湾（台中市立公明中）との交流



WWL 報告会



食のサミット サテライト会議

| | | | |
|-------|-----------------------|-------------------------|-------------------|
| 11-04 | 2021.10.28(木) ～継続中 | GI 探究の開発・実践③（1年次「食と経済」） | 拠点校： 1年 GI クラス |
|-------|-----------------------|-------------------------|-------------------|

今年度は昨年度実施した「アイスクリーム商品開発」企画が功を奏し、学園法人に株式会社石村萬盛堂様から、本校と協働し商品開発に取り組みたいとの依頼があった。このため、予定した探究の内容を変更し、内容を1年 GI クラス生徒と協議し目的と実施計画を考えた。（目的と実施計画は以下の通りである）

1. 目的

「食と経済」の探究授業の一環として取り組む。実体験を通して経済について学び、社会の課題や問題点について解決策を考えさせていく。また、企業と協働して取り組むことでイノベティブな人材育成に取り組んでいくため。

2. 実施計画

10/28：今回の企画と主旨を生徒と探究科教員で共有

→石村萬盛堂に関して調査

→いくつかのグループに分かれ商品案を検討

11/4・11/11：グループで企画書を作成

11/18：企画書プレゼン※探究の先生方向け→修正

12/2：企画書プレゼン※石村萬盛堂担当者向け

年明けより試作・広告宣伝等行い、3月のホワイトデーに向け販売戦略に取り組む

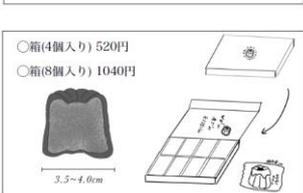
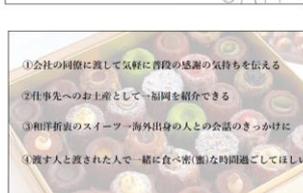
上記のような目的と実施計画を掲げ、企画書作りから始めることとなった。石村萬盛堂社長室長から製菓業界や製造業の市場変化等の話を聞き、ニーズに合わせた商品開発を検討し、以下の9つの案ができた。

- ① カヌレ…焼き菓子 ターゲットは会社員。お酒を使わずに風味を感じさせる。
シロップなどを利用。詳細は検討中。
- ② ブッセ…ターゲット：30～40代 コンセプト：手軽に感謝の気持ちを伝える
クリームは霧の子のクリームを利用。水仙を利用。過剰包装をしない
- ③ ステンドグラスクッキー…花言葉を中に入れる。エディブルフラワーを使う。
花言葉は書かない。若い人向け。
- ④ さんどっぺ…タルトで挟む。中はあんこ・ホイップクリーム・白玉。
甘いものが苦手な人へ
- ⑤ しゃもじ…どんたくからイメージ。5種類の味。八女茶・あまおう・チョコ・
明太クリームチーズ・キャラメルプレーン クッキーで挟む
- ⑥ バラエティーBOX…お菓子詰め合わせ BOX
- ⑦ チョコレート…押し花を入れる。花言葉。5個で1,500円程度
- ⑧ かりんとせんね…かりんとう+せんべい 40代以上がターゲット
- ⑨ バームクーヘン…味噌ろべり一味（味噌+いちご）

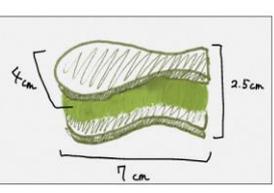
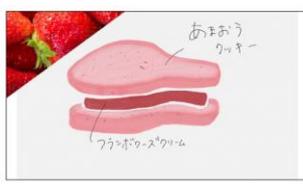
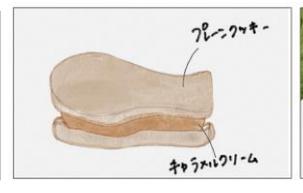
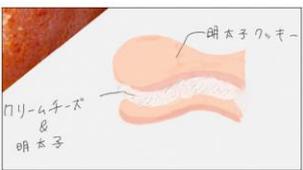
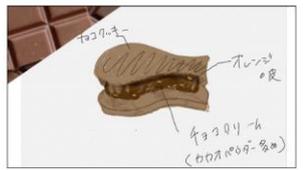
石村萬盛堂様へ以上9つの企画プレゼンを行い、選考の結果、以下の2つのプレゼンが採用された。

※実際に使用したプレゼンデータ

○商品1：みつとカヌレ

| | | | |
|--|--|--|--|
|  <p>みつとカヌレ もちっとみつと買いに行こっ!</p> | <p>キャッチフレーズ</p> <p>もちっとみつと買いに行こっ!</p> | <p>ターゲット</p> <p>・30-40代 会社員 ・友人向け</p> |  <p>フランスのお菓子 カリッとした表面 もちっとした食感</p> |
|  <p>もちっと 蜜 蜜甘い みつとカヌレ お菓子も心も笑顔にしたい</p> | <p>コンセプト</p> <p>友人関係や家族関係を繋ぐお菓子</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お菓子を通して距離を縮める ○手軽に食べられるミニサイズ ○お茶やコーヒーに合う、少し大人なスイーツ ○和洋折衷で特産品を使用したスイーツ | <p>八女抹茶味</p> <p>鶴の子風味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黄味餡 ・マシュマロ <p>抹茶パウダー 福岡県産 八女抹茶</p> | <p>チョコレート味</p> <p>無花果味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ココアパウダー ・オレンジピール <p>無花果のジャム 福岡県産 とよみつひめ</p> |
| <p>○箱(4個入り) 520円 ○箱(8個入り) 1040円</p>  <p>3.5~4.0cm</p> |  <ol style="list-style-type: none"> ①会社の同僚に渡して気軽に普段の感謝の気持ちを伝える ②仕事先へのお土産として一箱同を紹介できる ③和洋折衷のスイーツ-海外出身の人との会話のきっかけに ④渡す人と渡された人で一緒に食べ(集)まる時間過ごしてほしい | | |

○商品2：かんしゃもじサンド

| | | | |
|--|--|--|--|
| <p>商品名</p> <p>かんしゃもじサンド</p> <p>いつもありがとう</p> | <p>ターゲット</p> <p>社会人、既婚者</p> <p>家族や同僚、取引先など</p> |  |  |
|  <p>博多どんたく</p> | <p>コンセプト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日頃の感謝を簡単に伝えられるお菓子 2 博多どんたくにちなんだ人との繋がりを意識した商品 | <p>キャッチフレーズ</p> <p>感謝</p> <p>【あなたに送るかんしゃもじ】</p> |  <p>縦 2.5cm 横 7cm 幅 4cm</p> |
|  <p>八女茶 チョコレート オレンジピール あまおう キャラメルフレーズ</p> |  <p>あまおうクッキー フランス産のクリーム</p> |  <p>プレーンクッキー キャラメルクリーム</p> |  <p>ハセ茶クッキー ハセ茶クリーム</p> |
|  <p>クリームチーズ 明太子</p> |  <p>チョコクッキー プレーンクリーム キャラメルクリーム (カカオ60%以上)</p> | <p>詳細</p> <p>値段 1個あたり300円程度 縦7cm 横4cm 幅2.5cm 箱は2個、4個、6個、8個入りの4種類 味が5種類あるのでお客さんに味と個数を決めて買う形式</p> | <p>あなたに送る かんしゃもじ</p> |

コロナ禍のため、本校がオンライン授業に切り替わり、先方との打ち合わせが予定通り進まず、企画を次年度に持ち越すこととなる。商品 PR 活動等含め、令和4年6月完成を目処に再度活動計画を立て直し、取り組む予定である。

| | | | |
|-------|-----------------------------|---------------------------|--------------------|
| 11-05 | 2021.9.30 (木) ～10.21 (木) | GI 探究の開発・実践④ (1 年次「食と栄養」) | 拠点校： 1 年 GI クラス |
|-------|-----------------------------|---------------------------|--------------------|

今年度の GI 探究「食と栄養」では、「栄養満点！エコ・クッキングで世界を救え！～エコで栄養価の高いレシピを考えて実際につくってみよう！～」をテーマに生徒 41 名一人ひとりが食と栄養に関する問題解決に向けたレシピ作成とエコ・クッキングに取り組んだ。

授業では、グローバル・キャンパスで学んだ食品ロスについて振り返り、日本の食品ロスの現状や世界の飢餓など、日本と世界における食に関する問題について学んだ。設定テーマの解決方法として、1 品料理を考えることとし、使用食材や調理方法などを工夫したレシピの考案と身近にできるエコ・クッキングに取り組んだ。

前回食の 4 領域「食と社会文化」では、Keynote を利用したプレゼンテーション発表であったため、さまざまなツールの利用や発表形式を経験し、新たなスキルを身につけるために今回はツールの指定はせず、ポスターを用いた発表という形をとった。

また、グループの代表者に選ばれた生徒のポスターから高校 1 学年生徒に投票を行い、エコ・クッキング大賞の決定を行った。

1. 目的

日本や世界における食と栄養に関する問題や課題に興味・関心をもち、解決策を考える。エコ・クッキングを通して、食品ロスや環境問題について自分自身ができることを考え、実践する力を養う。

2. 実施内容

- (1) 9/30：栄養に関するテーマ設定とエコ・クッキングについて調べる
- (2) 10/13：設定したテーマの解決策を考え、レシピを作成
→完成したレシピをもとに自宅でエコ・クッキングに取り組み、ポスターを作成
- (3) 10/21：テーマごとにグループ内で発表
→レシピ代表者決め、その後クラス全体に発表

3. グループ分け

生徒が設定したテーマをもとに 8 つのグループに分けた。グループ分けとテーマ例は以下の通りである。

- | | |
|------------|----------------------------------|
| (1) 朝食 | 朝食欠食・朝食飢餓 |
| (2) 女性と美容 | 便秘解消・肌荒れ予防・女性の鉄不足 |
| (3) 食べ物 | ナッツの効果・集中力を上げる栄養・バナナの可能性・ファストフード |
| (4) 栄養素 | カルシウム不足・たんぱく質補給・中高生の栄養・減塩・ビタミン |
| (5) 肥満やせ 2 | 肥満・栄養不良による肥満・ダイエット・低カロリー・栄養失調 |
| (6) スポーツ栄養 | ソフトボールプレイヤー・プロ野球選手の食生活 |
| (7) 肥満やせ 1 | 肥満・栄養の偏り・ダイエット |
| (8) 野菜不足 | 若者の野菜不足・日本人の野菜不足 |

4. グループ代表者のポスター

第3回目 1 限目ではグループごとに分かれ、生徒一人ひとりが以下の内容をグループ内で発表し全体発表に向けて代表者を決定した。発表内容は、(1) レシピテーマ/料理名 (2) 取り組んだエコ・クッキング (3) 工夫した点/アピールポイント (エコ・クッキングと栄養面) (4) 作ってみた感想とした。その後、2 限目では GI クラスでの全体発表として、テーマについて調べた現状や解決策、グループ代表者はレシピの発表を行った。以下グループ代表者のポスターである。

①朝食

奥で寝れない人に盛り込みを詰め込んだ

オムレツ

(材料) (2人)

- ほうれん草 半袋
- 小松菜 半袋
- 卵 2個
- チーズ 適量
- ケチャップ 適量

(レシピ)

1. ほうれん草、小松菜をざく切りする
2. 2本の卵に卵、チーズを入れ、混ぜる
3. 1で切ったものを2に入れる
4. フライパンに油を引いて
5. 混ぜてフライパンに入れる
6. 焼き上がりまで蓋を閉めておく
7. 焼き上がりまで蓋を閉めておく
8. 焼き上がりまで蓋を閉めておく

(エコクッキング)

- ・キッチンペーパーなどで洗う前に洗う
- ・必要な材料を揃える
- ・マイバッグを使う
- ・ゴミを減らす
- ・煮物を使う
- ・適切な量の残さず調理する
- ・賞味期限を

(感想)

実際に作ることで出た感想、食感を美味しく調理できるところが良かった。普段から買ってきてるゴミも減らした。野菜も減らさず残さず調理できるところが良かった。普段から買ってきてるゴミも減らした。野菜も減らさず残さず調理できるところが良かった。

②女性と美容

炊飯器で簡単! 快腸秋の炊き込みご飯

野菜を皮付きで使う→栄養満点、フードロス減!

<材料>

- 米 2合(300g)
- 野菜(人参、玉ねぎ、かぼちゃ、さつまいも) 1本
- かぼちゃ 1/3本(加工済みでも可)
- 人参 1/4本
- しめじ 1/2パック
- 枝豆 お好みで
- 青ネギ お好みで
- 醤油 50ml
- 米りんご 50ml
- ★はちみつ 少々

旬の食材

→安値・栄養価が高い!

1. 米を研ぎ、米と水(炊飯器の表示通り)を釜に入れる
2. 高の水を100mlを取り出し、*を釜に入れる
3. さつまいも、人参、かぼちゃを皮を剥いておく
4. さつまいも(縦切り)、人参(千切り)は皮が剥いたまま切り、釜に入れる
5. さつまいも(横切り)、人参(千切り)は皮が剥いたまま切り、釜に入れる
6. 枝豆は皮を剥き、ささがきにする
7. 炊飯器のメニュー:炊き込みご飯で炊く

米のとぎ汁を再利用!

- ・油汚れなど煮た掃除
- ・料理の下ごしらえ

近所の店で収穫

国産野菜 炊飯器

③食べ物

バナナの可能性

バナナの素晴らしい栄養素!

- バナナは、(皮も含く)繊維が豊富
- バナナは、(皮も含く)ビタミンB6が豊富
- バナナは、(皮も含く)カリウムが豊富
- バナナは、(皮も含く)マグネシウムが豊富
- バナナは、(皮も含く)鉄分が豊富
- バナナは、(皮も含く)銅が豊富
- バナナは、(皮も含く)マンガンが豊富
- バナナは、(皮も含く)亜鉛が豊富
- バナナは、(皮も含く)セレンが豊富
- バナナは、(皮も含く)ヨウ素が豊富
- バナナは、(皮も含く)カリウムが豊富
- バナナは、(皮も含く)マグネシウムが豊富
- バナナは、(皮も含く)鉄分が豊富
- バナナは、(皮も含く)銅が豊富
- バナナは、(皮も含く)マンガンが豊富
- バナナは、(皮も含く)亜鉛が豊富
- バナナは、(皮も含く)セレンが豊富
- バナナは、(皮も含く)ヨウ素が豊富

最強の組み合わせ★バナナヨーグルトケーキ

(材料) 6人分

- バナナ (3本)
- ヨーグルト (450g)
- キャノーラ油 (50cc)
- ホットケーキミックス (180g)
- 砂糖 (大さじ3)
- 卵 (2個)
- バナナシロップ (小さじ1)

(作り方)

1. オープン190度で予熱開始
2. バナナを薄切りにして、ヨーグルトに入れてつぶす
3. 砂糖、キャノーラ油、卵を入れて混ぜる
4. ホットケーキミックスを入れて混ぜる
5. 型に入れて焼く
6. 焼き上がり後、バナナシロップを塗り、オープンで4分焼いて完成!

(エコクッキングポイント)

- マイバッグ使用
- 食べられる蓋を作る
- 電子レンジ利用
- 湯を沸かしてから洗う、洗剤を使わずに洗う

④栄養素

中高生の体が元気になる 朝ごはん

鶏肉サンドウィッチ

材料

- 食パン(2枚)
- 鶏肉
- レタス
- 茹でたまご(2個)

作り方

1. 鶏肉に味をつける
2. パンの耳とはんぶんんに切る
3. レタスを切る
4. ゆで卵をみじん切りする
5. 材料をパンに挟む

パンの耳をラスクみたいに違う料理を作り、無駄にしない

感想

自分自身もパンが好きではないけど、少しは食べられる人が増えるようなパンの耳を加工しました。それを活用して、無駄にしないようにしました。

⑤肥満やせ2

間食にピッタリオートミール ヘルシートマトリゾット

材料

- 1年産 3倍 松村 いずみ
- 玉ねぎ 1/4
- トマト 1/4
- ニンニク 1粒
- オリーブオイル 大さじ1
- オートミール 100g
- 水 600cc
- バター 適量

ポイント

- ・低カロリー・栄養満点!
- ・食物繊維たっぷり!
- ・手軽に作れる! 簡単!

作り方

1. フライパンに、バターをいれ熱する
2. 玉ねぎをみじん切りにして、油を飛ばす
3. トマト、ニンニク、オリーブオイルを加えて炒める
4. オートミール、水を加える
5. 煮えたら完成!

感想

ダイエット中にもよくヘルシーなメニューです。自分で実際に食べて、ダイエット効果のある食材を使ったので、満足感が高かったです!

⑥スポーツ栄養

鶏ササミとほうれん草のクリームスープ

材料

- 鶏ササミ 1塩
- 酒 少々
- ほうれん草 1束
- 玉ねぎ 1/4
- ニンニク 1粒
- バター 適量
- 小麦粉 少々
- 牛乳 適量

作り方

1. ほうれん草を洗って切る
2. 鶏ササミを煮る
3. ニンニクを油で炒める
4. 玉ねぎを加えて炒める
5. 小麦粉を加えて中火で炒める
6. 牛乳を加える
7. 鶏ササミ、ほうれん草、カシューナッツを加えて煮る

エコクッキング

- ・野菜を切る時だけ食べられる蓋を作る
- ・買物を使う分の蓋を作ったのはおかげで楽に作れた
- ・小麦粉を加えて中火で炒める

作ってみて

普段料理するほうだと、思うだけで新しいこと、感じるようになった

たのしかった! 美味しかった!!

⑦肥満やせ1

健康に良い美食

シトロートホフ

材料

- レタス
- キャベツ
- パプリカ
- にんじん
- きゅうり
- トマト
- 玉ねぎ
- アボカド
- 豆乳
- さきま
- 醤油
- クレイジーソルト

作り方

1. 目をシリコンバックに入れて洗う。
2. 一度洗った目をそのまま洗って乾かす。
3. AとBを混ぜて、野菜を洗う。

感想

こんなに簡単に栄養満点のサラダが作れるので、エコで、美味しいサラダが作れるので、これからも作ってみたいと思います。

⑧野菜不足

野菜たっぷりキッシュ

(材料 4人分)

- 冷凍パイシート 2枚
- 牛乳 100cc
- 卵 3個
- ほうれん草 1束
- 舞茸 1/4
- ベーコン 40g
- にんじん 1/5
- 玉ねぎ 1/4
- ミニトマト 3個
- チーズ 適量
- ブロックソー 1/5
- 紫玉ねぎ 1/4
- さやいんげん 2本

作り方

1. 冷凍パイシートを室温に戻す
2. 野菜を切る
3. フライパンにオリーブオイルを入れて中火でベーコンと野菜を入れて炒める
4. ボウルに卵、牛乳、塩、胡椒を入れて混ぜる
5. 炒めた野菜をボウルに入れる
6. パイシートを縦半分に折って敷く
7. 200°Cのオーブンに入れて焼く

感想

今回はエコクッキングと栄養満点解決策をうまく組み合わせレシピを作れたので良かった。とても簡単に作れたので次回には自分でも作ってみたいと思った。

5. 結果

発表後に行った自己評価は以下の通りである。(自由記述での回答は、主なものを抜粋)

- (1) 自分のポスター発表に対する自己評価…とてもよかった：約 5%、よかった：約 50%、
どちらともいえない：約 35%、あまりよくなかった：約 8%、よくなかった：約 2%
- (2) 自分の調べ学習・ポスター作成のよかった点
 - ・テーマについてしっかり調べることができた。ポスター作成では、色や文字の大きさを工夫した。
 - ・エコ・クッキングを常に考えながら料理ができた。発展途上国の現状を知ることができた。
 - ・自分なりに課題と向き合い、レシピを考えることができた。
 - ・Keynote を前回よりも上手く使ってポスターを作成することができた。
 - ・材料やレシピ、環境に優しい取り組みのポイントまですべてまとめたポスターができた。
- (3) 自分の調べ学習・ポスター作成の反省点
 - ・設定したテーマについて上手く調べ学習ができず、内容が薄いものになってしまった。
 - ・使用した食材の栄養やその効果について調べ方が不十分だった。
 - ・準備不足で伝えたいことが上手くまとめられなかった。
 - ・ポスター作成の際の反省（文字の大きさや量・内容・デザイン・色使い・イラストなど）
- (4) 次回プレゼンテーションを行う際、改善したい点（複数回答）…声の大きさ・スピード：約 28%、発表姿勢・態度（笑顔やアイコンタクト）：約 27%、発表内容：約 23%、ポスターやスライドの見やすさ：約 18%、その他：約 4%（発表内容を簡潔にまとめるなど）
- (5) 取り組んだエコ・クッキング（複数回答）…エコバックの使用：約 22%、食材の選択（旬や地産地消、消費期限などを考慮）：約 13%、献立や買い物時の工夫：約 11%、調理時の工夫：約 18%、食べる時の工夫（残さず食べるなど）：約 21%、片付け時の工夫（洗い桶の使用など）：約 14%、その他（洗い物なし）：約 1%
- (6) エコ・クッキングに取り組んだ感想
 - ・難しいことではないため、気軽に誰でもできるものだと思った。1人ひとりの少しの工夫や意識で地球環境などが変わっていくと考えたら、簡単なことだと思った。
 - ・簡単に取り掛かれるエコ・クッキングが多いのでこれからも実践したい。
 - ・普段よりもエコを意識したことで、より環境問題を身近に感じることができた。
 - ・小さな工夫でエコ・クッキングができて楽しかった。達成感があり家族にも喜んでもらった。
 - ・エコ・クッキングについてあまり考えたことがなかったのでよい機会となった。
 - ・自分の身近なところでエコ・クッキングができることに驚いた。
 - ・今まで考えたことがなかった食器の洗い方などを工夫できてよかった。
 - ・意識すればいつでも取り組めるものばかりなので、日常的に取り組みたい。
 - ・小さな行動1つで地球環境を少しずつではあるが、よくできると改めてわかった。
 - ・少し意識するだけでごみの量を減らすことができることを実感できた。
 - ・他の人の発表を聞いて、自分が知らないことをたくさん知ることができた。
- (7) 1 学年生徒投票結果
エコ・クッキング大賞：バナナの可能性（食べ物グループ）

6. 考察

生徒はこれまでの授業や「食と社会文化」の発表で、複数枚のプレゼンテーションを使用した発表経験はあるものの、1枚にまとめてポスター発表をすることといった経験は入学後初めてとなった。発表後に行った自己評価から、いかに自分の伝えたい内容を上手くまとめ発表するか難しく感じた生徒も多かったようだ。

今回、設定テーマをレシピで解決する方法をとったが、テーマの調べ方が不十分であったため、テーマ解決に直結したレシピを考案することができていない生徒も見受けられた。しかしながら、生徒それぞれが食と栄養に関する問題を設定し、解決に向けたレシピを考案、エコ・クッキングに取り組むことで、問題や課題の解決方法は多岐にわたることを友人の発表を通して学ぶことができたのではないかと考える。

また、「実際にエコ・クッキングに取り組むことで、小さなことでも環境問題の改善につながる」と、「自分自身にできることは多いということ」を生徒自身が実感し、「これからも実践したい」という生徒の言葉があった。これにより、環境問題についてより身近に考える機会になったのではないかと。担当者としては、前回の「食と社会文化」の発表が生きたポスター発表であったため評価したい。

| | | | |
|-------|----|------------------|--------------------|
| 11-06 | 通年 | GI 探究 2 年次の開発・実践 | 拠点校： 2 年 GI クラス |
|-------|----|------------------|--------------------|

GI 探究 2 年次は探究科 9 名の教員に加え、AL ネットワーク組織の協力を得ながら PBL 学習活動を開発・実践した。概要は以下の通りである。

〔GI クラス 2 年次の目標〕 課題解決力とイノベーションスキルの育成

〔育成する人材像〕 (高次の) 課題解決力、突破力、創造力、調和力などを備えた
グローバル・イノベーター

〔育成のための主な取り組み〕・「食」に関わる SDGs 課題探究

- ・ GI フィールドワーク Advance (11-09 詳述)
- ・ GI スキルアップセミナー (11-13 詳述)
- ・ 論文作成 (11-07、20-02 詳述)
- ・ 「食」のサミット (07-01 詳述)
- ・ それぞれの取り組みに関する事前指導および事後指導

GI 探究を開発するうえで常に心掛けて実践したことは、次の 3 つである。

- (1) すべての活動に事前学習（準備）、活動、事後学習（振り返り）を行い、特に事後の振り返りはシートを使って個人で内省した事柄を言語化し、グループや学級全体で共有した。

- (2) 一つひとつの活動が単発にならず、つながりを持たせるような生徒間、生徒教員間のフィードバックを行った。
- (3) 1年次に比べ、社会とのつながりや外部の大人との関わりを増やした。

GI 探究の開発と実践を重ねることで見えてきた生徒の成長と課題について、次の表にまとめた。

| | 成 長 | 課 題 |
|---------|---|--|
| 生徒の視点から | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を持ち、表現する ・内容を深掘りし、話し合いを充実させる ・実現可能で独自性のある解決策を提案する | <ul style="list-style-type: none"> ・計画を立て、時間を意識して実行する ・情報収集・コミュニケーションツールとしての英語運用能力を高める |
| 教員の視点から | <ul style="list-style-type: none"> ・身近な出来事から社会課題、世界の諸問題に至るまで、知るだけでなく、疑問を抱いてさらに考える ・アウトプット（表現、発表）を前提としてインプットする | <ul style="list-style-type: none"> ・解決策を提案に留めず、実行する（実行し続ける） ・実地調査（フィールドワーク）や実験、データやエビデンスに基づいて探究活動を行う |

最後に、探究活動を担当する教員も下記の2点の成長が得られたと考える。

- ・授業づくりをする際に、教科活動と探究活動の結びつきを意識する
- ・探究活動を支援する外部とのつながり、教育職員以外の視点に触れる

| | | | |
|-------|----|--------------------|------------------|
| 11-07 | 通年 | GI 探究における論文作成と指導方法 | 拠点校： 2年GIクラス他 |
|-------|----|--------------------|------------------|

本校では、SGH 事業から3年生で論文作成を行ってきた。論文内容の充実と質的な向上を図るために、本校教員以外の指導者（以下「学外指導者」と記す）の力もお借りすることで、生徒の課題研究や論文作成へのモチベーションを高めつつ、目標の達成へ向けた新たな取り組みを始めた。

1. 課題研究と論文作成の現状

本校のSGクラス（平成27～令和3年度）およびGIクラス（令和2年度以降）では、3年次に論文作成を行っている。これは、2年間または3年間の課題研究（探究活動）の成果をまとめ、公表するためのものである。これまでにも、その成果を実績として受験に活用してきた生徒も少なくない。しかしながら、それらの論文の出来栄は、総じて質的には決して高いものになっていないのが現状である。これは、生徒が考える基盤となる知識量が十分でないことに加え、取り組む時間が足りないことや要領が良くないことなどによるものと考えられる。本校の生徒たちは

とても素直で、何事にも真面目に取り組むことができるし、探究活動に取り組む意欲も旺盛であるため、能力伸長の可能性を大いに秘めていることを教員たちは確信している。

2. 今後の論文作成にあたっての期待

生徒たちへの探究活動や論文作成の方法などの基礎・基本については、GI探究の時間を中心としてこれまで通り本校の教員が指導していく。今後はそれに加えて、本校教員でない学外指導者からの意見や助言が、生徒たちの取り組みへの更なる意欲や能力を引き出してくださることを期待している。また、校内だけに限定せず、外部へ向けた発信型の発表会の開催についても、同様のことを期待して積極的に行っていきたいと考えている。

3. 学外指導者による論文指導の形態

2～3か月に1回程度の頻度で（調整の上、決定した日に）ご来校いただき、指導者1名につき担当するグループの生徒（5～8名）へ指導・助言をしていただく。各回の流れは概ね次の通り。

- ① HR教室にて本時の内容説明、指導者紹介
- ② グループごとに会場教室へ移動
- ③ その回の課題についての生徒発表（一人5～10分程度）
- ④ 発表に対する質問や意見の交換
- ⑤ 指導者による次回へ向けた課題提示や助言
- ⑥ 指導記録簿への記入（担任および本校の指導者への報告、生徒へのフィードバック）

4. 今年度の実施

① 学外指導者への説明

予めお願いしておいた8名の学外指導者が令和3年12月11日（土）に本校で開催したWWL報告会へ参加された際に、論文指導について説明する時間を設けた。また、次回の開催日時を伝え、参加への調整をお願いした。

② 第1回論文指導の実施

令和4年2月25日（金）6・7限に5名の学外指導者をお招きし、「論文テーマとリサーチクエスチョン、およびその設定理由」の課題で実施した。生徒の発表テーマと各指導者の専門分野とのマッチングにより6名または7名のグループに分け、生徒発表とその指導を行った。参加していただいた学外指導者は下表の通りである。

| No. | 指導者名 | 所属 | 役職 | 備考 |
|-----|-------|-----------------|---------|--------|
| 1 | 小野 博 | グローバル人材育成教育学会 | 理事長 | 運営指導委員 |
| 2 | 末松 大和 | アジア太平洋子ども会議イン福岡 | 専務理事 | 運営指導委員 |
| 3 | 田村 志朗 | 株式会社梓書院 | 代表取締役社長 | |
| 4 | 中島 義和 | 広島女学院大学 | 准教授 | 検証委員 |
| 5 | 山下 浩之 | 岡山理科大学 | 講師 | |

各会場での指導の後、HR教室に再集合して指導者の方々から講評をいただいた。また、指導者から記入していただいた指導記録簿（指導カルテ ※次ページの記入例を参照）を後日、フィードバックとして生徒に配布した。

5. 今後の予定

論文発表会（GIプレゼンテーション）の開催は令和4年7月29日（金）を予定している。これに向けて、学外指導者による指導を少なくとも2回程度は実施したいと考えている。論文発表会後は、例年通り論文集（冊子）を編集し、来秋の完成を目指すことにしている。

論文指導カルテ記入例

| | | | |
|---------------|---|---|--|
| 指導日 | 2022年2月25日(金) | 指導者(記入者) | 〇〇〇〇 |
| 本時の課題 | テーマとリサーチクエスチョン(研究課題)の設定について | | |
| 本時の課題に関する評価など | 項目 | 評価(5段階: C=標準) | 項目ごとのコメント(特にあれば) |
| | テーマが適切か | A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E <input type="checkbox"/> | 研究テーマの目の付け所はよいと思います。SDGsの視点からの研究が進められそうですね。 |
| | テーマの設定理由が明確か | A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input checked="" type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E <input type="checkbox"/> | 研究の設定理由を整理しながら、さらに深めてみましょう。あわせてキーワードの絞り込みを行きましょう。 |
| | リサーチクエスチョンが適切か | A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input checked="" type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E <input type="checkbox"/> | 子どもと大人それぞれの立場・視点から考えようとしているのはとてもよいと思いますので、リサーチクエスチョンの形で示せるように工夫をしてみましょう。 |
| | 発表(説明)が明快か | A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E <input type="checkbox"/> | 根拠となるデータ(数値)を示していたのはよかったです。 |
| | 発表(説明)時の態度・マナー | A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E <input type="checkbox"/> | さらにより発表ができる下地がありますので、期待しています。 |
| | | A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E <input type="checkbox"/> | |
| | 全体的なコメント | 食品ロスは解決すべき重要な問題です。それを給食の視点から取り組むことは、小・中学生やその教員のみなさんにも発信できる可能性があります。楽しみにしています。 | |
| 今後の課題 | キーワードを3~5つに精選していきましょう。あわせてテーマにひと工夫を加え、伊藤さんが何を研究し、明らかにしたいのかがわかるようにしていきましょう(「焦点化」)。研究の理由・動機も言葉を整理してみるといいと思います。引き続き、頑張ってくださいね。 | | |

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|-----------------|
| 11-08 | 2021.9.15 (水) 9:00~16:00 | GI フィールドワーク Basic (グローバル・キャンパス) の開発と実施 | 拠点校： オンライン併用 |
|-------|-----------------------------|--|-----------------|

9月15日(水)に、本校の恒例行事「グローバル・キャンパス」を開催した。この行事は、食の問題に関わる講座を受講し、立命館アジア太平洋大学 (APU) の留学生と英語でコミュニケーションを取りながら、食を中心とした地球規模の課題についての認識を深めることを目的としている。今年度は「食文化の理解」と「フードロス」をテーマに設定した。また、今回も昨年度に続き、緊急事態宣言下ということで、オンラインでの実施となった。

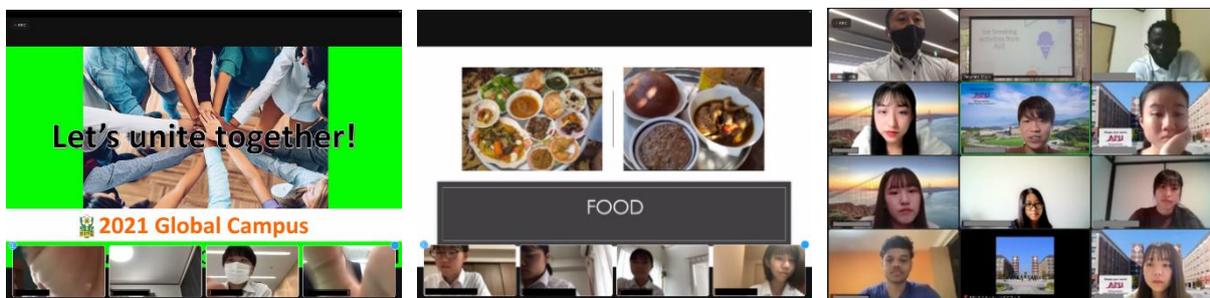
午前中は、本校に集合した GI クラスの生徒全員が、食料廃棄物の削減という課題について、企業の様々な取り組みや自分たちでできることのアイディアを 12 名の APU の国際学生 (「GL=グローバル・リーダー」と称する) へ向けて英語で発表した。また、グループごとに分かれて話し合いも行った。

午後は、高校 1 年の全生徒が自宅などからオンラインで参加した。オープニングでは APU に通う本校卒業生が、新しい挑戦、そして、目の前にある小さな目標の積み重ねがいつの間にか大きな夢の実現になっていることを語り、充実した学生生活について紹介してくれた。また、英語での留学生の挨拶では、アジア各国の雰囲気加里モートを通して伝わってきた。

各クラス単位での留学生との交流も、留学生が自国の文化について、わかりやすく画像を取り入れたパワーポイントを使って、英語で説明をした。そこから、生徒たちは疑問点を見出し、積極的に英語で質問した。意思疎通が難しかった生徒もいたが、留学生に親切に対応され、「相手に興味・関心を持って話そうとすることが大事 (もちろん、英語で)」との助言をもらうクラスもあった。

また、APU 在学中で学生起業家の古川 (ぴかりん) さんと高山 (なっぴー) さんに「フードロス」に着目して講演をしていただいた。先進国でありながら、相対的な食の貧困に陥っていることや、食べ物に困る一方で捨てる食べ物がある問題など、社会問題として真剣に向き合うための起業であること、このような起業の原動力は好奇心であることなど、得ることの多い講演であった。

英会話力、コミュニケーションスキルを高めること、異文化の多様性を理解すること、「フードロス」についての認識を深め、今、自分にできることを自主的に実践していくことなどを学ぶことができるよい機会となった。



○オンライン実施タイムスケジュール(午前:GIクラスのみ参加)

| 時間 | アクティビティ | 内容 | 場所 | 準備 | 配時 | 形態 |
|--------------------|--|---|---|---|----------|----|
| 9:30 ～ 12:30 | 1..APU 学生 による大学 の授業紹介 及び授業実 践 2.GI クラス生 徒と留学生 12名との協 働学習 | 卒業生含む APU1年生 4名主導による GI クラ ス生徒と留学生 12名 (GL)とのコラボ授業(40 分) 食に関する課題解決の ためのディスカッション とプレゼンテーション (120分) | ※担任の Zoom ア カウント内で活動 本部:講義室 H 担任:AL 室 生徒:視聴覚室 | ディスカッ ション及 びプレゼ ンテーショ ンのため に事前指 導要(オ ンライン) | 180 分 | 一斉 |

○オンライン実施タイムスケジュール(午後:全クラス参加)

| 時間 | アクティビティ | 内容 | 場所 | 準備 | 配時 | 形態 |
|---------------------|-----------------------------------|--|---|---|-----|----------|
| 13:15 ～ 13:35 | 1.オープニン グ | 校長挨拶 APU 紹介(R2年度卒業 生) GL 挨拶(12名全員) 生徒代表挨拶 当日のスケジュール確 認 | ※学校の Zoom ア カウント内で活動 本部:講義室 H 担任:HR 生徒:自宅 | Zoom 有 料アカウ ント要 通信トラ ブル対応 | 20分 | 一斉 |
| 13:35 ～ 13:45 | 休憩 | | | | 10分 | |
| 13:45 ～ 14:25 | 2.英語コミュ ニケーション | GL...自己紹介、母国の 食文化紹介(25分) 質疑応答(15分) | ※各担任の Zoom アカウント内で活動 GI クラスから進学 クラスへ各2名ず つ派遣(計 14名) | 13日(月) LHR で質 問内容を 決めてお く | 40分 | 各ク ラス |
| 14:25 ～ 14:35 | 休憩 | | | | 10分 | |
| 14:35 ～ 15:50 | 3.APU 学生 起業家から の SDGs 講座 | 古川光さん(あまいろ商 店代表 APU4年生)に よる講演 質疑応答 生徒代表挨拶 | ※学校の Zoom ア カウント内で活動 | 質問する 生徒は特 進・GI・進 学から最 低1名ず つ | 75分 | 一斉 |

○グローバル・キャンパス事前/事後生徒アンケート結果

以下の5項目に対し、意識調査として生徒に4段階評価（1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない）を行った。

| | | | ①事前 | ②事後 | ①-② |
|----|-----------|---|------|------|-------|
| 1 | 異文化適応度 | 自分とは異なる文化的背景を持つ人々と、一緒に活動することに違和感を感じない | 2.16 | 1.74 | 0.42 |
| 2 | | 海外で勉強（留学）してみたい | 2.79 | 2.44 | 0.35 |
| 3 | | 生活のいろいろな場面で、他の国との関わりが増えることにより、自分の可能性が広がると思う | 1.83 | 1.67 | 0.16 |
| 4 | | 英語が公用語化されても十分に能力を発揮できる | 3.55 | 3.22 | 0.33 |
| 5 | グローバル関心度 | 世界中の人との交流の機会や情報を生かせるようになりたい | 2.13 | 1.9 | 0.23 |
| 6 | | 外国の人々に興味がある | 2.07 | 1.76 | 0.31 |
| 7 | | 外国の人々と一緒に学びたい | 2.26 | 2.11 | 0.15 |
| 8 | | 外国のことについて知識や理解を深めることは、自分の可能性を広げることにつながると思う | 1.82 | 1.69 | 0.13 |
| 9 | | グローバル化が進展すると日本はもっと良くなる | 1.92 | 1.72 | 0.2 |
| 10 | | 外国のことを知るの大切だ | 1.58 | 1.6 | -0.02 |
| 11 | アイデンティティ度 | 日本について知識や理解を深めることは、外国についてと同様に重要だと思う | 1.68 | 1.59 | 0.09 |
| 12 | | 日本人であることを誇りに思う | 1.71 | 1.67 | 0.04 |
| 13 | | 日本の文化や習慣などについて良く知っている | 2.49 | 2.5 | -0.01 |
| 14 | 英語 | 英語ができなくても自分には全く問題ない* | 2.39 | 2.22 | 0.17 |
| 15 | 肯定 | 英語ができるようになりたい | 1.63 | 1.6 | 0.03 |
| 16 | 態度 | 英語を母国語とする人のような英語を話せるようになりたい | 1.91 | 1.86 | 0.05 |
| 17 | | 英語の発音は大切だ | 1.73 | 1.66 | 0.07 |
| 18 | | 他の日本人の前で英語を話すのは恥ずかしい* | 3.21 | 3.21 | 0 |
| 19 | 積極性 | 自分の意見をはっきりと持っている | 2.70 | 2.54 | 0.16 |
| 20 | | なんでも興味を持つほうだ | 2.45 | 2.31 | 0.14 |
| 21 | | すぐに行動に移さないと気がすまない方だ | 2.87 | 2.77 | 0.1 |
| 22 | | この研修に意欲的に参加しようと思っている | 2.12 | 1.91 | 0.21 |

*赤字部分は逆質問のため、値を「6-X」で算出

[アンケート分析]

- ▶ 5項目のうち「異文化適応度」において事前・事後の伸びが0.32と最も大きかった。オンラインであっても留学生とコミュニケーションが取れたことで、異文化に対する許容度が広がり、理解が深まったと思われる。特に項目1「自分とは異なる文化的背景を持つ人々と、一緒に活動することに違和感を感じない」の伸びが0.42と非常に大きかったところに成果を感じる。
- ▶ 「アイデンティティ度」の項目13は事前・事後ともに低い数値となっているが、研修内容から質問に結びつかなかったと考えられる。事前学習としてもう少し日本の文化や習慣を学ぶ機会を作る必要があると思われる。
- ▶ 「積極性」については全体的に低い評価となっているが、研修を通して若干数値は増加している。今後様々な活動を通して、積極性を高める必要があると感じる。

| | | | |
|-------|--------------------------|---|-----|
| 11-09 | 2022.3.21（月） ～3.25（金） | GI フィールドワーク Advance(海外フィールドワーク) の開発と実施 | 拠点校 |
|-------|--------------------------|---|-----|

コロナ禍で、学校行事や WWL コンソーシアム構築支援事業に関する活動の多くが縮小、変更、時に中止を余儀なくされてきた。その中で大きな変更が生じた活動が GI フィールドワーク Advance である。対象となる 2 年 GI クラスは 1 年次のカナダ留学も中止となり、これまで行ってきた探究活動の現地調査のためにも、海外研修を最優先する形で当初 10 月中旬実施を 3 月下旬に延期することで海外研修の可能性を探っていた。しかし、新型コロナウイルス感染症が収まる気配がなかったために、国内研修に変更した。その際、拠点校の探究活動の目的やこれまでの学びを一番理解している旅行業者に選定し、選定後も現地コーディネーターと何度も打ち合わせを重ねて実施に至った。また、フィールドワークに関する事前学習、事後学習（令和 4 年度実施計画）についても現地コーディネーターに参加してもらい、社会とのつながりも意識した活動になるように心掛けた。なお、海外研修のねらいとしていた、外国の文化に触れ、言語を活用する目的に関しては、研修 4 日目の留学生との交流に加え、シンガポール・オンラインセミナー（11-10 詳述）を実施することで不足を補うこととした。詳細については次の通りである。

〔日程〕 令和 4 年 3 月 21 日（月・祝）～3 月 25 日（金）4 泊 5 日

〔テーマ〕 1. 「食」を通じた社会課題解決の現場を知る

2. 人との出逢いを楽しむ

3. 新しい『自分』を発見する

〔研修先・研修内容〕

1 日目 熊本県南阿蘇村

- ・熊本震災遺構訪問（自然の恵みと脅威に学ぶ）
- ・阿蘇ファームランド（SDGs と食のつながり）
- ・ASO MILK FACTORY（地産地消と食のブランディング）



2日目 熊本県人吉市、鹿児島県霧島市

- ・ひまわり亭（本田節さんによる食と命のつながり・災害支援についての講演、郷土料理を楽しむ、よもぎ饅頭作り体験）
- ・霧島神宮参拝（ガイドによる歴史学習）
- ・SGDs カードゲーム（経済、社会、環境と世界の状況の変化）



3日目 鹿児島県霧島市、鹿屋市

- ・日当山無垢食堂（古川理沙さん講演「心地よい循環の起点を作る」、自然農法で栽培された大豆を使った豆腐作り体験と試食）
- ・ユクサおおすみ（廃校を活用した地域活性化、カヤック体験）



4日目 鹿児島県曾於郡大崎町、宮崎県宮崎市

- ・サーキュラーヴィレッジ・大崎町（ごみのリサイクルによる環境保全と地域活性化）
- ・宮崎シーガイア（留学生との英語交流）



5日目 大分県別府市

- ・城島高原パーク（グループ研修）



なお、新型コロナウイルス感染症予防対策を行いながらの活動実施を心掛け、食事と集合写真撮影以外はマスクを着用して活動を実施した。また、研修の終わりには必ず講師やその他の関係者に御礼の挨拶をさせることは、アウトプットを前提としたインプットに繋がったと考える。下記は生徒3名の国内フィールドワークの感想だが、研修先が海外から国内に変更になったにも関わらず満足度が高く、同時に研修の目的が十分達成されたものと思われる。今後の探究活動に活かしたい。

〔生徒の感想〕 * 原文引用

・初めは、予定していた国外に行くことが出来なかったのは留学も出来なかった分、すごく楽しみにしていたので国内になりとてもショックでした。けれど、オンラインや、学校に来ていただいている講師の方々にお話をさせていただく機会とはまた別の学びがありました。実際にお会いしてお話を聞くことができる事により、講師の方々のされている活動への思いを感じることが出来たし、体験・活動をする事で身体を動かし、なかなか体験することが出来ない事をする事が出来

来ました。4日目の大岩根さん方とのお別れの際にお礼を言わせていただいた時、ずっとどこかの場面(5日間)で何か発表したいなと思っていただけ、咄嗟に手を挙げて人前に出て発表していた自分に驚きました。上手く伝えられていたかは分からないし、後から伝えたいことが言えてなかったなと感じたので少し悔いがありますが、普段の自分ではなかなかない行動だったので自分でもびっくりしたし、講師の方々の話から学んだ事を少しかもしれないけれど行動に移し成長出来た自分があるな、と嬉しく感じました。全体を通して人との繋がり大切さ、進んで物事を行う重要性を学ぶことが出来たので、これからの生活に活かしていきたいです。

・本当に貴重で充実した自分の人生の中で大事な思い出になりました。本当に言葉にできないくらい楽しくて友達とか家族に話し切れません。沢山の大人の人の生の声を聞いて「人のために」自分もそういう人になりたいって凄く思ったしああいう人に自分もなりたいたいと思いました。自分も沢山の経験をして勉強して夢を叶えて自分に必要な力をつけて何か自分で行動したいと思いました。町のため人のため環境のため世界のために最前線で頑張っているカッコいい大人の人たちに出会えて本当に行ってよかったと思う国内フィールドワークでした。

・今回の研修旅行に参加してとても良かったと思います。沢山の講義を聞いて人との繋がりを大切にしたり今できることを一生懸命取り組むなど色々なことを外に出て実際に学ぶことができていい経験になりました。食にまつわるが多かったのでご飯もこれ以上食べれないくらい心のこもったご飯が美味しかったです。また、クラスのみんなども距離が縮まったりとコロナ禍で数少ないイベントの中で濃い思い出ができて良かったです。

| | | | |
|-------|-----------------------------|----------------------|---------|
| 11-10 | 2021.12.27(月) 9:00~13:00 | シンガポール・オンラインセミナーへの参加 | オンライン参加 |
|-------|-----------------------------|----------------------|---------|

拠点校では、GIクラス1年生を対象に3か月(1月~3月)のカナダ留学、GIクラス2年生の海外FW(シンガポール・マレーシア)を計画している。しかし、コロナ禍の影響を受け、現GIクラス2年生は海外渡航が一度も実現していない。その現状を受け、ISAが主催するシンガポール・オンラインセミナーを実施する運びとなった。研修内容の概要は下記の通りである。

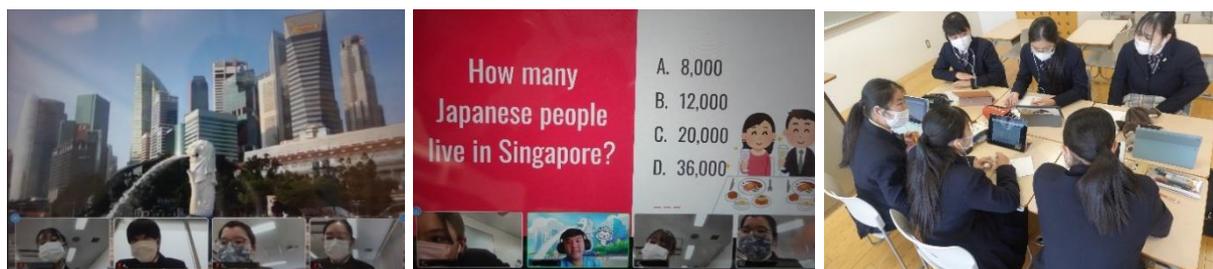
[研修内容]

1. バーチャル観光

- ・シンガポールのガイドさんによる観光
- ・現地不動産会社にお勤めの方によるシンガポールの住宅事情や日常生活
- ・現地シェアオフィス One & Co 代表によるシンガポールの企業、シンガポールで働く魅力
- ・シンガポール国立大学(NUS) 卒業生で本プログラムの手配代表者による NUS の紹介

2. NUS 学生との交流（グループに分かれ全編英語で実施）

参加生徒たちには事前と事後にどの研修内容に関心があるか、実際に受けてみた感想などのアンケート調査を行った。事前の調査では、一番楽しみにしている内容がガイドによる観光だったのに対し、事後では NUS の学生との交流が一番楽しかったという結果になった。この結果から、英語を使った主体的な交流活動への意欲を高めることができたと考えている。また、事前アンケートではこの研修で達成したい目標や NUS の学生に質問したいことを事前に設定させたことで、研修自体が実践の場として活用できたことがうかがえる。オンラインでの実施ではあったが、一定の効果があつたと考えている。今後もオンラインであっても海外の人との交流や英語を活用する機会を創出していきたい。



| | | | |
|-------|------------------|------------------|---------|
| 11-11 | 2022.1.28～4.4 実施 | GI 留学プログラムの開発・実施 | 拠点校・カナダ |
|-------|------------------|------------------|---------|

昨年度の GI クラス発足を機に、この留学プログラムを開始したが、カナダ国内の新型コロナウイルス感染症の蔓延のために渡航不可となり実施できなかった。今年度は幾分ではあるが新型コロナウイルスの影響が弱まり、ビザの取得や PCR 陰性証明書の提示などの条件がクリアできれば渡航できるようになったため、ようやく初めての実施にたどり着くことができた。下の表に今年度の出発までの流れの概要を示す。なお担当する旅行取扱業者は、前年度に選定を行い既に決定しており、今年度も引き続きお願いした。

| 日付 | 名称・項目 | 内容 | 場所 |
|------------------|---|--|----------------------|
| 2021.7.17 (土) | 第1回 GI 留学プログラム説明会 (GI クラス 1 年生徒・保護者全員 対象) | 留学のメリット、プログラ ム概要、申込書記入要領、留 学支援金の説明など | 視聴覚室 |
| 7.28 (水) | 参加希望動向調査 (GI クラス 1 年 保護者対象) | 参加・不参加のアンケート | オンライン |
| 9.4 (土) | 第2回 GI 留学プログラム説明会 (参加希望の生徒・保護者対象) | カナダ留学の現状、渡航に 関わる変更点、申込書の記 入など | 視聴覚室、 オンライン併 用 |
| 9.15 (水) | 参加申し込み〆切 | 参加申込書を旅行社へ提出 | - |

| | | | |
|---------------------|----------------------------------|--|--------------|
| 11.1 (月) | カナダビザ取得に関する説明会 (参加希望者全員) | 大阪でのビザ申請への準備と当日の行程の説明 | AL ルーム |
| 11.4 (木) | カナダビザの申請 (参加希望生徒全員) | 大阪のビザ申請センターにて生徒個人によるビザ申請 | カナダビザ申請センター |
| 11.6 (土) | 第3回 GI 留学プログラム説明会 (参加する生徒・保護者対象) | | 視聴覚室、オンライン併用 |
| 2022.1.12 (火) | 第4回 GI 留学プログラム説明会 (参加する生徒・保護者対象) | 主な変更点、現地の最新情報など | 視聴覚室、オンライン併用 |
| 1.17 (月) | 出発式・第1回参加者オリエンテーション | 学校長挨拶、代表生徒挨拶、必要書類・荷物の確認などの留学へ向けての最終確認 | オンライン |
| 1.18 (火) ~ 1.27 (木) | オンライン授業受講 | 新型コロナウイルス感染症予防のため自宅で受講 | 各家庭 |
| 1.25 (火) | 出発前 PCR 検査 | 出国 72 時間前の陰性証明が必要なため | 旅行社オフィスなど |
| 1.26 (水) | 第2回参加者オリエンテーション | ArriveCAN (カナダ渡航のための情報登録アプリ) への登録、出発への最終確認 | オンライン |

なお、今回の参加者は最終的に 13 名となった。7 月 28 日に調査した段階では、「参加する」が 16 名 (39.0%)、「未定」が 11 名 (26.8%) であったが、費用面やコロナ禍中での渡航不安などが影響した結果、予想より少ない参加者になったと推測される。



[留学プログラム行程表]

| 日次 | 日付 | 出発地・帰着地 | 現地時間 | スケジュール |
|--|-----------------------|--|---|---|
| 1 | 2022年 1月28日 (金) | 福岡空港発 羽田空港着 発 成田空港着 発 バンクーバー着 発 トロント着 | 9:30 11:15 12:50 13:50 15:15 18:00 9:30 13:00 20:17 | 福岡空港国内線集合 福岡より全日空 (NH248便) にて羽田へ 羽田到着後リムジンバスで成田空港へ 成田空港にて出国手続き エアカナダ (AC004便) にてバンクーバー経由 でトロントへ バンクーバー到着後、カナダ入国・PCR検査 エアカナダ国内線 (AC116便) に乗り継ぎトロ ントへ トロント到着後、現地スタッフと合流しホテル へ移動 【トロント市内のホテル 2泊】 ※ 1/28~30は隔離期間としてホテル滞在 |
| 3 ~ 64 | | | | ◎ 1月30日 (日) にホームステイ先のロンドン地区へ移動 (トロントから約2時間) ※ バンクーバーでのPCR検査の結果が陰性の場合 ◎ 2月7日 (月) よりロンドン地区の公立高校4校に分かれ通学開始 ▶ John Paul II (1300 Oxford St. E London, Ontario) ▶ Mother Teresa (1065 Sunningdale Road East London, Ontario) ▶ Saint Andre Bessette (2727 Tokala Trail London, Ontario) ▶ St. Thomas Aquinas (1360 Oxford St. West London, Ontario) ◎ 授業日: 月~金曜日 ◎ 単位認定なし (学期全体の授業に出席できないため) ◎ ホームステイ: シングルプレイスメント |
| 65 | 4月2日 (土) | トロント発 バンクーバー着 発 | 9:00 10:52 13:15 | ホストファミリーと別れ、専用車にて空港へ 経由地バンクーバーにて出国手続き エアカナダ国内線 (AC105便) を乗り継ぎ国際線 (AC003便) で成田へ 日付変更線通過【機内泊】 |
| 66 | 4月3日 (日) | 成田空港着 | 15:10 | 到着後、入国手続き・抗原検査 【成田のホテル泊】 |
| 67 | 4月4日 (月) | ホテル発 羽田空港発 福岡空港着 | 10:00 12:30 14:25 | ※ 成田での抗原検査が陰性の場合 バスにて羽田空港へ 全日空 (NH253便) にて福岡へ 到着・手荷物受け取り後、解散 |
| ※ 自宅に到着後、原則7日間の自宅待機。入国後3日目以降に自主検査を受け陰性の場合、厚生労働省 (入国者健康確認センター) に届け出て確認が完了すれば自宅待機は求められない。 | | | | |

新型コロナウイルスの影響は昨年度より弱まったものの、流行には波があり、それによって日加両政府や航空会社の対応が次々に変わるため、その都度計画の変更を行った。当初はエアカナダの羽田~トロントの直行便が1月より再開されると聞いており、1月27日(木)の出発予定であった。しかし、直行便の再開が3月から延期となり、バンクーバー経由かつ就航日の関係で

1日遅れの1月28日（金）の出発となった。また、当初は免除されていたカナダ到着直後のホテル滞在も、2泊が強制されることとなった。生徒たちが滞在中に通常の学校生活を送れることを願ってやまない。（2022年1月現在）

先進的な留学プログラムを有する連携校の京都先端科学大学附属高等学校とは、国際部の先生方とメールや電話、研修会での懇談などで密に留学プログラムについてのノウハウを共有した。これまでの豊富な実施経験から様々な助言や想定されるトラブル事例などを説明していただき、今回の実施に至ったことは感謝しきれぬ思いである。両校のプログラムがさらに充実したものとなるよう、今後も情報交換を進めていきたい。

課題としては、説明会や留学準備のオリエンテーションがより円滑に進められるように、綿密な計画を立てて実行に移すことがあげられる。特に新型コロナ禍においては、頻繁な予定変更を余儀なくされるため、計画設定と実施への柔軟な対応が求められる。

〔福岡出発 1月28日午前〕



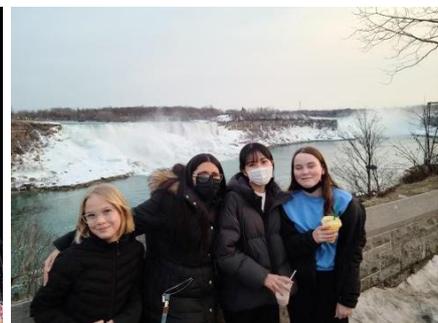
〔羽田から成田へ〕



〔トロント到着 1月28日夜〕



〔現地にて～ナイアガラの滝など〕



～March 19 (Report in Canada)



I often go to grocery store with my host family on Saturday.
Canada's store is so big and there are so many fruits in there. When I saw it for the first time, I was surprised!

When I go to shopping with me friends, I bought CD of my favorite band. This band is not famous in Japan, so maybe goods of this band isn't sold in Japan so I was so glad when I found these things and bought!



When I look at the yard from inside the house, I often see wild animals such as bunny,squirrels and many kind of birds,so I always enjoy looking out

When I go to shopping mall,I went to gems center.
There were a lot of game I didn't know also I was surprised at how to pay money differently from Japan



Miko Fukamachi

| | | | |
|-------|-----------|----------------|----------|
| 11-12 | 2021.7～9月 | GI 留学プログラム参加支援 | 管理機関・拠点校 |
|-------|-----------|----------------|----------|

本年度より開始した「GI 留学プログラム」(GI1 年生対象・カナダ 3 ヶ月間)において、本学園より留学支援金制度を設置した。本制度は、留学希望者を対象に選考を経て適用するもので、最大 3 名に渡航費用の半額相当の奨学金(貸与)が支給される。留学支援金設置の経緯は、以下の 3 点である。

1. 入学後に支給される支援金を設置することで、生徒のモチベーションや学習意欲の向上に繋げる。
2. 留学目的を整理させ、留学の成果を高める。
3. 経済的支援により、留学希望者を増やすことで海外進学者の増加が期待できる。

7 月に行われた留学説明会にて保護者・生徒への案内を行い、8 月に一次選考(校内審査)、二次選考(学園審査)を 9 月に行った。選考においては、審査基準として学業成績は加味せず、時代の変遷に即したかたちで「思考力」「判断力」「表現力」をより重視した。なお、選考は一次選考(エントリーシート)・二次選考(プレゼンテーション)とし、選考内容は以下のとおりである。

- ▶ 一次選考(校内審査):「留学中のビジョン」、「実行可能性」、「留学後のクラス・学校への貢献度」について、規定の用紙に日本語・英語にて記述する。
- ▶ 二次選考(学園審査): テーマ「なぜ留学したいのか」について、5 分間のプレゼンテーションを行う。

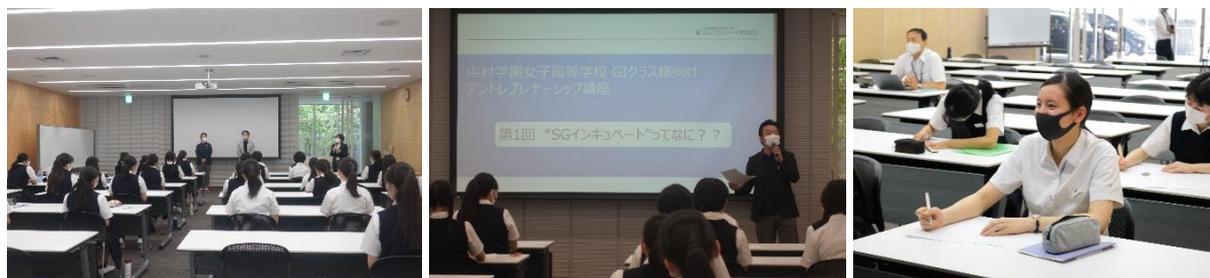
一次選考では志願者 15 名中 8 名が通過し、二次選考では 3 名が合格した。合格者 3 名については、帰国後に成果発表を行う。

| | | | |
|------------|----------------------------|--|-----------|
| 11-13 ① | 2021.6.5 (土) 9:00～10:30 | GI スキルアップセミナーの開発・実施① (GI アントレプレナーシップセミナー) | 拠点校: 視聴覚室 |
|------------|----------------------------|--|-----------|

事業協働機関である西部ガスグループ SG インキュベート株式会社協力のもと、2 年生の GI クラス生徒を対象にイノベーター育成のため起業家精神(アントレプレナーシップ)を学ぶことを目的としたセミナーを 6 月～7 月にかけて全 4 回実施した。第 1 回では SG インキュベートとは何か、スタートアップ企業への投資の決め手となるものなどに関する講演を聞いた。また、近年若い起業家が増えてきたことや若い起業家を支援する仕組みができつつあることを知ることができた。詳細については次の通りである。

- [講師] SG インキュベート株式会社 代表取締役社長 相川 洋氏
[テーマ] “SG インキュベート” って何 ??

- 〔内容〕
- | | |
|----------------------|--------------|
| 1. 自己紹介 | 2. 西部ガスの事業概要 |
| 3. SG インキュベート事業概要 | 4. 投資の目的と目線 |
| 5. 第2回以降の起業家について概要説明 | 6. 質疑応答 |



| | | | |
|------------|------------------------------|---|----------|
| 11-13 ② | 2021.6.10 (木) 14:10～15:50 | GI スキルアップセミナーの開発・実施② (GIアントレプレナーシップセミナー) | 拠点校：視聴覚室 |
|------------|------------------------------|---|----------|

第2回は生徒たちと年齢の近い女性起業家を講師に迎え、起業をより身近に感じさせることもねらいとした。今回は講義形式だけでなく、講師から事前にいただいたテーマをもとにグループディスカッションから全体発表による共有まで行った。これまでの活動で、グループディスカッションと発表には慣れているが、外部講師とのセッションやフィードバックをいただく機会は生徒たちにとって新鮮に感じられた。また、講師と年齢が近いこともあり、セミナー終了後にも生徒数名が講師に質問したことも印象的であった。詳細については次の通りである。

〔講師〕 株式会社 五感応用工学研究所 代表取締役 松岡 真輝氏

〔テーマ〕 持続可能な社会の実現

- 〔内容〕
- | | |
|---|----------------------------|
| 1. 自己紹介 | 2. 大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト入賞 |
| 3. 支えている人々 | 4. 起業家として大切にしている姿勢 |
| 5. 五感応用工学研究所事業概要 | 6. 質疑応答 |
| 7. グループディスカッション | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 皆さんだったらどんな社会課題を、どのように解決したいか。 ・ コМПレックスだと思っていることでも、それを逆手に取れる。そういう視点で、自分のコンプレックスをこう武器にしたいという案を出そう。 | |
| 8. グループ発表 | 9. フィードバックと講評 |



| | | | |
|------------|-----------------------------|--|----------|
| 11-13 ③ | 2021.7.1 (木) 14:10～15:50 | GI スキルアップセミナーの開発・実施③ (GI アン트レプレナーシップセミナー) | 拠点校：視聴覚室 |
|------------|-----------------------------|--|----------|

第3回は生徒たちにとって身近に感じられるサービスがどのようにして生まれたのか、「社会課題解決と起業の結びつき」を考えさせるところをねらいとした。前半は講義を受け、後半には講師から事前にいただいたテーマについて対話形式の共有を行った。生徒一人ひとりが身近な困りごと（社会課題）を発見し、これまでにどのような解決策が取られ、今後どんな可能性が見出せるか積極的に意見を出し合った。詳細については次の通りである。

〔講師〕 neuet 株式会社 代表取締役社長 家本 賢太郎氏

〔テーマ〕 まちの移動の、つぎの習慣を作る

- 〔内容〕
1. 自己紹介
 2. さまざまな仕事、顔（会社・家庭・社会・テレビ）
 3. 海外での生活
 4. 小中学生時代
 5. 車いすの生活
 6. インターネットの可能性と生活の糧としての起業
 7. 日本全体が抱える自転車の課題と「所有から共有」の視点
 8. 対話と共有
 - ・ 街なかの移動で「不便だな」と感じる出来事
 - ・ 「起業」と聞いて連想する事柄とその理由
 9. フィードバックと講評



| | | | |
|------------|-----------------------------|--|----------|
| 11-13 ④ | 2021.7.29 (木) 9:00～10:30 | GI スキルアップセミナーの開発・実施④ (GI アントレプレナーシップセミナー) | 拠点校：視聴覚室 |
|------------|-----------------------------|--|----------|

最終回となる第4回は、女性のライフイベントの一つとして関心のある妊娠・出産に関する社会課題と科学技術による解決策をテーマに据え、自分事としてどんな関わり方ができるか考えることをねらいとした。関わり方や立場の選択肢に国際機関の職員が含まれていたことも GI クラスの特徴を踏まえたものであり、生徒たちの視野を広げることにつながったと考える。詳細については次の通りである。

〔講師〕 メロディ・インターナショナル株式会社 CEO 尾形 優子氏

〔テーマ〕 安心・安全な出産を世界中のお母さんへ

- 〔内容〕
1. メロディ・インターナショナルの事業の概要
 2. 自己紹介
 3. 解決したい社会課題と解決策
 4. 医療機器×IoT・通信技術
 5. 産科婦人科医療が行き届かない国での実践事例
 6. 起業後の苦勞
 7. 対話と共有
 - ・ 世界では、特に新興国において、産科病院の不足や産婦人科医の不足により妊婦が適切な診断を受けることができず、高い母子死亡率が課題となっている。
 - この課題を解決したいと思った時、次のうち何になりたいか（国連の職員／医師／民間の IT 会社の社長／国際 NGO の職員／その他）。また、その理由は何か。
 - ・ その立場になったとして、どのような行動をとったらよいか
 8. フィードバックと講評
 9. 全 4 回を通した講評



なお、GI スキルアップセミナーの事前、中間、事後にアンケートを実施した。それらの結果のまとめと生徒の感想・記述は次の通りである。

〔アンケート結果のまとめ〕

1. 起業に興味を持つ生徒、親近感を持つようになった生徒の増加
2. 自分の目標・将来の夢と起業の結びつきを考えるきっかけ
3. 起業以外の自分の目標・将来の夢、自分の性格や得意分野の明確化
⇒キャリア教育としての効果が期待される

〔生徒の感想・気づき〕

・ 始めは起業が難しいものであり、かなり大変だと思っていたけれど、今回の講義を受けて自分のやりたいことなどを実際に実現することが起業にもつながっているのだと思った。身近なことでも疑問を持ち、よりよくなるためにはどうしたらいいのか考えることの重要性も学べた。また、その身近なことを解決することで、世界の問題解決にもつながっていくことが面白いと感じた。

・ 起業をする人はいろんな視点から物事を考えているのだと思った。自分が不便なことを解決したり、自分の好きなことを起業に活かしたりしているのが興味深かった。また、いろんな視点には「人のためになる」という優しい気持ちは共通していた。

| | | | |
|------------|------------------------------|---|----------|
| 11-14 ① | 2021.12.13(月) 13:30～15:00 | アントレプレナーシップセミナー 〔GI スキルアップセミナー（後編①）〕 | 拠点校：視聴覚室 |
|------------|------------------------------|---|----------|

これまで2年生のGIクラス生徒を対象に、GIスキルアップセミナーとして、6・7月に起業家の講演および社会課題に関するディスカッションを4回にわたって実施した。そこでは、生徒たちが、起業家から直接に起業の体験、やりがい、目的・目標、解決すべき課題、起業家の特長への気づきなどを得る良い機会となった。今回実施したアントレプレナーシップセミナー（後編）は、先のセミナーの内容をより本格的・具体的にアントレプレナーシップを育成するための段階へ移したいと考え企画したものである。

対象生徒は、拠点校の中学3年～高校2年の希望者とした。これは、前回のセミナーで対象としたGIクラス生徒にアンケートをとったところ、生徒の全員が必ずしもイノベーターを志望しているわけではないことが分かり、今回は希望者とする（前回までは参加必須）とともに、より多くの生徒の興味・関心を引くことをねらいとしたものである。

〔講師〕 うきはの宝株式会社 代表取締役 大熊 充氏

〔テーマ〕 「ばあちゃん食堂が世界を変える」

〔参加者〕 29名（GIクラス17名、他クラス12名）

〔内容〕 1. 自己紹介 2. 会社および事業の概要 3. 会社設立の目的
4. 事業を進めるうえで大切にしていること 5. ばあちゃんたちへの良い効果
6. 新しい取り組みのアイデア 7. やり遂げたいこと、皆さんへのメッセージ
8. 質疑応答

〔事後アンケート結果〕

Q1: 参加理由は何ですか？

- ① もっと起業家の話を聴きたいから。9名（31.0%）
- ② 起業のことを知りたいから。8名（27.6%）
- ③ ばあちゃん食堂に興味があったから。6名（20.7%）

Q2: 話を聴いて起業に対するイメージは変わりましたか？

- ① 変わった。19名（65.5%）
- ② 変わらなかった。10名（34.5%）

Q3: Q2でイメージが変わった人はどのように変わりましたか。イメージが変わらなかった人は起業をどのように考えていましたか。（主な回答のみ）

- ▶ 堅苦しく難しいものではなく、考えたこと思いついたことを形にすること。
- ▶ 自分のしたいこと、好きなこと、役立つことを自分のスタイルで実現すること。
- ▶ お金のためではなく、自分の生きがいのためにすること。
- ▶ 身近な問題解決のためにすること。
- ▶ 情熱にあふれた人ができること。

Q4: 話を聴いて、起業するために大切だと思ったことは何ですか？（主な回答のみ）

- ▶ 目的をしっかりと持ち、まずは行動に移すこと。
- ▶ 失敗を恐れずやってみるが、上手いかなければ思い切って諦めること。
- ▶ 身近なことへの問いかけや人とのつながり。

- ▶ アイデアを生み出す力や創造力。
- ▶ 人を楽しませ、自分も楽しいと感じることをやってみる。

Q5： 話を聴いて、起業してみたい気持ちに変化がありましたか？

- ① 起業したい気持ちが高まった。21名（72.4%）
- ② 元々起業したい気持ちはなく、変化もなかった。6名（20.7%）
- ③ 元々起業したい気持ちを持っていたが、変化はなかった。2名（6.9%）

Q6： 今回の研修での一番の学びは何ですか？（主なもの）

- ▶ 自分から行動を起こすこと。多くの人と関わること。
- ▶ 志を強く持ち、努力すること。
- ▶ やりたいことは勇気を持って、まずはやってみること。
- ▶ 身近なことから興味のあることを探す。何事にも失敗を恐れずにチャレンジすること。

[アンケートの考察およびセミナーを振り返って]

6、7月に起業家の話を既に聴いている2年GIクラスの生徒でも過半数（10名）が、起業に対するイメージが変わったと答えている。また、その変化がいずれも「堅苦しい」「難しい」「能力のある一部の人しかできない」などのネガティブなものから、「楽しい」「やりがいがある」「好きなこと」などのポジティブなイメージに変化していること、加えて7割以上の生徒の起業したい気持ちが高まったという結果だけから見ても、このセミナーは意義あるものであった。

[その他] うきはの宝株式会社 HP に掲載された講演記録からの一部引用

<https://ukihanotakara.com/2020/> より

『本日、中村学園女子高等学校で講演をさせていただきました。文部科学省が推進している「WWLコンソーシアム構築支援事業」で将来イノベティブなグローバル人材を育成するため、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、高校生へより高度な学びを提供する仕組みを構築するものであり、福岡では中村学園女子高等学校が唯一の開発拠点校となっているそうです。この事業の中、今回「食」「アントレプレナーシップ」をキーワードとした講演を90分させていただきました。

高校生の皆さんが90分間真剣に聞いてくれました。講演が終わって質疑応答で生徒さんたちから沢山の質問を頂きました。「失敗についての考え方」「行動するということ」「起業のリスク」について、活発な質問をして頂きました。

特に失敗についての考え方について詳しく聞かれたのは嬉しかったです。

失敗は織り込み済みでの行動を話しました。僕は、行動すれば何かしらの失敗や問題は起こる、それを怖がり行動しないことを選択するよりも失敗の度合いを予め決め、期間、予算などを定数定量で決めて行動することを話しました。

授業が終わった後も生徒さんたちが更に詳しいことを質問に来てくれました。多くの生徒さんたちがうきはの宝の事業、取り組みに関心を持ってくださって有り難かったです。』



| | | | |
|------------|------------------------------|---|--------------------|
| 11-14 ② | 2021.12.18(土) 13:30～17:30 | アントレプレナーシップ・ワークショップ 〔GI スキルアップセミナー（後編②）〕 | 拠点校：視聴覚室 ・調理実習室 |
|------------|------------------------------|---|--------------------|

後編の2回目となる研修は、ワークショップの形式とした。講話だけではなく、テーマに基づいた体験することで、より起業への興味・関心を促すことがねらいである。今回も「食」に関連する起業家の取り組み、特に経営という面で具体的な話を聴くことができた。今回は3部構成で、第1・2部が視聴覚室における講話、第3部は調理実習室に移動して調理実習を行った。詳細は次の通りである。

〔講師〕 ディサント株式会社 キーアカウントマネージャー 吉村 友見氏
ピンセリア・ピンサ・ロマーナ マリノアシティ店 店長 松井 敦史氏
(日本人初・イタリア オリジナーレ・ピンサ・ロマーナ協会公認ピンサイオーロ)

〔テーマ〕 『食文化の広がりについて考えてみましょう
～イタリアの新しいピッツァ「ピンサ・ロマーナ」の事例』

〔参加者〕 31名 (GIクラス15名、他クラス16名…中学3年生2名を含む)

〔内容〕 (1) 「食文化の広がりについて考えてみましょう～イタリアと日本の場合」13:30～14:30

講師：ディサント株式会社 キーアカウントマネージャー 吉村 友見氏

- ① 食文化の広がる過程
- ② 郷土特有の食文化
- ③ ピンサ・ロマーナとは？
- ④ ビジネスとしてのピンサ・ロマーナ



(2) 『「ピンサ・ロマーナ」ってどんなピッツァ？』 14:30～15:05

講師：ピンセリア・ピンサ・ロマーナ マリノアシティ店 店長 松井 敦史氏

- ① 自己紹介と開店までの経緯
- ② ピンサ・ロマーナをもっと知ろう
- ③ 経営におけるトライ&エラーのくり返し
- ④ ピンサ・ロマーナを広げる活動



(3) 「ピンサ・ロマーナを作ってみよう」 15:15～17:30

講師：ピンセリア・ピンサ・ロマーナ マリノアシティ店 店長 松井 敦史氏

- ① ピンサ・ロマーナづくりの手順説明
- ② ピンサ生地製作実演と希望生徒による製作体験
- ③ 冷凍生地を用いて自作のピンサ・ロマーナづくり体験
- ④ 試食



〔事後アンケート結果〕 ※アンケート提出者 28 名

このセミナーの参加が初めての生徒は、18 名（58.1%）であった。

Q1： 参加理由は何ですか？（複数選択可）

- ① 調理実習があるから。22 名（78.6%）
- ② もっと起業家の話を聴きたいから。13 名（46.4%）
- ③ 起業のことを知りたいから。13 名（46.4%）

Q2： 話を聴いて起業に対するイメージは変わりましたか？

- ① 変わった。17 名（60.7%）
- ② 変わらなかった。10 名（35.7%）

Q3： Q2 でイメージが変わった人はどのように変わりましたか。イメージが変わらなかった人は起業をどのように考えていましたか。（主な回答のみ）

- ▶ 日本にないものを海外から伝える起業の仕方があるということを知った。
- ▶ 他国の文化と融合したもので起業できる驚き。
- ▶ 起業家の方は、みんな熱量が多く、積極性がある。
- ▶ 身近にアイデアがあり、楽しみながら起業できる。

Q4： 話を聴いて、起業するために大切だと思ったことは何ですか？（主な回答のみ）

- ▶ 人との関りを大切にする。
- ▶ 支出を見越したうえでタイミングを計り実行する。
- ▶ お金の管理をきちんと行う。
- ▶ 利益を上げることも大事だが、お客さんを最優先する。

Q5： 話を聴いて、起業してみたい気持ちに変化がありましたか？

- ① 元々起業したい気持ちはなく、変化もなかった。13 名（46.4%）
- ② 起業したい気持ちが高まった。12 名（42.9%）
- ③ 元々起業したい気持ちを持っていたが、変化はなかった。3 名（10.7%）

Q6： 今回の調理実習あなたにとってどんな意義がありましたか？（主なもの）

- ▶ アイデアを出し合い料理を作る楽しさと、その過程の大切さを学んだ。
- ▶ 食品への関心と、食べる相手の気持ちになって調理する姿勢を学んだ。
- ▶ 作る人によって個性・多様性があることを知った。

Q7: 今回の研修での一番の学びは何ですか？ (主なもの)

- ▶ 興味のあることについて、深く調べること、進んで参加すること。
- ▶ オリジナルのものを生み出す発想力の大切さ。
- ▶ 失敗を次に生かす。試行錯誤を繰り返す。

[アンケートの考察およびセミナーを振り返って]

今回は調理実習を含んだワークショップということもあり、参加理由は「調理実習があるから」が最も多かった。以前に起業家の話を聴いている GI クラスの生徒であっても、およそ 3 分の 2 の生徒が「起業のイメージが変わった」と回答していることや、どのようにイメージが変わったかの回答からは起業家の特徴や個性に加え、共通点も指摘できていることから、今回のワークショップは意義あるものであったと私たちは捉えている。講話の中で、これまでのアントレプレナーシップ研修で触れられなかった経済面の困難さや工夫などについて具体例を交えて説明されたことから、起業するために大切なことに「支出・お金・利益」という語をあげて説明している生徒が複数いたことは、良い気づきができたと考えている。さらに、調理実習の意義について、料理の難しさだけではなくグループ内のコミュニケーションの大切さやアイデアを出し合い作り上げていく喜び・楽しみを実感したことは、このようなワークショップならではの成果だったと言えるだろう。最後に、今回の一番の学びで最も多かった回答は「試行錯誤」であり、このことから生徒たちは、何度失敗しても失敗から学び諦めず挑戦することの大切さを学んだようである。

| | | | |
|------------|------------------------------|--|-----------|
| 11-14 ③ | 2022.1.24 (月) 16:20~17:50 | アントレプレナーシップセミナー [GI スキルアップセミナー (後編③)] | 拠点校: 視聴覚室 |
|------------|------------------------------|--|-----------|

前回の 12 月のセミナーに続く第 2 回として実施した。今回も拠点校の中学 3 年～高校 2 年の希望者を対象とした。残念ながら同時時間帯に英語検定のハイレベル対策講座が組まれたため、そちらの方を優先した生徒も数名いたが、23 名の参加者の中で 1 名のみが初めての参加と少なく、リピート率の高さがうかがえる。

これまでお迎えした講師とは異なり、初めて NPO 法人からの起業家として、また連携校である中村学園三陽高等学校の卒業生でもある田口吾郎氏をお迎えして、ボランティアの立場からのお話を伺うことができた。以下に、その内容および事後アンケート結果を記す。

[講師] NPO 法人いるか 理事長 田口吾郎氏

[テーマ] 『「経済格差」により「学力格差」が生まれにくい世界を創る』

[参加者] 23 名 (GI クラス 18 名、他クラス 5 名)

[内容] 1. 自己紹介 2. NPO 法人いるかの事業概要
3. 学習支援 (マナビバ) を立ち上げたきっかけ 4. アウトリーチ事業

- | | |
|-------------------|---------|
| 5. 食に関するネットワークの構築 | 6. 特別支援 |
| 7. 経済的視点からの起業 | 8. 質疑応答 |

[事後アンケート結果]

Q1: 参加理由は何ですか？ (複数選択可)

- ① もっと起業家の話を聴きたいから。17名 (73.9%)
- ② テーマである経済格差や学力格差に興味があったから。12名 (52.2%)
- ③ 起業のことを知りたいから。8名 (34.8%)

Q2: 話を聴いて起業に対するイメージは変わりましたか？

- ① 変わった。14名 (60.9%)
- ② 変わらなかった。9名 (39.1%)

Q3: Q2でイメージが変わった人はどのように変わりましたか。イメージが変わらなかった人は起業をどのように考えていましたか。 (主な回答のみ)

- ▶ 起業することだけがアントレプレナーシップではなく、小さくても自分ができることをやることも含まれる。
- ▶ 起業の仕方として、企業などの支援をいただいて事業を進めていく形もあることを知った。
- ▶ 経済格差など世界的な問題解決が起業につながることを学んだ。
- ▶ 困っている人たちのために何ができるかを考え、身近なことから取り組むこと。

Q4: 話を聴いて、起業するために大切だと思ったことは何ですか？ (主な回答のみ)

- ▶ 何にでも前向きに考え、諦めず続けること。
- ▶ 当たり前のことを徹底すること。
- ▶ 解決すべき問題に対して、小さなことでもまずは行動してみる。
- ▶ たくさんの人と関わる。

Q5: 話を聴いて、起業してみたい気持ちに変化がありましたか？

- ① 起業したい気持ちが高まった。12名 (52.2%)
- ② 元々起業したい気持ちはなく、変化もなかった。7名 (30.4%)
- ③ 元々起業したい気持ちを持っていたが、変化はなかった。4名 (17.4%)

Q6: 今回の研修での一番の学びは何ですか？ (主なもの)

- ▶ まず自分にできることからやってみる。
- ▶ 当たり前のことを当たり前にできるようになること。
- ▶ 話し合いを重ねること。どうしたら人のためになるかを常に考える。
- ▶ 解決すべき問題に真剣に向き合い、無理だとあきらめずチャレンジしてみる。

[アンケートの考察およびセミナーを振り返って]

先にも触れたが、今回は参加者のリピート率が高く (95.7%)、単に「起業家の話が聴きたい」という目的で 73.9%が参加していることから、参加者の起業家の話題提供についての興味・関心の高さがうかがえる。また、これまで参加した生徒でも半数以上 (59.1%) が話を聴いて「起業のイメージが変わった」と答えており、起業家の持つ個性の多様性やそれを受け止める生徒の感受性の豊かさに驚いている。これだけでも、このようなセミナーを開催する意義があると言えるだろう。

この研修を通して、起業には「小さなことからでも地道に継続して行う」ことの大切さを実感できたようである。また事業を継続していくためには、同僚とのコミュニケーションや積極的な

話し合いの機会を持つことの大切さも知ることができた。そして、私たちの身近にある貧困について改めて認識し考える機会になったと感じている。今後、生徒たちがそれらの社会課題に真剣に向き合い、解決のために行動に移すことを期待している。



| | | | |
|------------|-----------------------------|---|-----------------|
| 11-14 ④ | 2022.2.7 (月) 16:20~18:00 | アントレプレナーシップセミナー 〔GI スキルアップセミナー (後編④) 〕 | 拠点校： オンライン実施 |
|------------|-----------------------------|---|-----------------|

今回が今年度のアントレプレナーシップセミナーの最終回となった。残念ながら、新型コロナウイルスの感染拡大により、拠点校がオンライン授業に切り替わったため、今回のセミナーもオンラインによる実施となった。

今回は起業家ではないが、発展途上国のガーナで会社をあげて社会課題の解決と商品開発に取り組む株式会社 明治の方から貴重なお話を伺うことができ、起業につながる数々のアイデアやヒントをいただく機会となった。以下、その内容および事後アンケート結果を記す。

〔講師〕 株式会社 明治 業務部コミュニケーション課 藤原 理佐氏

〔テーマ〕 「チョコレートセミナー」

〔参加者〕 28名 (GIクラス18名、他クラス10名)

〔内容〕 1. 明治グループの歴史 2. 会社および事業の概要
3. チョコレートの秘密 (チョコレートの学名、原料のカカオ、製造工程など)
4. 希望のチョコレート (カカオ輸入相手国ガーナの問題点、問題点の解決へ向けて、企業としての取り組みなど) 5. 質疑応答

〔事後アンケート結果〕

Q1: 参加理由は何ですか? (複数選択可)

- ① もっと起業家の話を聴きたいから。20名 (71.4%)
- ② 今回のテーマ (チョコレートのこと) に興味があったから。17名 (60.7%)
- ③ 起業のことを知りたいから。11名 (39.3%)

Q2: 話を聴いて起業に対するイメージは変わりましたか?

- ① 変わった。16名 (57.1%)
- ② 変わらなかった。12名 (42.9%)

Q3: Q2でイメージが変わった人はどのように変わりましたか。イメージが変わらなかった人は起業をどのように考えていましたか。 (主な回答のみ)

- ▶ 起業に向けて取り組んでいることが、国内のみではなく海外の国々の問題解決につながるきっかけになることを知った。
- ▶ 起業にはパートナーシップが大切だということは分かっていたが、今回のお話でより具体的にパートナーシップの重要性をイメージすることができた。
- ▶ SDGsにつながる企業としての取り組みやガーナでの現地の人との勉強会などは、アントレプレナーにつながる活動であることを知った。

Q4: 話を聴いて、起業するために大切だと思ったことは何ですか? (主な回答のみ)

- ▶ 利益だけではなく、お客様に安心安全な商品を届けたいという気持ちが大切。
- ▶ 身に着けた知識や技術を使って世界にどう貢献できるか、世界的な課題を解決するために何ができるかを深く考える。
- ▶ こうしたいという願望をただ願うのではなく、「やってみる」ことが大切。
- ▶ 自分の興味あることや身近なことから見つけられる課題に対して、どうしたらよいかという疑問を持つなどの探究心を養うことが大切。
- ▶ 周りの人と支え合い、話し合っアイデアを出し合うことが成功につながる。

Q5: 話を聴いて、起業してみたい気持ちに変化がありましたか?

- ① 元々起業したい気持ちはなく、変化もなかった。13名 (46.4%)
- ② 起業したい気持ちが高まった。12名 (42.9%)
- ③ 元々起業したい気持ちを持っていたが、変化はなかった。3名 (10.7%)

Q6: 今回の研修での一番の学びは何ですか? (主なもの)

- ▶ 知らないことを知ろうとする意識を持ち、世界中の様々な問題に触れて自分の視野を広げる。
- ▶ 起業するしないに関わらず、関わっている人たちと協力することが大事。
- ▶ 自分のことばかり考えず、周りの人のためになることは何か考えて行動する。
- ▶ 実際に行動に移すこと。人脈を広げ、新しいものの見方をし、自分なりの解決策を実行し、それを継続する。
- ▶ 起業することがゴールではない。困っている人々を助けたり、何か協力できる取り組みがあれば率先してやってみる。

[アンケートの考察およびセミナーを振り返って]

今回のセミナーは、生徒一人ひとりが起業することやその意義などにはとらわれずに、起業に結びつくアイデアや必要とされるマインドセットなどへの気づきがあれば成功と考えている。生徒の感想からも、紹介された有名企業の取り組みが、これまでの探究授業での活動と共通していることに気づき、「自分たちでもやれるかもしれない」という自信が生まれたようである。また、起業することは、日本国内に限らず世界のあらゆるところにある課題とその解決にもアイデアが潜んでいること。起業するかどうかにとらわれず、安心安全な生活を人々が送れるよう等しく志をもった人々と協力して課題を解決していくことが大事であることを実感したようである。



チョコレートのテイスティング

- ①リラックス
- ②色やツヤを愉しむ
- ③香りを愉しむ
- ④音を愉しむ
- ⑤舌の上で味わう
噛まずに
舌の上でゆっくりとかす
- ⑥目をつむり鼻から息を吸い込んで
香りを愉しむ



| | | | |
|-------|----|---------------------|------------|
| 12-01 | 通年 | 新学校設定教科「グローバル探究」の開発 | 拠点校(教育開発部) |
|-------|----|---------------------|------------|

今年度のWWL事業において取り組むべき重点項目の一つが、拠点校において令和4年度から実施する新しい学校設定教科「グローバル探究」の開発である。この教科は、令和4年度入学生から学年進行で開設し、現在はGIクラスのみが履修する「GI探究」に換わり全クラスで実施する予定である。基本的には、「GI探究」の学習内容をベースとしながら、全クラスで実施が可能となるように改良と修正を加えて指導計画と内容を策定する。先の5月25日(火)に行われた職員会議で令和4年度入学生の新カリキュラムが決定して実施が承認された後、9月から本格的に教育開発部会で審議・検討を続けてきた。まず、拠点校における教育目標となる基本方針およびWWL事業の構想計画書と照らし合わせ、「グローバル探究」に盛り込むべき内容を検討した。

1. 拠点校の教育目標となる基本方針との対応

以下に「グローバル探究」に関連する拠点校の教育目標となる基本方針の部分を抜粋し、教科内容として盛り込むべき項目に下線を付した。

(1) 女子教育

A: 品格ある女性を育てる教育

- ② 食育や、生活指導を通して、自立した生活を営むための基礎を養う。
- ③ 日本の歴史と文化への理解を深めることで、先人を敬う心やアイデンティティを養う。

B: 自己肯定感の涵養

- ① 一人ひとりが力を発揮する場を作ることで、自己肯定感を育むと同時に、他者を理解し尊重する態度を養う。

(2) キャリア教育

A: 自己実現に向けて主体的に学び、自立した社会人となることを目指す教育

- ① 基礎学力の充実に加えて、「思考力・判断力・表現力」を教科横断的な深い学びを通じて養う。
- ② 協働作業や探究活動を通して、変化や多様性に富み予測困難な社会を生きる上での強さとしなやかさを養う。

- ③ 女性の活躍が益々期待される未来社会での自己実現を目指し、自ら必要な学びに主体的に取り組む姿勢を養う。

(3) グローバル教育

A: 国際社会で輝く女性を目指す教育

- ① 地球規模の課題に関心を持ち、主体的に課題解決に取り組む姿勢を養う。 ※原文修正
② 多様性受容力やコミュニケーション力を向上させ協働性を育むことを通して、将来イノベータータイプなグローバル人材として社会貢献できる女性を育てる。
③ 国際人となるにふさわしい語学力、国際理解に必要な知識・教養を養う。

2. WWL 事業構想における育成を目指す人材像

以下に令和 3 年度 WWL コンソーシアム構築支援事業の構想計画書にある「1 構想目的・目標の設定」の「(1) イノベータータイプなグローバル人材像」に記載した、育成を目指す人材像について抜粋する。「グローバル探究」で育成すべき力に関連する部分に下線を付した。

- ① 日本人としての自覚を持ち、豊かな文化的感性や礼儀・作法を身につけている。
② 地球規模の課題への関心を持ち、自主的で継続的な学習ができ、課題発見力・課題解決力、多様性受容力、コミュニケーション力を備えている。
③ (高次の) 課題解決力... 答えのない課題や予測不能な事態に対して、いち早く的確に状況を察知・観察し、核心をつく問いかけを何度も行い、それに合う最適な方法でプロジェクトを企画・実行し、状況に応じた最適解を導くために必要な力。
④ 突破力... 大きな壁(課題)にぶつかっても、諦めることなく論理的な思考で乗り越える力。
⑤ 創造力... 既存の観念にとらわれることなく、新たな価値を創造する力。
⑥ 調和力... 国内外の人とのつながり・協働にとどまらず、新しい知識と既存の知識・自己の経験と他者の経験等を結びつけて協働する力。
⑦ 自分の可能性を信じ粘り強く努力することで、自己の能力が発達し、持続可能な社会が実現するというマインドセット。
⑧ 得られた知識を活用しながら様々な手法を試行し、失敗の経験を生かして次の改善につなげ、答えのない問題にも諦めずに取り組む意欲や態度、忍耐力。

3. 各学年・クラスで育成する力

先に記した拠点校における教育目標となる基本方針および WWL 事業の構想計画書の内容をふまえ、「グローバル探究」で育成すべき力(意欲・態度などを含む)を学年・クラス毎に整理したものが次ページの表である。

4. 各学年の達成目標

各学年における達成目標は次の通りとする。

(1) 1 学年の目標

- ▶ 日本(特に地元福岡)を知る、世界(特にアジア)を知る
- ▶ 「食」の4領域の学習を通して、課題を発見し解決法を考えることができる
- ▶ 課題研究の方法の基礎基本を理解する

- ▶ 自分の考えをポスターにまとめたりして発表する（論文作成につなげる）
- ▶ 主にグループ活動を通してコミュニケーション力や多様性受容力を身につける

(2) 2学年の目標

- ▶ 世界とつながる、またはグローバルに活動（企業コラボ）できる
- ▶ 取り組んでいる課題のSDGsとの関連性を指摘できる
- ▶ 課題研究をさらに発展、深化させる
- ▶ 論文の作成法をマスターする

(3) 3学年の目標

- ▶ 課題研究の成果として論文を完成させ発表する

表 各学年・各クラスにおいて「グローバル探究」で育成する力・意欲・態度など

| 学 年クラス | 1年 | 2年 | 3年 |
|-------------|--|---|----|
| 一般クラス | 日本人としての自覚、豊かな文化的感性、礼儀作法、食に関する基本的知識 | | |
| | 日本の歴史や文化の理解、地球規模の課題への関心、課題解決への意欲、多様性受容力、コミュニケーション力、協働する力 | 課題解決力、論理的思考力、表現力 | |
| GIクラス | 英語運用能力、リーダーシップ、アントレプレナーシップ | | |
| (一般クラスに加えて) | 異文化理解力 | 高次の課題解決力、突破力、創造力、調和力、持続可能な社会実現へのマインドセット | |

5. 「グローバル探究」の主な内容

教科で取り扱う主な内容をまとめると次の5項目となる。

- (1) 日本と世界の現状（特にアジアの国々の概要、食文化、社会課題など）
- (2) 「食」にかかわる地球規模の課題とその解決法
- (3) SDGs とは何か、および諸課題との関連性
- (4) 課題研究の進め方、およびポスターや論文の作成と発表
- (5) 外部の人々とつながるグローバルで創造的な取り組み（企業コラボなど）

6. 年間指導計画（表）

ここでは、令和4年度1学年で実施予定の指導計画表（令和4年2月14日（月）の職員会議で承認されたもの）を次のページに掲載する。現在、詳細は検討中であり予定が若干前後することが考えられる。

「グローバル探究Ⅰ」指導計画

| | |
|--------|--|
| 1学年テーマ | 地球規模の課題理解と解決への意欲・態度の醸成、課題研究の基本的な手法・技能の習得(1年共通) |
|--------|--|

| | | | |
|--------|--|-------|---|
| 1学年の目標 | 1. 日本と世界の国々の現状と食文化について理解する 2. 食に関する課題を見出し、その解決方法を考える (グループでの取り組みを中心とする) 3. 課題研究の方法の基礎・基本を習得する | 育成する力 | 日本人としての自覚、食に関する基本的な知識、日本の歴史・文化の理解力、地球規模の課題への関心、課題解決への意欲、多様性受容力、コミュニケーション力、協働する力 |
|--------|--|-------|---|

| 項目 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-------------|-----------------------|--------------------|--------------------------------|----|---------------------------|---------------|------------------------|---------------------|----------------|------------------|--------------------------|---------------|
| 時数(計40) | 4 | 4 | 4 | 4 | 2 | 4 | 4 | 4 | 2 | 4 | 2 | 2 |
| 関連する学校行事 | GIスタートアップセミナー | | GI講演・講座 | | GI講演・講座 海外研修 (任意参加) | グローバル・キャンパス | GI講演・講座 Blue Earth塾 | | WWL報告会 | GI留学出発 (任意参加) | GI講演・講座 | 食のサミット 水仙祭 |
| 日本や世界を知る | 福岡の食と課題について | | 日本の食と課題について | | | 世界の国の食と課題について | | | | | | |
| 食の内容 | | | 食の4領域 ①(全体の概要ガイド ランスを含む) | | | 食の4領域 ② | | 食の4領域 ③ | | 食の4領域 ④ | | |
| 課題研究(基礎・基本) | 【序章】 課題研究とは何か | 【第1章】 研究テーマを考える | → | | 【第2章】 問いを立てて深める | → | | 【第3章】 仮説の設定と研究方法 | → | | 【第4章】 調査や実験の実施と結果のまとめ | → |
| 主な取り組み | | | | | GC準備(課題) | | ポスターセッション代表 者選考 | 代表者発表 練習 | 代表者発表 発表者評価 | | 水仙祭掲示 ポスター制作 | |
| 評価・効果検証など | 効果検証 アンケート (前期) | | | | | | | | | | 効果検証 アンケート (後期) | |

| | | | |
|-------|---------------------------------|----------------|-------|
| 12-02 | 2021.4.27 (火) ～2022.2.22 (火) | カリキュラム検討委員会の開催 | オンライン |
|-------|---------------------------------|----------------|-------|

カリキュラム検討委員会は、筑波大学の國分麻里先生をカリキュラムアドバイザーとし、実行委員長である拠点校の校長および教育開発部員で構成している。拠点校で実施しているカリキュラムの進捗状況の確認と改善・修正を定期的に行い、國分先生により適宜、指導と助言をいただいた。

今年度は4月27日の第1回を皮切りに、2月22日の最終回までの年8回をオンラインで開催した。各回の審議・報告事項は次の通りである。

| 回 | 開催日 | 審議・報告事項 | 参加者 |
|---|------------------|--|-----------|
| 1 | 2021.4.27 (火) | 委員会の目的、WWL 事業の概要、今年度の主な取り組み項目 | 國分先生他 4 名 |
| 2 | 2021.5.27 (木) | 令和 4 年度入学生のカリキュラム、グローバル・キャンパスの概要 | 國分先生他 4 名 |
| 3 | 2021.7.7 (水) | コロナ禍に伴うグローバル・キャンパスの内容変更、食のサミットの概要 | 國分先生他 4 名 |
| 4 | 2021.9.29 (水) | 新型コロナウイルス感染拡大に伴う諸行事(グローバル・キャンパス、食のサミット、GI 海外フィールドワーク)の変更 | 國分先生他 4 名 |

| | | | |
|---|-------------------|-----------------------------------|-----------|
| 5 | 2021.10.27 (水) | GI スキルアップセミナー (アントレプレナーシップ研修) の概要 | 國分先生他 3 名 |
| 6 | 2021.11.24 (水) | 新学校設定教科「グローバル探究」 | 國分先生他 3 名 |
| 7 | 2021.12.22 (水) | 論文作成 (課題研究) における外部講師による指導 | 國分先生他 3 名 |
| 8 | 2022.2.22 (火) | 今年度の振り返り・総括 | 國分先生他 4 名 |

いずれの会においても、本事業を円滑に進めていく上で、國分先生より教育学的見地からの厳しい質問と親切丁寧な助言を多くいただいた。特に来年度から導入する「グローバル探究」については、導入時 (導入初年度) における拠点校教職員の共通理解の重要性に加え、新しい項目を取り入れた際の他の業務量の軽減について学校運営の立場からの指摘と助言を受けた。このことを生かし次年度の新たな実施に臨みたい。

| | | | |
|-------|--------------|-----------|-------------|
| 12-03 | 通年 (原則週 1 回) | 教育開発部会の開催 | 拠点校: 大会議室など |
|-------|--------------|-----------|-------------|

教育開発部会は、拠点校の教職員 10 名に管理機関からの海外交流アドバイザー 1 名を加えた計 11 名で構成し、原則として毎週水曜日 7 限目 (15:05~15:50) に開催している。

今年度は 4 月 5 日から計 31 回開催し、カリキュラムの審議をはじめとする WWL 事業の重要事項をはじめ、日々の教育活動に必要な懸案事項の検討・諸連絡などを行ってきた。また、3 学期は令和 4 年度より開始する「グローバル探究」の実施に向けて、探究授業に関する勉強会を兼ねて開催した。下の表に令和 3 年度各月の実施回数を記す。

| | | | | | | | | | | | | |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|-----|-----|-----|
| 月 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 |
| 回数 | 3 | 3 | 4 | 2 | 1 | 3 | 3 | 2 | 3 | 3 | 3 | 1 |

| | | | |
|-------|----|---------|-----|
| 13-01 | 通年 | ICT の活用 | 拠点校 |
|-------|----|---------|-----|

今年度も新型コロナウイルス伝播の勢いが止まらず、拠点校でもオンラインでの授業実施を余儀なくされた期間も生じ、また対面での行事がオンラインに変更になるなど、多くの教育活動に影響が出ることとなった。拠点校では全生徒が iPad を所持しているため、オンライン授業期間は ICT 活用支援ツール Classi で時間割などの諸連絡を行った後、オンライン遠隔会議システム Zoom を使用してリアルタイムで授業を実施している。このようなオンライン授業は今年度で 2 年目となったため、生徒も教員も目立って大きなトラブルはなく円滑に授業の受講・実施ができた。これは言わば不幸中の幸いであった。オンライン授業の受講や実施に関して、生徒・教員が慣れてきていることの現れだと考えられる。

今年度は、当初対面での実施を計画していたが、新型コロナウイルスの感染状況に応じて適宜オンラインに切り替えるということが頻繁に起こるようになった。通常の授業や講演、一人の講師によるセミナーの場合は、技術的な問題は特段生じないが、複数の講師や双方向で発言を伴う個人またはグループが異なる場所からオンラインで参加する場合、さらにそれらを教室やホールなどで視聴する場合などは、実施・運営が技術的にかなり複雑になる。学校備品の ICT 機器をフル活用するとともに、映像や音声をいかに見栄えよく学習（視聴）者に伝えるかが重要になってくる。拠点校では、これらの多くの場合では、ICT 操作について技術力に長けた情報科教員や事務職員が機器の設定と運用を行っている。課題としては、あまりに専門的すぎて他の教員に引き継ぎができないことである。（もっともこの任務は一般教員のレベルを超えるものであるため、引き継ぎは不要なのかもしれない。）

最後に、今年度の ICT 活用において、やや複雑なシステムを要した拠点校での授業やイベント、実施場所およびそれらの特記事項を以下にあげておく。

- ▶ ウズベキスタン連携校との合同生物実験（6 月 @拠点校・AL ルーム）
 - …書画カメラ、モニター、海外参加、双方向対応
- ▶ GI フィールドワーク Basic [グローバル・キャンパス]（9 月 @拠点校・視聴覚室、各教室）
 - …視聴覚室・教室での視聴、双方向対応
- ▶ WWL 報告会（12 月 @拠点校・講堂、各教室）
 - …講堂での視聴、ビデオカメラ、海外参加、双方向対応
- ▶ 食のサミット（3 月 @拠点校・講堂、視聴覚室、大会議室など）
 - …講堂・視聴覚室・教室での視聴、ビデオカメラ、海外参加、双方向対応

| | | | |
|--------|----|-------------|---------------|
| 14-01① | 通年 | 英語探究の活動（1年） | 拠点校：教室、AL ルーム |
|--------|----|-------------|---------------|

活動の目的

- ① 生きた英語を使用しながらアジア各国の学生との国際交流を通して、英語でのコミュニケーション能力、異文化理解力、多様性受容力を養う。
- ② SDGs や食の問題に関して、本やインターネットなどから情報を収集し、自分なりの意見を持ち、英語でディスカッションやプレゼンテーションを行うスキルを身につける。
- ③ 上記の①・②の取り組みを通じて、日本人としての自覚と素養、グローバル・リーダーやイノベーターとしての資質を涵養する。

〈活動内容 1：英語探究〉

- ・ 5月～7月：英語力の向上（英検準2級～2級程度のスピーキングやリスニング、リーディング & リスニングテスト練習のサポート）
- ・ 6月：台湾の学校と国際交流授業（Zoom）
- ・ 11月：Welcome Party for アジア架け橋留学生（パーティのテーマ：アジアを旅しよう！）
- ・ 11月：各留学生が自国の食文化について英語で紹介
- ・ 2月下旬：留学生が英検準1級～2級のスピーキングテスト練習のサポート
- ・ 3月：留学生への簡単なお礼の会・さよならパーティ実施予定

5月から7月にかけて、生徒を3つのクラスに分け英語力向上ワークショップを実施した。各グループは13～14名程度で、それぞれ1名の英語教諭が指導を担当した。生徒たちは、ネイティブスピーカーと1対1のスピーキングや英作文（ロジカルライティング）のスキルも向上させることができた。

6月には、台湾の学生との国際交流授業を行った。授業では、本校生徒が台湾の生徒たちに地元福岡の観光スポットや食文化を英語で紹介した。台湾の生徒も、自国の学校生活や食文化を紹介してくれた。特に、新型コロナウイルスのワクチンを日本が台湾に提供したことに感謝しており、日本も東日本大震災の時に台湾から支援を受けたことなどを生徒が知ることができ、本年度最初の国際交流は日台友好の歴史を学ぶ良い機会となった。

11月には、アジア各国からアジア架け橋留学生を迎えた。GI生徒は、新しい友人たちのために歓迎会を企画し、英語での歓迎スピーチや自分たちが考えたゲームやタレントショーなど豊富な内容で留学生をもてなした。また、生徒のアイデアで、日本人の生徒がアジアの民族衣装の試着も行い、留学生の出身国の衣装を着ることで、お互いの距離をさらに縮める実りある機会となった。

歓迎会後の授業でも、GI生徒は、それぞれの国について学んだことを英語でアジア架け橋生に発表したり、食の問題に関して英語で話し合ったりする機会が英語でのコミュニケーション能力を向上させた。また、GI生は留学生が日本語でのプレゼンテーションを行う準備の手伝いも行った。

2月下旬から3月中旬までは、英語力向上ワークショップを実施する予定である。3月中旬には、留学を終えて帰国する留学生のためにお別れ会を企画している。

〈活動内容 2：探究科〉

11月中旬～12月 は、SDG s の No.12、14、2 について調べ、留学生と協力して、各国が抱える課題について調べて、高校生ができる解決策を考えためのバックボーンとなる知識を獲得する取り組みを行った。国連や NGO のサイト、SDG s 教材などを用いて、生徒は英語力とともにグローバルな課題についての理解力を向上させることができた。

〈活動内容 3： グローバル・キャンパスと食のサミットに向けて〉

7/15 (木)：2020 年度の AFS 生と交流会、国や食文化について学習

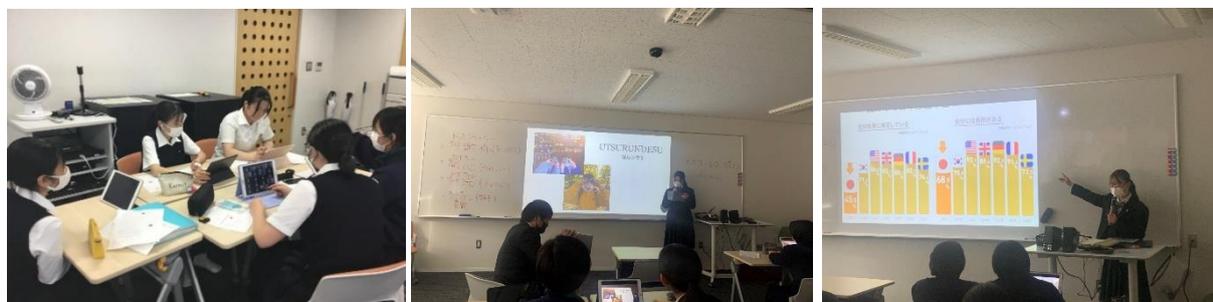
7/20 (火)：アジアの様々な食文化について学期末レポート提出

9/1 (水)～9/10 (金)：グローバル・キャンパスに向けて日本企業が取り組んでいる SDG s の取り組みの調査を行い、高校生にもできるアクションプランを考えて英語で発表

1/11 (火)：食のサミットに向けて、各留学生が食の文化とマナーについて発表

7月中旬、昨年度のアジア架け橋留学生とのオンライン交流会を行い、様々な国の食文化や SDGs に関連する問題と取り組みなどを学ぶことができた。生徒は学んだ内容に関して、学期末にレポートを提出した。

9月中旬、日本企業の SDGs への取り組みについて調査し、クラスでディスカッションを行った。その後、グローバル・キャンパスで全生徒が英語でプレゼンテーションを行い、立命館アジア太平洋大学の留学生からアドバイスをもらいながら討論を重ね、高校生にもできるアクションプランを考えました。



| | | | |
|--------|----|-------------|---------------|
| 14-01② | 通年 | 英語探究の活動（2年） | 拠点校：教室、AL ルーム |
|--------|----|-------------|---------------|

In our English Research class, we focused on learning deeply about the United Nations Sustainable Development Goals. On each goal, the students studied about the problem in a specific country that faces that issue. Through each goal, the students had a writing assignment and a group presentation because of this it broadened their knowledge about the

problems of the world and tremendously helped improve their critical thinking skills and as well as their English skills. The students also had multiple chances to interact with the exchange students from the Asia Kakehashi Project. They had the chance to learn about ten different countries and the problems that each country faces. The English Research class was an opportunity for the students to cultivate their critical thinking skills and practice presenting in English through project-based learning.

グローバル化が加速する時代を生き抜くために、異なる言語や文化背景を持つ人々と協働することが求められ、英語は、必要な情報や自分の考えを適切かつ効果的に発信するためのツールとしてますます重要となる。昨年度は課外の時間に実施していた英語探究を正課に取り込み、英語4技能の中でも発信に必要な Speaking と Writing に重点を置いて授業を行った。概要は前述したとおりであるが、この授業はネイティブスピーカーである ALT と日本人英語教員によるチームティーチングの形式を取り、動画を中心とした視覚資料を効果的に活用しつつ、英語で授業を行った。また、生徒たちには単元学習後に関連事項に関して英作文をさせることで、インプットだけでなく主体的に考えさせることや表現するアウトプット活動と位置付けた。定期考査は実施せず、個人やグループによるプレゼンテーションやスピーキングテストを実施し、そのパフォーマンスも評価の一部とした。GI 探究の時間と結びつけることでより効果的な取り組みになったと思われる。その他、授業単位等については下記の通りである。

〔授業単位〕 2 単位

〔使用テキスト〕 読解力と表現力を高める SDGs 英語長文 Core (三省堂)

読解力と表現力を高める SDGs 英語長文 (三省堂)

〔学習のポイントと達成目標〕

| | 段階 | 達成目標 Goal Achievement |
|-----------------------|---------|-----------------------------|
| 理解 Understanding ↓ | Step1 ⇒ | 設問を理解し、問いかけに応じた内容を伝えることができる |
| | Step2 ⇒ | 語彙・文法、複雑な内容 |
| 発信 Output | Step3 ⇒ | 発音・流暢さ |

| | | | |
|-------|----|-----------|-----|
| 15-01 | 通年 | AL ルームの活用 | 拠点校 |
|-------|----|-----------|-----|

拠点校の AL ルームは、教室とは異なる明るい雰囲気、自由な形態でのグルーピングが可能な可動式の机・椅子や、2 方向に大画面表示を可能にした映写システム、50 台のノートパソコンなどを導入した新しい学習空間として令和 2 年度に開設された。AL は”Active Learning”の略称であり、文字通り主に生徒の主体的で対話的な深い学びを促進するための設備である。今年度は、GI 探究や英語探究での授業をはじめとして、様々な研修や講義、ディスカッション、留学生の日

本語指導などの場としてかなりの頻度で利用している。特にオンラインを併用した授業や研修、会議では、使い勝手が良いために「明るい」「新しい」「話し合いやすい雰囲気になる」など生徒や担当者から好評を得ている。現在のところオンラインで施設予約を行っているが、今後はより使用頻度が高まり予約が取りづらい状況も考えられるため、予約利用に関するガイドラインを作成する必要があると考えている。

以下の写真は、利用例としてあげた「台湾生徒とのオンライン国際交流時の生徒発表」「探究授業でのグループ作業」「ウズベキスタン生徒との生物実験」の様様である。



| | | | |
|-------|---------------------------------|--------------------------------|------------------|
| 16-01 | 2021.9.13 (月) ～2022.1.17 (月) | 中村学園大学・短期大学部の科目等履修生制度 (AP) の活用 | 中村学園大学、 オンライン |
|-------|---------------------------------|--------------------------------|------------------|

今年度で3年目となるAP (アドバンスト・プレイズメント) を拠点校および中村学園三陽高等学校の高校2年生の希望者を対象に実施した。中村学園では、中村学園大学・短期大学部の学生以外の者が開講される授業を履修する者を「科目等履修生」と称し、在學生と同じ授業科目を受講し、定期試験等によって学期末に成績評価することになっている。また、単位を取得した生徒が中村学園大学または同短期大学部に進学した場合は、習得単位として認定される仕組みとなっている。受講希望者は6月中旬に中村学園大学教務部に出願し、受講が決定すれば10月から開始される後学期の講座を受講することができる。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度の試験および評価はすべて授業内での試験、レポート、小テスト、課題などによって行われた。また、講座の受講登録、諸連絡、課題提出などのほとんどはオンラインによって実施されている。

受講者は、拠点校からは19名で、各自1科目 (2単位) を受講し、19名全員が単位を取得した。実際に生徒が受講した科目及び人数は次の通りである。

〔大学〕 現代社会と教育 (4名)、日本文学 (2名)、数学の考え方 (9名)

〔短期大学部〕 ボランティア論 (4名)

課題としては、昨年度は34講座から選択できたのに対し、今年度は7講座からの選択と講座数が大幅に減ってしまったことである。コロナ禍中でオンラインと対面の切り替えや対処が難しい

ことなどが講座数減少の要因の一つであるようであるが、来年度はより柔軟に対応していただけるよう要望していきたい。

| | | | |
|-------|-----------------------------|-----------------|--------|
| 17-01 | 2021.11.2 (火) 9:00～10:30 | GI 講演 (グローバル講演) | 拠点校：講堂 |
|-------|-----------------------------|-----------------|--------|

高校 1 年生は、グローバル・キャンパスを通じて、フードロス等の環境問題について学ぶ予定である。今回の講演では、世界的に環境活動を推進している日本人の活動を知ること、世界の環境問題に興味・関心を持ち、環境問題とその解決の必要性について、他人事ではなく自分自身の問題へと意識を変える機会とすることが目的である。

今回の講演は、過去に講演者の話を聴いた経験を持つ 1 年 GI クラスのある生徒からの強い要望によって企画された。講演者のプロフィールと主な講演内容は次の通りである。

〔講演者〕 谷口 たかひさ氏 (環境活動家) のプロフィール

1988 年生まれ。大阪府出身。10 代の時にイギリスの大学へ留学する費用をつくるため、インターネットビジネスで起業。イギリスの大学を卒業後、アフリカはギニアでの学校設立プロジェクト、グローバル IT 企業の取締役 (COO)、ドイツへの移住、起業などを経験。2019 年、ドイツで気候危機の深刻さを目の当たりにし、「みんなが知れば必ず変わる」をモットーに「地球を守ろう！」を立ち上げ、気候危機の発信や講演を開始。2020 年 9 月末現在までに世界 15 か国でツアーを行い、日本は 7 か月で 47 都道府県 300 講演を達成。趣味は旅と勉強で、訪れた国は 60 か国、保有資格は国際資格や国家資格を含め 40 個。

〔講演内容〕 1. 自己紹介 2. 気候変動の実例 3. 気候変動がもたらすもの
4. 気候変動にどう向き合うか 5. 自己の生き方・考え方

講演では、多くの効果的な写真やビデオクリップを用いながら、淡々と独特の口調で語られた。話の所々で心に響く言葉をいくつもかけられ、生徒たちは共感し、次第に話の内容にのめり込んでいく。全世界における気候変動の生々しい実態、人々の動き、若者のもつパワーなど、すべて



がオーセンティックで迫真に迫る内容であった。環境問題の実態と解決策の提案、環境保護の訴えに終始する講演内容ではなく、人の生き方や人間の行動特性、日本型教育の特徴にも触れるなどしながら「今こそ継続して強くやるべき」気候変動への取り組みの必要性を訴えられた。

谷口氏は、最後に次のような言葉で会を締めくくられた。『あなたが「希望」です』『私たちが気候変動を受ける一番最初の世代であり、これを止めることができる一番最後の世代です』『口ばかりでなく、きちんと行動して、誰からも左右されず自分に矢印を向けて、楽しく、一生懸命頑張る自分の背中を見せてほしい』 これらが生徒たちの心に残る言葉になったことは、事後アンケートの結果から見ても明らかであった。

※ 地球環境とイノベーションに関する第2回目のGI講演を予定していたが、新型コロナウイルス感染症防止対策のため次年度への延期を決定した。

| | | | |
|-------|------------------------------|-------------------------|----------------|
| 18-01 | 2021.6.22 (火) 16:30~18:10 | 高度な教育内容の取り組み (いりこの解剖実験) | 拠点校： AL ルーム |
|-------|------------------------------|-------------------------|----------------|

先の「08-02 ウズベキスタン・ライシーアム高校との合同実験授業」でも取り上げたが、この授業は高校での教育内容を越えて深く専門的な知識・技能を身に着けるための取り組みでもある。拠点校では、2年前から身近な食材を使って専門的な解剖実習を理系「生物」選択者や希望者に対して実施しており、今回が3回目となった。オンラインでの実施、かつ海外連携校との合同であったために、体の構造や働きなどをやや簡略化した形で進めざるを得なかったが、生徒たちにとっては、「いりこ」という身近な食材を用いて生物学や栄養学などの見地から多くのことを学ぶことができた良い機会になったようである。(詳しい内容については、08-02の項を参照)

また、ここでの実践を7月22日(祝)に開催した日本生物教育学会九州支部主催の夏期研修会(オンライン開催)にて会員の先生方への指導に役立てることができた。いりこや生イワシの解剖学的な専門知識の伝達はもちろん、解剖のための技術や要領、カメラワークなどオンラインで見せる工夫などである。今後もこうした取り組みを続けていきたい。



| | | | |
|-------|-----------------------------|----------|-----|
| 19-01 | 2021.9.21 (火)～2022.3.13 (日) | 留学生の受け入れ | 拠点校 |
|-------|-----------------------------|----------|-----|

2018年度から始まった文部科学省の「アジア高校生架け橋プロジェクト」は4年目を迎え、4期生は19のアジアの国と地域から249名の高校生を迎え入れた。本校は10月より10か国（タイ・ミャンマー・インド・パキスタン・バングラディシュ・インドネシア・フィリピン・マレーシア・ベトナム・カンボジア）から10名を水仙寮に受け入れた。寮生活では、クリスマス会などを開催し寮生との交流を行った。また学校生活において高校1年生のクラス（部活動クラスを除く）に各1名ずつ所属し、授業や清掃等クラスの活動に参加、クラス以外にも中学探究科、高校一貫ACクラス、高校1・2年生GI探究、英語探究（高校1年GIクラス）、に参加し生徒との交流を行った。年末年始は日本の正月を体験し楽しんでもらうため、全校生徒からステイ先を募集し各家庭で2021年12月25日より約2週間程度ホームステイをおこなった。留学生は各家庭で餅つきや初詣など伝統的な年末年始を過ごし、たくさんの日本の文化にふれることができた。また留学生は自国の料理を作ってステイ先にふるまうなど、双方にとって異文化交流をするよい機会となった。

本校が12月に開催した「第5回WWL報告会」において留学生はSDGs12「つくる責任つかう責任」につながる「食」に関わる諸問題とその解決策について、自国と日本の共通点であるお米に焦点をあて調べ日本語と英語で研究発表をおこなった。また、3月に開催した「食」のサミットでは、2年GIクラス生徒とグループを構成し協働活動を行い、課題設定や課題解決に際して多様な視点からアプローチを行った。留学生は、前日のプレ会議においてファシリテーターとして海外連携校と本校をつなぐ役割を担い多くの生徒と交流を行った。また留学生1名を含む本校代表グループがサミット当日で発表を行った。

コロナ禍で来日が大幅に遅れ滞在期間が短かったが、理科実験、調理実習、華道や茶道、浴衣製作等多くのことに参加し、たくさんの生徒と関わる事ができた。この活動は留学生にとって日本の文化や日本での習慣等の体験になり、より深く日本文化を理解することにつながった。さらに関わった生徒にとっても英語でのコミュニケーションや様々な国の文化等を知ることができ、双方にとって異文化を共有するよい機会にもなった。

アジアの架け橋留学生受け入れプロジェクトの目的である「日本とアジアの高校ネットワークの構築、互いの国に精通したリーダー育成」の実現につながる有意義な活動となった。本校におけるSGH事業過去5年の取り組みの蓄積や関連機関などの様々な支援でコロナ禍にもかかわらず留学生受け入れが迅速に進み、留学生と生徒の協働を行うことができた。

1. 実践した取り組み

(1) アジア高校生架け橋プロジェクトの留学生受け入れ

【日程】 令和3年8月30日(月)～令和4年3月21日(月)（ミャンマー）

令和3年10月16日(土)～令和4年3月12日(日)

【留学生国名】 ミャンマー、バングラディシュ、タイ、フィリピン、パキスタン、インド、インドネシア、カンボジア、ベトナム、マレーシア

【受け入れ人数】 10名

【取り組み】 高校1・2クラスに配属、学校行事への参加

実践した取り組みについては【2.実践の詳細】に記載

(2) 転入生の受け入れ

【日程】 コロナ禍のため来日が未定

【転入生国名】 中華人民共和国

【学校名】 信男教育学園上海文来高校

【受入れ人数】 生徒 2 名

【取り組み】 高校 2 年生のクラスに配属予定

2. 実践の詳細

(1) 主な活動実績と内容

① 8/30 (月) オンライン始業式にて

2 学期オンライン始業式にて学校長より 9 月来校のミャンマーからの留学生と、10 月より来校する留学生の紹介を全校生徒に行った。また、アジア高校生架け橋プロジェクトが WWL 事業の一環であり、異文化を学び合う機会であることを説明し、生徒と留学生が活発に交流するように促した。

② 9/21 (火) 授業に参加開始

先に来校した留学生 1 名 (ミャンマー) は、教職員朝礼にて日本語で自己紹介を行った。他の留学生が来校するまでの間、2 年生 GI クラスに所属し授業等クラスでの活動に参加した。

③ 10/27 (水)・11/8 (月) 芋ほり・マフィン作り

中学 1 年農業体験授業にて芋ほりを体験。収穫したサツマイモを使用して中学 1 年生とサツマイモとリンゴのマフィンを作り交流を行った。



④ 11/2 (火) 通常授業開始

10 名の留学生はオリエンテーション後、それぞれ高校 1 年生の異なるクラスに配属され、本校生徒と授業に参加した。留学生と本校生徒が同じ授業を受けることで、特に英語や社会の授業では双方にとってより深い学習に繋がった。

⑤ 11/8 (火) ~3/10 (木) 日本語レッスン

日常会話を中心に週 3 日 1 時間の日本語レッスン開始。またホームワークとして問題集や漢字の書き取り、日本語での日記などに毎日取り組んだ。冬休み期間中には日本の都道府県名を漢字で覚え書けるようになった。また、ホームステイで印象に残った事をまとめ

日本語で発表する機会を設け、日本語が少しでも身につくよう指導した。その結果、多くの留学生が簡単な日本語でのコミュニケーションができるようになるなど、日本語の上達につながった。

⑥ 11/21（日）鳥飼チルドレンアカデミーに参加

地域の公民館で開催された鳥飼チルドレンアカデミーに参加し地域の小学生と交流を行った。留学生は、母国語、英語、フランス語、イタリア語、韓国語、日本語などで自己紹介後、母国の食べ物や通貨など日本との違いを感じられるようなクイズを日本語で出題した。参加した小学生の中には英語を話すことができる子どもたちも多く、留学生と日本語や英語を交えて会話を楽しんでいた。留学生にとっても日本の小学生と触れ合える良い機会となった。



⑦ 11/24（水）・11/25（木）華道・茶道・書道体験

本校の授業で取り入れている「華道」「茶道」「書道」など日本の伝統文化を体験。華道ではクリスマス为主题にした生け花、茶道では和室の作法・お茶のたて方、書道では刻字・掛け軸製作などをおこなった。日本のわびさびなどを知る良い機会となった。

⑧ 12/10（金）・12/14（火）太宰府観光・事後学習

高校1年（中高一貫クラス）生徒の発案で、地元福岡県の観光名所である太宰府に関して、留学生のためにパンフレットを作成した。作成するにあたり本校生徒と留学生はともに太宰府を訪問し太宰府天満宮や国立博物館等を散策した。太宰府天満宮では本校生徒とペアで行動し、参拝方法やおみくじなどの日本の伝統的文化について日本語や英語を交えながら説明を受け、参拝等を体験した。事後学習として、太宰府での感想や自国との違いについてグループで共有をした。本校生徒は、留学生が気になったことや、留学生に知ってほしい情報などをまとめ、簡単な日本語と英語で記載したパンフレットを作成し留学生に配布した。来年度の留学生にも配布する予定である。



⑨ 12/11（土）WWL 報告会参加

留学生は SDGs12「つくる責任つかう責任」につながる「食」に関わる諸問題とその解決策について自国と日本に共通する「米」に焦点をあてて調べ、全校生徒へ日本語と英語で研究発表を行った。



⑩ 1年 GI クラスとの協働

GI クラス英語探究・GI 探究授業に参加し生徒と交流をおこなった。探究授業では 10/28（木）より、毎週木曜日 6・7 限に参加し企業との商品開発に携わった。商品開発にあたり本校生徒と留学生が意見交換することで多種多様な視点から企画を提案することができた。留学生にとっても日本の和菓子を知るよい機会となった。

GI 英語探究では以下のような活動を行った。

- ・ 11/2（火）：Welcome Party for 留学生（パーティのテーマは：アジアを旅しよう！）
- ・ 11/9（火）：福岡の観光スポットを紹介の発表
- ・ 11 月中旬～12 月：SDGs の No.12、14、2 について留学生と協力し各国の問題を調べ高校生ができる解決策を考えた。
- ・ 1/11（火）：「食」のサミットに向けて、留学生が自国の食文化とマナーについてプレゼンテーションを行った。
- ・ 2 月下旬：留学生が英検準 1 級 2 級のスピーキングテスト練習のサポートを行った。
- ・ 3 月：簡単なお礼会・さよならパーティ実施。

⑪ 第 3 期アジア架け橋留学生とのオンライン授業

7/15（木）GI クラス 1 年生は、オンラインにてパキスタン・インド・フィリピン等に帰国した 2020 年度第 3 期アジア架け橋留学生と食文化等についてプレゼンテーションを行うなどの交流を行った。

⑫ 2年 GI クラスとの協働

「食」のサミットを開催するにあたり本校生徒は留学生と協働活動を冬休みから行った。本校生徒は留学生とテーマに関する意見交換やグループ発表などの共同活動によって、課題設定や課題解決に際し多様な視点からアプローチすることができた。また、実践的に英語を活用する機会を増やすことで、「食」のサミットにおける発表および運営に必要となる英語力を高めることができた。留学生は、前日、本会場においてファシリテーターとして海外連携校と本校をつなぐ役割を担い多くの生徒と交流を行った。双方にとって良い経験となった。

⑬ 浴衣製作・着付け体験

生地選びから裁断、縫製まで、留学生ひとりひとりで実施。初めてミシンを使う留学生も多く、戸惑いもあったがしだいに慣れ 3 週間程度で完成させた。本年度は赤ちゃん用の甚平も作った。「自国に戻った後、お姉さんの子どもに着せます」と笑顔がこぼれる留学生もあった。また、完成した浴衣で、着付け、帯結び等の練習を行い、ほとんどの留学生が一人で着ることができるようになった。留学生にとって日本文化への興味関心が深まるよい機会となった。



⑭ 「食」のサミット

留学生は、プレ会議においてファシリテーターとして海外連携校と本校をつなぐ役割を担い多くの生徒と交流を行った。また、ステージ発表において留学生 1 名を含む本校代表グループが発表を行った。



(2) 活動実績

| 日 | 時 | 主な活動内容 | 対 象 |
|------------------|---------------|--------------------------------------|-------------------|
| 10月27日 | 7限 | 中学1年 農業体験（芋ほり） | 留学生・中学1年 |
| 10月28日 ～3月11日 | 木 6・7限 | 1の6・2の7 GI探究 | 留学生・ GIクラス1・2年 |
| 11月2日 ～3月11日 | 火・木 放課後 | 1の6（GI） 英語探究 | 留学生・GIクラス1年 |
| 11月2日 ～3月11日 | 火・木・金 2限 | 日本語レッスン | 留学生 |
| 11月2日 | 放課後 | 1の6（GI） 歓迎会 | 留学生・GIクラス1年 |
| 11月4日 | 6・7限 | 2の7 GI探究・歓迎会 | 留学生・GIクラス2年 |
| 11月4日 | 放課後 | 茶道体験（許状式） | 留学生・茶道部 |
| 11月5日 | 放課後 | 浴衣製作（布選択） | 留学生 |
| 11月8日 | 3・4限 | 中1調理実習 | 留学生・中学1年 |
| 11月19日 12月17日 | 2・3限 | 書道（3の10）刻字体験 | 留学生・高校3年書道 クラス |
| 11月20日 | 9:00～13:00 | AFS 歓迎会 | 留学生 |
| 11月21日 | 9:00～13:00 | 公民館主催イベント | 留学生・地域の小学生 |
| 11月24日 | 9:00～12:00 | 華道 | 留学生 |
| 11月25日 | 9:00～12:00 | 茶道 | 留学生 |
| 12月7日 | 2限 | 中2日本の文化紹介 | 留学生・中学2年 |
| 12月10日 | 8:30～14:00 | 1の5（中高一貫ACクラス） と散策 | 留学生・高校一貫ACク ラス |
| 12月11日 | 午前中 | WWL 報告会 | 留学生・全校生徒 |
| 12月13日 | 放課後 | クリスマス会 | 留学生・寮生 |
| 12月14日 | 3限目 | 1の5（中高一貫ACクラス） 太宰府散策後のフィードバッ ク | 留学生・高校一貫 ACクラス |
| 12月20・22・24日 | 4限 | 2の7（GI）食のサミットに向 けて | 留学生・GIクラス2年 |
| 1月12日 | 1～3限目 | カレンダー作製・掛け軸 | 留学生 |
| 1月14日 | 3限目 | 日本のお正月ゲーム 英語 | 留学生・高校一貫ACク ラス |
| 1月18日～2月末 | 火・水・金 5～7限 | 浴衣・赤ちゃん甚平製作 | 留学生 |
| 2月17日 | 9:00～12:00 | うどん作り | 留学生 |
| 2月19日 | 1～4限目 | 掛け軸の製作 | 留学生 |
| 3月3日 | 午前 | 卒業式 | 留学生・高校3年生 |
| 3月8日 | 午後 | 感謝の会 | 留学生 |

| | | | |
|-------|----|---------------|-----------------------------|
| 3月中旬 | 午後 | フェアウェルパーティ | 留学生 GIクラス1・2年 |
| 3月11日 | 午前 | 食のサミット プレ会議 | 留学生・高校クラス代表 生徒・GIクラス1・2年 |
| 3月12日 | 午前 | 食のサミット ステージ発表 | 留学生・全校生徒 |

| | | | |
|-------|------------------------------|------------------|--------|
| 20-01 | 2021.5.11 (火) 11:35~12:20 | GIスタートアップセミナーの開催 | 拠点校：教室 |
|-------|------------------------------|------------------|--------|

本事業の構想計画書には、この研修を次のように説明している。

「GIクラスで実施する研修である。入学して間もない期間に実施し、グローバル・イノベーターを目指してスタートする高校生活についての学習面や生活面でのアドバイス、グローバル・イノベーターの人物像や心構えをグループワークで考えさせる等の内容を盛り込み、コミュニケーションを通してGIクラスの一員としての自覚を促す。この行事を通して、コミュニケーション力、異文化理解力、多様性受容力等を育成する。指導は外国人講師が行い、可能な限り英語を使用する。」

当初は、英会話指導に定評のある外国人講師を招き、2泊3日ほど外部の研修施設における宿泊研修を予定していた。しかし、新型コロナウイルスの感染状況が悪化したことにより、宿泊を断念して1日研修での計画に変更した。結局のところ、その変更案も実施できず、5月の連休明けに1時間ほど取って講話をするだけになってしまった。次年度は、宿泊はできないにせよ、余裕をもって時間を取り、計画書に記したような目的で実施したいと考えている。今回の講話で扱った項目は次の通り。

- (1) 4,800分の28、162分の1の中女「GIクラス」～自信と自覚をもって
- (2) 初心を忘れず、目標を立てて、ひたむきに努力を続ける
- (3) 英語はあくまでツール～英語を中心に、広く学ぶ姿勢を
- (4) 学ぶ（知る）ことの楽しさがわかれば上出来！
- (5) 解決すべき課題を自分ごとにする
- (6) 常に自分を問い続ける、物事の当たり前を疑う
- (7) アンテナを張りめぐらせる
- (8) 個人プレーよりもチーム優先、自分が何に貢献できているか考える
- (9) 失敗を恐れず積極的にチャレンジ
- (10) やりっ放しで終わらない、しっかりと振り返る

なお、1日研修として当初4月22日（木）に予定していた計画も参考として以下に記載する。

| 時限 | 学習活動・内容 | 形態 | 担当教諭 |
|----|---|------------------|--------------|
| 1 | GI と英語探究について ▶ WWL について ▶ GI クラス生に求められる力や心構えなど ▶ 英語探究の展開例 | 一斉 | 平田・アイカ |
| 2 | 英語①（自己紹介・他己紹介） | 個人 ペア グループ | 三浦・ハイダー |
| 3 | 英語②（SDGs に取り組む福岡の企業） | | |
| 4 | | | |
| 5 | 探究①（昨年度までの取り組み） ▶ 食のサミット ▶ WWL 報告会 ▶ 水仙祭（企業コラボ） ▶ 全国高校生フォーラムなど | 一斉 | 平田・横山 |
| 6 | 探究②（先輩からのメッセージ・探究の取り組み方） ▶ 2年 GI クラス生徒より～昨年度の報告 ▶ 探究授業担当者の紹介 ▶ 年間のスケジュール | グループ | 横山 探究科担当者 |
| 7 | 探究③（自分の周りの身近な SDGs）～グループ活動 ▶ SDGs の取り組みを調べ、グループで共有 ▶ 興味・関心が高いものまたは今後取り組みたいものを話し合い、各グループから発表 | グループ | 横山 探究科担当者 |

| | | | |
|-------|--------------------------|--------------|-----|
| 20-02 | 2021.6.3(木)～2022.3.31(木) | 文化祭 企業コラボの実施 | 拠点校 |
|-------|--------------------------|--------------|-----|

【2年生】

産学連携の一環として、学内では経営企画室と教育開発部が連携し、株式会社博多大丸様協力のもと、糸島市の農作物を使ったクリスマスケーキの開発を計画していた。この活動は6月3日（木）にスタートし、株式会社博多大丸伊藤様から博多大丸が「地域との共生」のために取り組むべき重要課題と実際に行っている、お客様の『幸せな未来の実現』に向けた具体的な活動について講義を受けた。生徒たちは、企業の発展は地域社会と共にあることやこれまで学習していたSDGsとのつながりを学ぶことができた。その後、糸島市在住の生徒からの糸島紹介、個人での糸島調べ学習、グループで糸島市が抱える地域課題とその解決策について考えるなどの活動を重ねた。8月上旬には糸島市に行き、福ふくの里、糸島市役所農政課、地元の農業従事者の協力を得てフィールドワークを行った。その際、糸島市では農業従事者の高齢化に起因する耕作放棄地の

問題があることを知ることができた。

フィールドワークの後には、クリスマスケーキの製造に協力していただく株式会社石村萬盛堂様の工場見学を計画していたが、このころコロナ禍の状況が悪化し食品を扱う工場へ行くこともできず、登校すらかなわない状況となった。最終的には、この企業コラボは少し形を変えて1年生に引き継ぐこととなった。生徒たちはクリスマスケーキの開発を楽しみにしていたので残念な結果ではあったが、スタートからの過程で、地域課題とその解決についての学びを得るよい機会となった。また、この糸島探究は、その後4名の生徒の追探究へと発展し、高校生フォーラムの参加（詳細は08-06参照）と京都先端科学大学附属成果発表会（詳細は08-08参照）での発表につながった。



【1年生】

本年度、コロナ禍の影響により、文化祭は中止となった。しかし、GI探究の「食と経済」（詳細は12-13参照）の授業を中心として、産学連携の一環として株式会社石村萬盛堂様との企業コラボで生徒主体の商品開発を順調に進めることができた。

スタートとして、11月に石村様より製菓業界・製造業の現状について講義があり、コロナ禍で打撃を受けた市場と、逆に売り上げを伸ばした市場があり、その要因に迫ると同時に、ヒット商品を生み出すために、世の中のトレンド、ターゲットの絞り方、競合研究や市場調査など、生徒たちは初めて知る舞台裏の話に興味津々であった。その後、9つのグループに分かれて、顧客のターゲット、商品のコンセプト、購入した人にどのような体験をしてほしいかなどについて、生徒は生き生きと意見交換を行っていた。続いて、オリジナル商品案を検討して企画書を作成し、一度目は教員に対して、二度目は石村様に対してプレゼンテーションを行った。2月には、一次選考で9つの商品案が5つに絞られた後、生徒たちは、長く愛されるロングセラーとなる可能性やトレンドとなる可能性など様々な視点から商品を再検討し、投票によって生菓子の「みつっとカヌレ」と焼き菓子の「かんしゃもじサンド」の2つの商品が商品案として選ばれた。3月からは商品のPRへとシフトし、次年度の6月に商品の販売を予定している。



石村萬盛堂様と共同での商品開発



商品企画案のプレゼンテーション

この活動を通して、生徒たちは食と経済に関わる当事者としての実体験だけでなく、「フードロス削減ができないか?」、「環境に優しい包装にできないか?」、「どうしたら多くの人が幸せになるお菓子が作れるのか?」など、SDGs の視点を含めて様々な角度から社会や物事を捉える力が豊かになってきていると感じられる。今後の商品開発や開発後の事後の学習や振り返りを通して、イノベーティブな資質の養成に努めていきたい。

| | | | |
|--------|------------------------------|--|-------------|
| 20-03① | 2021.11.6 (土) 10:40~13:15 | NPO 法人 Blue Earth Project 主催 Blue Earth 塾 | 拠点校: マルチホール |
|--------|------------------------------|--|-------------|

今年度が 3 回目となる Blue Earth 塾の環境イベントを実施した。昨年度はコロナウイルス感染症拡大防止のためオンラインでの開催となったが、今回は対面での実施ができた。Blue Earth Project からは 14 名のインストラクターとなる大学生、および法人代表の谷口理氏が来校され、GI クラス 1・2 年生全員が参加して行った。当日のスケジュールは次の通りである。

| | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 10:40~10:45 Blue Earth 塾の紹介 | 11:20~12:30 グループディスカッション及び発表準備 |
| 10:45~11:00 エコレクチャー | 12:30~12:45 グループごとの発表 |
| 11:00~11:20 自己紹介とアイスブレイク | 12:45~13:15 表彰・終わりの挨拶・写真撮影 |

始まりにあたり、進行役の学生から Blue Earth 塾の環境について「知る」「考える」「行動する」というポリシーが説明され、今回は「知る」「考える」をメインに活動することを強調された。

次のエコレクチャーでは、スライドを使って Blue Earth 塾の活動の概要を紹介され、特に身の回りの「衣・食・住」にフォーカスした課題と私たちでもできる解決策の例を説明された。

グループ活動は生徒 6 人程度にインストラクターの学生が 1 名ずつついて行った。まずは自己紹介から始まり、そこでも学生が準備したエコレクチャーが進められた。

グループディスカッションでのテーマ決めは、歌のイントロ当てクイズを行い、正解したチームから優先的に衣食住の 6 テーマから好きなもの選ぶことができるというユニークな方法で進められた。テーマは次の通りである。

「衣」について... 服を買うときに意識することは? そこからコーディネートを考えよう!
環境に配慮した服の開発をしよう!

「食」について... 食品ロスを減らすために今日からこんなことをします!
福岡の地産地消の食材を使ってお弁当を作ろう!

「住」について... クールチョイス&ウォームビズを考えよう!
家庭ゴミのリサイクルが簡単で楽しくなるようなエコな製品を考えよう!

学生の指導により、話し合いが要点を絞ってスムーズに行われ、グループ内で適切に作業分担が行われた結果、短時間でもよくまとめられた創意工夫のある発表ができたようである。発表内容は割愛するが、閉会時の生徒のお礼の挨拶の中に『これまで「食」を中心に探究を進めてきた

が、「衣」や「住」に関しては初めてだったので、新鮮な気持ちで取り組めた。たくさんの知識を得ることができた。』「1・2年生の混合グループということで、コミュニケーションを取りながら上手く活動を進めることができた」というコメントがあった。環境について幅広く学び、親睦も深められた良いイベントとなった。今後とも、この取り組みを継続し、「知る」「考える」だけではなく、次なる「行動する」に移れるよう環境保護に向けて積極的な姿勢を取れるような実践を進めていきたい。



| | | | |
|--------|------------------------------|--|--------------------------|
| 20-03② | 2022.1.29 (土) 13:30～15:30 | NPO 法人 Blue Earth Project 主催 オンライン Blue Earth 塾 | 拠点校：AL ルーム、 講義室、オンライン |
|--------|------------------------------|--|--------------------------|

11月6日(土)の拠点校での開催に続き、今回は今年度 Blue Earth 塾に参加した学校をオンラインで結んでそれぞれの参加校で取り組んだ活動成果の報告を行う会として実施された。実施内容は次の通りである。

[タイトル]

Blue Earth 塾の成果発表とエコワークショップ

[趣旨と目的]

様々な環境問題についての考えを深めること、他校との交流、探究学習の一環として行う。

[実施の流れ]

オンライン遠隔会議システム Zoom を用いて開催する。

【第1部】Blue Earth 塾での成果発表

① 各学校でのテーマと実践報告～NPO 法人 Blue Earth Project より

中村学園女子高等学校「衣食住」・松蔭高等学校「ファッションロス」・藤女子高等学校「MY 行動宣言」

② グループに分かれて成果発表・交流

自己紹介に始まり、それぞれの学校で実施した Blue Earth 塾のさらに詳しい内容や学校での取り組みなどの情報交換を行った。(グループを組み替えて2回実施)



【第2部】ワークショップ～Tシャツをリメイクしてエコバッグを作ろう！

グループに分かれて Blue Earth 塾リーダーの指導により、提供された使い古しの T シャツを加工してエコバッグを作製した。和気あいあいと楽しく語り合いながらオリジナルのエコバッグを作製できた。



このイベントを通して生徒たちは、身近な環境問題への気づきと問題解決への緊急性や必然性などを体験的に学習した。ここで学んだことを他の場面で環境問題の解決への行動として一歩を踏み出し、それを多くの人たちに広める行動を起こすところまで育ててくれることを願っている。

| | | | |
|-------|----------|---------|-----|
| 21-01 | 年3回(学期末) | 指導指標の測定 | 拠点校 |
|-------|----------|---------|-----|

〔実践内容の評価〕

今年度も毎学期末に指導指標の測定を行った。教師自身に指導実態の自己評価を行わせることで授業改善を意識させ、学校全体としてアクティブラーニング型授業の導入を積極的に推進してきた。今年度の指導指標測定結果をあとの表に示す。昨年度の数値と比較すると、新型コロナウイルス感染症により休校期間があったが、昨年度の経験から教職員の工夫によりペアワークやグループワークなどを行う時間が改善されている。コロナ渦でも特に項目 No. 3・4 の「これまでに一人では解決できない発問を投げかけ、その問題解決のためにペアワークやグループワークなどをする時間をとったことがある」「生徒どうして教えあう時間とったことがある」ことを、昨年度より数値が高くなっている。これは、学校全体としてアクティブラーニング型授業の導入が進んできていると考えられる。また、多くの教員が自ら工夫をしてグループワークなどを進めるのは新型コロナウイルスによって人とのつながりに再認識し、生徒自身の可能性に改めて着目した結

果ではないかと考察できる。オンラインでの授業でも2年目ということもあり、現在ではICTを活用した双方向性の授業展開など当たり前になり更なる工夫が行えるようになっており、授業時間も通常の7時間授業を実施できるまでに至った。今後は以前の日常に戻っていくと考えられるが今回の経験をどのように生かしていくのかを検討していくことが非常に需要だと考えられる。このようなことから授業改善への意欲は多くの教員が持ち続けていることが分かるので、職員研修などで多くの授業実践を公開していくなど、指導法の改善をさらに進めていきたい。

令和3年度 指導指標測定結果

測定教員数：74名

| No. | 指標項目 | 1学期 | | 2学期 | | 年度全体% |
|-----|---|--------|--------|--------|--------|-------|
| | | 教員の割合% | 昨年度との差 | 教員の割合% | 昨年度との差 | |
| 1 | ほぼ毎時間、生徒が考える時間を少しでもとっている。 | 96 | 5 | 100 | 9 | 99 |
| 2 | ほぼ毎時間、生徒が発表する機会をとっている。 | 87 | 6 | 88 | 7 | 89 |
| 3 | これまでに一人では解決できない発問を投げかけ、その問題解決のためにペアワークやグループワークなどをする時間をとったことがある。 | 58 | 12 | 61 | 15 | 62 |
| 4 | これまでに生徒どうしで教え合う時間をとったことがある。 | 57 | 9 | 70 | 22 | 64 |
| 5 | 生徒がテーマや課題に基づき、それを調べたり考察したりするような活動を行ったことがある。または、そのような宿題を課したことがある。 | 43 | - | 47 | - | 53 |
| 6 | 学期中には、これまでの教科内外で学んだ知識を関連づけた学習内容を扱うことで、生徒により深い理解を促すような授業を行ったことがある。 | 61 | 6 | 70 | 15 | 72 |
| 7 | 学期中には、情報を精査して新たな考えを形成させるなど、批判的思考力を身につけさせることをねらいとした授業を行ったことがある。 | 42 | 16 | 38 | 12 | 43 |
| 8 | 学期中には、問題を見出して課題解決を考えさせる授業を行ったことがある。 | 45 | 10 | 43 | 8 | 53 |
| 9 | 学期中には、生徒の思いや考えをもとに創造し表現する活動を取り入れた授業を行ったことがある。 | 39 | 1 | 42 | 4 | 42 |
| 10 | 「生徒が学びの主人公」であることを常に念頭におき、日々の授業を改善しようとする意欲をもち続けているか。 | 92 | 3 | 96 | 8 | 95 |
| 11 | 授業や生徒指導、生徒会活動、クラブ活動などで「生徒が学びの主人公」であることを具体化するための実践を行ったか。 | 61 | 5 | 78 | 22 | 74 |

| | | | |
|-------|-----------------------------|-----------------------|----------|
| 21-02 | 2021.7.21 (水) 9:00～12:10 | 夏期職員研修「探究授業実践ワークショップ」 | 拠点校：視聴覚室 |
|-------|-----------------------------|-----------------------|----------|

拠点校の夏期職員研修が7月20～21日の2日間に渡って行われ、2日目の午前中に教育開発部が企画した「探究授業実践ワークショップ」と題した講演を開催した。来年度から学年進行で施行される高等学校新学習指導要領のもとで、「総合的な探究の時間」や学校設定教科「グローバル探究」の実施に向けた準備をするとともに、探究授業の指導スキルを向上させることをねらいとしたものである。講師は、鹿児島にある一般社団法人 Glocal Academy の代表理事である岡本尚也氏にお願いした。

講演および講演中に出された課題の内容については、次の通りである。

1. 何のために課題研究をするのか

- ▶ 課題研究が必要になってきた社会的背景
- ▶ これから生きていく人材に求められるもの
- ▶ 課題研究には自分と真剣に向き合うことが大切
- ▶ テーマを教師が決めるのではない
- ▶ 教師は生徒の問い続けた過程で外の世界とつなげる手助けをすることで、生徒自らがテーマを決定
- ▶ 探究活動や課外研究でつける力は自分と向き合う力

2. 大学入試の動向をふまえた上での学校としての課題研究の取り組みと指導のポイント

- ▶ 課題研究は一部でやるものではなく全校で取り組むべき
- ▶ カリキュラムマネジメントの必要性…これが整備されていないと課題研究は負担になる
- ▶ カリキュラムマネジメントの出発点…できればトップダウンで止めるべきことを決定し、その後で改善することを決定し、新しく開始することを決定する。
- ▶ 建学の精神とつけさせたい力…行事との関連を熟考する。つけさせたい力のために何を具体的にさせるのかを掘り下げて考える。

3. 研修資料の課題に取り組む

次の3項目について考えたことを10分程度で記入し、書いたことを周囲の先生方と共有する。

- ▶ 学校の教育目標、および担当学年の教育目標。
- ▶ 学校および担当学年の教育目標を達成するために必要な資質・能力。
- ▶ 現在「負担」に感じていること。またそれを言い換えるとどのように書き表せるか。

4. 課題研究の方法（大人のための課題研究）

事前課題で渡されていた生徒論文例4編を使いながら、以下の点について説明された。

- ▶ Risk、Reality、Responsibility の欠如により、浅いアウトプットになりがち。
- ▶ 陥りがちな誤った方法…マジックワードの多用、引用文献の少なさなど
- ▶ 日頃の授業で探究活動の3分の1は実施可能であり、そのためにもカリキュラムマネジメントが必要となる。
- ▶ 先生も生徒と同じ目線で一緒に考え、まずは楽しむこと。
- ▶ 探究活動の始めには、問いを分解し、何が自分にとって明らかで、何が不明であるかを考える。

- ▶ 教師は、生徒が問いを立てることを手助けする。用語の概念が明確かどうか。調べる方法を学校内で共有する。
- ▶ 良い論文例を生徒に示して書き方や取り組み方を説明するとよい。

〔受講後の教師の感想〕

- ▶ 課題研究の必要性和取り組み際の基本が分かった。
- ▶ 講師の先生が話されたように、学校目標や学年目標の達成へ向けて、生徒たちにどのような力をどのようにしてつけさせたいかを学校全体で共有しておくべきである。
- ▶ 課題研究はGIクラスのような一部だけではなく、全校をあげて取り組むべき活動だと感じた。今後は学校のカラーを全面に打ち出したその成果を構築し、学校の魅力の一つとしてアピールしていく必要がある。



| | | | |
|-------|----|---------|----------------------------|
| 21-03 | 通年 | 中村学会の開催 | 管理機関・拠点校・ 中村学園三陽高校（連携校） |
|-------|----|---------|----------------------------|

管理機関、拠点校および連携校の中村学園三陽高等学校の有志若手職員で構成し、教育手法の研究開発を通じて教授法等の提案を教育開発部に行い双方の協働により教育力の向上を図ることを目的とする。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催ができなかった。

あとがき

今年度の報告書が完成し、一仕事を終えた充実感と安堵感で満たされている。

思い返せば本校（拠点校）での新たな教育の流れは、2013年9月に発足した21世紀型教育検討委員会の活動に始まり、SGH指定校の認可、教育開発部の発足、WWL事業カリキュラム拠点校の認可と、あっという間に約9年の歳月が過ぎた。この間の本校での国際化・グローバル化の急速な進展とともに、主役となる生徒たちの課題解決能力の伸長や進路実績は目を見張る素晴らしいものがあった。これまで一連の研究開発に携わった身からすれば、生徒たちの飛躍的な成長の過程を見守っていけることに加え、国が目指す先進的な教育計画に基づき本校独自の色彩で開発・検証できるという特権を与えられたことは、この上ない喜びであった。

ここに来て来年度からの新課程の導入に合わせ、ようやく新しい学校設定教科「グローバル探究」の学年一斉実施が決定した。SGクラスやGIクラスなど一部のクラスの履修でしかなかった本格的な探究教科を、学年進行ですべてのクラスで実施できるようになる。SGHやWWLの事業成果を校内全体へ新教科の実施によって波及するという意味で、9年前から持ち続けていた希望がようやく実現する時が来た。今後の数年間は、実践面での悪戦苦闘が続くことが予想されるが、本校の教員が育成すべき生徒像を共有して一致団結し、生徒たちの大いなる成長を後押ししていきたい。

今回作成した報告書は、原稿の作成や編集にかかる負担を極力減らすため、これまで行ってきたような編集委員会を組織せず、主に教育開発部内で作業を行ってきた。そのため間違いや不備が散見される可能性があることをご了承いただきたい。もしそのような点が見られた場合は、ご指摘いただければ幸いである。最後に、作成に関わっていただいた先生方に感謝いたします。

2022年3月31日
教育開発部 平田晃己

「食」の課題解決により持続可能な社会を創出するイノベーターの育成

■ 研究開発の概要（オンラインでの実施を含めた開発）

- ① 「食」を切り口とした文理融合型カリキュラム及びそれに位置づけられたイノベーションスキルの育成法・評価法の開発
- ② 「食」に関する多様な目的や課題に対応した国内外の研修先の開拓と開発
- ③ 「食」に取り組む学校や機関によるALネットワークの拡充と組織化（効率よく成果を最大限に上げる方法）の開発
- ④ 留学生との協働を最適化するプログラムの開発
- ⑤ 多面的評価による入試方式とAP導入による高度な学びの提供方法の開発

■ イノベティブなグローバル人材に必要な資質・能力等（育成する人材像）

まずは日本人としての自覚と素養を備え持つ。これに加え、グローバル・リーダーとして必要な地球規模の課題への関心、多様性受容力、コミュニケーション力を併せ持ち、自主的な学習ができる。

さらに、イノベーターとして必要な課題解決力、突破力、創造力、調和力を兼ね備えている。

GI（グローバル・イノベーター）として社会への貢献

▶ 進路実現：国内外のトップ校を含む大学・起業家

卒業後

高大接続 ★

- ▶ AP科目の先行履修による高度な学習内容の習得
- ▶ GIクラスでの多面的評価を反映した入試

3年次 GIクラス

イノベーターとしての創造的な問題解決策の提案と発信

- ▶ **論文作成**
「食」の問題解決策の提案（論理的思考力や表現力等を養う）
- ▶ **GIプレゼンテーション（論文発表会）** 🌟
「食」の問題解決策の提案と発表（論理的思考力や表現力等を養う）

2年次 GIクラス

課題解決力とイノベーションスキルの育成と実践

- ▶ **GIプレゼンテーション（研究発表会）** 🌟
留学時の「食」に関する課題研究の発表（論理的思考力や表現力等を養う）
- ▶ **GISキルアップセミナー** 🍀
専門家によるアントレプレナーシップ講座（課題解決力、持続可能な社会実現のためのマインドセット、創造力等を養う）
- ▶ **文化祭企業コラボ** ★ 🍀
海外展開する「食」に関わる地元企業とのコラボ（オリジナル商品の開発・販売を通じて創造力、調和力等を養う）
- ▶ **GIフィールドワークAdvance** 🍀
ALネットワーク等を活用した研修地で「食」問題の解決に向け、企画・立案した解決策を試行（課題解決力、突破力、創造力、調和力等を養う）

1年次 GIクラス

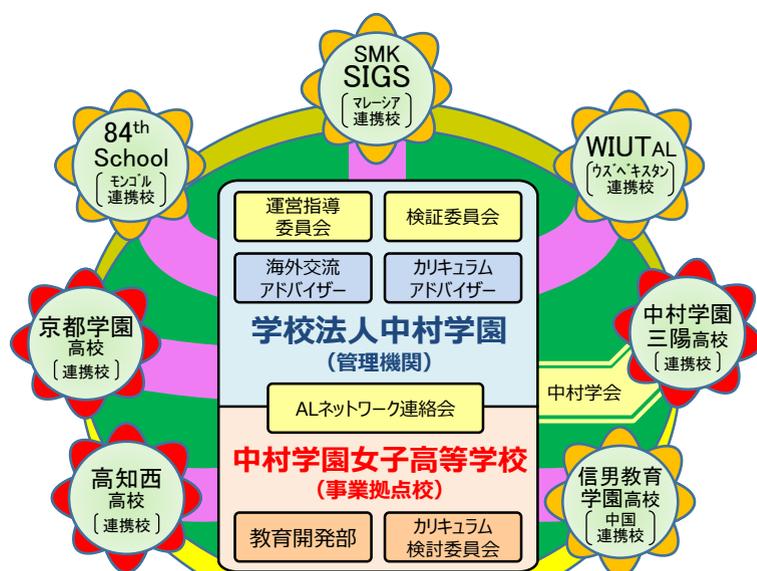
地球規模の課題理解と解決への意欲・態度の醸成

- ▶ **GIスタートアップセミナー**
入学直後に実施する外国人指導者による研修（コミュニケーション力、異文化理解力、多様性受容力等を養う）
- ▶ **GIフィールドワークBasic（グローバル・キャンパス）** ★ 🍀
協働機関の留学生と協働で「食」の課題解決を行う宿泊研修（リーダーシップ、課題解決力、協働する力等を養う）
- ▶ **GI留学プログラム**
最長90日間を海外の学校で学ぶ（生きて使える英語力、多様性受容力、コミュニケーション力等を養う）
- ▶ **GI講座** ★ 🍀
「食」やイノベーション等をテーマとする協働機関の講師による講演・講座（地球規模の課題への関心、課題解決への意欲・態度等を養う）

食

を通じた事業拠点校の取り組み

ALネットワーク組織



事業協働機関

中村学園大学 / 中村学園大学短期大学部
中村調理製菓専門学校 / 中村国際ホテル専門学校

事業連携校や事業協働機関との協働・共催

- ▶ 「食のサミット」（模擬国連形式）★ 🌟
国内外の中高生による「食」に関する課題解決案の策定・提言
- ▶ **探究型教科での合同授業**（オンラインでのライブ配信）★ 🌟
発表・ディスカッションを中心とした交流活動
- ▶ **成果報告会・ワークショップ**（現地参加型・オンラインでのライブ配信）
研究成果の発表と専門家による体験型講座 ★ 🌟 🍀
- ▶ **AP科目の受講**（現地参加型・オンラインでのライブ配信）★ 🍀
興味・関心に応じ幅広く高度な学びの機会を提供

文理融合・教科等横断型の学校設定探究教科 ★ 🍀
「GI探究」 ※「グローバル探究」（R4年度より全校で実施予定）

ポートフォリオの蓄積と振り返り
ルーブリックによる評価・検証 ★

留学生・外国人転入生との協働 ★ 🍀

事業成果の普及

- ▶ 成果報告会（年度末） ▶ 報告書（年度末） ▶ ホームページ（随時）
- ▶ 広報チラシ（年数回） ▶ 各種の学会・研究発表会での発表 等

教育力向上

- ▶ 指導者定例研修 ▶ 指導指標での教育力評価

関係資料3

令和3年度 WWL 事業関連 年間行事一覧

| 日程 | 内容 | 対象 | 実施形態 |
|-------------|--|----------------------------|----------------|
| 5月 | | | |
| 27日 | Naka-jo Times Global (第1号) 発行 | — | — |
| 6月 | | | |
| 3日 | 台中市立光明中(台湾)とのオンライン交流会 | GI1年生 | オンライン |
| 5日 | 第1回GIスキルアップセミナー 講師:SG インキュベート株式会社 代表取締役社長 相川 洋 氏 他 | GI2年生 | 対面 |
| 5日 | 京都先端科学大学附属中学校・高等学校探究活動講演会 講師:山ばな平八茶屋 園部 晋吾 氏 | GI1年生・ 中学校全学年 | ハイブリッド |
| 10日 | 第2回GIスキルアップセミナー 講師:五感応用工学研究所 代表 松岡 真輝 氏 | GI2年生 | 対面 |
| 18日 | 夏期海外研修業者合同説明会 | 高校1・2年生希望者 | ハイブリッド |
| 22日 | ライシーアム高校(ウズベキスタン)との合同授業 「いりこの解剖実験」 | SG3年生・GI2年生 希望者 | ハイブリッド |
| 23日 | 高雄市立文山高校(台湾)とのオンライン交流会 | GI1年生 | オンライン |
| 30日 | 文部科学省主催 WWL 連絡協議会 | 管理機関・ 拠点校関係者 | オンライン |
| 7月 | | | |
| 1日 | 第3回GIスキルアップセミナー 講師:株式会社 neuet 代表取締役 家本賢太郎 氏 | GI2年生 | 対面 |
| 13日 | Jeohyeon High School (韓国) とのオンライン交流会 | GI1年生 | オンライン |
| 15日 | 第3期アジア架け橋留学生とのオンライン交流会 | GI1年生 | オンライン |
| 16日 | 国際教養大学(AIU)学生とのオンライン交流会 | GI1年生 | オンライン |
| 17日 | 第1回GI留学プログラム説明会 | GI1年生希望者 | 対面 |
| 21日 | 探究授業実践ワークショップ 講師:一般社団法人 Glocal Academy 理事長 岡本 尚也 氏 | 拠点校全教員 | 対面 |
| 24日 ~26日 | 夏期海外研修「近畿日本ツーリスト主催:国内 English Camp①」(海の中道青少年海の家) | 高校1・2年生 希望者 (13名) | 対面 |
| 28日 | 韓国観光公社主催「深発見・韓国オンライン修学旅行」 (SDGs と都市開発) | GI1年生 | オンライン |
| 29日 | 第4回GIスキルアップセミナー 講師:株式会社メロデイ・インターナショナル 代表取締役 尾形 優子 氏 | GI2年生 | 対面 |
| 30日 | GI 留学支援金一次選考 (書類選考) | GI1年生希望者 (15 名) | — |
| 8月 | | | |
| 2日 ~4日 | 夏期海外研修「ISA 主催:2か国バーチャル海外体験プログラム」 | 高校2年生 希望者 (1名) | オンライン |
| 2日 | 糸島市フィールドワーク | GI2年生 | 対面 |
| 13日 ~15日 | 夏期海外研修「近畿日本ツーリスト主催:国内 English Camp②」(グローバルアリーナ) | 高校1・2年生 希望者 (10名) | 対面 |
| 23日 | 京都先端科学大学附属中学校・高等学校 教員研修会 探究活動実践報告 | 教員1名参加(報告者) | オンライン |
| 9月 | | | |
| 3日 | GI 留学支援金二次選考 (プレゼンテーション) | GI1年生 (一次選考通過 者8名) | オンライン |
| 4日 | 第2回GI留学プログラム説明会 | GI1年生留学参加希 望者 | オンライン |
| 13日 | 中村学園大学・短期大学部での科目等履修(AP)受講開始 | 高校2年生 希望者 (19名) | 対面および オンライン |
| 15日 | GI フィールドワーク Basic「グローバル・キャンパス」 〔立命館アジア太平洋大学(APU)との協働行事〕 | 高校1年生 | ハイブリッド |
| 15日 | GI 留学支援金選考合格者(3名)決定 | GI1年生希望者 | — |
| 21日 | アジア架け橋留学生(1名)登校開始 | 2年GIクラス | — |
| 10月 | | | |
| 7日 | 第1回検証委員会 | 検証委員・ 拠点校関係者 | オンライン |
| 14日 | 第1回運営指導委員会 | WWL 運営指導委員、 管理機関・拠点校関係者 | オンライン |
| 16日・ 31日 | 第4期アジア架け橋留学生 (9カ国9名) 2陣に分かれて来日 ※9月21日より1名登校開始 | 高校1年生 各クラス配属 | — |

| | | | |
|------------|---|-------------------------|--------|
| 23日 | ハワイ州立大学付属カピオラニコミュニティカレッジ (KCC) 大学説明会 | 中学生・高校生の希望者 | オンライン |
| 27日 | Nakajo-Times Global (第2号) 発行 | - | — |
| 11月 | | | |
| 2日 | GI 講演 講師：環境活動家 谷口 たかひさ 氏 | 高校1年生 | 対面 |
| 24日 | 韓国観光公社主催「深発見・韓国オンライン修学旅行」 「個人の部」最優秀賞表彰式 | GI1年生1名 | 対面 |
| 12月 | | | |
| 11日 | WWL 報告会 | 高校1・2年生 | ハイブリッド |
| 13日 | 第1回アントレプレナーシップ・セミナー 講師：うきはの宝株式会社 代表取締役 大熊 充 氏 テーマ：「ばあちゃん食堂が世界を変える」 | 中学3年・高校1・2年生希望者 | 対面 |
| 18日 | アントレプレナーシップ・ワークショップ 講師：ディサント株式会社 キーアカウントマネージャー 吉村 友見 氏 ピンサリア・ピンサ・ローマナ マリノアシティ店 店長 松井 淳史 氏 テーマ：「食文化の広がりについて考えてみましょう ～イタリアの新しいピッツァ「ピンサ・ローマナ」の事例～」 | 中学3年・高校1・2年生希望者 | 対面 |
| 19日 | 全国高校生フォーラム | GI2年生代表生徒 | オンライン |
| 19日 | 九州大学高大連携「世界に羽ばたく高校生の成果発表会」 | GI1年生代表生徒 | ハイブリッド |
| 27日 | シンガポール国立大学(NUS)とのオンライン交流 | GI2年生 | オンライン |
| 1月 | | | |
| 24日 | 第2回アントレプレナーシップ・セミナー 講師：NPO 法人いるか 理事長 田口 五郎 氏 テーマ：「経済格差」により「学力格差」が生まれない世界を創る」 | 中学3年・高校1・2年生希望者 | 対面 |
| 26日 | 京都先端科学大学附属高等学校主催 研究成果発表会 | GI2年生代表生徒 | オンライン |
| 28日 | GI カナダ留学出発 (令和3年4月3日帰国予定) | GI1年生希望者13名 | — |
| 29日 | Blue Earth 塾 成果発表・エコワークショップ | GI2年生 | オンライン |
| 2月 | | | |
| 7日 | 第3回アントレプレナーシップ・セミナー 講師：株式会社 明治 業務部コミュニケーション課 藤原 理佐 氏 テーマ：チョコレートセミナー | 中学3年・高校1・2年生希望者 | オンライン |
| 9日・10日 | 「食」のサミットプレオンラインミーティング | GI2年生・国内海外連携校 | オンライン |
| 3月 | | | |
| 8日 | 第4期アジア架け橋留学生「感謝の会」 | AFS、留学生、ホストファミリー、学校担当者 | 対面 |
| 11日 | 高知西高校 探究活動成果発表会 | GI1年生代表生徒 | オンライン |
| 11日 | 「食」のサミットプレ会議・サテライト会議 | 全校生徒、WWL国内・海外連携校代表生徒 | ハイブリッド |
| 12日 | 「食」のサミット本選 | 全校生徒、WWL国内・海外連携校代表生徒 | ハイブリッド |
| 12日 | 第2回運営指導委員会兼 AL ネットワーク連絡会 | WWL 運営指導委員、管理機関・拠点校関係者等 | ハイブリッド |
| 13日 | アジア架け橋留学生帰国の途へ | — | — |
| 17日 | 第2回検証委員会 | 検証委員 | オンライン |
| 21日～25日 | GI フィールドワーク Advance ※新型コロナウイルス感染拡大予防のため国内研修に変更 | GI2年生 | — |
| 25日 | 学外指導者による論文指導 | GI2年生 | 対面 |
| 30・31日 | マーセッド大学 (アメリカ) オンラインフェア | 中高生徒希望者 | オンライン |

備考：毎月1回「カリキュラム検討委員会」をカリキュラム検討委員および拠点校関係者でオンライン開催。

関係資料4

第1回運営指導委員会 議事録

1. 日時：2021年10月14日（木）13:30～15:00
2. 場所：オンライン開催
3. 参加者： *実施の詳細 01-01 参照
4. 会次第： *実施の詳細 01-01 参照
5. 議事録

管理機関長挨拶（中村理事長）

皆さん、こんにちは。本日はご多用のところご出席を賜りまして厚く御礼を申し上げます。前回は3月の終わりに開催をしましたが、その際もオンラインで開催しました。新型コロナウイルスの影響でリアルでの開催ができない事態になっております。今回もオンラインでさせて頂いた次第でございます。

本学園の中学校・高等学校、大学もコロナの影響で大変な状況です。蔓延防止、重点処置が終わった後も緊急事態宣言によりノーマルな授業が行われない状況が続いております。女子中学校・高等学校は、タブレットを数年前から持つようになったため、オンライン授業を比較的スムーズに行えることができております。また、中学・高校はリアルでの授業を取り入れたいということで、時間差登校などでリアルの部分を増やしてきました。WWL行事もなかなか予定通りに消化できていない状況ですが、残りの認定期間、これまでの遅れを取り戻せるように頑張らなきゃいけないと思っていますところでは。

現在の状況については後ほど確認します。文部科学省から指定を受けた事業のため、皆様方のご意見を頂きまして、よりよいものを作り上げていきたいと思っておりますので、ご意見、ご支援の程、宜しく願いいたします。

拠点校実行委員長挨拶「WWLについて」（奥井校長）

本日はお忙しい中ご参加頂きましてありがとうございます。福岡県に発出されておりました緊急事態宣言も解除されて、普段の学校生活が戻ってきております。今後はこれまで以上に WWL 事業を推進していく所存であります。

昨年本校は WWL に認定されました。SGH はグローバルリーダーの育成を目指すものでしたが、WWL は SGH 時の実績や教育資源を活用し将来世界で活躍できるイノベーター人材を育成するものです。そのために、先進的なカリキュラムを研究・開発・実践し、持続可能な取組とするための体制を整備しながら国内外の学校・企業・国際機関などが協働して高校生への高度な学びを提供する仕組みを形成します。

高校・大学・企業などと連携し、これからの社会が共通して求める力を身に付け、将来新たな社会を牽引し世界で活躍できるビジョン、資質、能力をもつグローバルな人材育成をしていく。そして、これから日本の主流となっていく新しい教育を実践して参ります。今後とも皆様の暖かなご指導とご協力を宜しく願い致します。

拠点校活動報告

<平田部長>

1. 今年度の主な取組
 - (1) 新カリキュラムの承認・決定
 - (2) 連携校や事業協働機関との積極的な連携
 - (3) イノベーター育成のための手法・評価法の開発
 - (4) 初めての取り組みの円滑な実行（1年 GI 留学プログラム、2年 GI 海外 FW 等）
 - (5) オンラインの効果的な実施方法
2. これまでの経過（4～9月）
 - (1) カリキュラム開発

新学校設定教科「グローバル探究」を次年度入学生より学年進行で導入し、3年間をかけて展開する。文

理融合型選択制の導入は、次年度入学生が2年生になる再来年の導入予定。また、カリキュラム検討委員会では筑波大学教授の國分先生に入って頂き、月1程度開催を行っている。

(2) AL ネットワーク内の連携

例として、6月に京都先端科学大学附属高校の講演会に参加（中学生、高1 GI クラス）し、8月同校の教員研修会で探究授業実践例の発表を拠点校教員が行った。

(3) イノベーター育成

「GI 探究」「英語探究」の実践 ※詳細は後述 GI の活動報告にて記載。

(4) 新たな取り組み

▶6月 夏期海外研修業者合同説明会

▶9月 GI 留学プログラム支援金〔一次選考：校内審査（エントリーシート）、二次選考：学園審査（プレゼンテーション）〕

(5) オンラインの効果的な実施

▶6月 ウズベキスタン連携校との共同実験

▶9月 グローバル・キャンパス実施（APU との共催）

(6) その他

▶6月 文科省主催 WWL 連絡協議会

▶7月 探究授業実践に関する教員研修

▶9月 中村学園大学・中村学園短期大学部での科目等履修(AP 講座)受講開始

アジア架け橋留学生の受入開始（9月1名登校開始、他9名は10月末までに入国・登校開始予定）

3. 今後の予定（10～3月）

▶11月 1年 GI 講演（環境問題）、Blue Earth 塾（環境問題解決ワークショップ）

▶12月 WWL 報告会（連携校参加）、WWL 全国高校生フォーラム

▶1月 京都先端科学大学附属高等学校（模擬国連形式のイベント）

▶1月末～4月初旬 GI 留学プログラム（GI 1年生 13名参加）

▶3月 ・高知西高校 探究活動成果発表会

・「食」のサミット（前日プレ会議開催予定）※ テーマ「SDGs12 つくる責任・つかう責任」につながる「食」に関する諸問題とその解決策

・第2回運営指導委員会兼 AL ネットワーク連絡会 ※海外勢が来日出来ない為、オンライン併用での実施

・2年生 GI クラス国内研修

4. 今後の課題

(1) 文理融合型の選択制のカリキュラム案の作成 (2) 2年 GI 国内研修の計画

(3) GI スキルアップセミナーに続く、アントレプレナーシップに関する講座と評価法の検討

(4) 論文指導の充実と体系化 (5) 「食」のサミットのオンライン併用化に伴う諸問題の解決

▶質疑

司会：「食のサミット」のハイブリッド開催に伴い、審査の公平性を保つためにどのような工夫をしなければよいか？

回答：副島氏：至る所で高大連携の事業がオンライン併用で行われていますが、その中でよくとられているのが審査を2段階で行う方法です。初めに、発表グループがパワーポイントの映像に音声をつけて、動画を作成し提出します。それを審査員が審査し、選ばれたグループは別日でオンライン配信で口頭発表を行うというかたちもよくあります。公平に審査するという意味では、審査を二段構えにするようなことをするのもよく見えるかもしれない。すべてを動画配信するというよりは、予めある程度絞った形での動画

配信をすると、皆さんに見てもらえるためいいかと思います。

平田：動画で配信するとアーカイブで観れるため審査はしやすい。大多数の方に見て頂けるのでメリットがあるかと思います。ありがとうございました。

GI クラス活動報告

<GI クラス 1 年生>

1. クラスの現状および取り組み内容（目標・成果・課題）（三浦）
2. 活動報告（代表生徒）
 - (1) グローバルキャンパス
 - (2) SDGs
 - (3) 海外とのオンライン交流
3. 質疑応答

1. クラスの現状および取組内容（三浦）

クラスの 85%が大学進学を希望しています。中でも、グローバル教育に力を入れている大学を志望している生徒が多い。GI で育成したい能力としては、「英語力」「探究力」に加え、「グローバルマインドセット」「アントレプレナーシップ」を育成したい。これを踏まえ、学級運営方針としては3つあります。1つ目は、従来の詰め込み型教育ではなく、アウトプットの機会を設け主体的に学んでいく。2つ目は、ICT を活用し、コロナ禍であっても生徒が主体的に動いていく。3つ目に、国際交流を通じて生きた活動を行い、実践的なコミュニケーション力を身に着けること。そしてこれらの3つを貫く「グリット(やり抜く力)」を身に着けてもらいたい。先の見えない VUCA 時代を生きるイノベティブな人材を育成したいと考えています。

取り組み内容以下については、以下の通り。

▶国際交流

- (1) 台湾や韓国の学校とのオンライン交流
- (2) APU とのグローバル・キャンパス (SDGs 企業のリサーチおよび発表)

目標：① アウトプット型活動 ②ICT 活用・主体性 ③生きた国際交流

成果：① SDGs 企業のリサーチを行い、APU 国際学生へ発表

- ② オンライン授業下でのプレゼンテーション準備、意見交換
- ③ 実践的なコミュニケーション能力を育成

課題：① 問題に対する深い問いを立て、アウトプットの質を向上させていく

- ② ハイブリッド環境下で、いかに充実した活動を行っていくか
- ③ SDGs などへの連携強化（海外の学生との共同活動）

以上の3つの課題をクリアするために、イノベーションを生み出すチームビルディングを作っていきたい。

そして、高校から大学、社会へと繋がる学びを提供していきたい。

2. 活動報告（代表生徒）

(1) グローバル・キャンパス

「フードロス」をテーマに、APU との共同活動を行った。1日完結型のプログラムのうち、前半はGI生のみ APU の学生と英語で交流を行い、フードロスに関する企業の取り組みについてプレゼンテーションを行った。後半は、学年全体での活動で、GI クラスはファシリテーターや代表挨拶を行い学年の中心となった。フードロスと貧困を同時に解決するために起業した APU の学生の話聞き、明確に目標をもち、実際に問題解決のために行動を起こす姿に感銘を受けた。

成果：① 英語力の向上 ② 自信がついた ③ フードロスを身近に考えることができた

課題：フードロスの解決に向けて具体的なアクションプランを提示したうえで、SNS やポスターを通じてどのように GI クラス以外で広めていくか。

(2) SDGs

7月韓国観光公社主催「深発見・韓国オンライン修学力」に参加した。SDGsについて、身近なところで取り組みが行われているが、その目的と成果についてこれまで考えたことがなかった。今回のイベントを通じて韓国の都市性について学ぶ。印象に残ったのは、ソウル路 7017 と清溪川についての SDGs の取り組みである。ソウル路 7017 は、もともと高速道路だったが、安全上の理由により現在遊歩道として使用されている。市民が安心して暮らせ、現在ではレストランやカフェが立ち並び、ドラマのロケ地にもなっている。成果：① SDGs についての考えをもつことができた。特に、市民参加型という点に魅力を感じた。

② クラスアンケートによると、イベント前は SDGs17 の目標について、クラスの約 7 割が知らなかったが、受講後、約 90%のクラスメイトが SDGs について理解できたと回答。「知る」機会を得ることで、このような変化があることを知った。「SDGs の項目は、異なるようにみえて関連づいている」「もっと若者が SDGs の活動を広めていく必要がある」などの感想が得られた。

課題：・SDGs について学ぶ機会をつくる ・考えを発表する場をつくる

・世界の SDGs の活動を日常的に取り入れる

(3) 海外とのオンライン交流

台湾、韓国の学生とオンラインでの交流を行った。お互いの学校生活や文化についてのプレゼンテーションを行い、グループワークで質問をした。授業後、SNS を通して交流が続き、日常的に英語を使用する機会が増えている。

成果：・親交が深まる ・互いの文化について興味が深まる

・オンラインを活用してのプレゼンテーションの成功

課題：・相手国、歴史についての知識が足りない…東日本大震災：台湾から日本に支援があったことを知らない生徒がいた。そのため、台湾の先生生徒からワクチンのお礼を言われたときに反応できなかったのが半分以下だった。震災のことを思い出してすぐにお礼を言えるのがグローバルな人材だと思う。

・海外との英語教育の差…日本の英語教育と海外の英語教育の差を感じた。クラス内に、将来英語を使いグローバルに活躍したいと考えている生徒が多数いる。

3. 質疑応答

三浦：多くの課題がある中で、ご指導ご助言を頂きたいことがある。産学連携の一環で、石村萬盛堂様と商品開発を行うことになっている。「多くのお客様に愛される商品」を作るために、商品開発の企画や広報について工夫されている点、注意する点についてご助言を頂きたい。

米濱氏：コロナ禍の中、また競争社会の中で、SDGs との関連性をもたせながら本社も試行錯誤し、新たな商品を検討している。ひとつの物事に対して追求していくことが大切である。色々手を付けようと思うと大変になる。また、商品開発も値頃感がある。値ごろ、品質、デザインを含めて、商品を何に絞るかということを考えることが大切です。

副島氏：グローバル・キャンパスについての質問です。グローバル・キャンパスで学生との交流を通して貴重な経験をしたと思うが、大学生をみてすごいなと思ったことはありますか？理想を見つけることは大切です。

代表生徒：午前の部で、GI クラスと APU の日本人学生と交流する機会があった。大学生の皆さんが日本の英語教育を変えたいという気持ちを持ち、GI クラスに企画をもって一緒に活動してくれた。頭で考えることは誰にでもできるが、実際に企画を立て行動に移す姿に感銘を受けた。

代表生徒：午後の部で、起業した APU 生の話が素晴らしかった。講師をされた学生の方は、フードロスと飢餓を同時に解決するという目標があり、海外のモデルケースを参考に取り入れて実際に起業をしている。情報収集と行動力がすごいと思った。

副島氏：大学生をみて、活発に行動していることを感じたのですね。その姿をみて自分の問題として捉えていることも素晴らしいことと思います。

<GI クラス 2 年生 (永松、代表生徒) >

1. 活動報告 (代表生徒) (1) 糸島探究 (2) スキルアップセミナー
 2. GI スキルアップセミナーアンケート分析 (永松)
 3. 質疑応答
-

1. 活動報告 (代表生徒)

(1) 糸島探究

株式会社博多大丸様との産学連携で、糸島の生産物を使った商品開発を進めていたが、コロナ禍により活動をやむを得ず中止するかたちとなった。しかし、糸島市の課題を考えたうえで、課題解決策を提示する探究活動を進めていくことになった。活動内容は以下の通り。

▶オンライン講義 (博多大丸様)

企業として SDGs にどのように向き合っているか、地域社会との共存をどのように実現しているかなどの説明をして頂く。

▶糸島について知る

糸島在住の生徒にプレゼンをしてもらい、糸島の魅力や課題を知る。

▶糸島を「食」の4分野の観点から考える

糸島市について、食の4分野 (経済、栄養、環境、社会文化) と絡め考える。

▶フィールドワーク

糸島市の直営所、市役所、農家の方の話を聞く。印象的だったのは、糸島市は高齢化に伴い後継者不足が課題になっていること。また、高齢者の「孤食」と「固食」が課題となっている。高齢者の割合が 25% となり、多くが胃腸障害、脳疾患などの病気を抱えており、原因として食生活が挙げられると考えた。そして、その課題に対して解決策を考えた。それは、高齢者に不足しているカルシウム、鉄などの栄養素を、糸島の産物で補えるようにすること。柑橘類などを使用し、ムースという形にし、咀嚼が弱くなる高齢者に適していると考えた。病院食や配色サービスを利用し届けたいと思う。

今後の活動としては、栄養素の効果を数値化していくような取り組みを進めたい。そのために、研究の知識向上が必要である。今後、全国高校生フォーラムへの参加も決まっているため、課題への解決策を考える探究活動を進めていきたい。

(2) スキルアップセミナー

趣旨としては、アントレプレナーシップ (起業家精神) を学び、起業家と一緒に社会課題について考える。全4回の講座を行った。

全4回のセミナーを通して、起業家の方々に共通点があることに気づいた。それは、無理だと諦めずに、よりよくすることを考える。日常生活で感じる「もし〜だったらいいのに」という気持ちに対して無理だからといって諦めるのではなく、沢山の熱量を注ぎ、よりよくすることを考えている姿勢を学んだ。

また、日常生活において周りに目を向け、些細な疑問に気づくことが大事だと感じるとともに、専門的な知識・創造力が新しいアイデアを生み出すことに気づいた。熱力と行動力を掛け合わせることで社会に貢献されている。

特に、第2回セミナーで講師をして頂いた松岡様 (株式会社 五感応用工学研究所 代表取締役) は年齢が近く、女性であることが印象的だった。コンプレックスを武器に、香りに関してよりよい社会の実現を目指すため在学中に起業されており、このセミナーによりこれまで縁がなかった起業を身近に感じることで出来た。松岡様は、「凶々しさ」を大切にされている。「自分の意見を人に伝えること」「挑戦したことを最後までやり遂げること」など、新しいことをやり遂げるためには「凶々しさ」が必要だと感じ、言葉のもつイメージがセミナーを通して変わった。事前学習 (テーマ「自分のコンプレックスはなに?」) を基に、回答の共有と解決策の提示をグループワークで行いプレゼンテーションをしたが、活動を通して「小さな気づ

き」からイノベーティブな発想を生み出すことができることを学んだ。

2. GI スキルアップセミナーアンケート分析（永松）

セミナー前、中間、全セミナー終了後の全3回アンケートを行った。質問項目は以下の4つ。

▶起業への関心 ▶起業したい事業内容 ▶起業に必要な力 ▶起業家に対するイメージ

結果：アンケートを通して、起業に関心をもつ生徒の増加、自分の将来の夢を起業に結びつける可能性を見出した生徒、起業以外の自分の目標・将来の夢・得意分野の明確化などができ、キャリア教育の機能を大きく果たしていることが分かった。

課題：教科学習と生徒が考える社会で役に立つ知識・力が結びつきにくいいため、今後アンケート項目を検討する。

今後の展開：SDGsに関連した世界の諸問題を学んだり知識と創造力を身につけている途中段階である。実行可能性・持続可能性のあるアクションプランを考える機会を設け、今後の食のサミットやWWL報告会、各種外部イベントへと繋げていきたい。また、イノベーティブでサステナブルなアイデアを生み出すために、知識と創造力を掛け合わせる練習を行い、考えて終わりにするのではなく、実行するところまでをゴールに活動していきたい。

3. 質疑応答

永松：生徒が「気づくこと」が大切だと考えるが、「気づき」の感度を高めるために意識されていることがありましたらご助言をお願い致します。また、糸島の探究活動については、実現可能性を求めて進めていくわけですが、高校生のアイデアをどのように実行していくのかという、アプローチを教えてくださいと思います。

相川氏：高校生の皆さんは色々なことに興味を持たれていると思う。身近なものを見ていて、自分が興味をもったことが、セミナーの先生方のように結果的に事業に繋がっていた思っている。身近なことをよく見てほしいです。

米濱氏：100分の1しか商品開発は成功しないということを肝に銘じ、凶々しく、あつかましく、諦めずにチャレンジして頂きたい。我々も失敗のデパートのように沢山失敗をしてきた。チャレンジ、チャレンジということです。高校生でこのようなことをしているとはすごいことです。素晴らしいセミナーです。

管理機関統括長挨拶（中村副理事長）

本日はお忙しい中ご参加頂きましてありがとうございます。本日、生徒の発表も含めて現状をお伝えさせていただきましたが、コロナ禍の影響もあり、福岡県にも緊急事態宣言が発令され、通常と違う学校運営になっております。そのため、計画の遅れ、変更をやむを得ず実施しないといけない状況にあり、課題が山積しているような現状であるということをご理解頂けたかと思えます。

しかし、このような計画通りに進まない時代、いわゆるVUCA時代に入っていくことが既に予測されておりました。そのような時代に生徒を社会へと送り出していく上では、これまでの教育ではなく、それにプラスアルファをしてチャレンジをしていくこと、トライアンドエラーを繰り返していくことが求められる時代になってくるだろうと思えます。

国際情勢に目を向けても、台湾海峡が賑やかな状態になりつつあり、海に囲まれている日本は非常に国際関係に影響があると思われれます。そのような中で、韓国や台湾などとオンラインで繋がり、授業を出来る環境が当たり前になっていく時代がくるのではないかと思います。こちらがひとつ、コロナ禍のいい影響として、オンライン環境の中で日常的に国境を越えて国際社会の中で学びを深めることができるということです。加えて、アフターコロナの社会では、また現地に足を運べるようになれば、現地に行ってリアルだからこそできる事を短時間で集中してできるようになるだろうと思えます。教育の質という点で、教育効果を更にあげることがこのオンラインを活用することで可能になっていく時代を迎えるのではないかと考えているところです。

そういった時代に向けて、生徒を送り出すために、運営指導委員会の皆様にはご協力をお願いさせて頂

きまして、今後もご指導をいただきまして、残りの WWL 期間を取り組みを進めていきたいと考えております。ぜひ今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

第 2 回運営指導委員会兼 AL ネットワーク連絡会 議事録

※ 海外の参加者もあったため日英両言語で実施。以下の記録は日本文のみ記載。

1. 日時：2022 年 3 月 12 日（土）14:00～15:30
2. 場所：ハイブリッド開催（対面実施場所：中村学園女子高等学校視聴覚室）
3. 参加者： *実施の詳細 01-02 参照
4. 会次第： *実施の詳細 01-02 参照
5. 議事録

開会挨拶（中村理事長）

皆さん、こんにちは。本日は年度末の大変お忙しい中、またせっかくの土曜休日にも拘わらず、WWL 運営指導委員会並びに AL ネットワーク連絡会にご出席賜り有難うございます。

おかげさまで、この教育プログラムも SGH 5 年を経て WWL 2 年目を終えようとしています。この 2 年間はコロナ禍の中でしたが、本校においては確実にグローバル化が進んだと感じています。世の中は、第二次世界大戦後も各地で紛争が絶えませんでした。今現在勃発したロシアのウクライナ侵攻を見て、今更ながらこの時代にこんな戦争が起こるのかと、暗澹たる思いがしております。しかし、こんな時代だからこそ、さらに進んだグローバル教育が必要だと言えるのではないのでしょうか。どうか、運営指導委員皆さま方の親身なご助言、ご指導をよろしくお願いいたします。有難うございました。

拠点校実行委員長挨拶（奥井校長）

本日は、お忙しい中ご参加いただきまして本当にありがとうございます。食のサミットはいかがだったでしょうか。後ほどご意見を頂ければ幸いです。

WWL カリキュラム開発拠点校に認定されてからの 2 年間は、新型コロナウイルス感染症との戦いでもございました。SGH で培いました研究を更に発展させた活動を計画しておりましたけれども、思うようにいかない部分がありました。それでもオンラインを駆使しながら、精一杯常によりよい教育活動を生徒たちに提供できるよう常に努力を重ねております。

GI クラスは、1 年生が 3 学期にカナダへの留学を計画しております。残念ながら 1 期生は実現が叶いませんでしたけれども、2 期生は今カナダの空の下で勉学に励んでおります。学園もこの留学に対して積極的に支援して下さっています。今年から、高校内の審査を通過した生徒達が留学への熱い想いを学園の理事長、副理事長、財務部長 3 名の前でプレゼンテーションするという学園独自のユニークな取り組みを始めております。その結果、最優秀賞 2 名、優秀賞 1 名が選ばれ、それぞれ留学支援金を頂戴いたしました。中止になるのではないかと、気を揉んだ末の出発でしたけれども、実現できたことを大変嬉しく思います。大きく成長して帰国することを期待いたしております。

今年から始まりました「GI スキルアップセミナー」は、幸運にもすべて対面で行うことが出来ました。また、全校生徒から希望者を募って開催しております「アントレプレナーシップ講座」も好評で、調理実習も交えながら順調に進みました。昨年 6 月には、連携校であるウズベキスタンライシーム高校の生徒達と平田教諭がオンラインで理科実験を行いました。コロナ禍のもと、積極的に海外とオンラインを通じて活動いたしましたけれども、韓国観光公社主催の「深発見・韓国オンライン修学旅行」では、個人の部で GI2 期生が最優秀賞を頂いております。

こういった活動ができましたのは、ひとえに AL ネットワークでの連携のおかげです。学校現場だけで

は実現出来なかった、今の社会が抱えている諸問題についての深い学びや現地視察など、生徒達は数多く体験することが出来ました。今後も多くのことを体験し学びながら成長して欲しいと願っております。

また、本校 WWL 活動の土台となった最後の SG コース 5 期生が、この 3 月 3 日無事に卒業いたしました。SG コースで学んだことを生かし、カナダのトロント大学、大阪大学などに合格を果たすなど立派に最後を飾ってくれています。今後は大きなグローバルの舞台で活躍してくれることを期待しております。WWL 事業を順調に進めるにあたって心強いご支援を頂きました運営指導委員の皆様へ深く感謝申し上げます。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

運営指導委員長挨拶 (学校法人福岡成蹊学園 理事長 岩本 仁 氏)

皆様、こんにちは。WWL 運営指導委員委員長の岩本でございます。まずは、本日「食のサミット」の開催誠にありがとうございます。まだまだ、先行き不透明なコロナ禍での開催に当たっては、想像を絶する問題・課題等があったと推察されますが、それを乗り切り本日に至ったという事に生徒の皆さん、学園教職員の方々へ敬意を表したいと思えます。

普段であれば、対面が基本で関連事業を進めて行くところを、今回はオンラインにて実施されたと伺っています。今後どのような環境下でも WWL 事業が行えるように対面と同時にオンラインを活用しながら、推進して頂きたいと思えます。

私事ですが、私の福岡外語専門学校では、現在日本を含み世界 37 カ国からの学生が日本語・英語を基本にビジネス・ホスピタリティ・大学進学勉強をしています。それが今回のコロナ禍で、一旦、可能な限りの授業をオンラインへ変更せざるを得ない事態となった時、事務局を含め学園内は大混乱しましたし、と同時に IT リテラシーの低さを自覚した時でもありました。ただ前向きに考えると、今まで使うはずも予定も無かった IT 機器に触れる機会が出来、学園の DX 対応への意識改革の一歩にもなりました。

また、日本への入国制限下で入国待機留学生へは、今まで想像もしていなかった渡日前の日本語教育やオリエンテーション等がオンラインで可能になり、日本入国前からの繋がりも出来、プラスの面もあり、コロナ禍での産物もありました。

今後世の中はスピードを上げてグローバル化と同時に DX も進みます。しかし、その中でもやはりアナログ的な多様性を受容出来るコミュニケーション力と共に時代に合った個々の対応力も更に必要になります。

私も「食」を切り口とした中村学園女子高等学校のスーパーグローバルハイスクール事業からワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム構築支援事業と係わらせて頂いています。学園も良妻賢母を育てる学校からグローバルイノベーターを育てる学校へと時代への対応をしっかりとされているのを肌で感じますし、未来明るい時代に合った環境づくりを学園一丸となって行われている実情に敬意を払いたいです。

今後ますますの中村女子高等学校の発展をお祈りして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

拠点校活動報告

<GI 1 年生> (三浦)

▶目標：「地球規模の課題理解」と「解決への意欲・態度の醸成」

▶取り組み概要：1. GI スタートアップセミナー・国際交流 2. グローバル・キャンパス
3. GI 留学プログラム 4. GI 講座 5. WWL 報告会
6. 産学連携 (商品開発)

▶育成したい力：1. 探究力 2. グローバルマインドセット 3.アントレプレナーシップ

上記3つの力を具現化するために、学級目標として以下3点を挙げる。

1. インプットからアウトプットへ
2. ICT を活用し主体的に動く
3. 国際交流の中でコミュニケーション能力を身に着ける

具体的な取り組みとして3つを挙げる。1つ目は今年度、台湾・韓国・APU の学生と国際流を行った。

1 学期は学校生活や文化について学んだが、2 学期以降は環境問題など世界的な課題へと学びが発展した。2 つ目は、本校初の試みとなる GI カナダ留学では 13 名の生徒が現在カナダの現地校で留学生活を送っている。留学支援金を獲得した 3 名が中心となり、SNS の公式アカウントで留学生活や GI クラスの魅力を発信している。3 つ目は、商品開発です。産学連携の一環で、株式会社石村萬盛堂様と商品開発を進めている。企画・プレゼンテーション・PR はすべて生徒主体で行っている。現在商品案を絞り込み、福岡の魅力をどう発信していくか、SDGs などの付加価値をどのようにつけていくかを議論している。

▶成果・課題 1. アウトプット型活動 2. ICT 活用・主体性 3. 生きた国際交流

最大の成果としては、コロナ禍の中で ICT を活用し、グリッド (やり抜く力) を身につけられたことである。課題としては、アウトプット活動において批判的思考力を鍛えていく必要がある。また、国際交流において連携校と定期的な交流・報告を行い中期的な連携を図り、活動の充実と生徒のモチベーションの向上へと繋げたい。

(代表生徒)

▶活動概要

1. 国際交流：台湾・韓国とのオンラインセッションでは、すべて英語のため不安もあったが、交流を通して距離が縮まった。今後、直接の交流を行ったり、SDGs の視点から相手国をさらに知りたい。
2. グローバル・キャンパス：フードロス为主题とし、APU の学生へプレゼンテーションを行ったり、課題に対する改善策を話し合った。準備がすべてオンラインだったため苦労もあったが、コロナ禍でも仲間と協力し合い行事を成功させたことは自信となった。
3. GI 講演：環境活動家の谷口たかひさ様にお越しいただき、地球温暖化とその影響について講演をいただいた。講演を通して、今まで他人事だと思っていたことを自分事として捉えることができるようになった。
4. WWL 報告会：SDGs12「つくる責任・つかう責任」をテーマに、前半は連携校・GI クラスによる研究成果発表を行われ、後半では各クラスの代表生徒によるポスターセッションが行われた。実際に代表生徒として取り組む中で、小さな行動が環境を変えるということを実感した。

▶成果 1. 英語でアウトプットする力 2. プレゼンテーション能力の向上

▶課題：問題に対する解決策を考えているが、解決への行動が追いついていない。身近なことで出来ることから初めて、小さな行動の積み重ねが大きな成果に繋がるよう考えていきたい。

▶質疑応答

副島氏：1 年生でこのような活動や経験が出来てすごいなと感心する。台湾・韓国との交流や APU との協働活動を通して色々なことを体験したり、アクションプランを立てて実行していこうとされているが、インプットしている際とアウトプットしている際のバランスはいかがでしょうか？どのようにバランスをとっているか？

代表生徒：プレゼンテーションでアウトプットすることを好むが、インプットをすることも大切だと考える。

副島氏：考えるだけ、アウトプットするだけではなく、両方のバランスが大切ですね。

相川氏：実際にコンポストをされているが、結果として、現在学校や家庭で継続しているのか？

代表生徒：校内の屋上を使い現在も続けている。家庭でも行いたくて家族に相談しているが、住宅街なので難しいと言われた。

相川氏：小さなことでも、少しずつの行動が広がると信じて続けてほしい。

代表生徒：現在商品開発を行っているが、商品の付加価値の付け方についてアイデアを頂けますと幸いです。

米濱氏：どのようなお客さんに作るのかということ、ターゲットをまず明確にすること。そうすることで値ごろも決まり、味も変わる。その中で自分たちで改善を考えていくのが大切。そして、駄目だと思ったら変えて、品質を改良していかなければお客さんがついてこない。100 発 100 中はあり得ないので、99%は失敗、1%が成功すると思って開発をしていくことが大事だと思う。

<GI 2年生> (永松)

▶目標：課題解決力とイノベーションスキルの育成と実践

▶育成したい力：課題解決力、突破力、創造力、調和力

9月開催第1回運営指導委員会にて活動報告した「糸島研究」および「アントレプレナーシップ講座」については、それぞれ取り組みが発展した。糸島探究の成果はその後、文部科学省主催全国高校生フォーラムおよび京都先端科学大学附属高等学校課題探究成果発表会にて報告を行った。また、アントレプレナーシップ講座は、アントレプレナーシップセミナーというかたちで発展した。以下、代表生徒から報告を行う。

(代表生徒)

▶探究活動実践報告

1. アントレプレナーシップセミナー：1学期に行われたアントレプレナーシップ講座を通して起業に対する印象が変わり興味が沸いた。その上で、今回のセミナーを受講して社会と社会、人と人が繋がり支え合うことの重要性や新しい食文化を広めていくという視点について深く学ぶことができた。また、起業家の想いや社会の利点の先には「人を想い、人を考えること」を仕事に繋げ、そこに幸せが存在するを感じた。セミナー概要は以下の通り。

2. 食のサミット(グループ発表)：食のサミット本選に向けて代表を決めるため、クラス33名とアジア架け橋留学生10名を全10グループに分けて予選会を行った。SDGs12「つくる責任・つかう責任」に繋がる諸問題と解決策について各グループで取り組んだ。アジア架け橋留学生と協働することで、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」にも繋がると考える。英語で留学生とコミュニケーションをとることに苦勞をしたが、粘り強く伝えようとしたことが成長に繋がった。また、既存の解決策を調べたうえで、自分たちにできることは何だろうと考えることに難しさを感じたが、アイデアを認めてもらえることは嬉しく、さらに肉付けをしていくことは楽しかった。プレゼンテーションを通して、聞き手のことを考えて伝えていくことの大切さや、事前のリハーサル的重要性に気づいた。

3. 食のサミット(プレオンラインミーティング)：本番前に顔を合わせる事が出来、和やかな雰囲気での会議が行われた。代表発表者以外の生徒も事前学習として参加した。

▶成果： ・自分の意見を持ち表現する。 ・内容を深掘りし、話し合いを充実させる。

・実現可能で独自性のある解決策を提案する。 ・批判的思考力が高まる。

・アウトプットを前提としてインプットをする力。

▶課題： ・計画を立て、時間を意識して実行する。 ・解決策を提案に留めず、実行する。

・英語運用能力(情報収集・コミュニケーションツール)を高める。

・実地調査や実験、データやエビデンスに基づいて探究活動を行う。

▶今後の活動

・国内フィールドワーク(熊本、宮崎、鹿児島、大分) ・研究論文作成

▶質疑応答

新澤氏：1年生の発表も素晴らしかったですが、2年生の発表を聞いてこのように成長していくのだということが分かった。特に驚いたのは、プレゼンテーションをする際に、相手(聞き手)の立場にたち伝えるという話が印象的であった。自分の力をつけるということから、だんだんと相手のことを考えることが出来るようになったんだなと感じた。先ほどの商品開発の話でも感じたが、商品の魅力を伝えたいというのは自分のことだけど、相手のことを考えると、「福岡県のどのようなことが知りたいのかな」ということを考えると、福岡県の魅力や伝え方というのが見えてくるのかなと思う。

また、2年生の目標として「イノベーションスキルの育成」が挙げられていたが、個人的にはイノベーションスキルの基となるのは批判的思考力だと思う。普段の生活の中で批判的思考力を普段からしているか？もしくは、学校生活の中では難しいと思うか？

代表生徒：日常的には思い浮かばないが、アントレプレナーシップ講座を受けて、特別支援学校では普通

の大学に行くのは難しいという話を聞いて考えが変わった。今までは当たり前のように、レベルの合う学校に進学し学ぶこと考えていたが、その考え方が可能性を狭めていると感じた。自分では普通だと考えていることを、もっといい方法があるのではないかと考えることが大切だと考えさせられたセミナーだった。
代表生徒：私もアントレプレナーシップ講座を受けて考えが変わった。「ばあちゃん食堂」を運営されている方は、うきは市が少子高齢化という悩みを抱え、そこを生かして75歳以上の女性を対象に仕事を提供している。仕事だと男性の活動が多いという話を聞き、女性が年齢を重ねても学びやすい環境を整えるということを知った。世の中の考えがこうだからこうという定義でなく、歳をとっても女性らしく働ける考えがあることを知った。

新澤氏：質問した理由として、日本では批判的思考というと攻撃的なイメージが先行されるが、本来批判的思考力というのはそういうものではないため、なんでだろうという疑問を攻撃的ではなくどのようにしたら伝えていけるだろうということを考えていってほしいと思う。

<教育開発部長 平田>

▶総括:本校 WWL 事業テーマは、「『食』の課題解決により持続可能な社会を創出するイノベーターの育成」である。食の分野を切り口として課題を見つけ、探究的に課題を解決していく過程でイノベティブなグローバル人材としての力を身に付けられるように、カリキュラム開発等の教育環境の整備を行っていく。以下5点は、今年度の取り組み（重点項目）である。

1. 新カリキュラムの承認・決定：

・グローバル探究の導入決定：次年度からの新学習指導要領実施に伴い、「グローバル探究」の導入を正式に決定した。GIクラスのみでなく、全クラスが共通した内容を実施していく教科である。SGH や WWL の事業構想を学校全体に波及させる意味で、ようやく実現する。これまでの SGH 事業での探究や WWL 事業での GI 探究で培ってきた食の4領域(経済・環境・社会文化・栄養)を通して世界を広く知るということに加えて「課題研究の方法の基礎」を学ぶ機会となる。

・文理融合型のカリキュラム導入：次年度へ見送りとする。

2. 連携校・事業協働機関との積極的な連携：

・京都先端科学大学附属高等学校：成果発表会、国際会議、職員研修会、研究授業等への相互参加

・高知西高等学校：本校への視察 ・ライシーアム高校(ウズベキスタン)：合同授業開催

・SG インキュベート株式会社：アントレプレナーシップ講座

・中村学園大学・中村学園短期大学・中村国際ホテル専門学校・中村調理製菓専門学校・立命館アジア太平洋大学(APU)・ハワイ大学(KCC)、マーセッド大学：学校説明会

3. イノベーターを育成する手法・評価法の開発：

・手法として、「アントレプレナーシップ講座」をワークショップを含め年間8回開催。

・新たに開発した評価法について、年1回生徒対象実施の効果検証アンケートに新たに20問を追加。解決力・突破力・創造力・調和力の育成について検証し、現在データ分析中。

・フィールドワーク等の実践を通して評価を行い、イノベーションスキルがどの程度向上したかを図る測定を行いたかったが、次年度へ見送ることにする。

4. 初の実施となる取り組みの円滑な実行：

・GI留学プログラム：GIクラス1年生13名がカナダ・トロントの現地校に留学中。

・アントレプレナーシップ講座

・GI海外フィールドワーク：海外から国内研修へと変更。3月21日～25日実施。

・株式会社石村萬盛堂様との産学連携(商品開発) ・校外指導者による卒業論文指導

5. 効果的なオンラインの実施方法の検討：

・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、多くのイベントをオンライン開催したため、ノウハウを得

ることが出来た。特に、今回の「食」のサミットのように遠方の参加者とオンラインを通してリアルタイムでプレゼンテーションやディスカッションを行えることは、コスト削減の点からも非常に有効である。

- ・対面とオンラインを併用したハイブリッドの場合、実際の運用の仕方やスタッフの配置、進行の仕方をトライアンドエラーを繰り返しながら改善を図っている。
- ・フィールドワークについては、オンライン実施は現在検討していない。特に、海外に関しては今後も不透明な面があるため、オンライン実施する場合の教育的効果および実施の是非を検討していく必要がある。また、実施地を海外に認めず、国内でどれだけ行えるか最適な方法を検討する必要がある。

以上5つの重点項目を踏まえ、海外フィールドワークの実施が出来なかったこと、イノベーションスキルの向上を図る評価法の開発について十分な実施が出来なかったことを除き、想定以上の成果が得られたと感じている。

▶次年度に向けての課題

1. 「グローバル探究」の着実な実践：新1年生の学年団でゴールの共通認識をもち、計画的に臨む。
2. カリキュラムへの文理融合型選択制の導入：令和4年度2年次の導入を目指す。
3. イノベーターを育成する手法・評価法の開発：今年度に引き続き、新たな研修の内容・方法、評価法の考案と試行を検討する。
4. 初の実施となる取り組みの円滑な実行：GI3年目において集大成の学年になる。GI3年生の「GIプレゼンテーション」（論文発表会）およびGI2年生「海外フィールドワーク」を新たな取り組みとして予定している。新たな取り組みとあわせて、これまで実施してきたGI1・2年の活動も含めて行うため、業務を効率的に行っていくための方法も検討していきたい。

閉会挨拶（中村副理事長）

本日は午前中の食のサミットに始まり、午後の運営指導委員会及びALネットワーク連絡会にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

このWWL事業が始まった2年間は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックを受け、我々を取り巻く環境が大きく変化した期間でした。パンデミックになる以前の世界を基礎として考えた本事業は、なかなか計画通りにいかないことが多く、結果的に大きく変更をせざるを得ないものも出てきております。

日本では以前からインフルエンザ等の感染予防として、冬から春にかけて街中でマスク姿の人々を見かけることがありましたが、今では世界中でマスク姿の方々が当たり前のように街を歩く姿が見られるようになりました。2年間も続いたマスク着用を始めとしたさまざまな生活習慣は、恐らく完全に元の通りに戻るといったことはないと思われまます。

つまり、我々学校関係者がそれぞれの学校で預かっている子どもたちが活躍する次世代社会は、当初予想していたものと大きく変化したと言い換えることが出来ます。現在のウクライナ情勢も含め、予測が困難な時代に、今の子どもたちにとって必要な教育とは何なのか、再度見つめ直し、意見を交わす必要性を感じております。

日本は「和」を大切にする国であり、現在の元号もその「和」の大切さを「令和」というるか昔の日本語を用いて我々に伝えてくれています。本WWL事業のテーマである食も、作り手に感謝の気持ちを抱いたり、一緒に食卓を囲む人のことを想ったり、「和」を生み出す大切なきっかけとなります。

本学は4月から理事長・校長を始めとした体制が大幅に変更となります。新型コロナウイルス感染症がもたらした新しい世界において、我々の子どもたちが社会のためにより活躍できるよう、ALネットワークの各教育機関との連携をさらに図りながら、運営指導委員の皆様方のご指導のもと、本事業の更なる改善を図りたいと思います。今後とも皆さまどうぞ宜しくお願い致します。本日はありがとうございました。

令和3年度前期 WWL事業 効果検証生徒アンケート結果 2021年6月実施

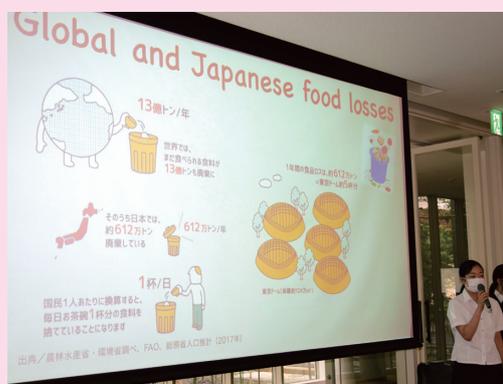
| 調査項目 | アイデンティティ | | グローバル関心度 | | コミュニケーション力 | | 課題解決力 | | グローバルキャリア形成 | | 突破力・忍耐力・レジリエンス | | 調和力 | | 実現可能性へのマインドセット | | 高度課題解決力 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------|------|----------|------|------------------|------|-------|------|--------------------------------|------|----------------|------|-----------------------|------|----------------|------|--------------------|------|------|------|---------------------|------|------|------|----------------------|------|------|------|-------------------------|------|------|------|----|
| | 日本人としての自覚 | | | | 地球規模の課題に対する幅広い関心 | | | | 多様性を受けつつ、主体性を発揮するためのコミュニケーション力 | | | | 自ら課題を設定し、他者と協働して解決する力 | | | | グローバル分野で挑戦しようとする意欲 | | | | 自己の経験や知識等を融合させ協働する力 | | | | 自己の実現可能性を信じ努力を続ける心構え | | | | 状況に応じた最適な解決策(洞察力・企画力含む) | | | | |
| 前期質問 | 設問1 | 設問2 | 設問3 | 設問4 | 設問5 | 設問6 | 設問7 | 設問8 | 設問9 | 設問10 | 設問11 | 設問12 | 設問13 | 設問14 | 設問15 | 設問16 | 設問17 | 設問18 | 設問19 | 設問20 | 設問21 | 設問22 | 設問23 | 設問24 | 設問25 | 設問26 | 設問27 | 設問28 | 設問29 | 設問30 | 設問31 | 設問32 | |
| | 1年GIクラス | 34 | 25 | 39 | 27 | 34 | 26 | 32 | 13 | 31 | 29 | 29 | 30 | 36 | 27 | 32 | 24 | 37 | 27 | 27 | 21 | 35 | 16 | 35 | 28 | 28 | 24 | 34 | 34 | 22 | 26 | 27 | 37 |
| 割合% | 87.2 | 64.1 | 100 | 69.2 | 87.2 | 68.4 | 84.2 | 34.2 | 81.6 | 76.3 | 76.3 | 78.9 | 94.7 | 71.1 | 84.2 | 63.2 | 97.4 | 71.1 | 71.1 | 55.3 | 92.1 | 42.1 | 92.1 | 73.7 | 73.7 | 63.2 | 89.5 | 89.5 | 57.9 | 68.4 | 73 | 97.4 | |
| 項目別平均% | 80.1 | | | 68.5 | | | | 81.6 | | 79.0 | | | | 66.3 | | | | 75.7 | | 89.5 | | 63.2 | | 85.2 | | 85.2 | | 195 | | 252 | | 258 | |
| 1年GIクラス以外 | 331 | 244 | 336 | 292 | 236 | 207 | 254 | 128 | 293 | 242 | 144 | 152 | 286 | 211 | 282 | 247 | 312 | 269 | 211 | 104 | 149 | 54 | 332 | 256 | 261 | 244 | 299 | 303 | 195 | 252 | 258 | 318 | |
| 割合% | 95.9 | 70.7 | 97.4 | 84.6 | 68.4 | 60 | 73.6 | 37.2 | 85.2 | 70.3 | 41.9 | 44.2 | 83.4 | 61.5 | 82.5 | 72 | 91 | 78.4 | 61.5 | 30.3 | 43.4 | 15.7 | 96.8 | 74.6 | 76.1 | 71.3 | 87.2 | 88.3 | 57 | 74.1 | 75.7 | 93.3 | |
| 項目別平均% | 87.2 | | | 59.8 | | | | 65.0 | | 76.8 | | | | 45.9 | | | | 79.7 | | 87.8 | | 65.6 | | 84.5 | | 84.5 | | 217 | | 278 | | 285 | |
| 1年全クラス | 365 | 269 | 375 | 319 | 270 | 233 | 286 | 141 | 324 | 271 | 173 | 182 | 322 | 238 | 314 | 271 | 349 | 296 | 238 | 125 | 184 | 70 | 367 | 284 | 289 | 268 | 333 | 337 | 217 | 278 | 285 | 355 | |
| 割合% | 95.1 | 70.1 | 97.7 | 83.1 | 70.3 | 60.8 | 74.7 | 36.9 | 84.8 | 70.9 | 45.3 | 47.6 | 84.5 | 62.5 | 82.6 | 71.1 | 91.6 | 77.7 | 62.5 | 32.8 | 48.3 | 18.4 | 96.3 | 74.5 | 75.9 | 70.5 | 87.4 | 88.5 | 57.1 | 73.5 | 75.4 | 93.7 | |
| 項目別平均% | 86.5 | | | 60.7 | | | | 66.6 | | 77.0 | | | | 47.9 | | | | 79.3 | | 88.0 | | 65.3 | | 84.6 | | 84.6 | | 25 | | 29 | | 24 | |
| 2年GIクラス | 31 | 18 | 32 | 25 | 29 | 20 | 30 | 22 | 30 | 23 | 25 | 29 | 29 | 25 | 30 | 29 | 31 | 22 | 15 | 20 | 28 | 14 | 31 | 27 | 32 | 22 | 31 | 29 | 25 | 29 | 24 | 32 | |
| 割合% | 96.9 | 56.3 | 100 | 78.1 | 90.6 | 62.5 | 93.8 | 68.8 | 93.8 | 74.2 | 78.1 | 90.6 | 90.6 | 78.1 | 93.8 | 90.6 | 96.9 | 68.8 | 46.9 | 62.5 | 87.5 | 43.8 | 96.9 | 84.4 | 100 | 68.8 | 96.9 | 90.6 | 78.1 | 90.6 | 75 | 100 | |
| 項目別平均% | 82.8 | | | 78.9 | | | | 85.5 | | 89.9 | | | | 61.9 | | | | 87.5 | | 93.8 | | 84.4 | | 87.5 | | 87.5 | | 227 | | 270 | | 257 | |
| 2年GIクラス以外 | 335 | 253 | 338 | 295 | 255 | 214 | 282 | 136 | 292 | 238 | 164 | 189 | 277 | 237 | 291 | 256 | 326 | 256 | 224 | 118 | 147 | 77 | 341 | 269 | 289 | 266 | 313 | 302 | 227 | 270 | 257 | 340 | |
| 割合% | 94.1 | 71.1 | 94.9 | 82.9 | 71.6 | 60.3 | 79.2 | 38.2 | 82 | 67 | 46.1 | 53.2 | 78 | 66.6 | 81.7 | 71.9 | 91.6 | 71.9 | 62.9 | 33.1 | 41.3 | 21.6 | 96.1 | 75.6 | 81.2 | 74.7 | 88.2 | 84.8 | 63.8 | 76.3 | 72.2 | 95.5 | |
| 項目別平均% | 85.8 | | | 62.3 | | | | 65.3 | | 78.0 | | | | 46.2 | | | | 81.9 | | 86.5 | | 93.8 | | 87.1 | | 70.1 | | 252 | | 299 | | 281 | |
| 2年全クラス | 366 | 271 | 370 | 320 | 284 | 234 | 312 | 158 | 322 | 261 | 189 | 218 | 306 | 262 | 321 | 285 | 357 | 278 | 239 | 138 | 175 | 91 | 372 | 296 | 321 | 288 | 344 | 331 | 252 | 299 | 281 | 372 | |
| 割合% | 94.3 | 69.8 | 95.4 | 82.5 | 73.2 | 60.5 | 80.4 | 40.7 | 83 | 67.6 | 48.7 | 56.3 | 79.1 | 67.5 | 82.7 | 73.5 | 92 | 71.6 | 61.6 | 35.6 | 45.1 | 23.5 | 96.1 | 76.3 | 82.7 | 74.2 | 88.9 | 85.3 | 64.9 | 77.5 | 46.4 | 96.9 | |
| 項目別平均% | 85.5 | | | 63.7 | | | | 66.9 | | 78.9 | | | | 47.5 | | | | 82.3 | | 87.1 | | 84.5 | | 71.2 | | 71.7 | | 26 | | 26 | | 26 | |
| 3年SGクラス | 28 | 27 | 30 | 28 | 29 | 22 | 28 | 22 | 28 | 28 | 27 | 28 | 28 | 26 | 27 | 27 | 28 | 26 | 23 | 24 | 27 | 17 | 27 | 28 | 25 | 22 | 28 | 25 | 23 | 26 | 26 | 26 | |
| 割合% | 93.3 | 90 | 100 | 93.3 | 100 | 75.9 | 96.6 | 75.9 | 96.6 | 96.6 | 93.1 | 96.6 | 96.6 | 89.7 | 93.1 | 93.1 | 96.6 | 89.7 | 79.3 | 82.8 | 93.1 | 58.6 | 93.1 | 96.6 | 86.2 | 75.9 | 96.6 | 86.2 | 79.3 | 89.7 | 89.7 | 89.7 | |
| 項目別平均% | 94.2 | | | 87.1 | | | | 95.9 | | 93.1 | | | | 80.7 | | | | 88.0 | | 91.4 | | 84.5 | | 84.5 | | 89.7 | | 216 | | 266 | | 283 | |
| 3年SGクラス以外 | 324 | 228 | 326 | 285 | 264 | 210 | 285 | 145 | 301 | 255 | 145 | 163 | 284 | 251 | 296 | 264 | 321 | 268 | 247 | 128 | 183 | 90 | 322 | 268 | 285 | 271 | 301 | 302 | 216 | 266 | 283 | 317 | |
| 割合% | 96.4 | 67.9 | 97.6 | 84.8 | 78.6 | 62.5 | 84.8 | 43.2 | 89.6 | 75.9 | 43.2 | 48.5 | 84.5 | 74.7 | 88.1 | 78.6 | 95.5 | 79.8 | 73.5 | 38.1 | 54.5 | 26.8 | 95.8 | 79.8 | 84.8 | 80.7 | 89.6 | 90.1 | 64.3 | 79.4 | 84.2 | 94.3 | |
| 項目別平均% | 86.7 | | | 67.3 | | | | 68.3 | | 84.2 | | | | 54.5 | | | | 85.3 | | 89.9 | | 71.9 | | 89.3 | | 89.3 | | 239 | | 292 | | 309 | |
| 3年全クラス | 352 | 255 | 356 | 313 | 293 | 232 | 313 | 167 | 329 | 283 | 172 | 191 | 312 | 277 | 323 | 291 | 349 | 294 | 270 | 152 | 210 | 107 | 349 | 296 | 310 | 293 | 329 | 327 | 239 | 292 | 309 | 343 | |
| 割合% | 96.2 | 69.7 | 97.8 | 85.5 | 80.3 | 63.6 | 85.8 | 45.8 | 90.1 | 77.5 | 47.1 | 52.3 | 85.5 | 75.9 | 88.5 | 79.7 | 95.6 | 80.5 | 74 | 41.6 | 57.5 | 29.3 | 95.6 | 81.1 | 84.9 | 80.3 | 90.1 | 89.8 | 65.5 | 80.2 | 84.7 | 94 | |
| 項目別平均% | 87.3 | | | 68.9 | | | | 70.5 | | 84.9 | | | | 56.6 | | | | 85.5 | | 90.0 | | 72.9 | | 89.4 | | 89.4 | | 72.9 | | 89.4 | | 89.4 | |

【子ータ算出】
 肯定的意見は①
 ①非常にそう思う
 ②そう思う
 の人数と割合%
 (小数第1位まで)

高校1年生全員で国際交流! グローバル・キャンパス

9月15日(水)に、本校の恒例行事「グローバル・キャンパス」を開催しました。今年度は「食文化の理解」と「フードロス」をテーマに、立命館アジア太平洋大学(APU)の国際学生と英語でコミュニケーションを取りながら、課題についての理解を深めました。今回も昨年度に続き、オンラインでの実施となりました。

午前の部では、GIクラスの生徒全員が、食料廃棄物の削減という課題について、英語によるプレゼンテーションとディスカッションを行いました。午後の部では、高校1年生の全生徒が参加し、学生起業家の講演や、国際学生によるプレゼンテーションを聴きました。英会話力やコミュニケーションスキルを高めること、異文化多様性を理解すること、「フードロス」についての認識を深め今の自分にできることを自主的に実践していく重要性などを学ぶことができました。



社会で活躍する起業家たちから学ぶ GIスキルアップセミナー

今年度初めて、2年GIクラスのイノベーター育成のために、起業家精神を学ぶスキルアップセミナーを行いました。第1回は6月5日(土)にスタートアップ企業への投資や支援を行うSGインキュベイト株式会社代表取締役社長の相川洋様、第2回は6月10日(木)にニオイに関してより良い社会の実現を目指す五感応用工学研究所代表の松岡真輝様、第3回は7月1日(木)に福岡市内でもよく見かける赤い自転車でなじみの「Chari chari」を運営するneuet株式会社代表取締役社長の家本賢太郎様、第4回は7月29日(木)にブータン国王妃が使用したICTで遠隔での妊婦検診装置の開発・販売を行うメロディ・インターナショナル株式会社CEOの尾形優子様をお招きして、講話とディスカッションを実施しました。



▲相川洋様



▲松岡真輝様



▲家本賢太郎様



▲尾形優子様

ますます充実したGI探究

昨年度に引き続き、GIクラス1年では「食」の4分野について学ぶことを中心にして探究活動を行っています。さらに今年度はオンラインで台湾の中学・高校、韓国の高校と交流しました。英語による自己紹介を含めたプレゼンテーションでしたが、生徒たちは積極的に活動していました。食文化だけではなく、様々な文化の違いに触れることができる貴重な時間となりました。



現地で学ぶGI探究

GIクラスの2年生は、8月2日(月)に株式会社博多大丸との産学連携の一環として、糸島市ヘフィールドワークに行きました。事前に諫元のかさん(志摩中学校出身)を中心に糸島市の概要や抱える課題などの情報共有を行っていましたが、実際に放棄された田畑の問題などに触れ、抱える課題の重さを実感することができました。



SDGsについて考えよう オンライン修学旅行in韓国

7月28日(水)、8月11日(水)に実施された深発見・韓国オンライン修学旅行(主催:韓国観光公社)にGIクラス1年の希望者20名が参加しました。韓国ドラマのロケ地について学んだり、伝統工芸体験をしたりすることによって、文化だけでなく、都市再生の視点からもSDGsを学ぶことができました。



国境を越えてともに学ぶ 連携校とのオンライン合同授業

6月22日(火)に連携校であるウズベキスタンのライシーアム高校と合同で「いりこの解剖」の実験実習を行いました。ウズベキスタンからは生徒20名と教師6名、本校からは生徒9名と教師4名が参加しました。両校の生徒から多くの質問が出され、生物学や日本への興味・関心の深さを実感しました。



本校独自のプログラム! 夏期海外研修業者合同説明会

6月18日(金)に夏期海外研修業者合同説明会を実施しました。これは、GIクラスの生徒だけでなく、本校すべての生徒たちにも海外への視野を広げ、コミュニケーション力や英会話力を向上させる場を提供するための初めての試みでした。4つの旅行会社から英語学習、SDGs、異文化理解、リーダーシップなど、どの力をつけるかという目的によって、様々な企画が提案されました。



トビタテ!留学JAPANに採用

高校2年1組次郎丸朱音さん(前原中学校出身)が、トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム【高校生コース】第7期生に採用されました。建築を学ぶため、2週間オーストラリアに留学することを希望しています。「様々なアクティビティに積極的に参加したいです!」と抱負を語ってくれました。



国内で留学体験! English Camp in福岡

7月24日(土)~26日(月)に海の中道青年の家、8月13日(金)~15日(日)にグローバルアリーナで国内English Campを行いました。すべて英語で活動し、英語の運用能力を高める4技能統合型のプログラムです。参加生徒からは「学校で学んだことを活かしてよかったけれど、もっと英語を勉強したいと思うようになりました」という感想を聞くことができました。海外への渡航がまだまだ困難な状況の中、国内でも充実した体験をすることができました。



留学支援金制度がスタート

GIクラスでは1年次の3学期にカナダへの留学プログラムが計画されています。本年度から留学支援金制度が始まり、1期生として3名の生徒が採用されました。